

# MTX-MRX Editor

## ユーザーガイド

MTX-MRX Editor は、MTX シリーズや MRX シリーズ、XMV シリーズ、EXi8/EXo8、R シリーズ (AD/DA)、Tio1608-D を使用したシステムを統括して構築 / コントロールするためのソフトウェアです。MTX-MRX Editor 上で行なった設定を Ethernet で接続した MTX シリーズや MRX シリーズ、XMV シリーズ、EXi8/EXo8、R シリーズ (AD/DA)、Tio1608-D などの機器に転送します。

設定を転送したあとは、コンピューターなしでシステムが稼働します。

また、DCP シリーズ / MCP1 などのコントロールパネルを使ってリアルタイムにコントロールすることもできます。

PGM1/PGX1 をつかってページングシステムを構築できます。

MRX を使用する場合は、「MRX Designer ユーザーガイド」も参照してください。

### データの著作権に関するお願い

市販の音楽 / サウンドデータは、著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することが禁じられています。ご使用時には、ご必要に応じて権利者から許諾を得る、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

### ユーザーガイドの記載内容に関するお知らせ

- このソフトウェアおよびユーザーガイドの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびユーザーガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびユーザーガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このユーザーガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。
- Ethernet はゼロックス社の商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- iPad および Bonjour は米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- iOS は、米国およびその他の国における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- SDHC ロゴ、および SD ロゴは SD-3C, LLC の商標です。



- 本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

# 目 次

データの著作権に関するお願い .....	1
ユーザーガイドの記載内容に関するお知らせ .....	1
<b>第 1 章 MTX-MRX Editor の概要 .....</b>	<b>4</b>
オーディオシステムの コントロールネットワーク .....	4
このユーザーガイドで使用する用語 .....	4
MTX-MRX Editor で扱うデータについて .....	6
MTX/MRX システムの接続条件 .....	7
MTX/MRX システム構成例 .....	9
YDIF 接続とは (Cascade モードおよび Distribution モード) .....	10
Dante 接続とは (デイジーチェーン接続およびスター接続) .....	13
□ デイジーチェーン接続 .....	13
□ スター接続 .....	13
□ リダンダンシーネットワークについて .....	14
パッチについて .....	15
ワークフロー .....	18
各画面について .....	26
□ Project 画面 .....	26
□ System 画面 .....	26
画面遷移 .....	27
<b>第 2 章 メニューバーおよびツールボタン .....</b>	<b>28</b>
タイトルバー .....	28
メニューバー .....	28
ツールボタン .....	32
<b>第 3 章 Project 画面 .....</b>	<b>34</b>
□ システム切り替えタブ .....	34
□ HIDE/SHOW ボタン .....	34
ネットワーク機器 .....	35
MTX/MRX システム .....	36
□ 「Device Configuration Wizard」 ダイアログ .....	37
□ YDIF 接続機器 .....	47
□ デジタルコントロールパネル、 PGM1/PGX1 .....	49
□ アナログ接続機器 .....	50
□ DANTE 接続機器 .....	51
□ MCP1 .....	52
[System] タブ .....	53
[Device] タブ .....	54
[Alert] タブ .....	56
<b>第 4 章 System 画面 .....</b>	<b>57</b>
「MAIN」画面 .....	60
□ 「Input Patch」ダイアログ .....	71
□ 「Output Patch」ダイアログ .....	72
「INPUT」画面 .....	73
「MATRIX」画面 .....	86
「ZONE」画面 .....	90
「ROUTER」画面 .....	98
「OUTPUT」画面 .....	100
「EFFECT」画面 .....	108
「DCA」画面 .....	110
「I/O」画面 .....	112
「MY4-AEC」画面 .....	114
□ 「To Far-end」画面 .....	117
□ 「Near-end Voice」画面 .....	118
□ 「Mic」画面 .....	119

「EXT. I/O」画面.....	120	□「Match Device by IP Address」 ダイアログ .....	174
□「YDIF」画面 (Distribution モード) .....	120	□「MTX Configuration」ダイアログ.....	177
□「YDIF In Patch」ダイアログ .....	123	□「Dante Information」ダイアログ .....	180
□「YDIF Out Patch」ダイアログ .....	123	□「Word Clock」ダイアログ .....	181
□「Channel Select」ダイアログ .....	124	□「Clock」ダイアログ .....	183
□「YDIF」画面 (Cascade モード) .....	125	□「Daylight Saving Time」ダイアログ .....	185
□「ANALOG」画面 .....	126	□「Scheduler」ダイアログ .....	187
□「Line Out Patch」ダイアログ .....	127	□「Remote Control」ダイアログ .....	197
□「DANTE」画面.....	128	□「External Events」ダイアログ .....	198
「EXi8」画面.....	130	□「Digital Control Panel」ダイアログ .....	201
□「EXi8 Patch」ダイアログ .....	131	□「Wireless DCP」ダイアログ .....	206
「R/Tio」画面.....	132	□「MCP1」ダイアログ .....	208
「EXo8」画面.....	134	□「PIN Setup」ダイアログ .....	213
□「EXo8 Patch」ダイアログ .....	135	□「Label」ダイアログ .....	214
「XMV」画面 .....	136	□「Re-size Image」ダイアログ .....	216
□「XMV Patch」ダイアログ .....	138	□「PGM1/PGX1」ダイアログ .....	217
<b>第5章 オンラインと同期 .....</b>	<b>139</b>	□「PGM1 Label Creator」 アプリケーション .....	221
<b>オンライン .....</b>	<b>139</b>	□「GPI」ダイアログ .....	224
□「Synchronization」ダイアログ .....	139	□「GPI Calibration」ダイアログ .....	226
□「Go online - From devices」 ダイアログ .....	142	□「Security Settings」ダイアログ .....	228
<b>同期 .....</b>	<b>143</b>	□「Project Information」ダイアログ .....	229
<b>第6章 プリセット .....</b>	<b>145</b>	□「Configuration Diagram」ダイアログ .....	230
□「Preset」ダイアログ .....	145	□「Get Log」ダイアログ .....	231
「Preset Link」ダイアログ .....	149	□「Sampling Rate Converter」 ダイアログ .....	232
「Settings」ダイアログ .....	150	□「Input Source/Redundant」 ダイアログ .....	233
■「GPI Out」ダイアログ .....	152		
■「SD Play」ダイアログ .....	154		
Recall Filter 設定画面 .....	157		
<b>第7章 ダイアログ / ソフトウェアアプリケーション .....</b>	<b>164</b>		
□「Startup」ダイアログ .....	164	<b>資料 .....</b>	<b>236</b>
□「Network Setup」ダイアログ .....	165	<b>「Settings」ダイアログ設定一覧 .....</b>	<b>236</b>
□「Device Information」ダイアログ .....	166	■DCP/Wireless DCP/MCP1 .....	236
「Update Firmware」ダイアログ .....	168	■GPI Input .....	252
「IP Address」ダイアログ .....	170	■GPI Output .....	258
「Auto-Assign IP Address」 ダイアログ .....	173	<b>PAGING の設定の流れ .....</b>	<b>262</b>
		<b>サブネット越しに機器を コントロールするための設定 .....</b>	<b>265</b>
		<b>アラート一覧 .....</b>	<b>268</b>
		<b>困ったときは (トラブルシューティング) .....</b>	<b>274</b>

# 第1章 MTX-MRX Editor の概要

## オーディオシステムのコントロールネットワーク

複数の MTX シリーズや MRX シリーズ、XMV シリーズ、EXi8/EXo8、R シリーズ (AD/DA)、Tio1608-D を Ethernet によるネットワークに接続すると、一つのオーディオシステムとして連動して動作します。これを「MTX/MRX システム」と呼び、複数の MTX/MRX システムを持つ空間を「プロジェクト」と呼びます。コンピューターをネットワークに接続すると、MTX/MRX 経由で MTX/MRX システムをコントロールできます。

## このユーザーガイドで使用する用語

### ● YDIF

Ethernet ケーブルを使い、最大 16 チャンネルの音声とワードクロックを送受信できるデジタル音声伝送フォーマットです。MTX 間を接続してバスを共有し、入出力チャネル数を拡張したり (Cascade モード)、MRX や XMV/EXi8/EXo8 を接続してデジタル音声信号を劣化することなく受け渡す (Distribution モード) など、機器間の接続を簡単に行なえます。

※MRX が MTX/MRX システムに入っている場合は Distribution モードのみとなります。このフォーマットに制御信号は含まれません。制御信号を送受信する場合は、別途 NETWORK 端子を接続します。

### ● Dante

Audinate 社が開発した、Ethernet ケーブルを使い、最大 1024 チャンネルの音声とワードクロック、制御信号を送受信できるデジタル音声伝送フォーマットです。MTX/MRX システムでは最大 64 チャンネルを使い、プロジェクト全体では最大 256 チャンネルを使います。

### ● UNIT ID

MTX/MRX、XMV、EXi8、EXo8、PGM1、MCP1、R シリーズ (AD/DA)、Tio1608-D に設定する固有の ID です。重複はできません。

本体のリアパネルで設定します。MCP1 は本体のユーティリティ画面で設定します。

### ● パネル ID

DCP に設定する固有の ID です。同一の MTX/MRX に接続される DCP 間で重複はできません。

各 DCP で設定します。

### ● コンポーネントおよびパラメーター

イコライザーやコンプレッサーなど各種オーディオ処理モジュールを「コンポーネント」と呼びます。

コンポーネントの編集可能な要素を「パラメーター」と呼びます。

### ● コンフィギュレーション (Configuration)

MTX-MRX Editor で最初に設定する基本となるパラメーターグループです。MTX/MRX とその他の外部機器との音声パッチなどを設定します。

プリセットファイルには含まれません。

### ● プリセット

パラメーターの組み合わせのことです。プリセットの呼び出し (プリセットリコール) は、DCP、Wireless DCP、MCP1、GPI、MTX、MRX および MTX-MRX Editor からコントロールできます。

一つの MTX/MRX システムに 50 個のプリセットを登録できます。

### ● エマージェンシーモード

「Preset」ダイアログの [Emergency Recall] が [ON] になっている状態で、MTX/MRX が EMG(Emergency) 信号を外部機器から受信したときや、+24V 対応の [GPI IN] 端子 (MTX3 は IN 8、MTX5-D と MRX7-D は IN 16) への入力が 2.5V 未満になったときにに入るモードです。以下のような動作をします。

- ・ 現在の状態を保持します。保持した状態はエマージェンシーモードから抜けたときに元の状態に戻すために使用します。
- ・ 「Preset」ダイアログの [Emergency Recall] で設定されたプリセットがリコールされる。
- ・ DCP などの外部コントローラーからの操作を受け付けなくなる。(MCP1 はユーティリティーページのみ操作可。)
- ・ 「PGM1/PGX1」ダイアログで [すべての放送を停止します。] が選択されている場合、スケジューラーを含むすべてのページングシステムが停止します。
- ・ MTX-MRX Editor とオフラインになる。
- ・ 同一 MTX/MRX システム内のすべての MTX/MRX がエマージェンシーモードになる。

# MTX-MRX Editor で扱うデータについて

## Project ファイル (.mtx)

### コンフィギュレーション

#### 機器構成<sup>\*1</sup>

機器の種類および台数、UNIT ID、YDIF の接続順

### MTX/MRX システムの設定<sup>\*2</sup>

YDIF モード

機器の名前

「Preset」ダイアログ

「Security Setting」ダイアログ ([File] メニュー)

「Project Information」ダイアログ ([File] メニュー)

「Device Information」ダイアログの「Set IP Address」の内容 ([System] メニュー)

「MTX Configuration」ダイアログ ([System] メニュー)

「Daylight Saving Time」ダイアログ ([System] メニュー)

「Scheduler」ダイアログ ([System] メニュー)

「GPI」ダイアログ ([System] メニュー)

「Remote Control」ダイアログ ([System] メニュー)

「External Events」ダイアログ ( 「Controller」メニュー)

「Digital Control Panel」ダイアログの Library ([Controller] メニュー)

「Wireless DCP」ダイアログの Library ([Controller] メニュー)

「PGM1/PGX1」ダイアログの Function Assign ([Controller] メニュー)

DIMMER のオン / オフ、Input Source/Redundant の設定 ([Device] タブ)

「EXT. I/O」画面の MTX/MRX と外部機器とのパッチ (YDIF 接続、アナログ接続、Dante 接続)

【I/O】画面の PILOT TONE の設定

\*1 機器構成が異なると同期できません。

\*2 プリセットを切り替えても変更されません。

## プリセット

「EXT. I/O」画面の YDIF の MTX/MRX のソース

MTX/MRX のコンポーネントのパラメーター<sup>\*3</sup>

DCP の Library のプリセットへのアサイン

Wireless DCP の Library のプリセットへのアサイン

MCP1 の Library のプリセットへのアサイン

GPI Out の状態

[SD Song Select & Play]

EXi8/EXo8/XMV/R シリーズ (AD/DA)/Tio1608-D のパラメーター

MY4-AEC のパラメーター (AES/EBU を除く)

\*3 MRX のコンポーネントパラメーターは、パラメーターセットのスナップショットで管理されています。プリセットにスナップショットを登録する方法でプリセットと関連付けます。スナップショットについては「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

## Speaker Processor Library (.ce3)

**NOTE** コンフィギュレーションを変更しても、それまでにストアしたプリセットには反映されません。コンフィギュレーションを変更したあとは、必要に応じていったんプリセットをリコレルし、再度ストアしてください。

# MTX/MRX システムの接続条件

MTX/MRX システムを実現するには、以下の条件が必要です。

1 つのプロジェクトに属する MTX/MRX/EXi/EXo/XMV/R シリーズ (AD/DA)/Tio1608-D/MCP1/PGM1 などの機器は最大 80 台までです。

## MTX/MRX システム全体 (下図 ①)

- XMV/R シリーズ (AD/DA)/Tio1608-D は MTX-MRX Editor から MTX/MRX 経由でコントロールされる
- 一つの MTX/MRX システムに属する MTX/MRX/EXi/EXo/XMV/R シリーズ (AD/DA)/Tio1608-D などの機器は合計 20 台まで
- 一つの MTX/MRX システムに属する PGM1/MCP1 は合計 20 台まで
- MTX/MRX システムに同時にアクセスできるコンピューターは 1 台のみ

## 互いに YDIF 接続されている機器 (下図 ②)

- 合計 8 台まで (MTX/MRX は最大 4 台まで)
- MTX/MRX が少なくとも 1 台含まれる

## MTX/MRX に接続されているコントロールパネル (下図 ③)

- MTX/MRX システムに属するデジタルコントロールパネル (DCP) は 1 台の MTX/MRX につき最大 8 台まで
- MTX/MRX システムに属する Wireless DCP は 1 台の MTX/MRX につき最大 8 台まで
- MTX/MRX システムに属する PGM1 は最大 4 台まで

## MTX/MRX にアナログ接続されている XMV (下図 ④)

- ここに含まれる XMV も含めて MTX/MRX システム全体で合計 20 台まで

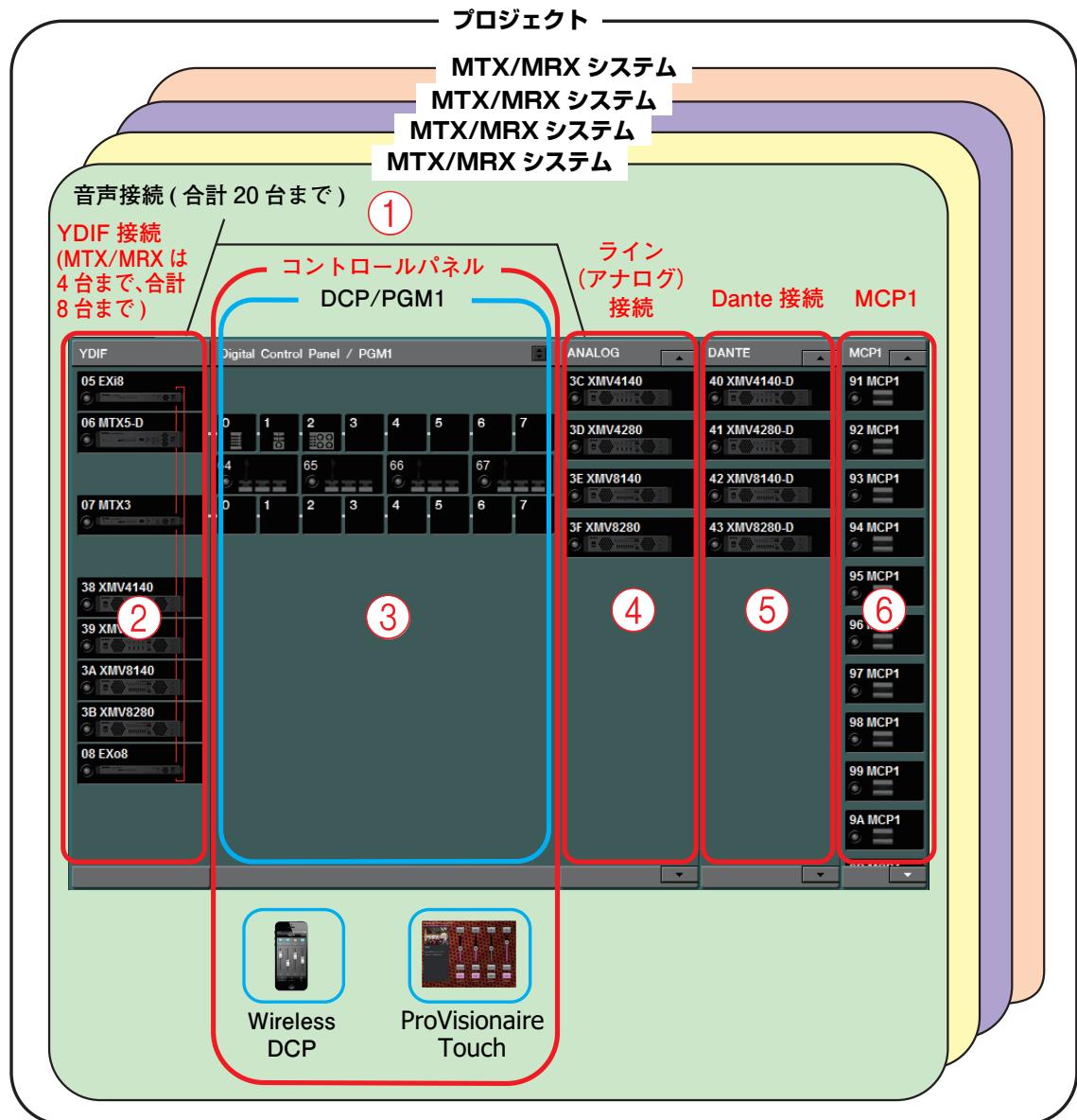
## MTX/MRX に Dante 接続されている機器 (下図 ⑤)

- ここに含まれる XMV も含めて MTX/MRX システム全体で合計 20 台まで
- MTX/MRX システムに属する R シリーズ (AD/DA) と Tio1608-D は最大 8 台まで

## MTX/MRX に接続されている MCP1 (下図 ⑥)

- 合計 16 台まで
- MTX/MRX システム内の全 MTX/MRX をコントロールできる

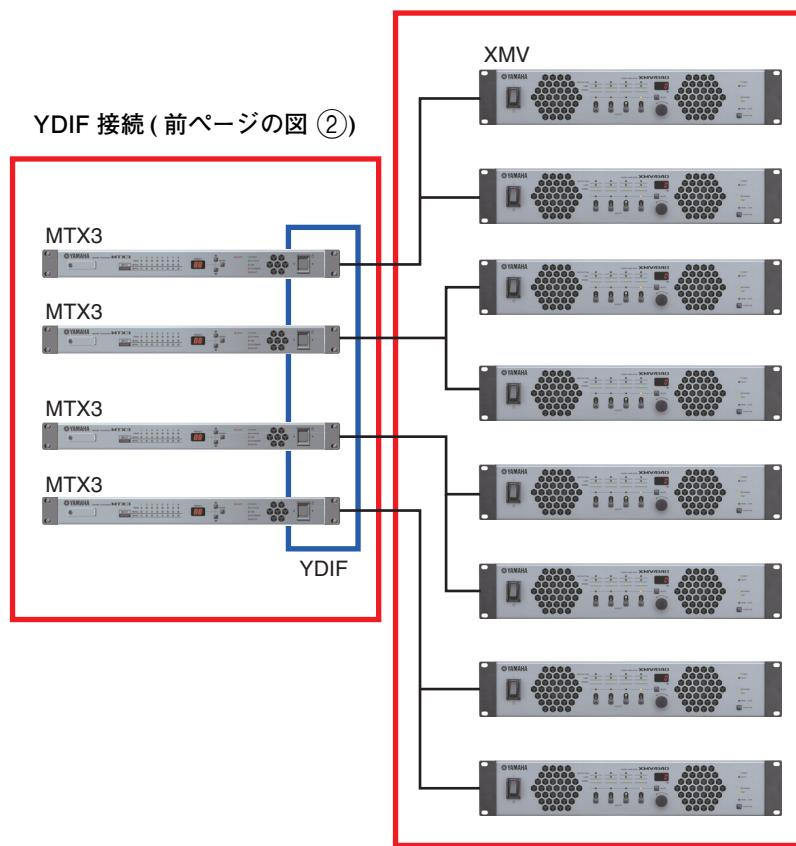
以上の条件を MTX-MRX Editor の Project 画面に当てはめると以下のようになります。



# MTX/MRX システム構成例

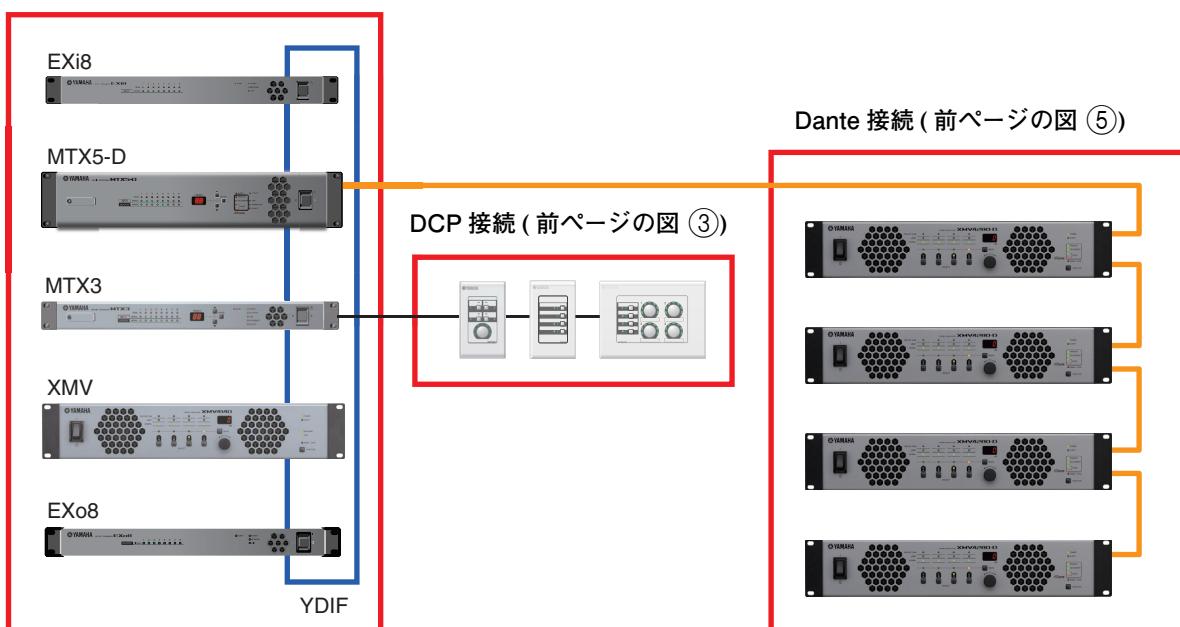
## 例 1

アナログ接続 (前ページの図 ④)



## 例 2

YDIF 接続 (前ページの図 ②)



# YDIF 接続とは (Cascade モードおよび Distribution モード)

MTX/MRX システムには以下の 2 種類の接続モードがあります。複数の YDIF 機器を接続する場合 (YDIF 接続する場合)、いずれかのモードを選択します。いずれの場合もシステムを手軽に低コストで拡張できます。

モードの切り替えは、「Device Configuration Wizard」ダイアログで行ないます。

## ● Cascade モード

複数の MTX 間で最大 8 チャンネルのマトリクスバスを共有できる機能です。マイク入力を最大 32 チャンネルまで拡張し、8 つのミックスを作ることができます。

Cascade モードの場合、YDIF を内部バスとして使用するため、入力側の EXi8、出力側の EXo8/XMV を YDIF 接続することはできません。

**NOTE** MRX が MTX/MRX システム内にある場合は、Cascade モードを選択できません。

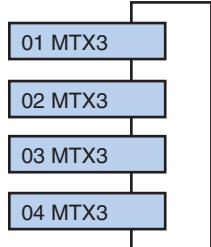
## ● Distribution モード

音声信号を EXi8 から MTX/MRX へ入力するとき、MTX/MRX 間で入出力するとき、MTX/MRX から XMV/EXo8 へ出力するときに使用します。また、一つの音声信号を複数の出力先に分配できます。MTX/MRX と XMV を YDIF でデジタル接続し、簡単に高品位なシステムが構築できます。

## MTX のみを接続する場合

## 物理接続

## リング接続



MTX は 4 台まで接続できます。接続する順番は任意です。

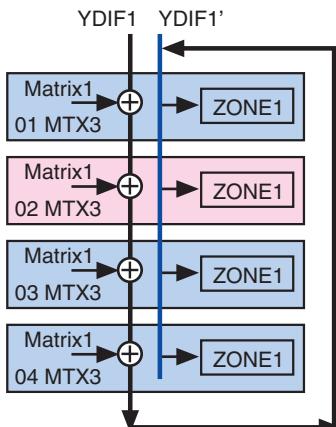
## 両者の設定の切り替えは

「Device Configuration Wizard」で行ないます。

## YDIF MODE = CASCADE

両者の設定の切り替えは  
[System] メニューの「MTX Configuration」  
ダイアログにてマトリクスごとに設定してください。  
MRX が MTX/MRX システム内にある場合は、Cascade モードを選択できません。

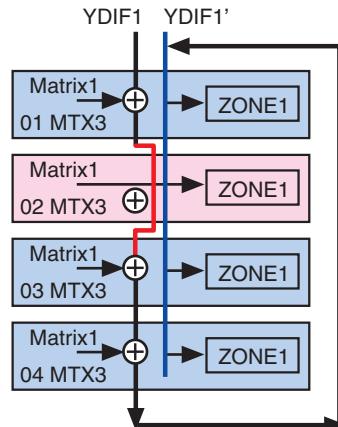
02 MTX3 : Matrix1  
CASCADE MODE=ON



バス共有可能な信号は 8 チャンネル  
です。

ZONE への入力は共有信号を用  
いします。

02 MTX3 : Matrix1  
CASCADE MODE=OFF

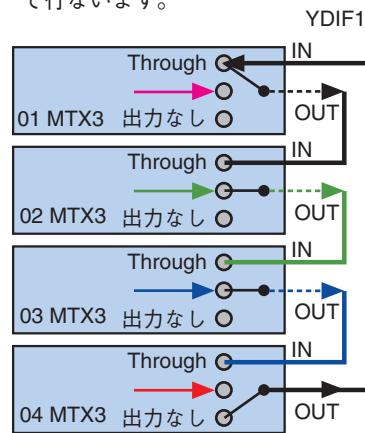


バス共有可能な信号は 8 チャンネル  
です。

CASCADE モードがオフのとき、  
ZONE への入力は自身のミックスを  
使用します (機器ごとに設定できます)。

## YDIF MODE = DISTRIBUTION

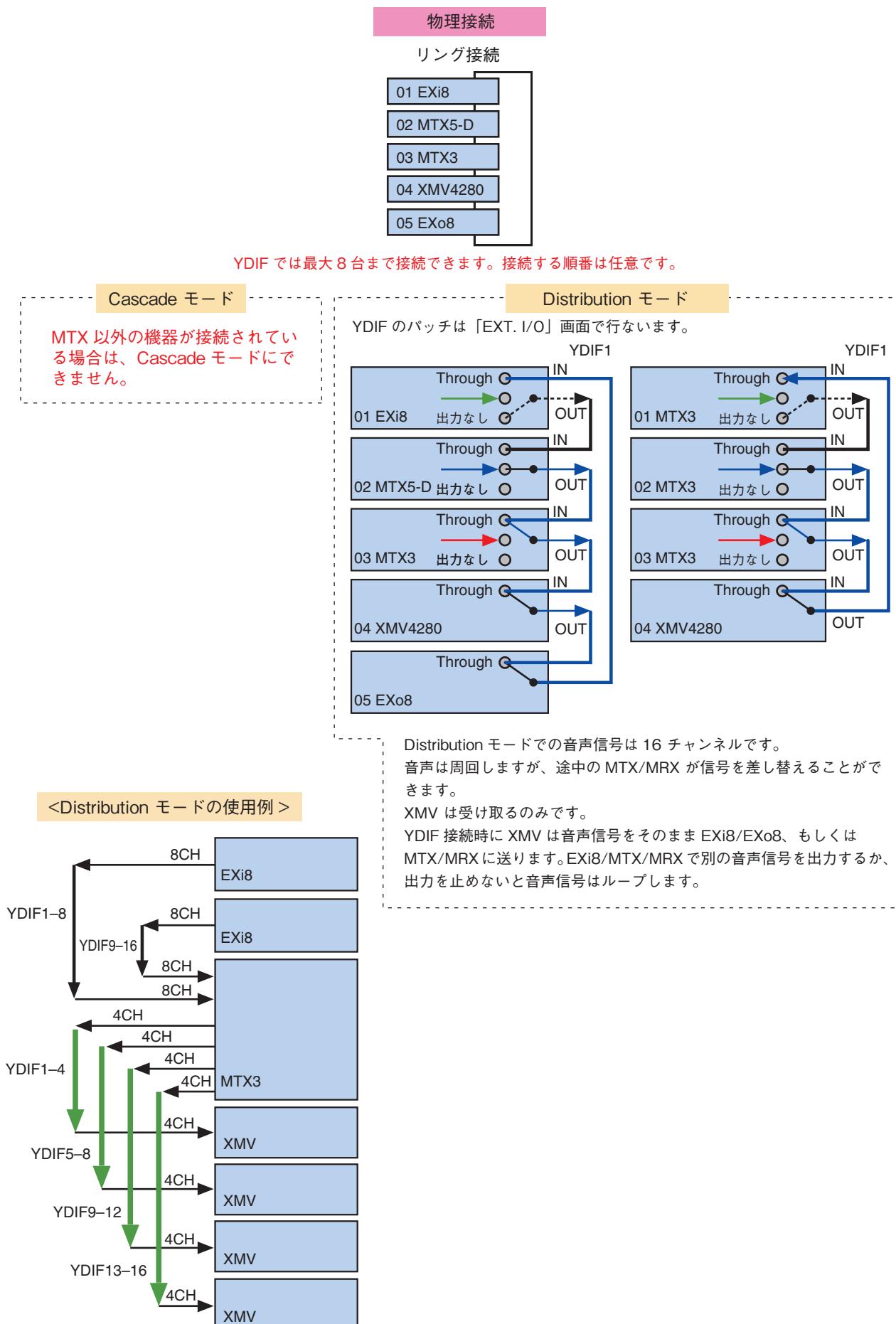
YDIF のパッチは「EXT. I/O」画面  
で行ないます。



Distribution モードでの音声信号は  
16 チャンネルです。

音声は周回しますが、途中の MTX/MRX は  
信号を差し替えることができます。

## MTX/MRX とその他の YDIF 機器を接続する場合



# Dante 接続とは (デイジーチェーン接続およびスター接続)

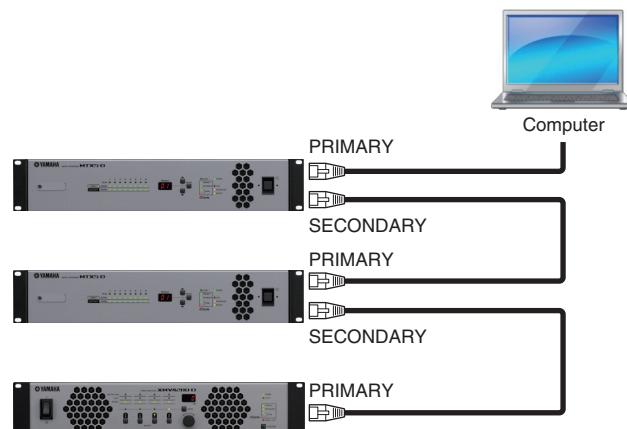
Dante ネットワークでの接続には、2つの方法があります。

また、接続に合わせて機器のディップスイッチを設定してください。

## □ デイジーチェーン接続

デイジーチェーンとは、機器を数珠つなぎにする接続方法です。ネットワーク構築が簡単で、ネットワークスイッチも不要です。接続機器の台数が少ない簡単なシステムのときに使用します。

接続する機器が多くなるとレイテンシーも大きくする必要があります。また、ケーブルの断線などによりシステムに障害が発生すると、ネットワークがそこで分断され、その先の機器との伝送ができなくなります。



## □ スター接続

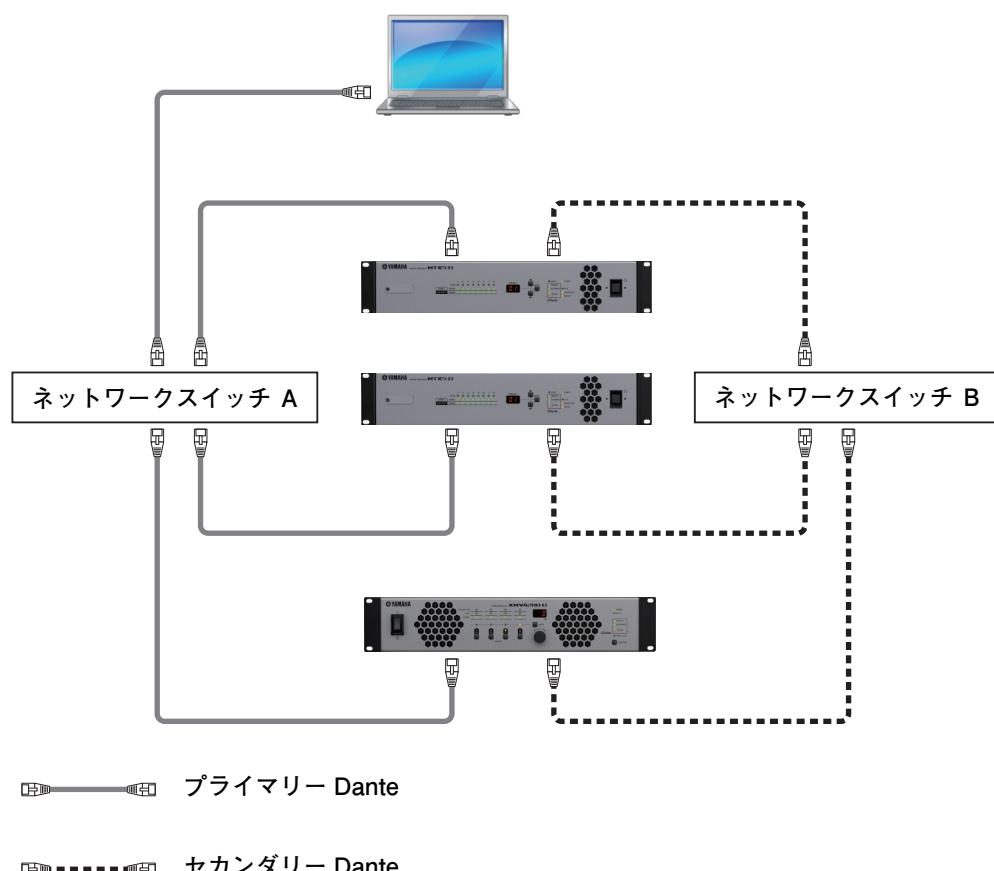
スター接続とは、ネットワークスイッチを中心に機器を接続する方法です。ギガビットイーサネットに対応したネットワークスイッチを使うことで、幅広い帯域が必要な大規模ネットワークにも対応します。ネットワークスイッチには、ネットワークを制御 / 監視するためのさまざまな機能（任意のデータ回線のクロック同期や音声の伝送を優先させる QoS など）が盛り込まれているものをおすすめします。

このとき、万が一のネットワーク障害が起きた場合、音声に影響させずに通信ができる環境を構築するためにはリダンダンシーネットワークを構築するのが一般的です。

## □ リダンダンシーネットワークについて

リダンダンシーネットワークとは、主回線（プライマリー）と副回線（セカンダリー）の2回線で構成されたネットワークです。通常はプライマリー回線で通信していますが、プライマリー回線に断線などのトラブルが発生した場合は、自動的に通信がセカンダリー回線に切り替わります。スター接続のときに、この方法で接続することによって、デイジーチェーンで構築されたネットワークよりも、ネットワーク障害に強い環境を構築できます。

**NOTE** セカンダリーDanteに回線が切り替わった状態でMTX-MRX EditorやWireless DCPと通信するためには、コンピューターやWi-FiアクセスポイントをセカンダリーDanteのネットワークスイッチにつなぎ直してください。



## パッチについて

MTX/MRX システムを構築する YDIF や Dante などのデジタル音声ネットワークでは、送信する側で「どの出力チャンネル / バスの信号をデジタル音声ネットワークのどのチャンネルに送信する」設定をして、受信する側で「デジタル音声ネットワークのどのチャンネルをどの入力チャンネルで受信する」設定をします。

このようなパッチの仕組みを持つことで、デジタル音声ネットワークの一つのチャンネルの信号を複数の機器が受信することができます。

MTX-MRX Editor では MTX 本体内の送受信を「MAIN」画面で、MRX 本体内の送受信を「MRX Designer」ウィンドウで、XMV や EXi8 などの外部機器の送受信を「EXT. I/O」画面で設定します。

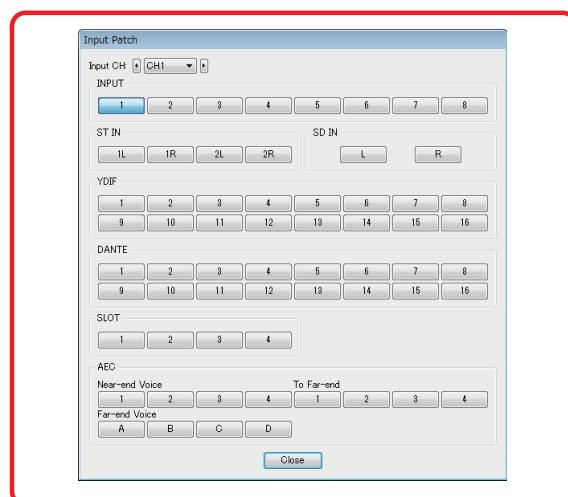
また MTX/MRX のアナログ出力と XMV のアナログ入力をつないだ場合でも、「EXT. I/O」画面で設定します。

「EXT. I/O」画面で MTX と外部機器のパッチを設定することにより、MTX の「MAIN」画面のポート / 外部機器のパラメーター呼び出しボタンをクリックすることで表示されるパラメーター編集画面で外部機器のパラメーターを編集できます。

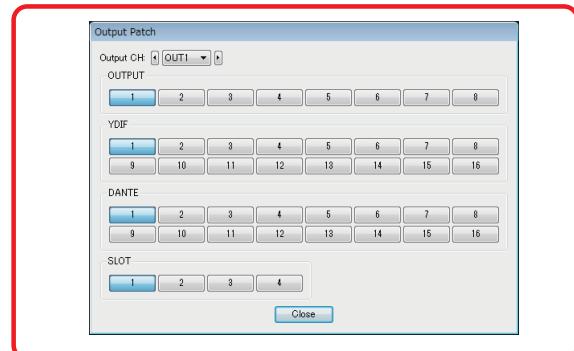
外部機器は「EXi8」「EXo8」「XMV」「R/Tio」画面でも編集できます。

- MTX 本体の設定（画面は MTX5-D の場合）

### MTX への入力



### MTX からの出力



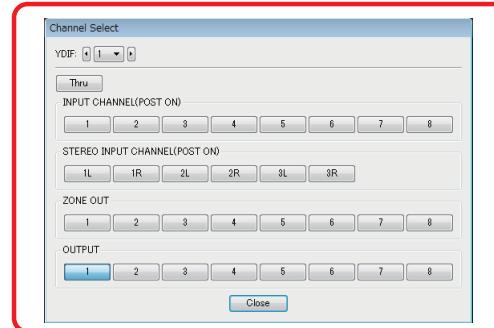
- XMV や EXi8 などの外部機器の設定

### YDIF

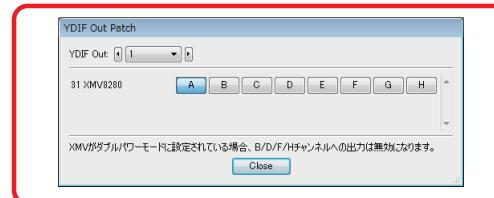
外部機器から YDIF への送信



MTX から YDIF への送信

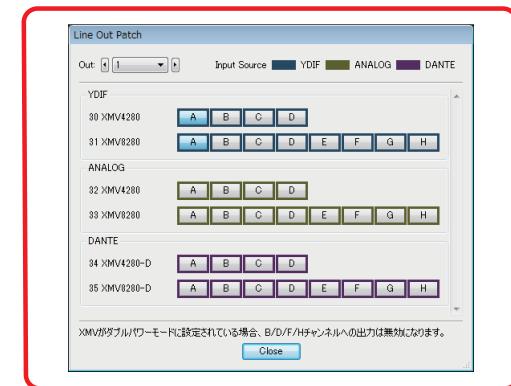


YDIF から外部機器への送信



### アナログ

XMV のアナログ端子の設定



- パラメーター編集画面

### MTX

#### 入力チャンネルの パラメーター編集画面



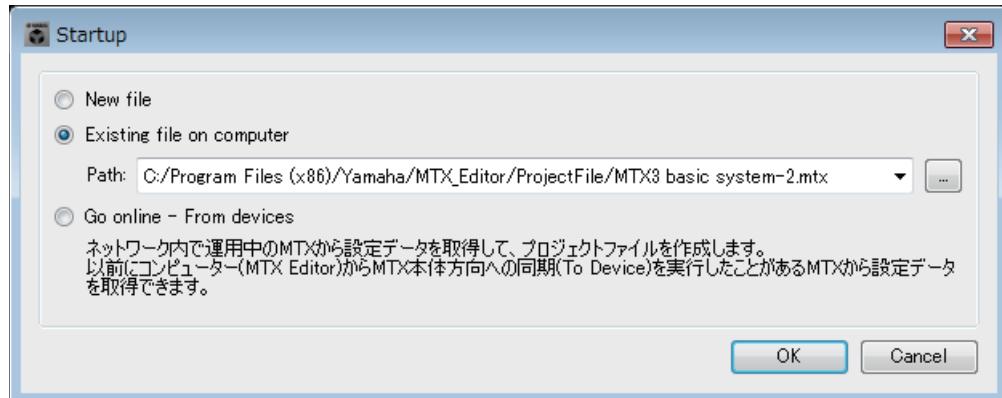
#### 出力チャンネルの パラメーター編集 画面



# ワークフロー

MTX-MRX Editor を起動します。

「Startup」ダイアログが開きます。



[New file] を選択すると、「Device Configuration Wizard」ダイアログが開きます。

**NOTE** MTX-MRX Editor をインストールすると、「MTX セットアップマニュアル」と「MRX セットアップマニュアル」と連動したプロジェクトファイルが以下のフォルダーにインストールされます。

- 32bit OS の場合  
C:\Program Files\Yamaha\MTX-MRX Editor\\*\\*\ProjectFile
- 64bit OS の場合  
C:\Program Files(x86)\Yamaha\MTX-MRX Editor\\*\\*\ProjectFile

\*.\* はインストールした MTX-MRX Editor のバージョンとなります。

[Existing file on computer] を選択したとき、このファイルを選択して利用することもできます。



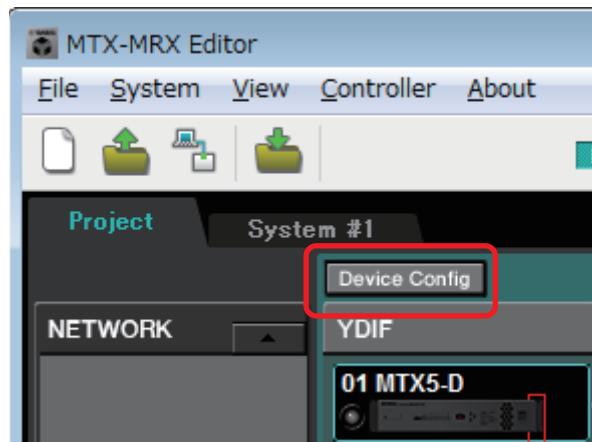
「Device Configuration Wizard」ダイアログにしたがって、MTX/MRX システムの構成を決めます。

新規作成時の「Device Configuration Wizard」ダイアログについては「MTX セットアップマニュアル」または「MRX セットアップマニュアル」を参照してください。

画面にしたがって MTX/MRX システムの構成を設定していきます。機器構成は Project 画面に展開されます。ウィザードの最後で接続図を印刷できます。

「Device Configuration Wizard」ダイアログでのウィザードを途中でキャンセルしたときや、MTX/MRX システムの構成を変更したいときは、[Device Config] ボタンをクリックしてください。再度、「Device Configuration Wizard」ダイアログが開きます。

Project 画面



詳細は [Project 画面](#) を参照してください。



MTX の機能を変更します。

入力ポートやステレオ入力チャンネルの機能の変更は、[System] メニューから選択する「[MTX Configuration](#)」ダイアログで行ないます。

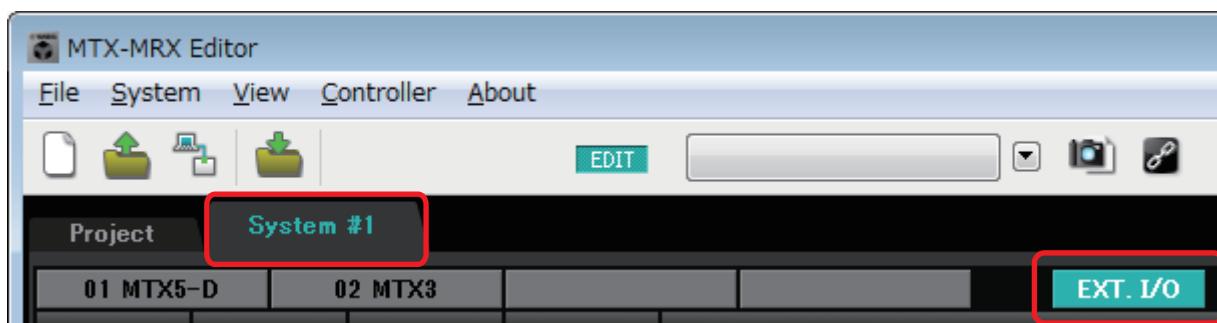


MTX/MRX と周辺機器のパッチを設定します。

設定は「[EXT. I/O](#)」画面で行ないます。「EXT. I/O」画面は、System 画面で [EXT. I/O] ボタンをクリックして表示します。

MRX では DANTE のみ設定できます。YDIF については「[MRX Designer](#)」ウィンドウのコンポーネントエディターで設定します。

EXT. I/O 画面



MTX の場合は System 画面で [MAIN] ボタンをクリックし、「MAIN」画面を表示します。

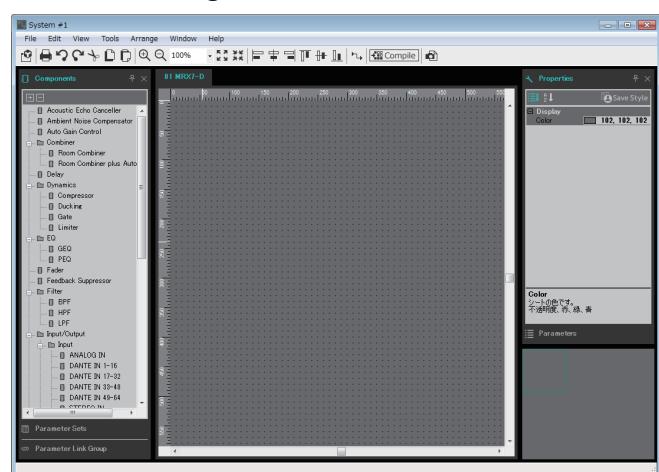
MRX の場合は System 画面で [Open MRX Designer] ボタンをクリックし、「MRX Designer」ウィンドウを表示します。

MTX: 「MAIN」画面



詳細は「[MAIN](#)」画面を参照してください。

MRX: 「[MRX Designer](#)」ウィンドウ



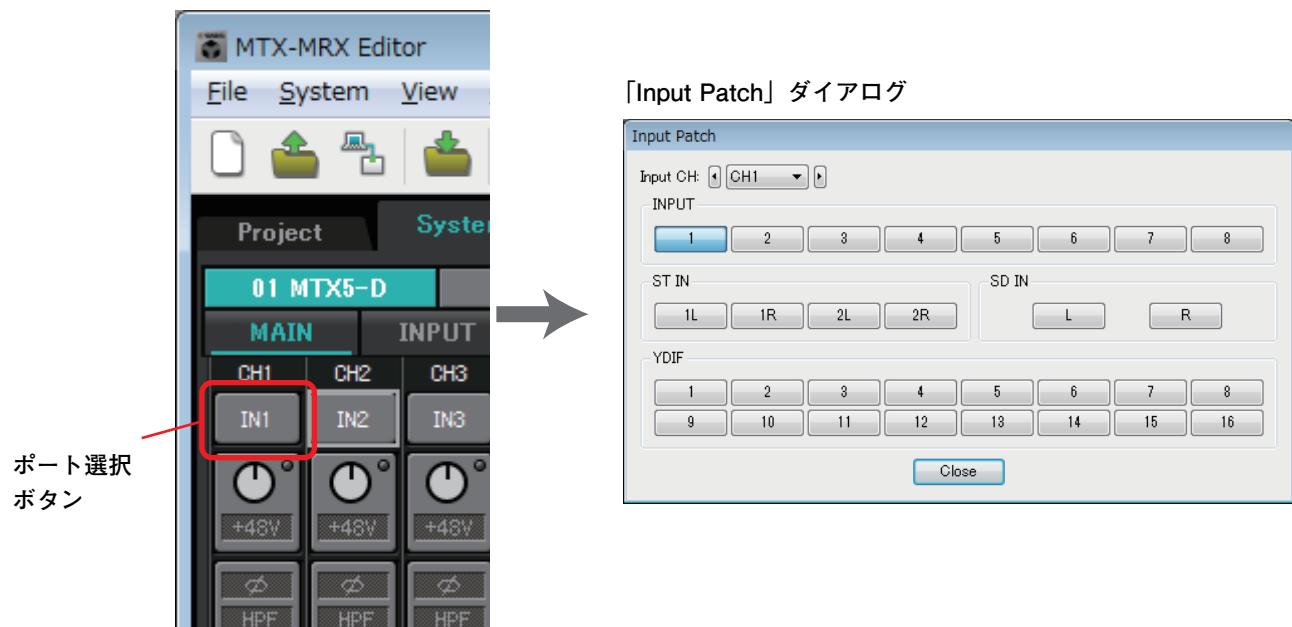
詳細は「[MRX Designer ユーザーガイド](#)」を参照してください。

これ以降のワークフローは MTX の場合を説明します。MRX の場合は「[MRX Designer](#)」ウィンドウで設定をしたあと、「[プリセットをストアする](#)」に進んでください。



### MTX のインプットチャンネルの設定をします。

インプットチャンネルにどのポートを割り当てるかは「Input Patch」ダイアログで行ないます。「Input Patch」ダイアログは、「MAIN」画面でポート選択ボタンをクリックして開きます。



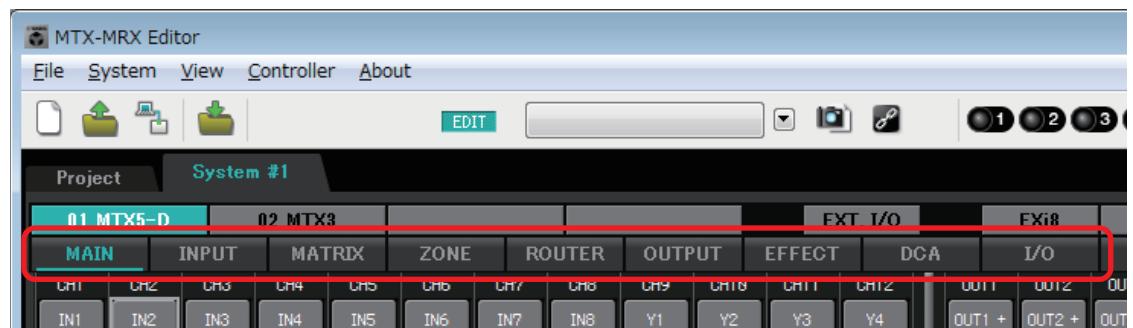
詳細は「Input Patch」ダイアログを参照してください。

同様に、アウトプットチャンネルにどのポートを割り当てるかは「Output Patch」ダイアログで行ないます。



### コンポーネントのパラメーターを編集します。

各コンポーネント編集画面は、以下のボタンをクリックして表示します。



各コンポーネントの詳細については、以下の画面を参照してください。

[「INPUT」画面](#)

[「MATRIX」画面](#)

[「ZONE」画面](#)

[「ROUTER」画面](#)

[「OUTPUT」画面](#)

[「EFFECT」画面](#)

[「DCA」画面](#)

[「I/O」画面](#)



DCP、Wireless DCP、MCP1、PGM1/PGX1、GPI、Schedulerなどの各設定を行ないます。  
各設定は以下のダイアログで行ないます。

DCP の設定: [Digital Control Panel] ダイアログ

([Controller] メニューから [Digital Control Panel] を選択)

Wireless DCP の設定: [Wireless DCP] ダイアログ

([Controller] メニューから [Wireless DCP] を選択)

MCP1 の設定: [MCP1] ダイアログ

([Controller] メニューから [MCP1] を選択)

PGM1/PGX1 の設定: [ZONE] 画面の [PAGING] と [PGM1/PGX1] ダイアログ

([Controller] メニューから [PGM1/PGX1] を選択)

GPI の設定: [GPI] ダイアログ または [GPI Calibration] ダイアログ

([System] メニューから [GPI] または [GPI Calibration] を選択)

Scheduler の設定: [Scheduler] ダイアログ

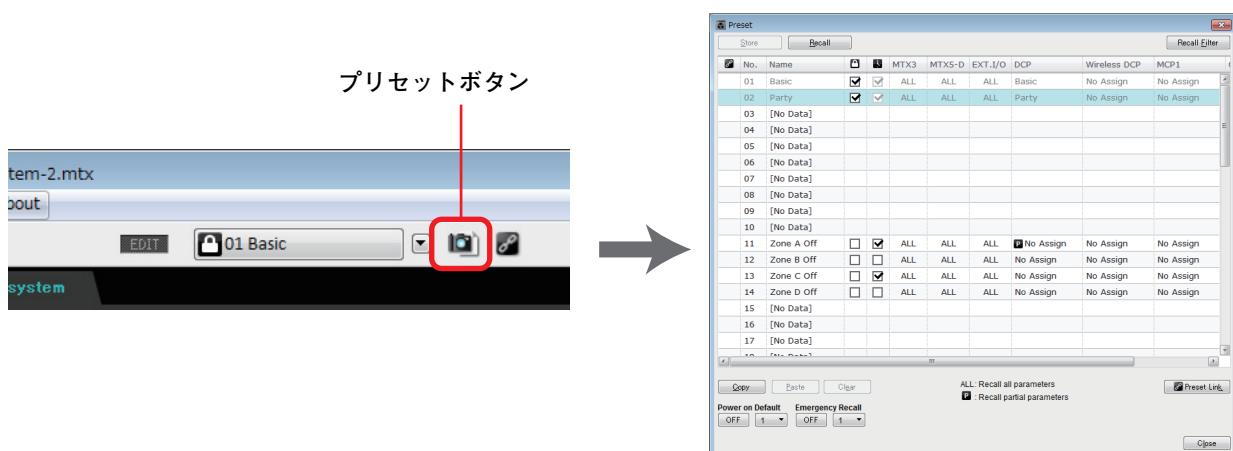
([System] メニューから [Scheduler] を選択)



プリセットをストアします。

プリセットのストアは [Preset] ダイアログで行ないます。「Preset」ダイアログは、プリセットボタンをクリックして開きます。

「Preset」 ダイアログ



プリセットと同時にリコールされる DCP ライブラリー、Wireless DCP ライブラリー、MCP1 ライブラリー、オーディオファイルの設定は、「Preset」 ダイアログを参照してください。



印刷した接続図にしたがって機器を接続します。

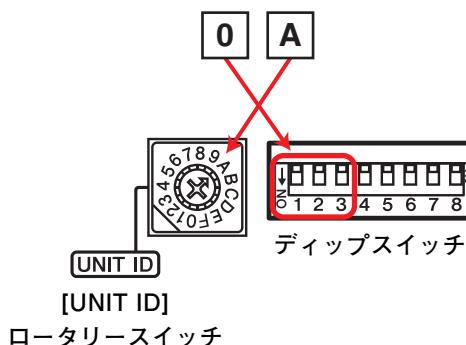
各機器の電源をオフにし、MTX/MRX、XMV、EXi8/EXo8 および PGM1 のリアパネルで UNIT ID を設定します。MCP1 は電源をオンにしてから UNIT ID を設定します。

**NOTE** 接続図は、[File] メニューから [Print Configuration Diagram] を選択して印刷することもできます。

まず、本体リアパネルのディップスイッチ 6(IP SETTING) が [UNIT ID] に設定されていることを確認します。[PC] に設定されている場合は [UNIT ID] に変更し、本体を再起動してください。

リアパネルの [UNIT ID] ロータリースイッチおよびディップスイッチで各機器の UNIT ID を設定します。MTX-MRX Editor では、UNIT ID は 16 進数で表示されます。ディップスイッチ (MTX/MRX、および EXi8/EXo8 ではスイッチ 1 ~ 2、PGM1 と YDIF 搭載モデルの XMV ではスイッチ 1 ~ 3) で上位桁を、[UNIT ID] ロータリースイッチで下位桁を設定します。Dante 搭載モデルの XMV では [UNIT ID] ロータリースイッチの [HIGH] で上位桁を、[LOW] で下位桁を設定します。R シリーズ (AD/DA) や Tio1608-D については、各取扱説明書を参照してください。UNIT ID に 00 は設定しないでください。

**設定例** ) YDIF 搭載モデルの XMV で UNIT ID を [0A] に設定するとき



ディップスイッチを以下のように組み合わせることにより、UNIT ID の上位桁を構成します。

上位桁が 0	↓ 0 1 2 3
上位桁が 1	↓ 0 1 2 3
上位桁が 2	↓ 0 1 2 3
上位桁が 3	↓ 0 1 2 3
上位桁が 4	↓ 0 1 2 3
上位桁が 5	↓ 0 1 2 3
上位桁が 6	↓ 0 1 2 3
上位桁が 7	↓ 0 1 2 3

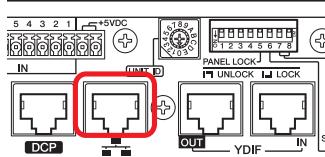
**NOTE** DHCP サーバーを利用したり、機器を固定 IP アドレスで運用したい場合は、「IP Address」ダイアログを参照してください。「Set IP Address」ダイアログは、[System] メニューから選択する「Device Information」ダイアログから開くことができます。



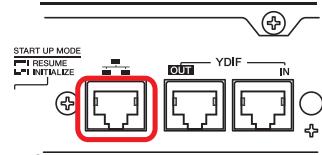
### 接続図にしたがって機器とコンピューターを接続します。

Dante 搭載モデルは [Dante] 端子を、MCP1 や YDIF 搭載モデルは NETWORK 端子を使ってコンピューターと接続します。通常はネットワークスイッチを使って機器とコンピューターを接続します。Dante 搭載モデルのみでデイジーチェーン接続の場合は機器とコンピューターをデイジーチェーン接続します。MTX/MRX が 1 台のみの場合はコンピューターと MTX/MRX を直接接続することもできます。MCP1 と PGM1 を接続する場合、IEEE802.3af 準拠の PoE ネットワークスイッチまたは PoE インジェクターが必要です。詳細についてはそれぞれの施工説明書を参照してください。

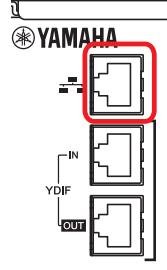
MTX3 の NETWORK 端子



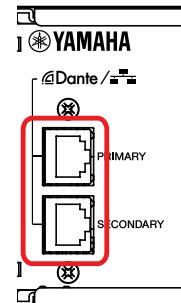
EXi8/EXo8 の NETWORK 端子



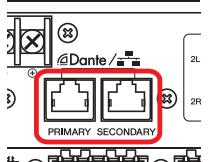
YDIF 搭載モデルの XMV の NETWORK 端子



Dante 搭載モデルの XMV の [Dante] 端子



MTX5-D/MRX7-D の [Dante] 端子



機器の電源をオンにします。



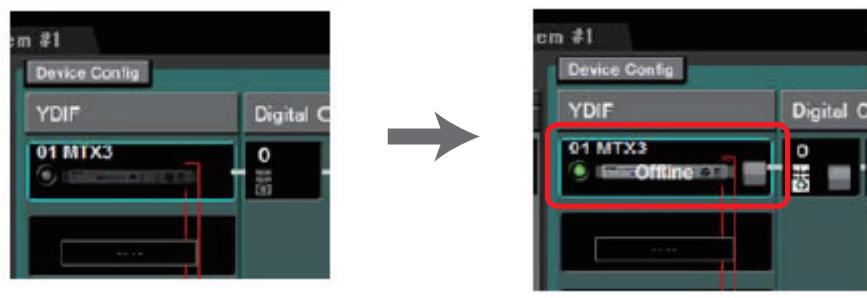
MCP1 のセッティングページで、IP Setting が [UNIT ID] になっていることを確認して、UNIT ID を設定します。



ネットワークカードの選択、およびコンピューターの IP アドレスの設定を行ないます。

ネットワークカードの選択は [System] メニューから選択する「Network Setup」ダイアログで行ないます。ネットワークカードの IP アドレスを 192.168.0.x (x は 0 と 255 と機器の UNIT ID 以外)、サブネットマスクを 255.255.255.0 にしてください。ネットワークカードの IP アドレスはコントロールパネルの「ネットワーク接続」で行ないます。「ネットワーク接続」は「Network Setup」ダイアログの [Open Network Connections] ボタンをクリックすることで開きます。

コンピューターと機器の接続に成功すると、Project 画面で機器のアイコン表示が変わります。



機器のファームウェアのバージョンが MTX-MRX Editor と互換性があるかどうかを確認します。

詳細は、[System] メニューから選択する「Device Information」ダイアログを参照してください。

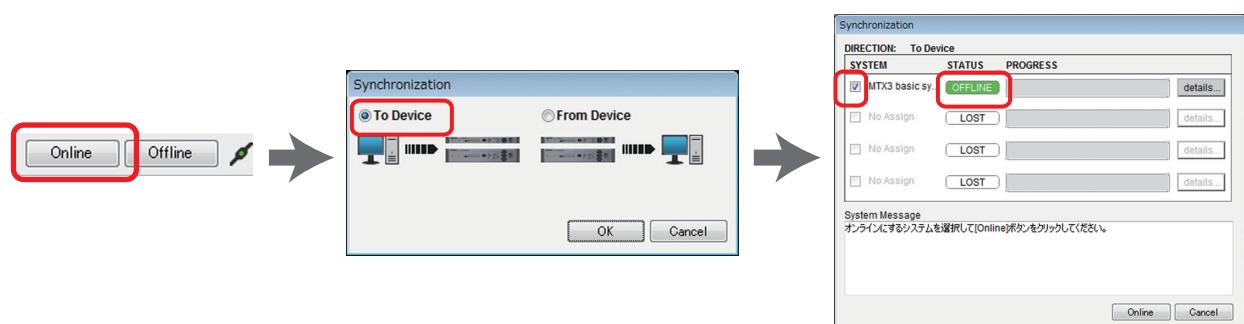
また、ファームウェアと MTX-MRX Editor の互換性については、ヤマハプロオーディオウェブサイトを参照してください。

<http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/>



コンピューターと機器を同期状態（オンライン状態）にします。

ツールボタンの [Online] ボタンをクリックして「Synchronization」ダイアログを開き、「To Device」にチェックを入れて、[OK] ボタンをクリックしてください。ダイアログの表示が切り替わったら、オンラインにするシステムにチェックを入れて、[Online] ボタンをクリックしてください。



MTX-MRX Editor の設定内容が各機器に送信されます。オンライン状態になると、インジケーターが以下のように青く点灯します。



**NOTE**

- オンライン状態になると、コンピューターの時刻が各機器に送信されます。
- サマータイムの設定は、該当プロジェクトファイルを最初に作ったコンピューターの「日付と時刻」の設定が反映されています。サマータイムが設定されていないコンピューターや、異なるタイムゾーンの設定がされているコンピューターで作ったプロジェクトファイルのサマータイムに関する設定を変更する場合は、[System] メニューから「Daylight Saving Time」ダイアログを開き、設定を変更してください。



### MTX のポートや XMV のパラメーターを調整します。

上記で MTX 内部のパッチを設定した際に、チャンネルに外部機器のチャンネルや MTX のポートを割り当てた場合、ポート / 外部機器のパラメーター呼び出しボタンをクリックすると、各パラメーター編集画面が開きます。

詳しくは、MTX の場合は「[MAIN](#)」画面を参照してください。MRX の場合は「[MRX Designer ユーザーガイド](#)」を参照してください。



### プロジェクトファイルを保存します。

[File] メニューから [Save] または [Save As] を選択し、プロジェクトファイルを保存します。

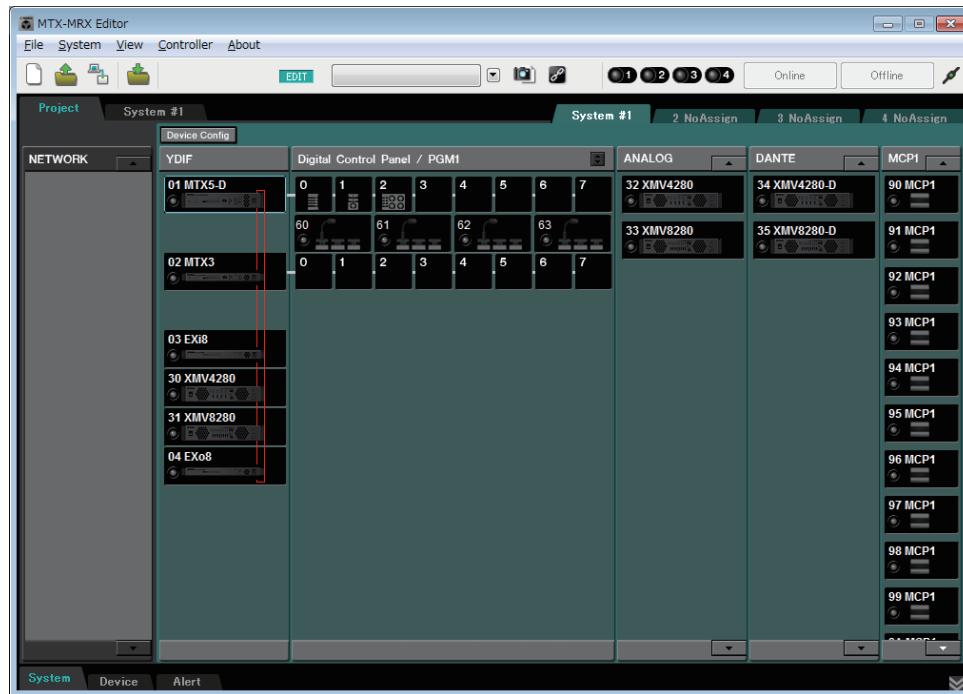
ファイルにセキュリティ情報を付加したい場合は、[File] メニューから選択する「[Security Settings](#)」ダイアログで PIN コードの設定が行なえます。

# 各画面について

MTX-MRX Editor には、主に Project 画面と System 画面があります。

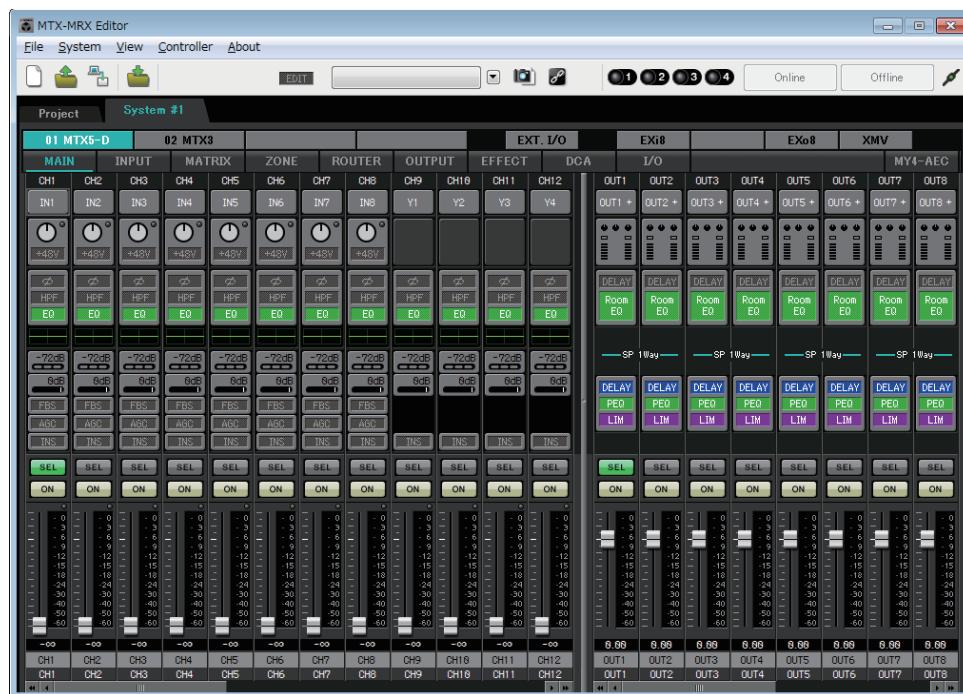
## □ Project 画面

MTX/MRX システムを管理する画面です。MTX や XMV の状態を確認したり、機器に関する設定を行ないます。また、アラートを発生している機器を確認することもできます。

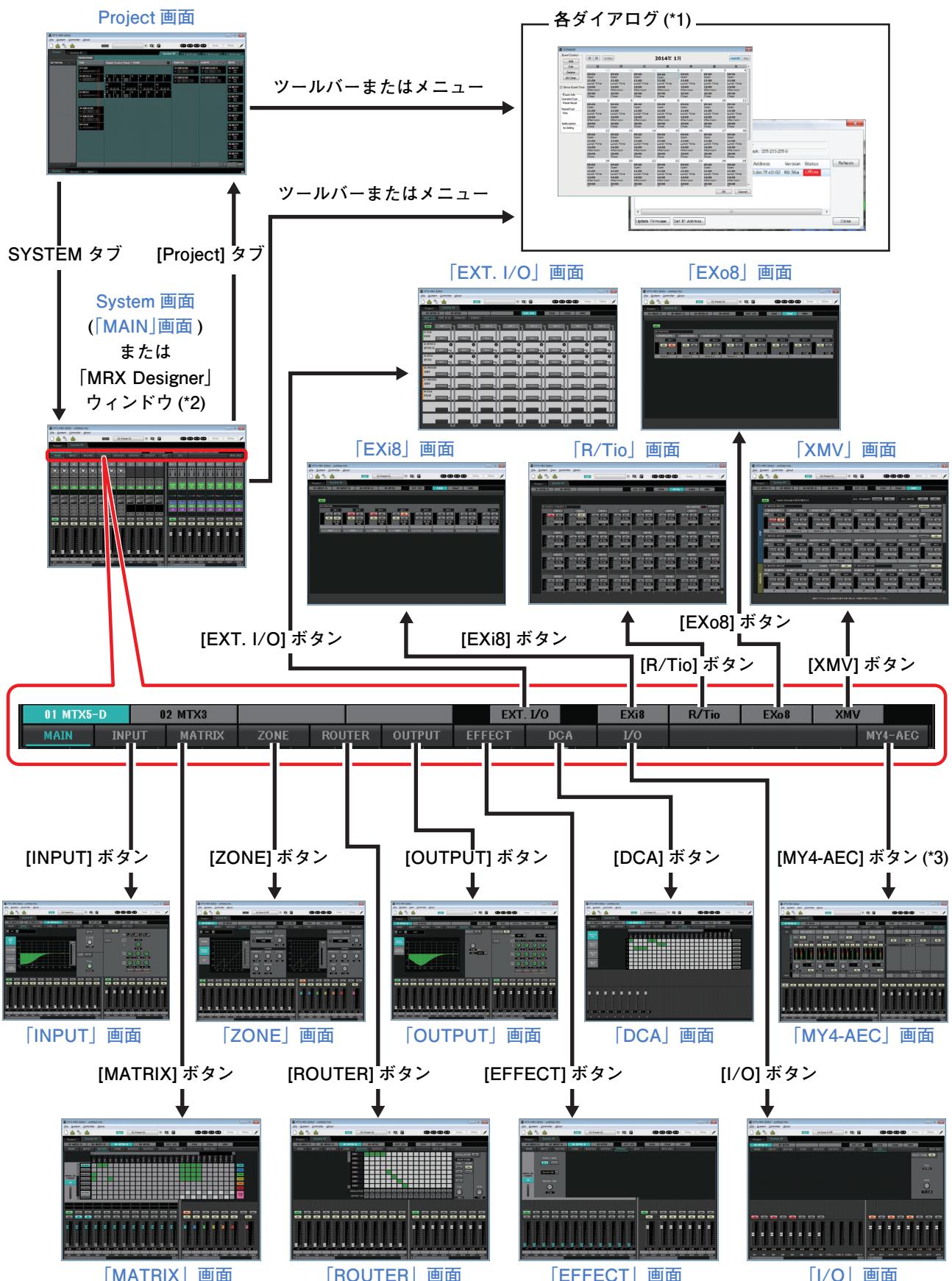


## □ System 画面

チャンネルやマトリクス、エフェクトなどの設定を行ないます。



# 画面遷移



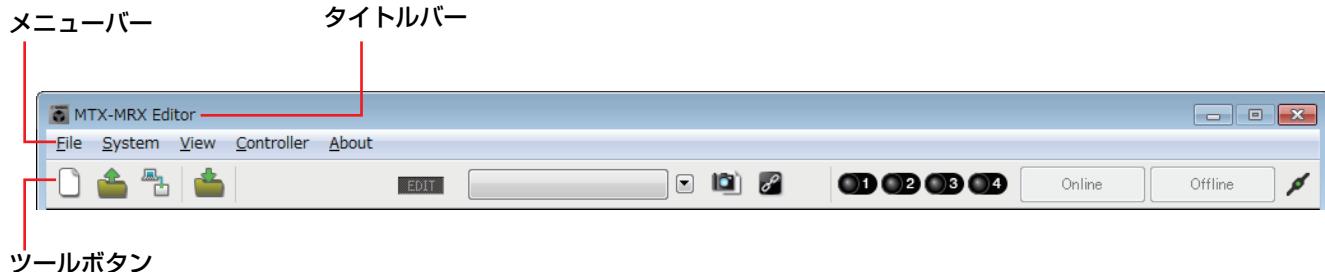
(\*1) 「Device Configuration Wizard」 ダイアログは Project 画面からのみ開けます。

(\*2) 「Device Configuration Wizard」 ダイアログで MRX が選択されていない場合は表示されません。この画面の詳細については「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

(\*3) 「Device Configuration Wizard」 ダイアログで MTX5-D に MY4-AEC が選択されていない場合は表示されません。

# 第2章 メニューバーおよびツールボタン

この章では、メニューバーおよびツールボタンの概略を説明します。呼び出される各ダイアログについては、リンク先を参照してください。



## タイトルバー

「MTX-MRX Editor」と表示されます。

また、その右側には現在開いているプロジェクトファイル名が表示されます。新規プロジェクトファイルを開いたときや、プロジェクトファイルが一度も保存されていない場合は何も表示されません。

## メニューバー

MTX-MRX Editor で実行できるコマンド（命令）が、カテゴリーごとにまとめられています。

クリックするとコマンドのリストが表示されます。

メニュー	コマンド	概要	呼び出されるダイアログ
[File]	[New]	新規プロジェクトファイルを作成します。 プロジェクトファイルを編集中の場合は、確認のメッセージが表示されます。 オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	「Device Configuration Wizard」ダイアログ
	[Open]	保存されているプロジェクトファイルを開きます。 プロジェクトファイルを編集中の場合は、確認のメッセージが表示されます。 オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	「Open File」ダイアログ
	[Go Online – From Devices]	MTX/MRX システムの設定を MTX-MRX Editor に取り込みます。 MTX/MRX システムの設定ファイルをなくしたときに使用したりします。 プロジェクトファイルを編集中の場合は確認のメッセージが表示されます。 オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	「Go online – From devices」ダイアログ
	[Save]	プロジェクトファイルを上書き保存します。 最初に保存するときは「Save File」ダイアログが開きますので、ファイルに名前を付けて保存します。	—
	[Save As]	プロジェクトファイルを別のファイルとして保存します。コマンドを選択すると「Save File」ダイアログが開きます。	「Save File」ダイアログ
	[Security]	他のユーザーがシステムを変更保存できないようにセキュリティを設定します。この設定は、プロジェクトファイルに保存されます。	「Security Settings」ダイアログ
	[Project Information]	物件情報や連絡先などのメモをプロジェクトファイルに記しておくことができます。	「Project Information」ダイアログ
	[Print Configuration Diagram]	MTX/MRX、XMV、DCP などの機器の接続図を表示します。接続図は印刷できます。	「Configuration Diagram」ダイアログ
	[PGM1 Label Creator]	PGM1/PGX1 のラベルを作成するための「PGM1 Label Creator」アプリケーションを起動します。	「PGM1 Label Creator」アプリケーション
	[Recently Opened Files]	最近使用したプロジェクトファイルを 5 つまで表示し、開くことができます。 オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	—
	[Exit]	MTX-MRX Editor を終了します。 プロジェクトファイルが編集されている場合は、確認のメッセージが表示されます。 オンライン状態のとき、このコマンドは選択できません。	—

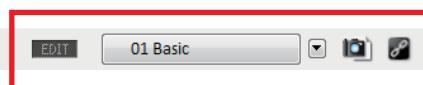
メニュー	コマンド	概要	呼び出されるダイアログ
[System]	[Network Setup]	MTX/MRX と通信するためのコンピューターのネットワークアダプターを選択します。 ネットワークアダプターの IP アドレスの変更もできます。	[Network Setup] ダイアログ
	[Device Information]	ネットワーク上の機器を一覧で表示し、ファームウェアのアップデートや IP アドレスの変更を行ないます。	[Device Information] ダイアログ
	[Match Device by IP Address]	コンピューターと別のサブネットにある機器のための設定をします。	[Match Device by IP Address] ダイアログ
	[Install Speech Privacy File]	MRX で「Speech Privacy」コンポーネントを使用するときのファイルを MRX に送信します。詳細については「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。	[Install Speech Privacy File] ダイアログ
	[MTX Configuration]	MTX の入力ポートや出力チャンネル、マトリクスバスなど、入出力の設定を機器ごとに行ないます。 Project 画面のとき、このコマンドは選択できません。	[MTX Configuration] ダイアログ
	[Dante Information]	Dante の設定やファームウェアのバージョンを表示します。また、ビットレートとレイテンシーの設定を行ないます。	[Dante Information] ダイアログ
	[Word Clock]	プロジェクトのワードクロックマスターとワードクロックの設定を行ないます。	[Word Clock] ダイアログ
	[Clock]	オンライン状態 / オフライン状態にかかわらず同一ネットワークに接続されているすべての機器の日時を更新します。	[Clock] ダイアログ
	[Daylight Saving Time]	オンライン状態 / オフライン状態にかかわらず同一ネットワークに接続されているすべての機器のサマータイム (Daylight Saving Time) の設定をします。	[Daylight Saving Time] ダイアログ
	[Scheduler]	あらかじめ設定しておいた日時にプリセットを切り替えたり、SD メモリーカードに保存してある曲や効果音を再生できます。これらの個々の設定を「イベント (Event)」と呼びます。「Scheduler」ダイアログではイベントの設定を行ないます。	[Scheduler] ダイアログ
	[GPI Calibration]	MTX/MRX 本体の [GPI] 端子の入力電圧検出範囲のキャリブレーションを行ないます (オンライン状態のときのみ設定可能)。	[GPI Calibration] ダイアログ
	[GPI]	GPI 入出力の設定を行ないます。	[GPI] ダイアログ
	[Remote Control]	[RS-232C] 端子の設定を行ないます。	[Remote Control] ダイアログ
[View]	[Large Scale View]	MRX Designer のコンポーネントエディターと MTX-MRX Editor の表示を縦横 200% にします。	—

メニュー	コマンド	概要	呼び出されるダイアログ
[Controller]	[External Events]	Dante 端子や NETWORK 端子がつながっているネットワークを通じて、周辺機器を制御するために送信するコマンドの設定を行ないます。	「External Events」ダイアログ
	[Digital Control Panel]	デジタルコントロールパネル (DCP) の設定を行ないます。	「Digital Control Panel」ダイアログ
	[Wireless DCP]	iOS アプリケーション「Wireless DCP」の設定を行ないます。 設定する項目はテンプレート以外は「Digital Control Panel」と同じです。	「Wireless DCP」ダイアログ
	[MCP1]	MCP1 の設定を行ないます。	「MCP1」ダイアログ
	[PGM1/PGX1]	PGM1/PGX1 の設定を行ないます。	「PGM1/PGX1」ダイアログ
[About]	[Shortcut Keys]	ショートカットキー一覧を表示します。	「Shortcut Keys」ウィンドウ
	[Operation Manual]	基本的な操作を表示します。	「Operation Manual」ウィンドウ
	[About MTX-MRX Editor]	MTX-MRX Editor のバージョンなどの詳細情報を表示します。	—

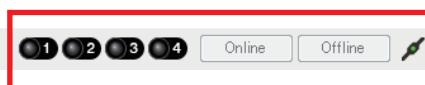
# ツールボタン



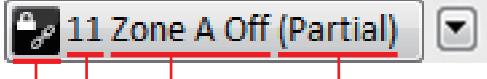
ファイル関連ツール



プリセット関連ツール



同期関連ツール

関連ツール	ボタンなど	概要	呼び出されるダイアログ
ファイル	[New]	新規プロジェクトファイルを作成します。 プロジェクトファイルを編集中の場合は、確認のメッセージが表示されます。 オンライン状態のとき、このボタンは無効です。	「Device Configuration Wizard」ダイアログ
	[Open]	保存されているプロジェクトファイルを開きます。 プロジェクトファイルを編集中の場合は、確認のメッセージが表示されます。 オンライン状態のとき、このボタンは無効です。	「Open File」ダイアログ
	[Go Online - From Device]	稼働している MTX/MRX システムの設定を MTX-MRX Editor に取り込みます。 MTX/MRX システムの設定ファイルをなくしたときに使用したりします。 プロジェクトファイルを編集中の場合は確認のメッセージが表示されます。 オンライン状態のとき、このボタンは無効です。	「Go online - From devices」ダイアログ
	[Save]	プロジェクトファイルを上書き保存します。 最初に保存するときは「Save File」ダイアログが開きますので、ファイルに名前を付けて保存します。	—
プリセット	[EDIT] インジケーター	パラメーターや設定を変更すると、このインジケーターが点灯します。この場合、必要に応じてプリセットをストアしてください。	—
	プリセット選択リストボックス	ストア済みのプリセットが以下のように表示されます（空のプリセットは表示されません）。ここで選択したプリセットがリコールされます。 ストア済みのプリセット名部分をクリックすると、上書きストアができます。 右の▼をクリックするとプルダウンメニューが表示され、選択したプリセットのリコールができます。   プリセット名 プリセット番号 リコールフィルターが設定されている場合のみ表示  プリセットのリコールが連動する場合は鎖アイコンを表示。プリセットをロックしている場合は鍵アイコンを表示。	—
	[Preset]	プリセットに関する設定を行ないます。	「Preset」ダイアログ
	[Preset Link]	MTX/MRX システム間でプリセットのリコールを連動させるプリセット番号の設定を行ないます。	「Preset Link」ダイアログ

関連ツール	ボタンなど	概要	呼び出されるダイアログ
同期	オンライン インジケーター	<p>機器とコンピューターがオンライン状態のときに点灯します。状態によってインジケーターの色が変わります。インジケーターは MTX/MRX システムごとに表示されます。</p> <p>青色 … MTX/MRX システムに配置されているすべての機器がオンライン状態のとき</p> <p>黄色 … MTX/MRX システムに配置されている機器のうち少なくとも 1 台の機器がオフライン状態のとき</p> <p>消灯 … すべての機器がオフライン状態のとき</p>	—
	Online [Online]	<p>クリックすると「Synchronization」ダイアログ(同期方向選択)が表示されます。オンライン状態でクリックすると、オフラインになっている機器を再検索し、同期を開始します。すでにオンライン状態の機器は何も起りません。</p> <p><b>NOTE</b> 「Device Configuration Wizard」ダイアログで配置した MTX/MRX が実際にネットワーク上に接続されていない場合、[Online] ボタンは使用できません。</p>	「Synchronization」ダイアログ
	Offline [Offline]	<p>クリックすると、どの MTX/MRX システムとオフライン状態(非同期状態)にするか選択するダイアログが表示されます。</p> <p><b>NOTE</b> 「Device Configuration Wizard」ダイアログで配置した MTX/MRX が実際にネットワーク上に接続されていない場合、[Offline] ボタンは使用できません。</p>	
	Connection [Connection]	<p>MTX-MRX Editor とネットワークの接続状態を切り替えます。オフライン状態でも接続状態だと MTX-MRX Editor は機器の検索などでネットワークにデータを送出します。オフィスの LAN などに接続していて、余計なデータを送出したくない場合は非接続状態にしてください。</p> <p> 接続状態です。</p> <p> 非接続状態です。</p>	

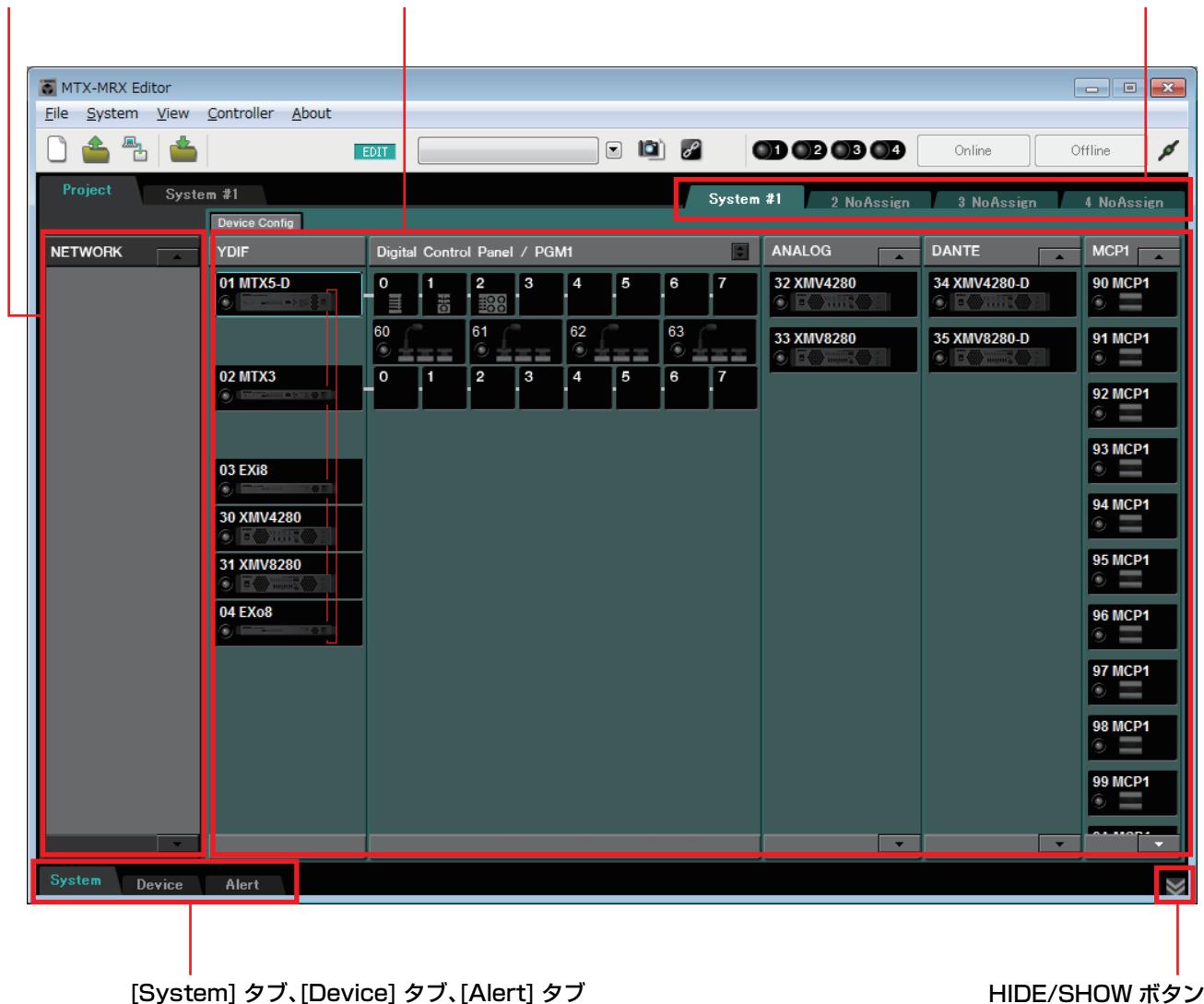
# 第3章 Project 画面

プロジェクトを管理する画面です。MTX-MRX Editor を起動すると、この画面が最初に開きます。Project 画面と System 画面の表示はタブで切り替えます。

ネットワーク機器

MTX/MRX システム

システム切り替えタブ



[System] タブ、[Device] タブ、[Alert] タブ

HIDE/SHOW ボタン

## □ システム切り替えタブ

MTX-MRX Editor でコントロールする MTX/MRX システムを切り替えます。

新しく MTX/MRX システムを構築する場合は、「No Assign」タブをクリックしたあと、[Device Config] ボタンをクリックして、MTX/MRX システムのコンフィギュレーションを設定してください。

System #1 2 NoAssign 3 NoAssign 4 NoAssign

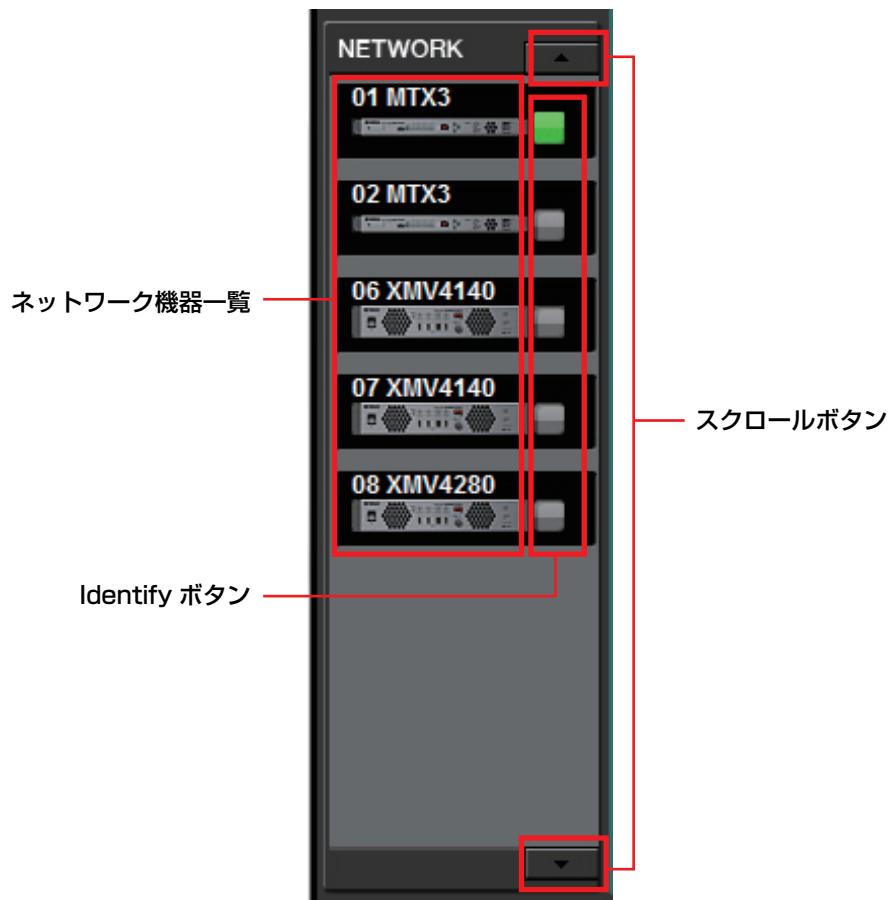
## □ HIDE/SHOW ボタン



[System] タブ、[Device] タブ、[Alert] タブを格納 / 展開します。

## ネットワーク機器

コンピューターと同じネットワークに存在する機器を一覧表示します (MTX/MRX システムに配置されている機器は表示されません)。



### ネットワーク機器一覧

同一ネットワークに存在する機器です。UNIT ID、機器名、機器のイラストが表示されます。機器のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチ (XMV は機器設定ディップスイッチ) の説明が表示されます。

### Identify ボタン

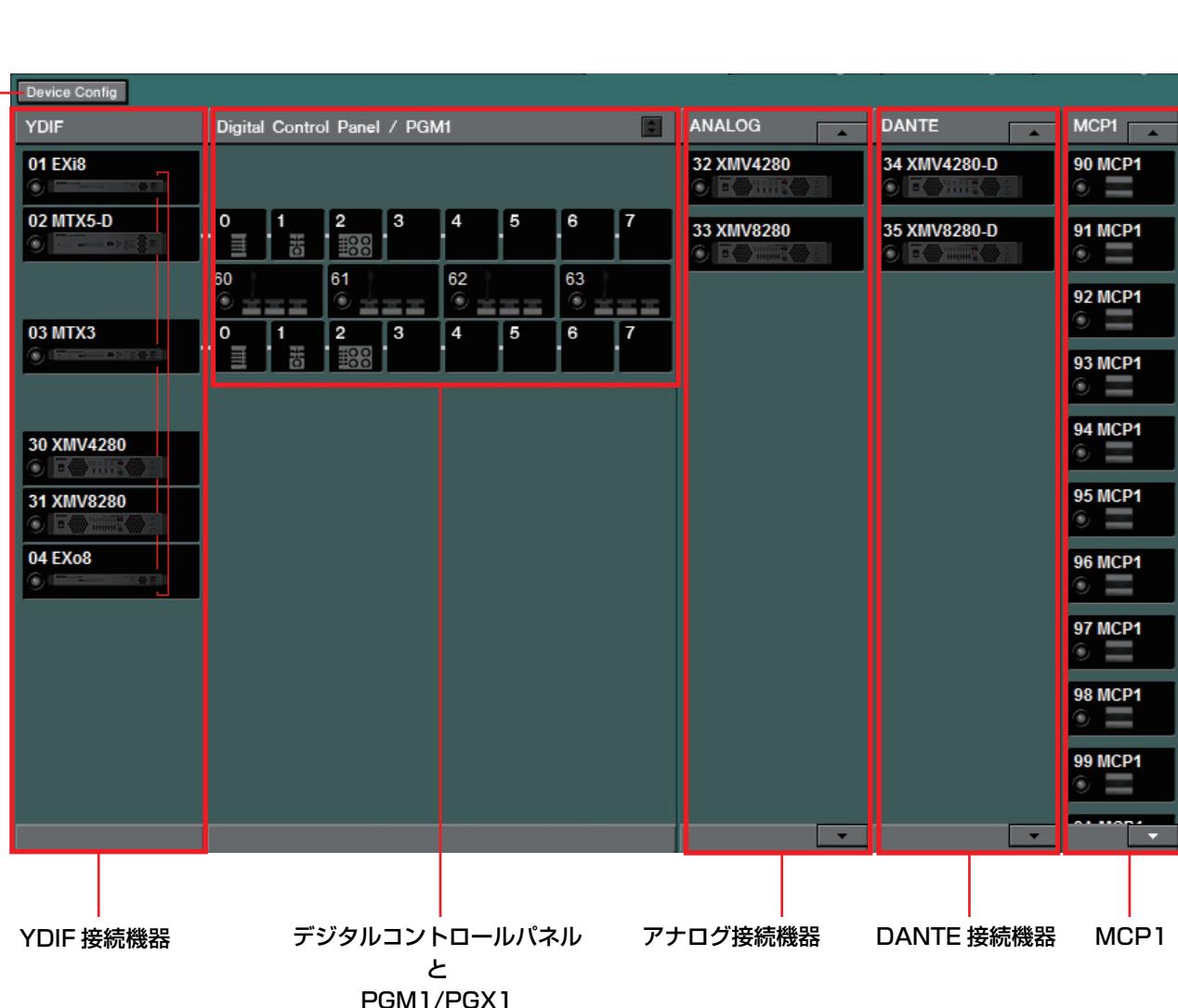
クリックすると該当する機器のインジケーターが約 5 秒間点滅し、機器を確認できます。

### スクロールボタン

表示を上下にスクロールします。

# MTX/MRX システム

[Device Config] ボタン



[Device Config] ボタン

クリックすると「Device Configuration Wizard」ダイアログが開きます。

## □「Device Configuration Wizard」ダイアログ

MTX/MRX システムのコンフィギュレーション（構成）をウィザードにしたがって配置したり設定するためのダイアログです。機器の種類や接続順を簡単に設定または編集できます。

ここでは Project 画面の [Device Config] ボタンをクリックして表示されるダイアログについて説明します。[New] ラジオボタンを選択した場合のウィザードの進み方については、「MTX セットアップマニュアル」または「MRX セットアップマニュアル」を参照してください。

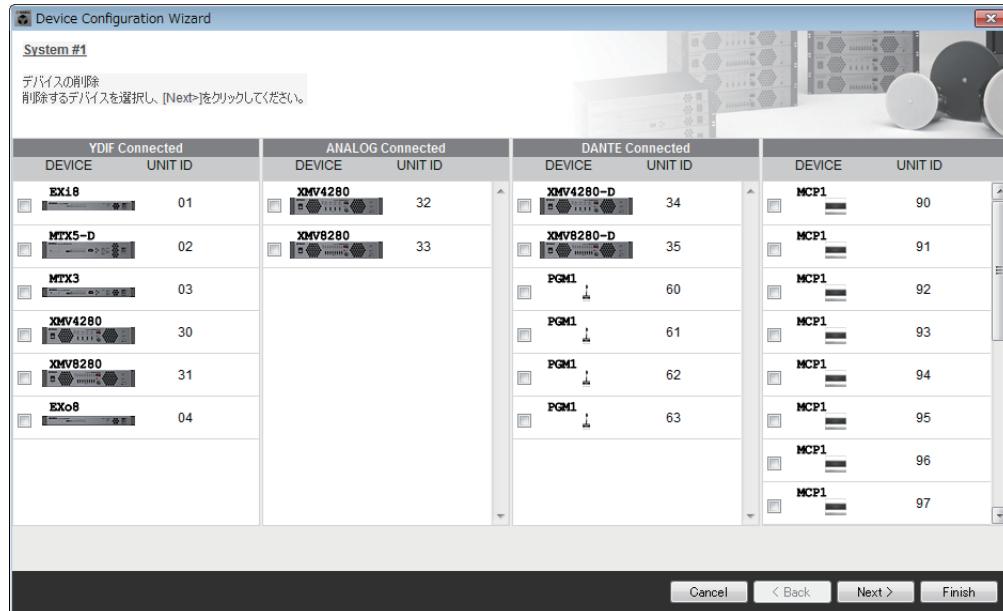
1. [Device Config] ボタンをクリックすると、「Device Configuration Wizard」ダイアログが開きます。



MTX/MRX システムを新しく配置するか、または編集するかを選択します。

- **[New] ラジオボタン**  
コンフィギュレーションを新しく作成します。  
[SYSTEM NAME] 入力ボックスに任意のシステム名を入力します。
- **[Edit Configuration] ラジオボタン**  
コンフィギュレーションを編集します。機器が配置されていない場合はグレーアウト表示となり、選択できません。  
下にあるラジオボタンを選択して [Next >] ボタンをクリックすると、Mini-YGDAI カードやコントローラーの編集画面に進みます。
- **[Clear] ラジオボタン**  
コンフィギュレーションをクリアします。機器が配置されていない場合はグレーアウト表示となり、選択できません。
- **[Cancel] ボタン**  
操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。
- **[< Back] ボタン**  
グレーアウト表示となり、選択できません。
- **[Next >] ボタン**  
次の画面に進みます。
- **[Finish] ボタン**  
[New] ラジオボタン以外を選択したときに選択できます。クリックすると確認のメッセージが表示され、[Yes] ボタンをクリックするとクリアを実行し、ウィザードを終了します。[No] ボタンをクリックすると操作をキャンセルし、元のダイアログに戻ります。

2. すでに配置されている機器から不要な機器を削除します。  
(手順1で[Edit Configuration]を選択したときのみ)



すでに配置済みの機器を削除します。削除したい機器の左横にあるチェックボックスをオフにします。

- [Cancel] ボタン

操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。

- [< Back] ボタン

グレーアウト表示となり、選択できません。

- [Next >] ボタン

変更を反映して次の画面に進みます。

機器を選択して [Next >] ボタンをクリックすると、確認のメッセージが表示されます。[Yes] ボタンをクリックすると変更を反映し、次の画面に進みます。[No] ボタンをクリックすると操作をキャンセルし、元のダイアログに戻ります。

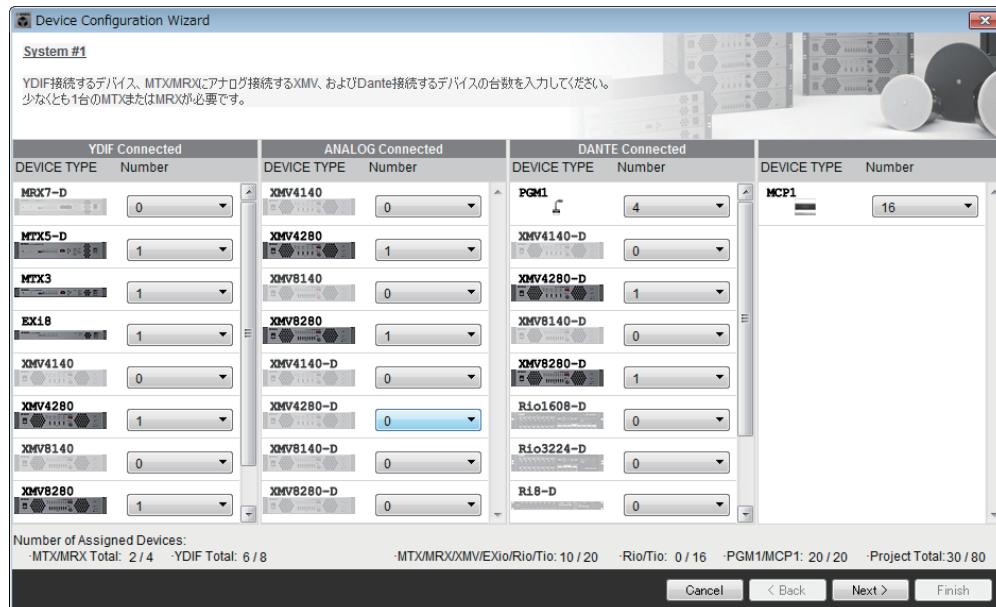
- [Finish] ボタン

機器を選択して [Finish] ボタンをクリックすると、確認のメッセージが表示されます。

[Yes] ボタンをクリックすると変更を反映し、ウィザードを終了します。[No] ボタンをクリックすると操作をキャンセルし、元のダイアログに戻ります。

機器を選択せずに [Finish >] ボタンをクリックすると、結線図を表示するかどうかの確認のメッセージが表示されます。[Yes] ボタンをクリックすると結線図(「Configuration Diagram」ダイアログ)を表示します(→手順10)。[No] ボタンをクリックすると結線図を表示せずにウィザードを終了します。

### 3. MTX/MRX システムに配置する機器タイプと台数を設定します。



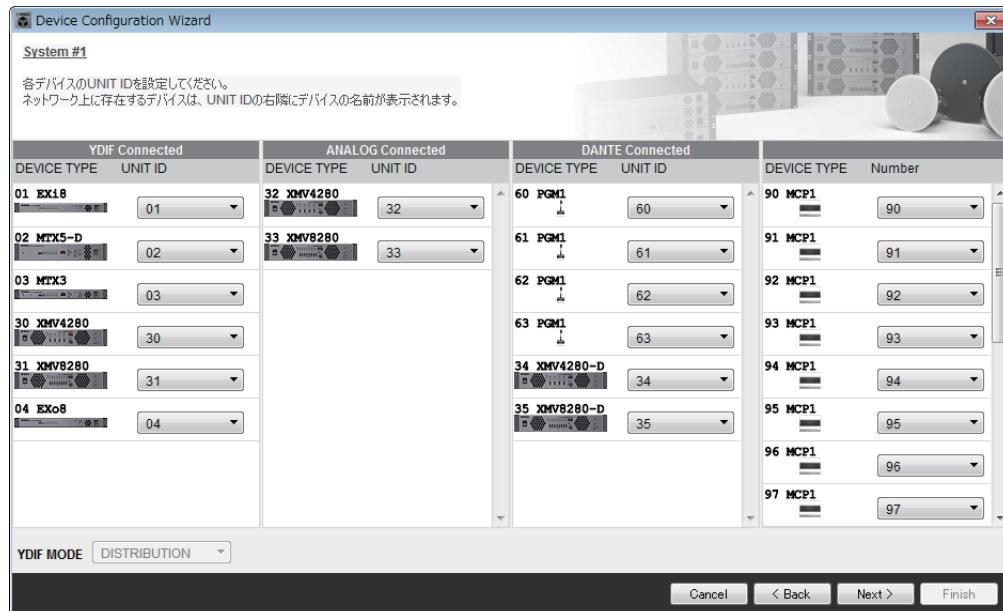
デジタルコントロールパネル以外のケーブルを使って接続する機器の台数を決定します。 ウィザードの最初のダイアログで [Edit Configuration] を選択した場合は、現在設定されている台数が表示されます。このとき、その台数よりも少ない台数または [MTX/MRX システムの接続条件](#)以上に多い台数に変更することはできません。

台数が 0 に設定されている機器はグレーアウト表示となります。

**NOTE** Tio1608-D は UNIT ID の範囲が狭いです。Tio1608-D を使用する場合は、次の画面で他の機器の UNIT ID は 01 ~ 0C を避けるようにしてください。

- **[Number] リストボックス**  
機器の台数を設定します。
- **[Cancel] ボタン**  
操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。
- **[< Back] ボタン**  
グレーアウト表示となり、選択できません。
- **[Next >] ボタン**  
変更を反映して次の画面に進みます。
- **[Finish] ボタン**  
グレーアウト表示となり、選択できません。

#### 4. 各機器の UNIT ID を設定します。



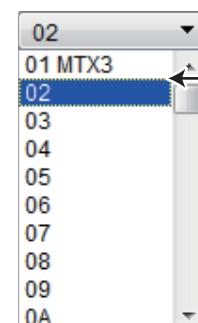
配置した機器の UNIT ID を設定します。UNIT ID は機器間で重複しないように設定してください。

ウィザードの最初のダイアログで [New] を選択した場合は、自動的に小さい UNIT ID から順番に割り振られます。[Edit Configuration] を選択した場合は、現在設定されている UNIT ID が表示されます。いずれの場合も変更可能です。

- [UNIT ID] リストボックス

機器の UNIT ID を設定します。

[UNIT ID] リストボックスをクリックすると、ネットワーク上に存在する同じタイプの機器名が UNIT ID の横に表示されます。ネットワーク上に存在しない機器は UNIT ID のみが表示されます。



機器名が表示されます

- [YDIF MODE]

YDIF 機器の接続モードを [CASCADE] または [DISTRIBUTION] から選択します。

YDIF 接続されている機器に MTX 以外が存在する場合は自動的に [DISTRIBUTION] が選択され、変更できません。また、MTX が 1 台のときあるいは MRX が MTX/MRX システムに入っているときはグレーアウト表示となり、変更できません。

- [Cancel] ボタン

操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。

- [< Back] ボタン

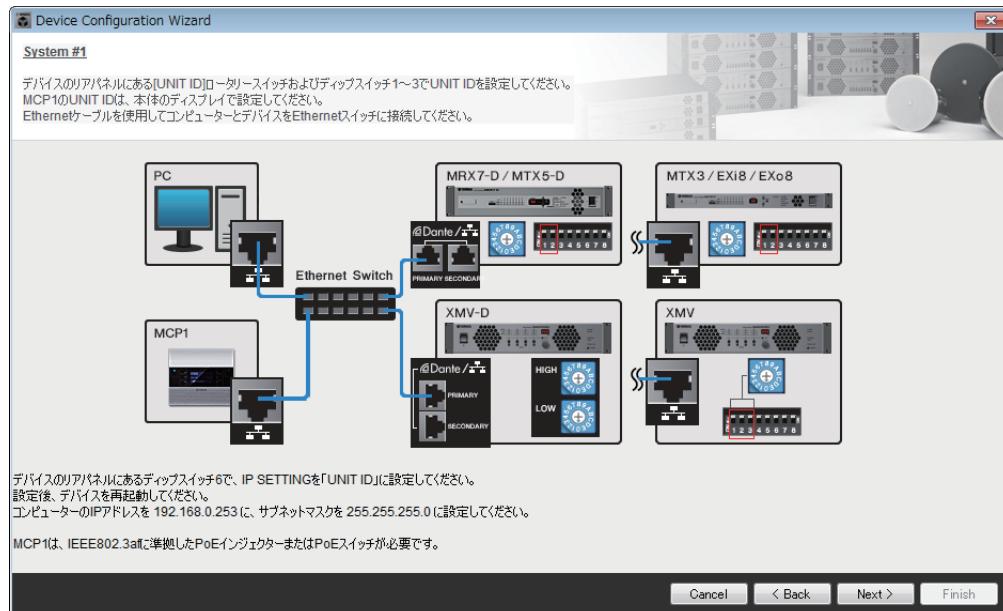
前の画面に戻ります。

- [Next >] ボタン

変更を反映して次の画面に進みます。

- [Finish] ボタン

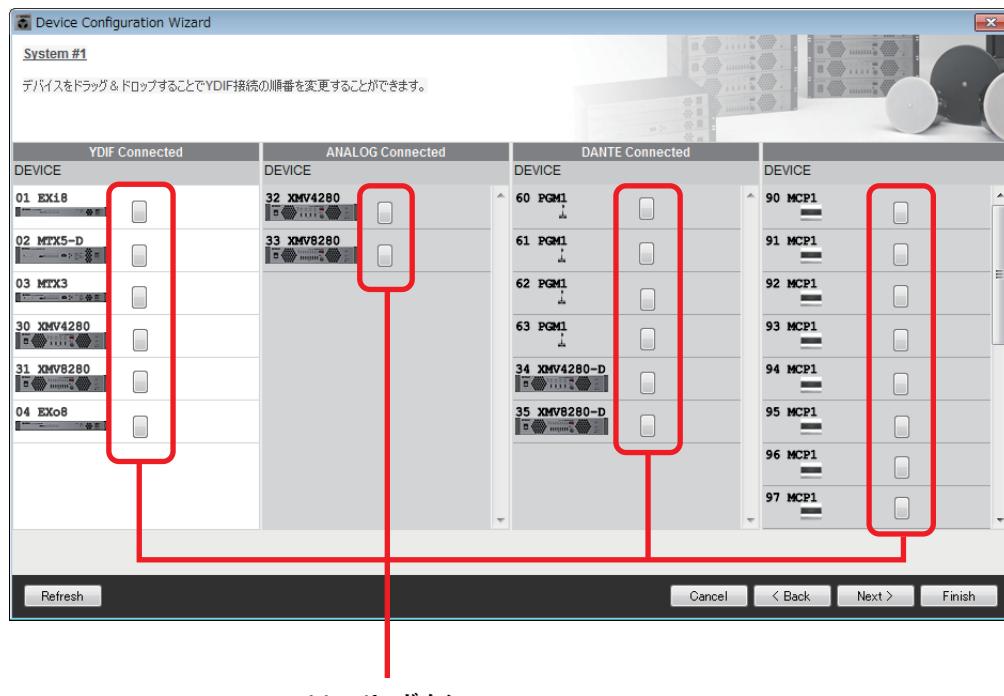
グレーアウト表示となり、選択できません。

**5. MTX-MRX Editor でコントロールするための結線方法を表示します。**

ダイアログの指示にしたがって機器の設定を行なってください。

- **[Cancel] ボタン**  
操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。
- **[< Back] ボタン**  
前の画面に戻ります。
- **[Next >] ボタン**  
次の画面に進みます。
- **[Finish] ボタン**  
グレーアウト表示となり、選択できません。

## 6. YDIF 接続の機器の順番を設定します。



Identify ボタン

YDIF 接続される機器の接続順をドラッグ & ドロップで変更できます。

- **[Identify] ボタン**

クリックすると該当する機器のインジケーターが約 5 秒間点滅し、機器を確認できます。  
機器が接続されていないときは表示されません。

- **[Refresh] ボタン**

ネットワーク上の機器を再検索します。新たに接続した機器や削除した機器を再認識します。

- **[Cancel] ボタン**

操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。

- **[< Back] ボタン**

前の画面に戻ります。

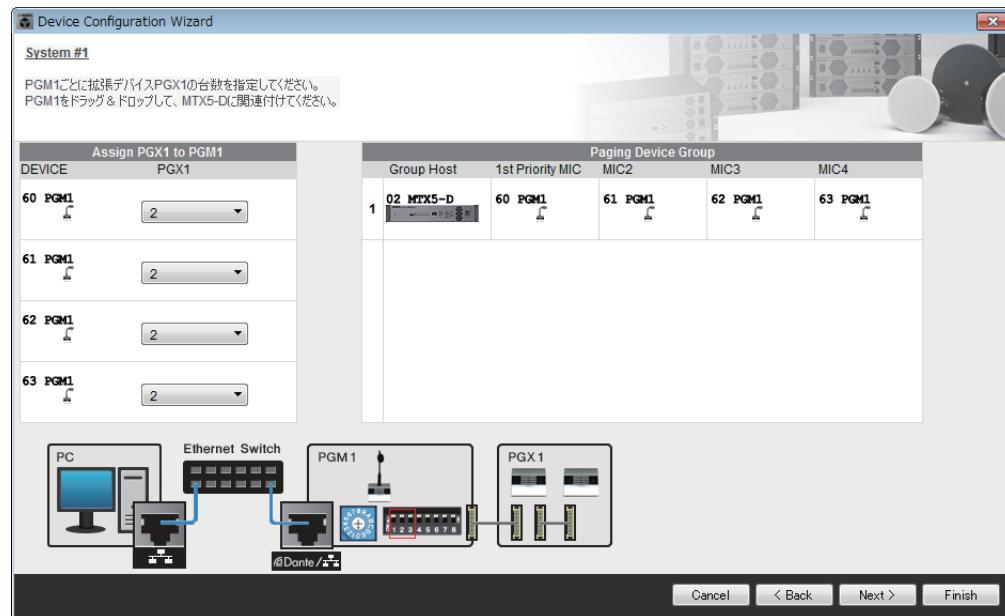
- **[Next >] ボタン**

次の画面に進みます。

- **[Finish] ボタン**

変更を反映してウィザードを終了します。結線図を表示するかどうかの確認のメッセージが表示されます。[Yes] ボタンをクリックすると結線図（「Configuration Diagram」ダイアログ）を表示します（→手順 10）。[No] ボタンをクリックすると結線図を表示せずにウィザードを終了します。

7. PGX1 の台数と MTX5-D/MRX7-D と PGM1 の関連づけをします。  
(手順 3 で PGM1 を 0 以外にした場合)



PGM1 の拡張ユニットである PGX1 の台数を決定します。また、MTX5-D や MRX7-D と PGM1 を関連付け、どのマイクを関連付けられた MTX5-D や MRX7-D の 1st Priority Mic にするか設定します。

- **[PGX1] リストボックス**

PGM1 に接続する PGX1 の台数を選択します。

- **[Paging Device Group] エリア**

ドラッグ & ドロップで MTX5-D や MRX7-D と PGM1 を関連付けます。

また [1st Priority Mic] 列にドロップされた PGM1 が 1st Priority Mic になります。  
緊急放送に使用するなど、他のマイクが放送していても割り込みをする必要がある  
PGM1 を 1st Priority Mic にしてください。

- **[Cancel] ボタン**

操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。

- **[< Back] ボタン**

前の画面に戻ります。

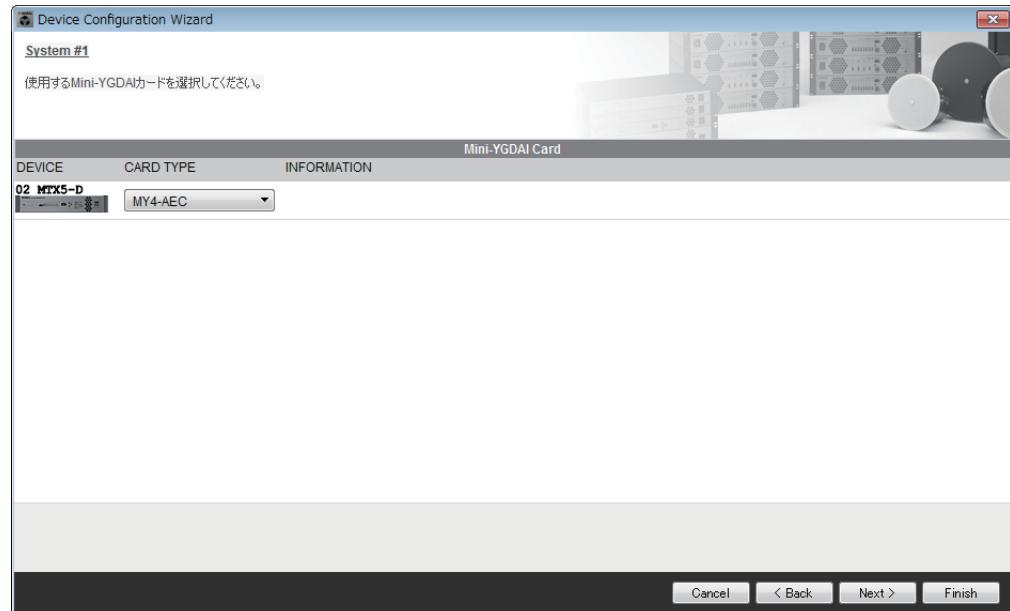
- **[Next >] ボタン**

次の画面に進みます。

- **[Finish] ボタン**

変更を反映してウィザードを終了します。結線図を表示するかどうかの確認のメッセージが表示されます。[Yes] ボタンをクリックすると結線図[「( Configuration Diagram] ダイアログ) を表示します (→手順 10)。[No] ボタンをクリックすると結線図を表示せずに ウィザードを終了します。

8. SLOTに挿入するMini-YGDAIカードを選択します(SLOTがある機器をMTX/MRXシステムに入れたときのみ)。  
MRXの場合、MRX DesignerでSLOTコンポーネントを配置してください。



- **カード選択リストボックス**

SLOTに挿入するMini-YGDAIカードを選択します。

**NOTE** 挿入するMini-YGDAIカードをエミュレーションモードで動かす場合は、エミュレーションしているカードを選択してください。

- **[Cancel] ボタン**

操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。

- **[< Back] ボタン**

前の画面に戻ります。

- **[Next >] ボタン**

変更を反映して次の画面に進みます。

- **[Finish] ボタン**

変更を反映してウィザードを終了します。結線図を表示するかどうかの確認のメッセージが表示されます。[Yes] ボタンをクリックすると結線図「(Configuration Diagram) ダイアログ」を表示します(→手順10)。[No] ボタンをクリックすると結線図を表示せずにウィザードを終了します。

## 9. デジタルコントロールパネル (DCP) の配置を行ないます。



MTX/MRX に接続する DCP を選択します。設定は MTX/MRX ごとに行ないます。また、必要に応じて DCP に名称を付けることができます。

DCP はヤマハデジタルコントローラーハブ DCH8 を使用することでスター接続もできます。

- **[Device] リストボックス**

DCP を接続する MTX/MRX を選択します。

- **[Model] リストボックス**

DCP のモデルを選択します。左横に DCP のイラストが表示されます。

- **[Name] テキストボックス**

DCP ごとに任意の名称を付けます。

- **[Cancel] ボタン**

操作をキャンセルし、ウィザードを終了します。

- **[< Back] ボタン**

前の画面に戻ります。

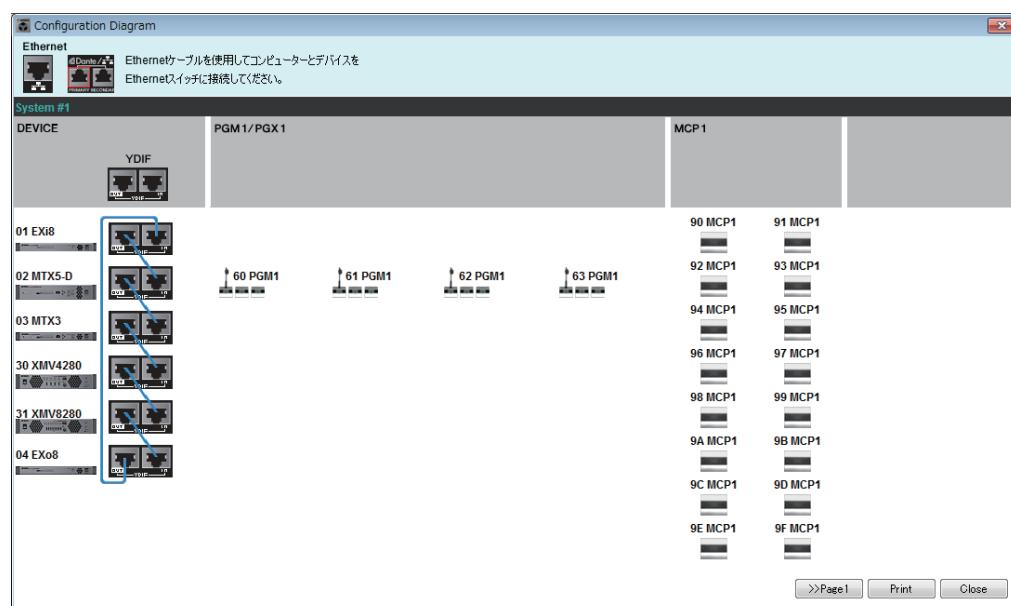
- **[Next >] ボタン**

グレーアウト表示となり、選択できません。

- **[Finish] ボタン**

変更を反映してウィザードを終了します。結線図を表示するかどうかの確認のメッセージが表示されます。[Yes] ボタンをクリックすると結線図（「Configuration Diagram」ダイアログ）を表示します（→手順 10）。[No] ボタンをクリックすると結線図を表示せずにウィザードを終了します。

## 10. 「Configuration Diagram」ダイアログが開きます。

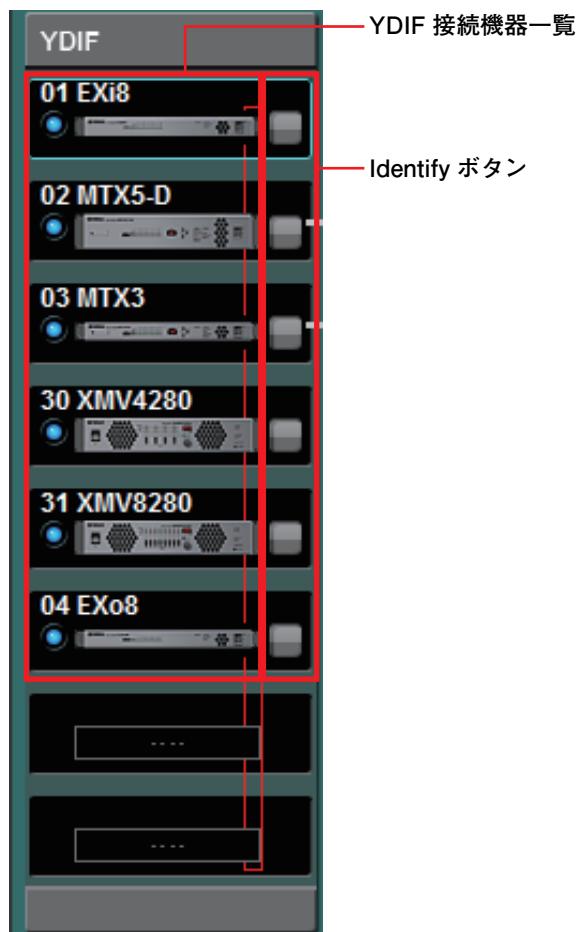


ウィザードにそって構築したシステムの結線図が表示されます。ダイアログの指示にしたがって、各機器間の結線や DCP のパネル ID の設定を行なってください。

また、[Print] ボタンを使ってこの結線図をプリントアウトしておくと、現場で設置する際に便利です。[File] メニューの [Print Configuration Diagram] を選択しても、このダイアログが開きます。

- [>>Page2]/ [>>Page1] ボタン  
表示するページを切り替えます。
- [Print] ボタン  
結線図をプリントアウトします。
- [Close] ボタン  
ダイアログを閉じます。

## □ YDIF 接続機器



### YDIF 接続機器一覧

MTX/MRX システム内で YDIF 接続されている機器です。オンラインインジケーター、UNIT ID、機器タイプ、機器のイラストが表示されます。

機器のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチ (XMV は機器設定ディップスイッチ) の説明が表示されます。MTX-MRX Editor が機器を認識しているときに機器のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチ (XMV は機器設定ディップスイッチと [SPEAKERS] ディップスイッチの両方) の現在の設定が表示されます。オンラインのときに XMV のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチの現在の設定が表示され、各チャネルの HPF の設定ができます。

オンラインインジケーターおよび機器のイラストの表示によって、オンライン状態やアラート発生などの状況がわかります。アラートについては [\[Alert\] タブ](#)と「アラート一覧」を参照してください。

選択中の機器は青枠で囲われます。

表示	オンライン インジケーター	機器のアイコン	状態
	消灯	グレーアウト	ネットワーク上に存在しない、あるいはコンピューター(MTX-MRX Editor)と接続されていない。
	青色点灯	表示	ネットワーク上に存在し、MTX-MRX Editor と同期状態(オンライン状態)。
	緑色点灯	アイコン上に「Offline」と表示	ネットワーク上に存在するが、MTX-MRX Editor と非同期状態(オフライン状態)。
	青色点灯	赤色 <sup>(*)</sup>	MTX-MRX Editor と同期状態(オンライン状態)で、何らかのアラートが発生。
	緑色点灯	赤色 <sup>(*)</sup>	MTX-MRX Editor と非同期状態(オフライン状態)で、何らかのアラートが発生。

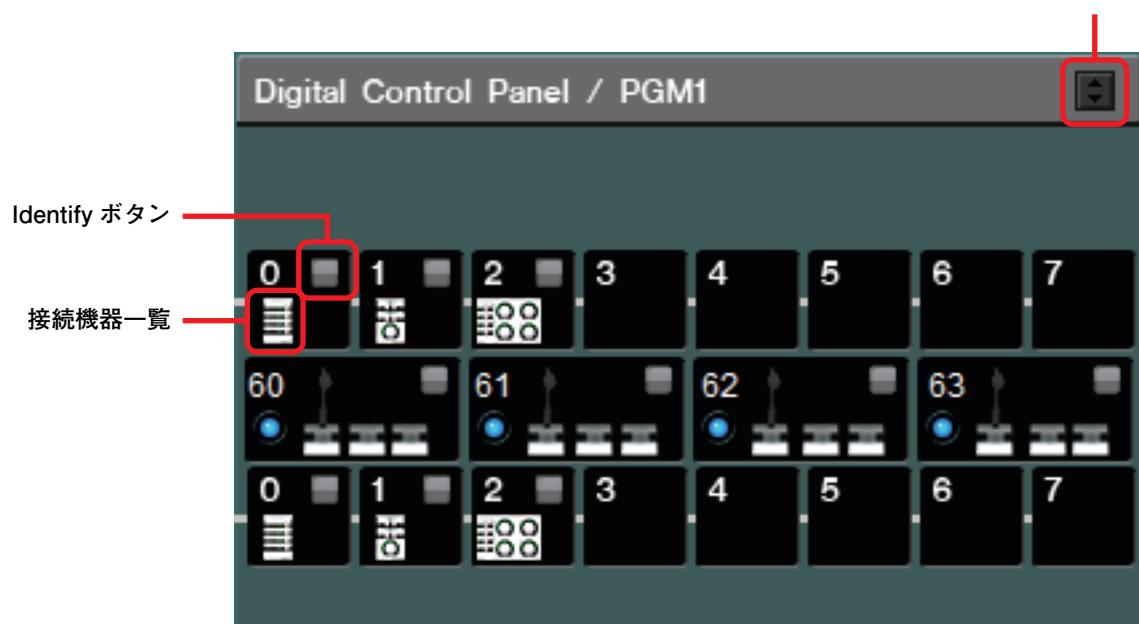
(\*) 機器のアイコンをクリックするか、自動的に表示されるポップアップを閉じると、赤い状態が解除されます。

## Identify ボタン

クリックすると該当する機器のインジケーターが約 5 秒間点滅し、機器を確認できます。

## □ デジタルコントロールパネル、PGM1/PGX1

Digital Control Panel/PGM1 切り替えボタン



ウィザードで配置したデジタルコントロールパネル (DCP) と PGM1/PGX1 のイラストおよびパネル ID が表示されます。1 台の MTX/MRX につき最大 8 台までの DCP を接続できます。

1 つの MTX/MRX システムにつき最大 4 台までの PGM1 を接続できます。PGM1 は 1 台の MTX5-D/MRX7-D のみコントロールできます。一番左にある PGM1 が 1st Priority Mic です。1st Priority Mic については「ZONE」画面を参照してください。

### Digital Control Panel/PGM1 切り替えボタン

Digital Control Panel を表示するか、PGM1 を表示するか切り替えます。

[System] タブ / [Device] タブ / [Alert] タブが展開しているときに有効です。

### 接続機器一覧

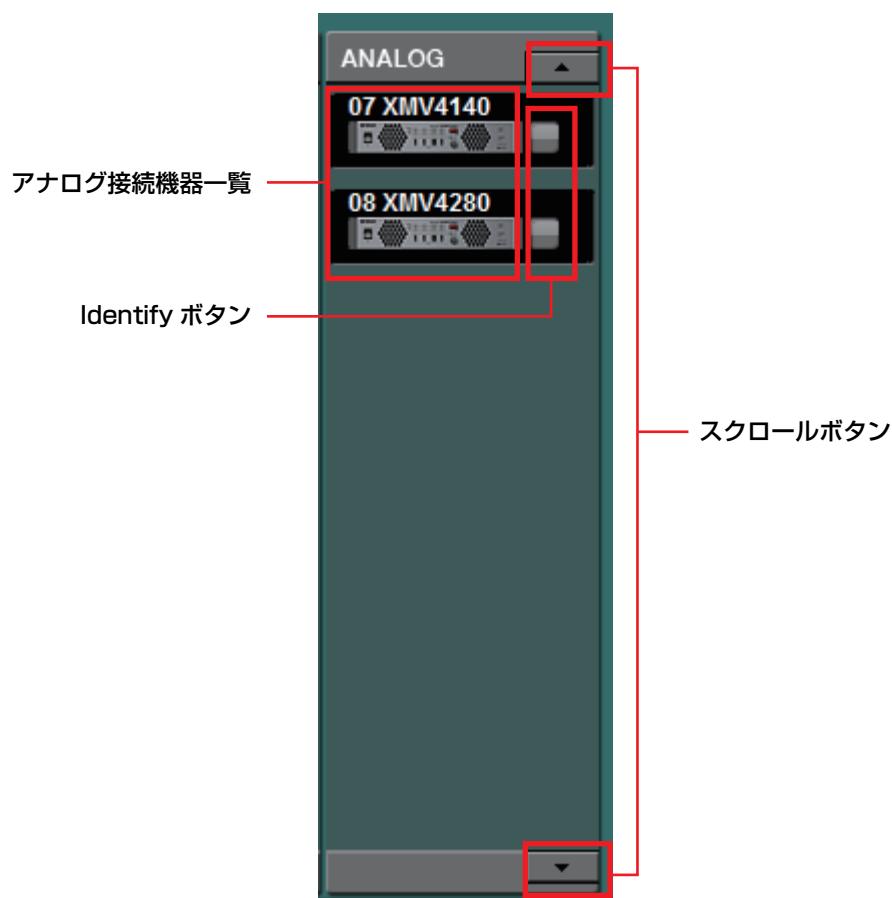
MTX/MRX システム内で MTX/MRX に接続されているデジタルコントロールパネルと PGM1/PGX1 を表示します。

PGM1 のイラストをダブルクリックすると、機器設定ディップスイッチの説明が表示されます。オンラインのときに PGM1 のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチの現在の設定が表示されます。

### Identify ボタン

クリックすると該当する機器のインジケーターが約 5 秒間点滅し、機器を確認できます。

## □ アナログ接続機器



MTX-MRX Editor でコントロールする機器のうち、オーディオ信号がアナログで接続される機器を表示します。

### アナログ接続機器一覧

MTX/MRX システム内で MTX/MRX にアナログ接続されている XMV を表示します。

機器のイラストをダブルクリックすると、機器設定ディップスイッチの説明が表示されます。

MTX-MRX Editor が機器を認識しているときに機器のイラストをダブルクリックすると、機器設定ディップスイッチと [SPEAKERS] ディップスイッチの両方の現在の設定が表示されます。オンラインのときに機器のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチの現在の設定が表示され、各チャンネルの HPF の設定ができます。

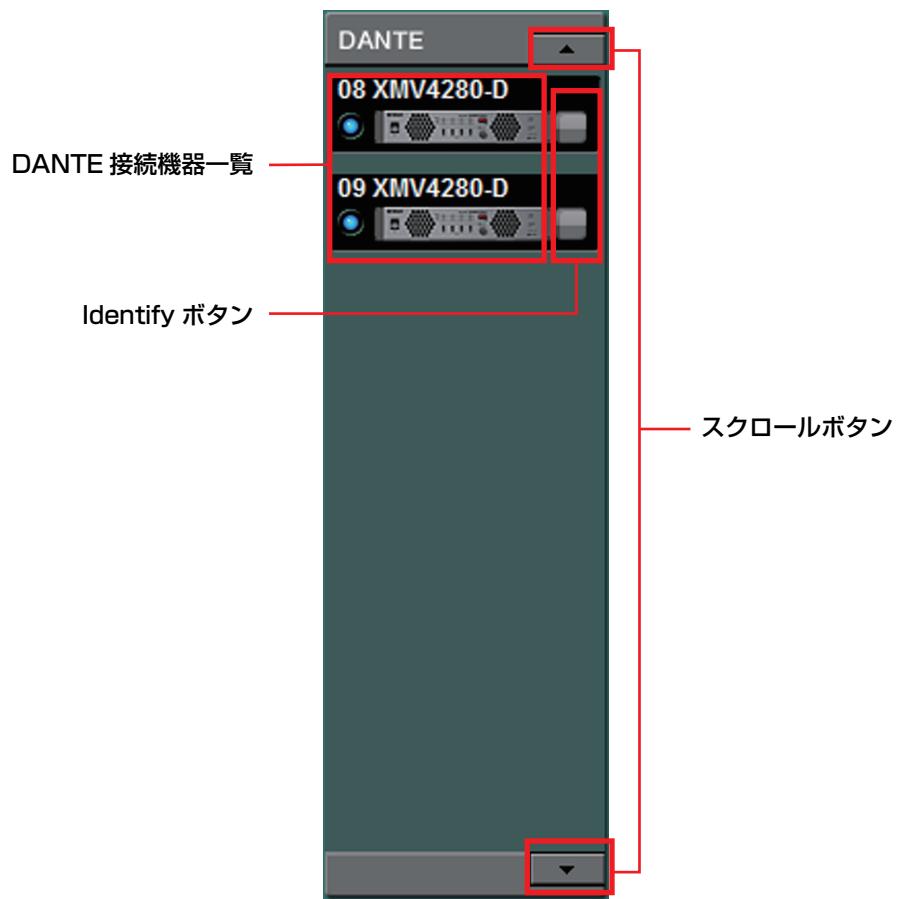
### Identify ボタン

クリックすると該当する機器のインジケーターが約 5 秒間点滅し、機器を確認できます。

### スクロールボタン

表示を上下にスクロールします。

## □ DANTE 接続機器



MTX-MRX Editor でコントロールされる機器のうち、MTX/MRX や PGM1 以外の Dante 機器を表示します。

### DANTE 接続機器一覧

MTX/MRX システム内で MTX/MRX や PGM1 以外の Dante 機器です。オンラインインジケーター、UNIT ID、機器タイプ、機器のイラストが表示されます。機器のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチ (XMV は機器設定ディップスイッチ) の説明が表示されます。MTX-MRX Editor が機器を認識しているときに機器のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチ (XMV は機器設定ディップスイッチと [SPEAKERS] ディップスイッチの両方) の現在の設定が表示されます。オンラインのときに機器のイラストをダブルクリックすると、ディップスイッチの現在の設定が表示され、XMV では各チャンネルの HPF の設定ができます。

オンラインインジケーターについては「[YDIF 接続機器](#)」を参照してください。

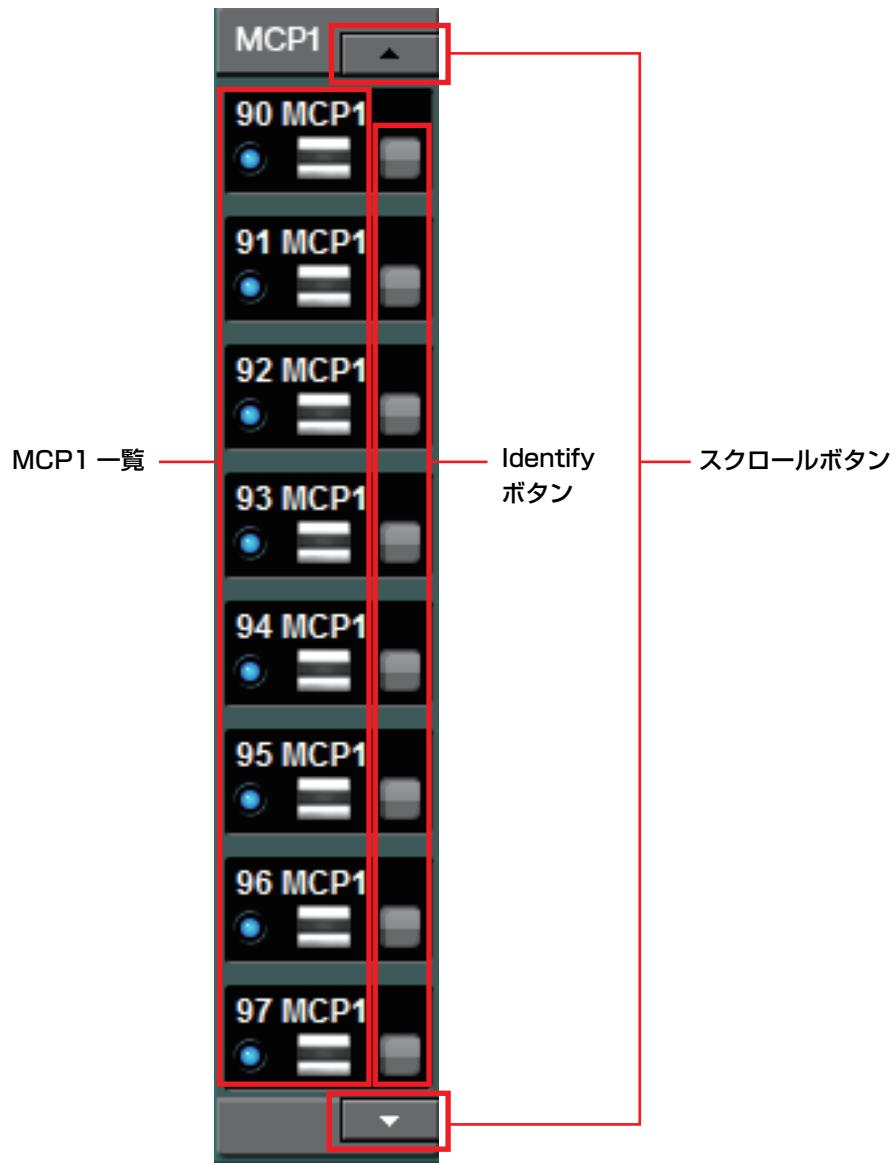
### Identify ボタン

クリックすると該当する機器のインジケーターが約 5 秒間点滅し、機器を確認できます。

### スクロールボタン

表示を上下にスクロールします。

## □ MCP1



MTX-MRX Editor でコントロールされる機器のうち、MCP1 を表示します。

### MCP1 一覧

MTX/MRX システム内に接続されている MCP1 です。オンラインインジケーター、UNIT ID、機器タイプ、機器のイラストが表示されます。

オンラインインジケーターについては「[YDIF 接続機器](#)」を参照してください。

### Identify ボタン

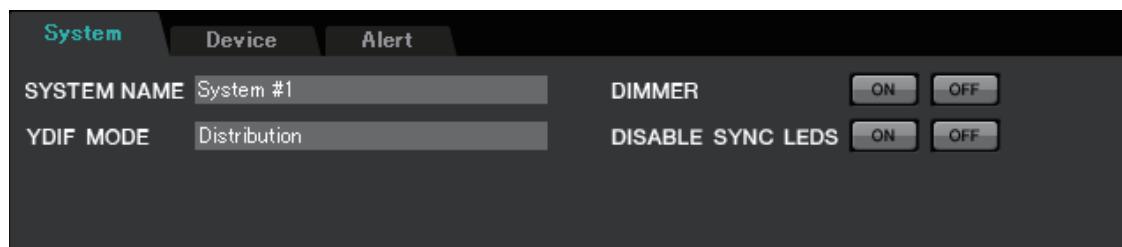
クリックすると該当する機器のディスプレイに UNIT ID を表示し、スイッチが約 5 秒間点滅して、機器を確認できます。

### スクロールボタン

表示を上下にスクロールします。

## [System] タブ

MTX/MRX システムの情報を表示します。



### ● [SYSTEM NAME]

「Device Configuration Wizard」ダイアログの [SYSTEM NAME] 入力ボックスに入力したシステム名が表示されます。変更する場合は、[Device Config] ボタンをクリックして、「Device Configuration Wizard」ダイアログで変更してください。

### ● [YDIF MODE]

「Device Configuration Wizard」ダイアログの [YDIF MODE] で設定した YDIF 接続モードが表示されます。変更する場合は、[Device Config] ボタンをクリックして、「Device Configuration Wizard」ダイアログで変更してください。

### ● [DIMMER]

[ON] ボタンをクリックすると、MTX/MRX システム内の全機器のインジケーターが一斉に暗くなります。[OFF] ボタンをクリックすると元の明るさに戻ります。

R シリーズ (AD/DA) と Tio1608-D では機能しません。

### ● [DISABLE SYNC LEDS]

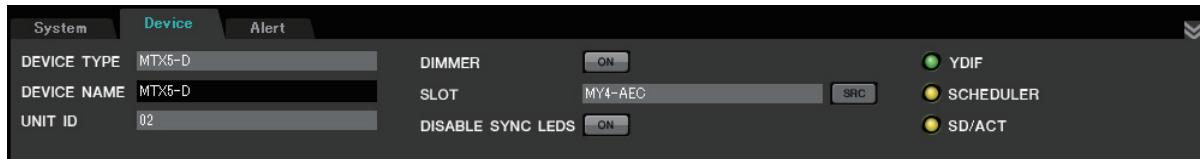
[ON] ボタンをクリックすると、MTX/MRX システム内の Dante 機器の [SYNC] インジケーターが光らなくなります。[OFF] ボタンをクリックすると光るようになります。

R シリーズ (AD/DA) と Tio1608-D では機能しません。

## [Device] タブ

デジタルコントロールパネル以外の機器をクリックすると、その機器の情報が表示されます。

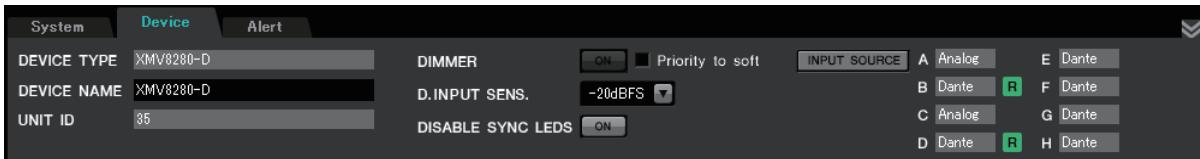
### MTX3/MTX5-D/MRX7-D の場合



### EXi8/EXo8 の場合



### XMV の場合



### PGM1/MCP1/R シリーズ (AD/DA)/Tio1608-D の場合



#### ● [DEVICE TYPE]

機器のタイプを表示します。

#### ● [DEVICE NAME]

機器名を表示します。任意の名前を付けることができます。

#### ● [UNIT ID]

UNIT ID を表示します。

#### ● [DIMMER]

[ON] ボタンをクリックして点灯させると、該当の機器のインジケーターが暗くなります。

[ON] ボタンを再度クリックして消灯させると元の明るさに戻ります。

XMV の [DIMMER] は [Priority to soft] チェックボックスにチェックを入れることによって有効になります。この場合、本体の機器設定ディップスイッチによる設定よりも、MTX-MRX Editor からの設定が優先されます。

この設定は、MTX-MRX Editor と機器を同期させたときに送受信されます。また、オンライン状態のときのみ機器と同期します。

#### ● [SLOT](MTX5-D/MRX7-D のみ)

「Device Configuration Wizard」ダイアログで設定した Mini-YGDAI カードが表示されます。MY4-AEC または MY8-AE96S が選択されている場合、[SRC] ボタンが表示されます。クリックすると「Sampling Rate Converter」ダイアログが開きます。

**● [INPUT SOURCE] ボタン (XMV のみ)**

チャンネルごとにアナログ入力かデジタル入力か表示されます。クリックすると「Input Source/Redundant」ダイアログが開きます。Redundant に設定されているデジタル入力の横には R マークが付きます。デジタル入力からアナログ入力に切り替わっているときは R マークが黄色になります。

**● [D.INPUT SENS.] (XMV のみ)**

YDIF および Dante からの入力感度を設定します。「-20dBFS」を選択すると、アナログ端子の入力感度と同じになります。

**NOTE** [-3dBFS] から [-20dBFS] に変更すると、同じアッテネーター値の場合、XMV からの出力が大きくなります。変更する場合はレベルやアッテネーター値を下げてから変更をしてください。

**● [YDIF] インジケーター (YDIF 対応モデルのみ)**

オンライン中、リアパネルの [YDIF IN] 端子と他の機器の [YDIF OUT] 端子が正常に接続されているとき緑色に点灯します。

**● [SCHEDULER] インジケーター (MTX/MRX のみ)**

オンライン中、スケジューラーでイベントが設定されているとき黄色に点灯し、イベントの 1 分前になると点滅します。

**● [SD/ACT] インジケーター (MTX/MRX のみ)**

オンライン中、SD メモリーカードスロットに SD メモリーカードが挿入され、正常に認識されると黄色に点灯します。SD メモリーカードにアクセスしているときは点滅します。

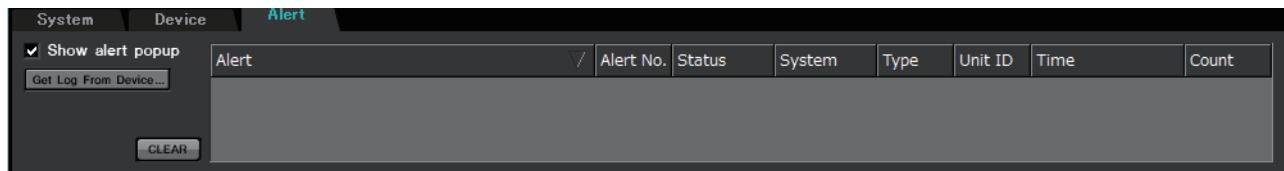
**● [DISABLE SYNC LEDS] (MTX/MRX/XMV の Dante 対応モデルのみ)**

[ON] ボタンをクリックして点灯させると、機器の [SYNC] インジケーターが光らなくなります。[ON] ボタンを再度クリックして消灯させると光るようになります。

## [Alert] タブ

機器から通知されるアラートは MTX-MRX Editor 上にポップアップ画面として表示されます (「アラート一覧」参照)。このポップアップ画面を閉じても、このタブで過去に発生したアラートを確認できます。

R シリーズ (AD/DA) と Tio1608-D は対象外です。



### ● [Show alert popup] チェックボックス

オンになると、機器からアラートの通知が送信されたときにポップアップ画面を表示します。

### ● [Get Log From Devices] ボタン

「Get Log」ダイアログが開きます。

### ● [CLEAR] ボタン

表示中のアラートリストを消去します。

### ● アラートリスト

- [Alert]

アラートの内容およびアイコンを表示します。

青色のボタンをクリックすると、「Solution」ダイアログが開き、解決策がある場合は表示されます。

- [Alert No.]

アラート番号を表示します。

- [Status]

イベントの状態が表示されます。アラートの場合は発生時に「Occured」と表示します。アラートには単発と継続の二つの種類があります。継続の場合は事象が終了したときに「Resolved」と表示します。

- [System]

機器が配置されている MTX/MRX システム名を表示します。

- [Type]

機器のタイプを表示します。

- [Unit ID]

機器の UNIT ID を表示します。

- [Time]

アラートが発生した日時を表示します。

- [Count]

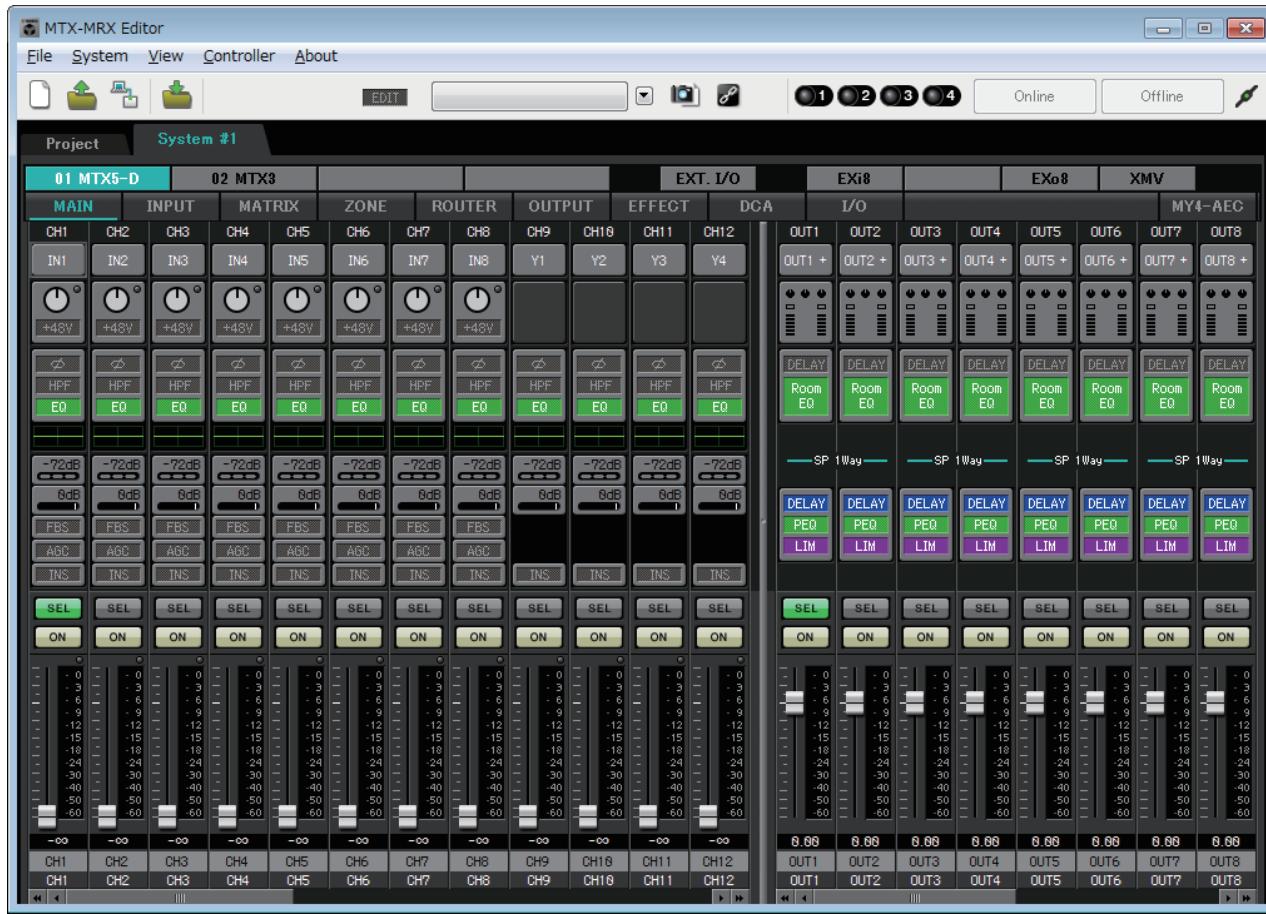
同じイベントが発生した累計回数を表示します。

**NOTE**

- アラートリストの内容は、編集中のプロジェクトファイルを終了したり新しいファイルを読み込み直したりすると消去されます。過去のアラートリストを確認したい場合は、「Get Log」ダイアログでログを受信します。
- アラートリストは機器内部に保存されますが、メモリーサイズの上限を超えると古いものから順に上書きされます。
- 「Get Log From Devices」ボタンを使うと、MTX/MRX 以外の機器が発行するアラートリストも取得します。

# 第4章 System 画面

この画面では、MTX/MRX システムの音声信号の流れを確認できます。また、この画面から各設定画面に移動できます。



## 画面切り替えボタン

MTX/MRX システムの機器の切り替えや各種機能を呼び出すボタンです。

01 MTX5-D	02 MTX3			EXT. I/O		EXi8	R/Tio	EXo8	XMV	
MAIN	INPUT	MATRIX	ZONE	ROUTER	OUTPUT	EFFECT	DCA	I/O		MY4-AEC

### ● [MTX]/[MRX] ボタン

設定したい MTX/MRX を切り替えます。ボタンには UNIT ID および機器名が表示されます。MTX/MRX システム内に配置されている MTX/MRX の台数と同数の [MTX]/[MRX] ボタンが存在します。

「MRX」画面にある [Open MRX Designer] ボタンをクリックすると「MRX Designer」ウィンドウを表示します。詳細については「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

- [MAIN] ボタン

「MAIN」画面を表示します。

- [INPUT] ボタン

「INPUT」画面を表示します。

- [MATRIX] ボタン

「MATRIX」画面を表示します。

- [ZONE] ボタン

「ZONE」画面を表示します。

- [ROUTER] ボタン

「ROUTER」画面を表示します。

- [OUTPUT] ボタン

「OUTPUT」画面を表示します。

- [EFFECT] ボタン

「EFFECT」画面を表示します。

- [DCA] ボタン

「DCA」画面を表示します。

- [I/O] ボタン

「I/O」画面を表示します。

- [MY4-AEC] ボタン

「MY4-AEC」画面を表示します。

### ● [EXT. I/O] ボタン

「EXT. I/O」画面を表示します。

### ● [EXi8] ボタン

「EXi8」画面を表示します。

### ● [R/Tio] ボタン

「R/Tio」画面を表示します。

### ● [EXo8] ボタン

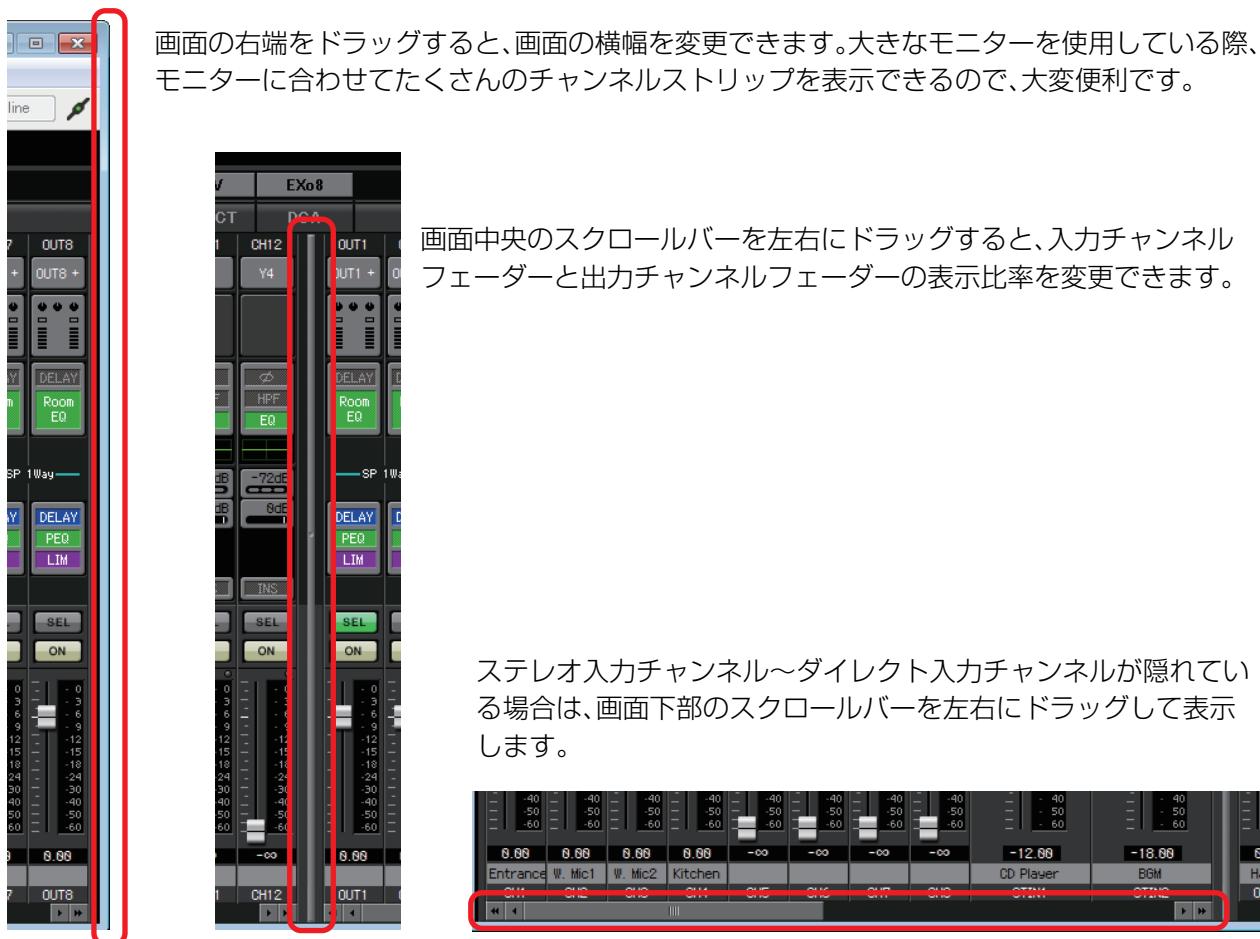
「EXo8」画面を表示します。

### ● [XMV] ボタン

「XMV」画面を表示します。

## 基本的な操作の説明

### 画面のサイズを変更する



### ● フォーカス



選択対象中の部品は点滅する枠で囲されます（以下「フォーカス」と呼びます）。  
 <Tab>キーでフォーカスは移動します（<Shift>+<Tab>で逆方向に移動します）。ボタンを左クリックする動作とフォーカス中に<Enter>キーを押す動作では同じ処理を行ないます。

### ● フェーダー/ノブ



ドラッグで上に動かすと数値が増え、下に動かすと数値が減ります。フォーカスがあるときは、マウスホイールや<↑><↓>キーも使用できます。

<Alt>キーを押しながらフェーダーやノブをクリックするとノミナル値になります。フェーダーを右クリックすると、入力値を選択できます。

### ● 数値ボックス

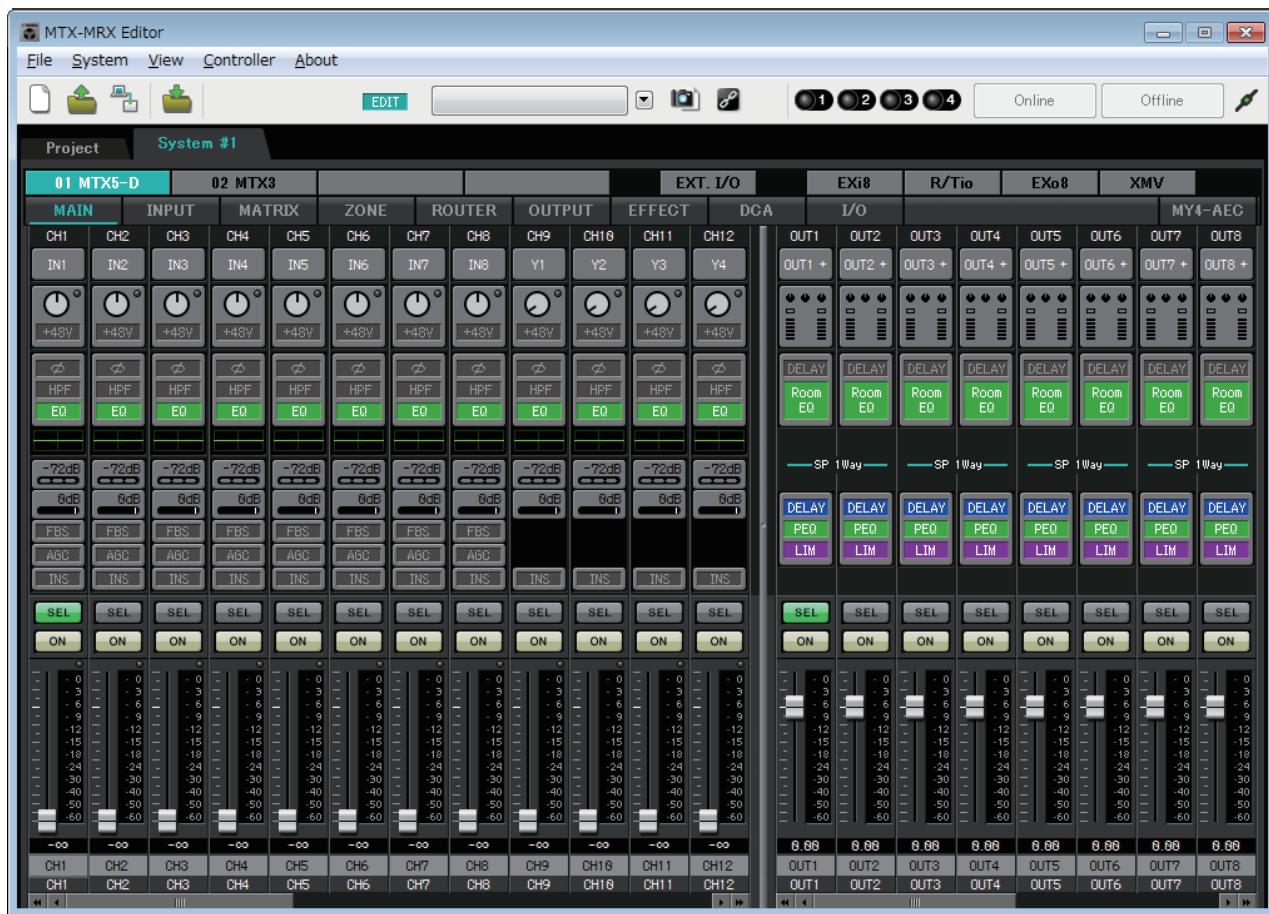


ドラッグで上に動かすと数値が増え、下に動かすと数値が減ります。フォーカスがあるときは、マウスホイールや<↑><↓>キーも使用できます。

ダブルクリックすると、編集モードに入り、数値を入力できます。編集モードでは、<Ctrl>+<C>(<Ctrl>キーを押しながら<C>キーを押す)でコピー、<Ctrl>+<V>で貼り付け、<Enter>キーで数値の確定ができます。

# 「MAIN」画面

入出力チャンネルを表示する画面です。各種設定画面を呼び出します。



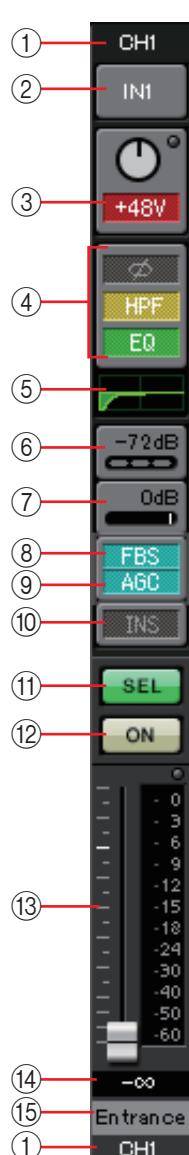
チャンネルの種類および各チャンネル数は以下の通りです。

		MTX5-D	MTX3
入力チャンネル		CH1 ~ CH16	CH1 ~ CH8
ステレオ入力チャンネル		STIN1L, STIN1R, STIN2L, STIN2R, STIN3L, STIN3R	
エフェクトリターンチャンネル		Fx RTN1, Fx RTN2	
ダイレクト入力チャンネル		CH17 ~ CH24	CH9 ~ CH16
出力チャンネル		OUT1 ~ OUT16	OUT1 ~ OUT8

## 入力チャンネル

入力チャンネルの設定は、「MTX Configuration」ダイアログの[INPUT CHANNEL SETUP]で行ないます。

ここでは MONO x2 に設定した場合の説明をします。STEREO を設定した場合、いくつかの設定がチャンネル間で共通になります。



### ① チャンネルインデックス

MTX の入力チャンネル番号が表示されます。

### ② ポート選択ボタン

「Input Patch」ダイアログを開きます。ボタン表面には選択中のポートが表示されます。

### ③ ポート / 外部機器のパラメーター呼び出しボタン

MTX の入力端子のパラメーターとチャンネルに関連付けられている外部機器のパラメーター編集画面を 8 チャンネル単位でポップアップ表示されます。

#### • インジケーター

ポート信号に一定 (-40dBFS) 以上の入力があると緑点灯、クリップ (-3dBFS 以上) すると赤点灯します。

#### • GAIN

ポートのゲインを表示します。

#### • [48V]

+48V( ファンタム電源 ) のオン / オフを表示します。

### パラメーター編集画面 (MTX の場合)

#### Ⓐ メーター

入力信号のレベルを表示します。

#### Ⓑ [+48V] ボタン

HA のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

#### 注記

ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。

ファンタム電源をオンにする場合、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- [INPUT] 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ボタンをオンにしたまま、[INPUT] 端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ファンタム電源のオン / オフは、出力レベルを最小にした状態で行なう。

**NOTE** マスタースイッチはありません。故障の原因となりますので、接続する機器に合わせて設定してください。

#### Ⓒ [GAIN] ノブ

HA( ヘッドアンプ ) のアナログゲインを調整します。

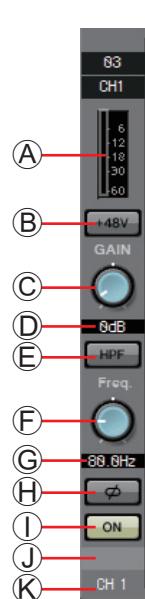
#### Ⓓ HA アナログゲイン

HA アナログゲイン値を表示します。

#### Ⓔ チャンネルインデックス

機器の入力端子名と番号が表示されます。

### パラメーター編集画面 (EXi8の場合)



#### Ⓐ メーター

入力信号のレベルを表示します。

#### Ⓑ [+48V] ボタン

HAのファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

#### 注記

ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。

ファンタム電源をオンにする場合、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- ・[INPUT] 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ・ボタンをオンにしたまま、[INPUT] 端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ・ファンタム電源のオン / オフは、出力レベルを最小にした状態で行なう。

**NOTE** マスタースイッチはありません。故障の原因となりますので、接続する機器に合わせて設定してください。

#### Ⓒ [GAIN] ノブ

HA(ヘッドアンプ)のアナログゲインを調整します。

#### Ⓓ HA アナログゲイン

HA アナログゲイン値を表示します。

#### Ⓔ [HPF] ボタン

HPF(ハイパスフィルター)のオン / オフを切り替えます。

#### Ⓕ [Freq] ノブ

HPF のカットオフ周波数を設定します。

#### Ⓖ カットオフ周波数

HPF のカットオフ周波数を表示します。

#### Ⓗ [ϕ] ボタン

入力信号の位相を切り替えます。

#### Ⓘ [ON] ボタン

入力チャンネルのオン / オフを切り替えます。

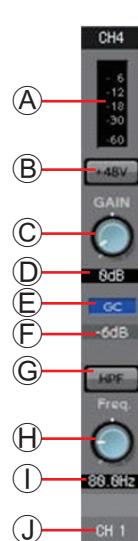
#### ⒑ チャンネル名

EXi8 のチャンネル名を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

#### ⒑ チャンネルインデックス

機器の入力端子番号が表示されます。カーソルを置くと UNIT ID と外部機器の名称がポップアップ表示されます。

### パラメーター編集画面 (Ro8-D を除く R シリーズ (AD/DA) の場合)



#### Ⓐ メーター

入力信号のレベルを表示します。

#### Ⓑ [+48V] ボタン

HA のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

#### 注記

ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。

ファンタム電源をオンにする場合、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- ・ [INPUT] 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ・ ボタンをオンにしたまま、[INPUT] 端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ・ ファンタム電源のオン / オフは、出力レベルを最小にした状態で行なう。

#### Ⓒ [GAIN] ノブ

HA(ヘッドアンプ) のアナログゲインを調整します。

#### Ⓓ HA アナログゲイン

HA アナログゲイン値を表示します。

#### Ⓔ [GC] インジケーター

ゲインコンペンセーションのオン / オフを表示します。

#### Ⓕ コンペンセーションゲイン値

ゲインコンペンセーションにより固定されたゲイン値を表示します。ゲインコンペンセーションがオフの時は表示されません。

#### Ⓖ [HPF] ボタン

HPF(ハイパスフィルター) のオン / オフを切り替えます。

#### Ⓗ [Freq] ノブ

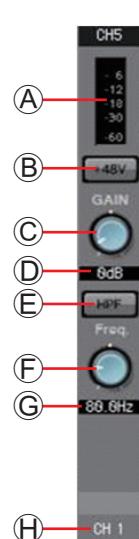
HPF のカットオフ周波数を設定します。

#### Ⓘ カットオフ周波数

HPF のカットオフ周波数を表示します。

#### Ⓛ チャンネルインデックス

機器の入力端子番号が表示されます。カーソルを置くと UNIT ID と外部機器の名称がポップアップ表示されます。

パラメーター編集画面 (Ti01608-D の場合)**Ⓐ メーター**

入力信号のレベルを表示します。

**Ⓑ [+48V] ボタン**

HA のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

**注記**

ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。

ファンタム電源をオンにする場合、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- ・ [INPUT] 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ・ ボタンをオンにしたまま、[INPUT] 端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ・ ファンタム電源のオン / オフは、出力レベルを最小にした状態で行なう。

**Ⓒ [GAIN] ノブ**

HA(ヘッドアンプ) のアナログゲインを調整します。

**Ⓓ HA アナログゲイン**

HA アナログゲイン値を表示します。

**Ⓔ [HPF] ボタン**

HPF(ハイパスフィルター) のオン / オフを切り替えます。

**Ⓕ [Freq] ノブ**

HPF のカットオフ周波数を設定します。

**Ⓖ カットオフ周波数**

HPF のカットオフ周波数を表示します。

**Ⓗ チャンネルインデックス**

機器の入力端子番号が表示されます。カーソルを置くと UNIT ID と外部機器の名称がポップアップ表示されます。

**④ 「GAIN/HPF/EQ」画面呼び出しボタン**

「GAIN/HPF/EQ」画面に切り替わります。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。

**⑤ EQ/HPF 表示**

「GAIN/HPF/EQ」画面で表示されるグラフを縮小して表示します（編集はできません）。HPF と EQ がオフのときは表示されません。

**⑥ 「GATE」画面呼び出しボタン****⑦ 「COMP」画面呼び出しボタン**

「GATE/COMP」画面に切り替わります。また、ボタンに現在値とオン / オフ状態を表示します。

**⑧ 「FBS」画面呼び出しボタン****⑨ 「AGC」画面呼び出しボタン**

「FBS/AGC」画面に切り替わります。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。MTX3 の場合は、CH1 から CH4 のみにあります。

**⑩ [INS] ボタン (MTX5-D のみ)**

インサートのオン / オフを編集する画面を 8 チャンネル単位でポップアップ表示します。オンにすると POST ON から [SLOT] に挿入された Mini-YGDAI カードへ音声信号が送られます。

**NOTE** Mini-YGDAI カードを挿入していなかったり、インサートに対応していない Mini-YGDAI カードが挿入されている状態でオンにすると音声が出なくなります。

**⑪ [SEL] ボタン**

編集するチャンネルを選択します。

**⑫ [ON] ボタン**

入力チャンネルのオン / オフを切り替えます。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。

**⑬ フェーダー/ メーター**

入力レベルを調整します。フェーダーを右クリックすると、ポップアップメニューを表示し、[0dB] または [-Infinity] を選択できます。

入力チャンネルのメーターを右クリックすると、ポップアップメニューを表示し、[EQ OUT] または [POST ON] を選択できます。[EQ OUT] を選択すると、メーター上にあるインジケーターが点灯します。

**⑭ 入力チャンネル音量**

入力チャンネルのレベルを編集 / 表示します。

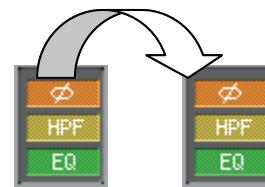
**⑮ チャンネル名**

チャンネル名を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

**HINT** チャンネルの一部のパラメーターはコピーと貼り付けができます。

### ●コンポーネントコピー

コピーしたいコンポーネントをドラッグ(左クリックを押しながら移動)して、任意のチャンネルでドロップ(左クリックを離す)します。



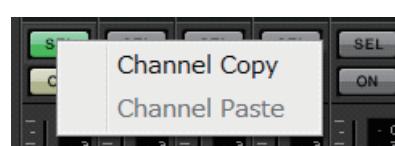
また、コンポーネントを右クリックするとメニューが開きます。[Copy] を選択し、任意のチャンネルにて [Paste] を選択します。



**NOTE** コピーできるコンポーネントは「GAIN/HPF/EQ」「GATE/COMP」「AGC」「GAIN/EQ」「COMP/AGC」「DELAY/ROOM EQ」「SPEAKER PROCESSOR」です。ただし、「GAIN/HPF/EQ」のうち「 $\phi$ 」がコピー対象外となります。

### ●チャンネルコピー

[SEL] ボタンを右クリックするとメニューが開きます。[Channel Copy] を選択し、任意のチャンネルにて [Channel Paste] を選択します。チャンネルのすべてのパラメーターを貼り付けます。

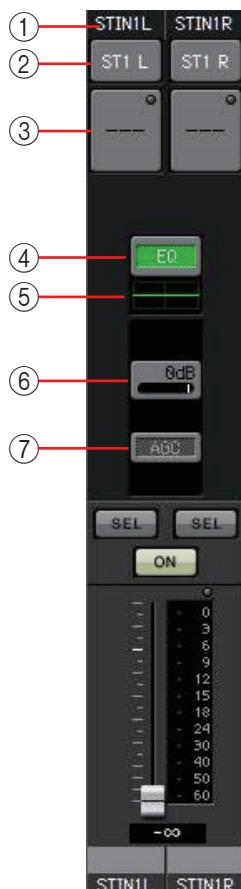


## ステレオ入力チャンネル

ステレオ入力チャンネルの設定は、「MTX Configuration」ダイアログの [INPUT PORT SETUP] で行ないます。

入力チャンネルの設定は、「MTX Configuration」ダイアログの [INPUT CHANNEL SETUP] で行ないます。

ここでは STEREO に設定した場合の説明をします。



### ① チャンネルインデックス

MTX の入力チャンネル番号が表示されます。

### ② ポート選択ボタン

「Input Patch」ダイアログを開きます。ボタン表面には選択中のポートが表示されます。

### ③ ポート / 外部機器のパラメーター呼び出しボタン

詳細は [入力チャンネル](#) を参照してください。

### ④ 「GAIN/EQ」画面呼び出しボタン

「GAIN/EQ」画面に切り替わります。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。HPF と EQ がオフのときは表示されません。

### ⑤ EQ 表示

「GAIN/EQ」画面に表示されるグラフを縮小して表示します（編集はできません）。HPF と EQ がオフのときは表示されません。

### ⑥ 「COMP」画面呼び出しボタン

「COMP/AGC」画面に切り替わります。また、ボタンに現在値とオン / オフ状態を表示します。STIN3 には COMP および AGC を設定する機能はありません。

### ⑦ 「AGC」画面呼び出しボタン

「COMP/AGC」画面に切り替わります。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。MTX3 の場合は、STIN1 と STIN2 のみにあります。

以下の各種パラメーターの調整については、[入力チャンネル](#) を参照してください。

- [SEL] ボタン
- [ON] ボタン
- フェーダー/メーター
- 入力チャンネル音量
- チャンネル名

## エフェクトリターンチャンネル



### ① エフェクトリターン音量

エフェクトで処理された音声信号の戻り量を決めるパラメーターです。

以下の各種パラメーターの調整については、[入力チャンネル](#)を参照してください。

- ・チャンネルインデックス
- ・[ON] ボタン
- ・フェーダー/メーター
- ・チャンネル名

## ダイレクト入力チャンネル

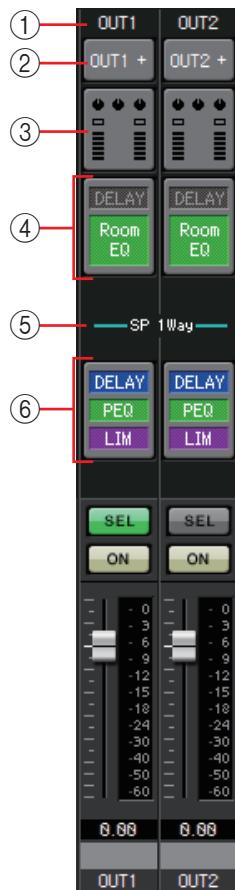
ダイレクト入力チャンネルの設定は、「[MTX Configuration](#)」ダイアログの「INPUT」タブにある「[INPUT CHANNEL SETUP](#)」で行ないます。



以下の各種パラメーターの調整については、[入力チャンネル](#)を参照してください。

- ・チャンネルインデックス
- ・ポート選択ボタン
- ・ポート / 外部機器のパラメーター呼び出しボタン
- ・[ON] ボタン
- ・フェーダー/メーター
- ・入力チャンネル音量
- ・チャンネル名

## 出力チャンネル



### ① チャンネルインデックス

MTX の出力チャンネル番号が表示されます。

### ② ポート選択ボタン

「Output Patch」ダイアログを開きます。ボタン表面には選択中のポートが表示されます。複数のポートが割り当てられている場合はポート名の末尾に [+] を付けて表示します。

### ③ ポート / 外部機器のパラメーター呼び出しボタン

MTX の出力端子のパラメーターとチャンネルに関連付けられている外部機器のパラメーター編集画面がポップアップで表示されます。

### ④ 「DELAY/ROOM EQ」画面呼び出しボタン

「DELAY/ROOM EQ」画面に切り替わります。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。

### ⑤ SP 1way/SP 2way 表示

出力チャンネルの信号タイプを表示します。出力チャンネルの設定は、「MTX Configuration」ダイアログの [OUTPUT CHANNEL SETUP] で行ないます。

### ⑥ 「SPEAKER PROCESSOR」画面呼び出しボタン

「SPEAKER PROCESSOR」画面に切り替わります。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。

以下の各種パラメーターの調整については、[入力チャンネル](#)を参照してください。

- [SEL] ボタン
- [ON] ボタン
- フェーダー / メーター
- 出力チャンネル音量
- チャンネル名

### パラメーター編集画面

出力は複数機器に割り振ることができます。

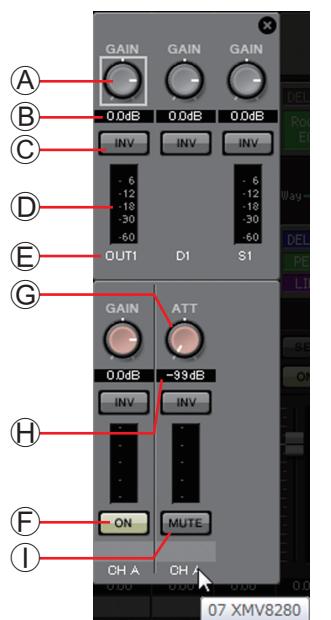
今回の説明用画面では以下のように配置されています。

上段	左	MTX の [OUTPUT] 端子のパラメーター
	中	MTX の [DANTE] のパラメーター
	右	MTX の [SLOT] のパラメーター
下段	左	EXo8 のパラメーター
	右	XMV のパラメーター

MTX の [OUTPUT] 端子のパラメーターは、「Output Patch」ポップアップで OUTPUT を選択している場合にポップアップ表示されます。

MTX の [OUTPUT] 端子のパラメーター以外は、「EXT I/O」画面で出力経路に機器を設定し、「Output Patch」ポップアップで対応した出力を選択している場合にポップアップ表示されます。

**NOTE** デジタル接続とアナログ接続が混在する場合は、Project 画面の [Device] タブで XMV の入力感度を [-20dBFS] にすることをお勧めします。[-20dBFS] にすることによって、デジタル接続とアナログ接続の入力感度が同じになります。



Ⓐ [GAIN] ノブ (XMV 以外)

出力ゲインを調整します。

Ⓑ 出力ゲイン (XMV 以外)

出力ゲイン値を表示します。

Ⓒ POLARITY ボタン

出力信号の極性を切り替えます。

Ⓓ メーター(Dante 以外)

出力信号のレベルを表示します。

Ⓔ チャンネルインデックス

端子番号が表示されます。

外部機器の場合、カーソルを置くと UNIT ID と外部機器の名称がポップアップ表示されます。

Ⓕ [ON] ボタン (EXo8 のみ)

出力チャンネルのオン / オフを切り替えます。

Ⓖ [ATT] ノブ (XMV のみ)

XMV の出力アッテネーターを調整します。

Ⓗ 出力アッテネーター(XMV のみ)

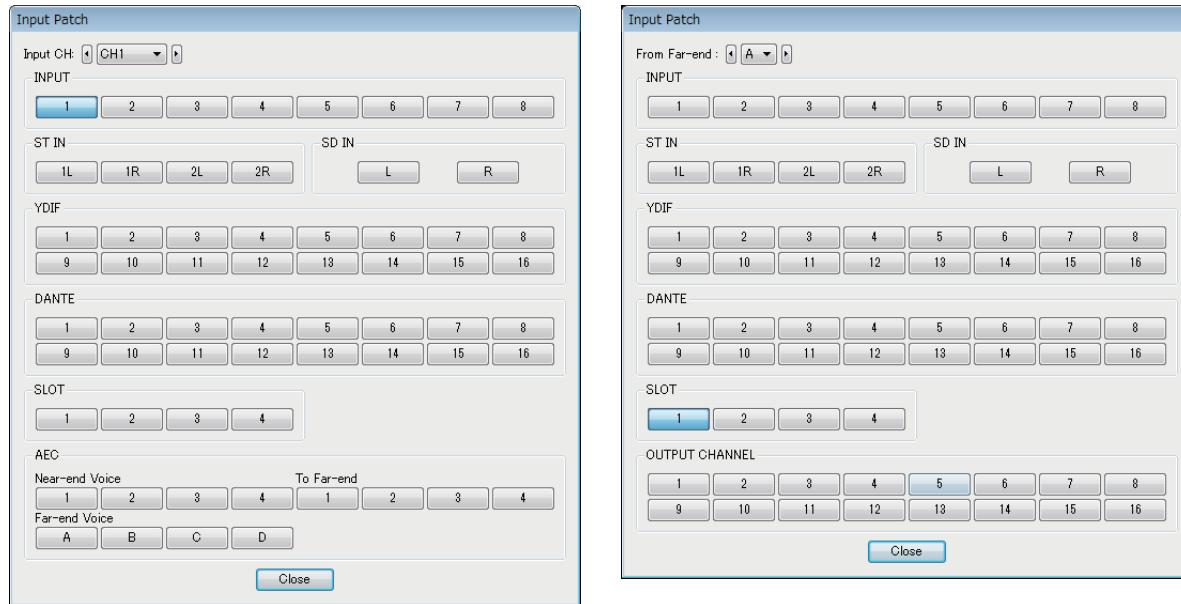
XMV の出力アッテネーター値を表示します。

Ⓘ [MUTE] ボタン (XMV のみ)

出力チャンネルのミュートのオン / オフを切り替えます。

## □「Input Patch」 ダイアログ

どの端子やチャンネルからの音声信号を入力チャンネルに割り当てるかを選択します。

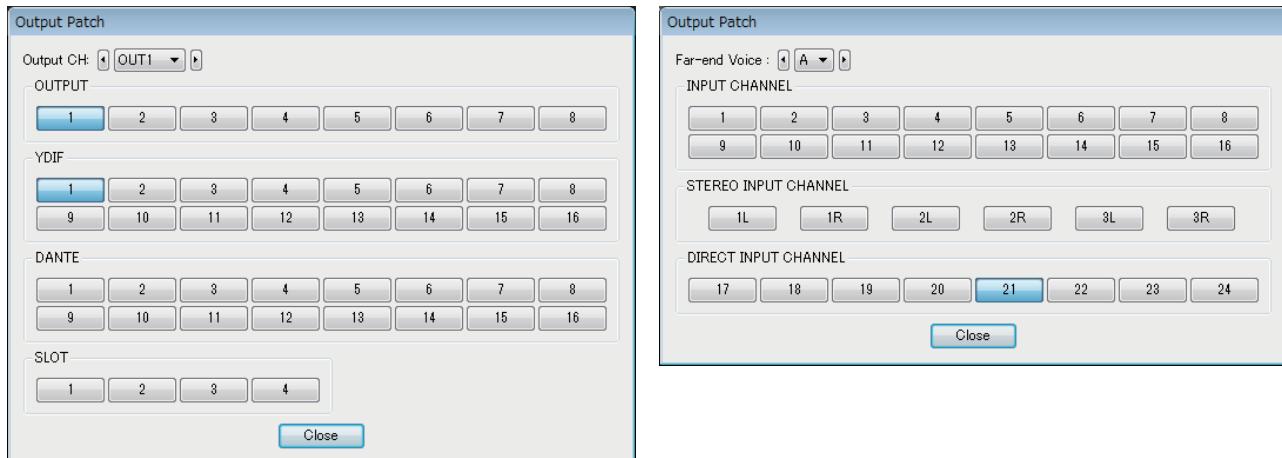


- **[Input CH] リストボックス**  
入力チャンネルを選択します。
- **INPUT**  
MTX の [INPUT] 端子です。
- **ST IN**  
MTX の [ST IN] 端子です。
- **SD IN**  
MTX の SD メモリーカードです。
- **YDIF**  
MTX の [YDIF] 端子です。
- **DANTE (MTX5-D のみ)**  
MTX5-D の [Dante] 端子です。
- **SLOT(MTX5-D のみ)**  
MTX5-D の [SLOT] です。
- **AEC (MTX5-D のみ)**  
MTX5-D の [SLOT] に挿入された MY4-AEC で処理された信号です。MY4-AEC が挿入される設定になっていない場合は表示されません。詳細については「MY4-AEC 取扱説明書」を参照してください。
- **OUTPUT CHANNEL (MY4-AEC の Near-end Mic. と From Far-end のみ)**  
MTX5-D の出力チャンネルです。
- **[Close] ボタン**  
「Input Patch」ダイアログを閉じます。

## □「Output Patch」ダイアログ

出力チャンネルをどの端子やチャンネルに割り当てるかを選択します。

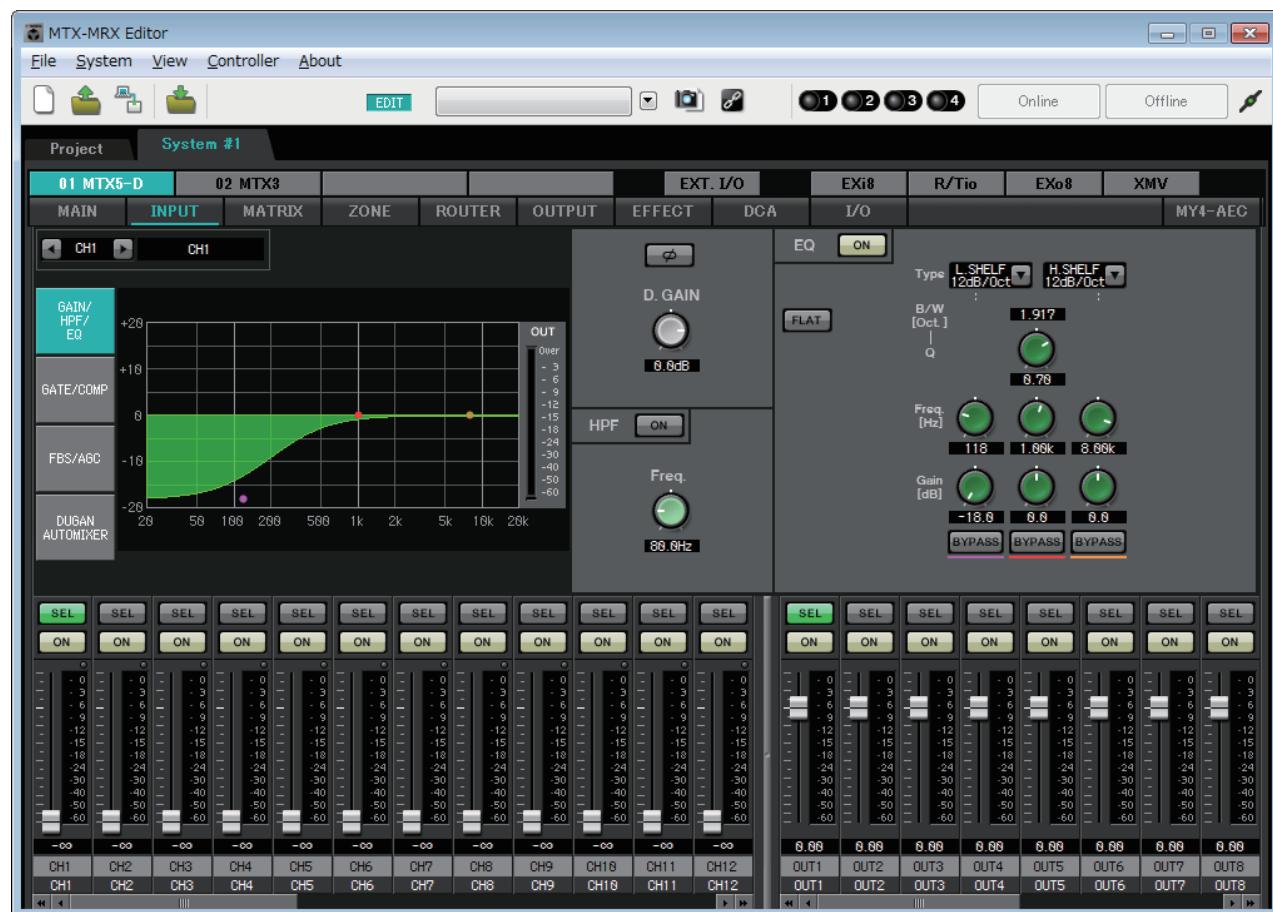
複数の出力端子を選択できます (MY4-AEC の Far-end Voice、To Far-end を除く)。



- [Output CH] リストボックス  
出力チャンネルを選択します。
- **OUTPUT**  
MTX の [OUTPUT] 端子です。
- **YDIF**  
MTX が YDIF として出力するチャンネルです。  
Distribution モードのときのみ有効になります。
- **DANTE (MTX5-D のみ)**  
MTX5-D の [Dante] 端子です。
- **SLOT(MTX5-D のみ)**  
MTX5-D の [SLOT] です。
- **INPUT CHANNEL (MY4-AEC の Far-end Voice、To Far-end のみ)**  
MTX5-D の入力チャンネルです。
- **STEREO INPUT CHANNEL (MY4-AEC の Far-end Voice、To Far-end のみ)**  
MTX5-D のステレオ入力チャンネルです。
- **DIRECT INPUT CHANNEL (MY4-AEC の Far-end Voice、To Far-end のみ)**  
MTX5-D の入力チャンネルです。
- **[Close] ボタン**  
「Output Patch」ダイアログを閉じます。

# 「INPUT」画面

入力チャンネルの信号処理を行なう画面です。



この画面では入力チャンネルに信号処理を施します。「GAIN/HPF/EQ」、「GATE/COMP」、「FBS/AGC」、「Dugan Automixer」の信号処理を行ないます。

## ● チャンネル選択



信号処理を行なうチャンネルを左ボタンまたは右ボタンで選択します。

## ● 画面選択



各ボタンをクリックすることにより、チャンネルに施す処理をする画面に切り替わります。

### ●「INPUT」画面共通の操作説明

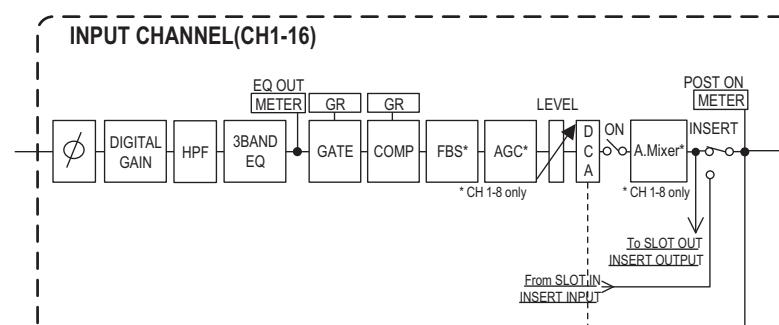
ノブや数値ボックスについては「[基本的な操作の説明](#)」を参照してください。

**HINT** チャンネルの設定は他のチャンネルにコピーすることができます。エリア内で右クリックするとリストボックスが表示されます。チャンネルを選択して、設定を貼り付けます（入力チャンネルのPhaseの設定はコピーされません）。



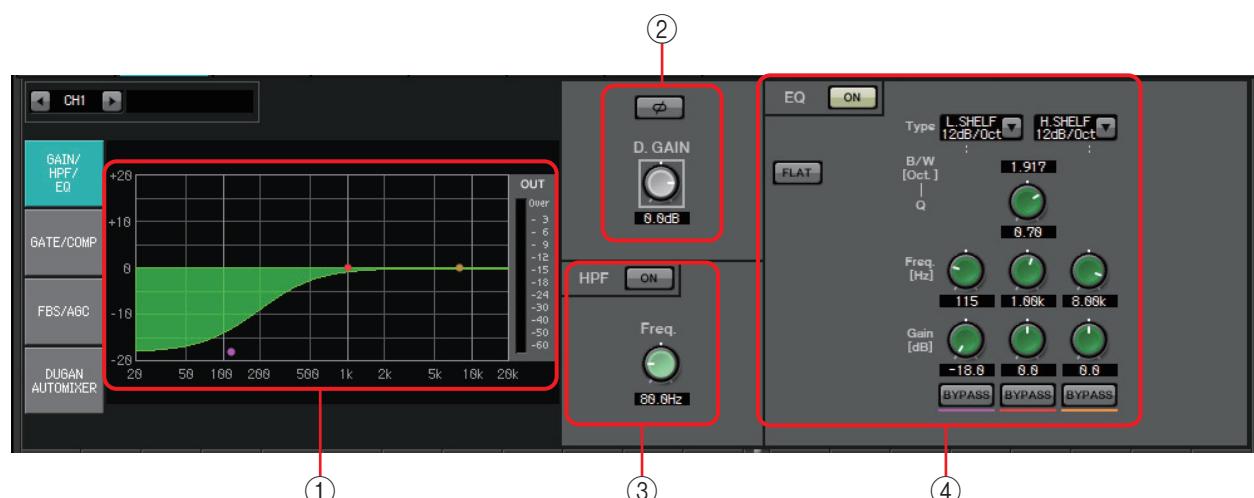
## 入力チャンネル

### 信号の流れ



## 「GAIN/HPF/EQ」画面

「GAIN」、「HPF」、「EQ」のパラメーターを調整する画面です。



### ① EQ グラフおよび OUT メーター

イコライザーの効果をグラフに示します。コントロールポイントをドラッグして、パラメーターを変更します。

また、グラフの右側に OUT メーターを表示します。

### ② GAIN 設定エリア

- [φ] ボタン  
入力信号の位相を切り替えます。
- [D.GAIN] ノブ  
入力信号のデジタルゲインを調整します。

### ③ HPF 設定エリア

- HPF [ON] ボタン  
HPF(ハイパスフィルター)のオン / オフを設定します。
- [Freq.] ノブ  
HPF のカットオフ周波数を設定します。

#### ④ EQ 設定エリア

- **EQ [ON] ボタン**  
EQ のオン / オフを設定します。
- **[FLAT] ボタン**  
EQ のゲインをリセット (0dB) します。確認のメッセージが表示されますので、[Yes] ボタンをクリックして実行します。
- **[Type] リストボックス**  
EQ のタイプを選択します。  
周波数特性は EQ グラフに表示されます。

##### PEQ (Parametric Equalizer)

指定した周波数付近の音量を Q で指定した幅で増減します。

##### L.SHELF (Low Shelf)

指定した周波数以下の低域全体の音量を増減します。バスブーストなどに使用します。  
[6dB/Oct] と [12dB/Oct] は、オクターブあたりの減衰量を設定します。

##### H.SHELF (High Shelf)

指定した周波数以上の高域全体の音量を増減します。ハイブーストなどに使用します。  
[6dB/Oct] と [12dB/Oct] は、オクターブあたりの減衰量を設定します。

##### HPF(High Pass Filter)

指定した周波数以下の帯域をカットします。

##### LPF(Low Pass Filter)

指定した周波数以上の帯域をカットします。

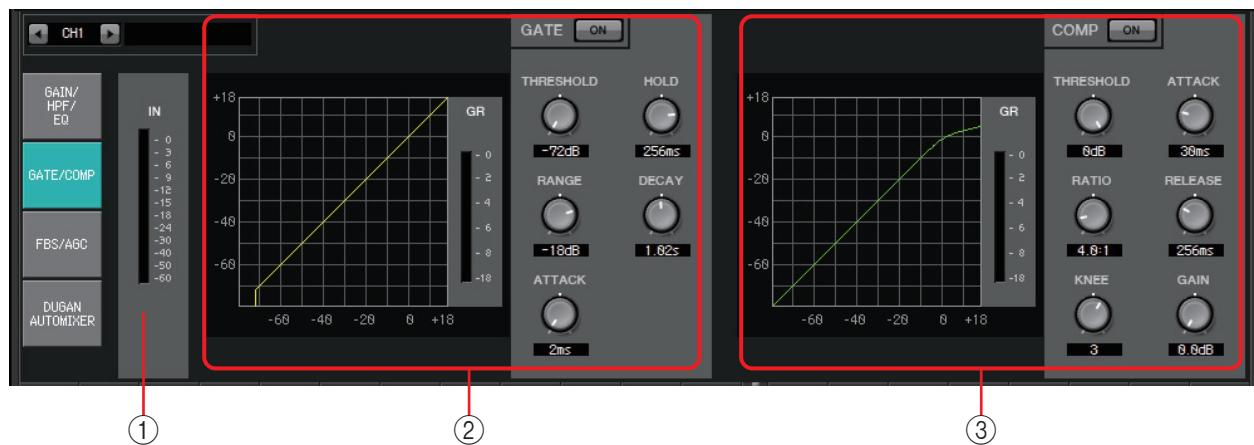
- **[B/W] ボックス / [Q] ノブ**  
各周波数帯域の幅を設定します。[B/W] ボックスでは Octave 単位で設定します。
- **[Freq.] ノブ**  
各周波数帯域の周波数を設定します。

**NOTE** 可変範囲はバンドによって異なります。Low( 左端 ) の下限は 20Hz、Mid( 中央 ) および High( 右端 ) の下限は 100Hz です。

- **[Gain] ノブ**  
変化させる周波数のレベルを設定します。
- **[BYPASS] ボタン**  
EQ の効果を一時的にオフにします。

## 「GATE/COMP」画面

「GATE」、「COMP (Compressor)」のパラメーターを調整する画面です。



### ① IN メーター

GATE の INPUT メーターです。

### ② GATE 設定エリア

一定の音量以上の音声だけを通す信号処理です。マイクから入力がない場合や、入力がある一定のレベル（しきい値）以下の場合に、小さなノイズを切るようなどきに使用します。

- **GATE グラフ**

GATE の効果をグラフに示します。横軸が入力レベル、縦軸が出力レベルを表します。

- **GR メーター**

ゲインリダクションの減衰量を示します。

- **GATE[ON] ボタン**

GATE のオン / オフを設定します。

- **[THRESHOLD] ノブ**

GATE の効果がかかるしきい値を設定します。

- **[RANGE] ノブ**

GATE の効果がかかっているときの減衰量を設定します。

- **[ATTACK] ノブ**

アタックタイム（入力信号が THRESHOLD を超えてから GATE が開くまでの時間）を設定します。

- **[HOLD] ノブ**

ホールドタイム（入力信号が THRESHOLD 下回ったあと、GAIN が閉じ始めるまでの待ち時間）を設定します。

- **[DECAY] ノブ**

ディケイタイム（入力信号が HOLD の待ち時間を経たあと、GAIN が閉じるまでの待ち時間）を設定します。

### ③ COMP 設定エリア

ダイナミックレンジを圧縮する信号処理です。入力がある一定のレベル（しきい値）以上の場合に、音が異常になる現象を防ぎます。

- **COMP グラフ**

COMP の効果をグラフに示します。横軸が入力信号レベル、縦軸が出力レベルを表します。

- **GR メーター**

ゲインリダクションの減衰量を示します。

- **COMP [ON] ボタン**

COMP のオン / オフを設定します。

- **[THRESHOLD] ノブ**

COMP の効果がかかるしきい値を設定します。

- **[RATIO] ノブ**

COMP の圧縮比を設定します。

しきい値を超えた場合の出力信号を「入力信号:出力信号」という割合で設定します。

たとえば 4:1 にすると、しきい値を超えた信号のレベルを超えた分の 1/4 に圧縮します。

- **[KNEE] ノブ**

COMP のかかりかたを設定します。

[HARD] に設定すると、リミッターのように動作します。[HARD] の設定で不自然になる場合は、数値を上げてください。ただし、数値を上げすぎると、しきい値より下の部分での圧縮量が増えます。

- **[ATTACK] ノブ**

アタックタイム（入力信号がしきい値を超えてから、COMP の効果が最大に達するまでの時間）を設定します。

- **[RELEASE] ノブ**

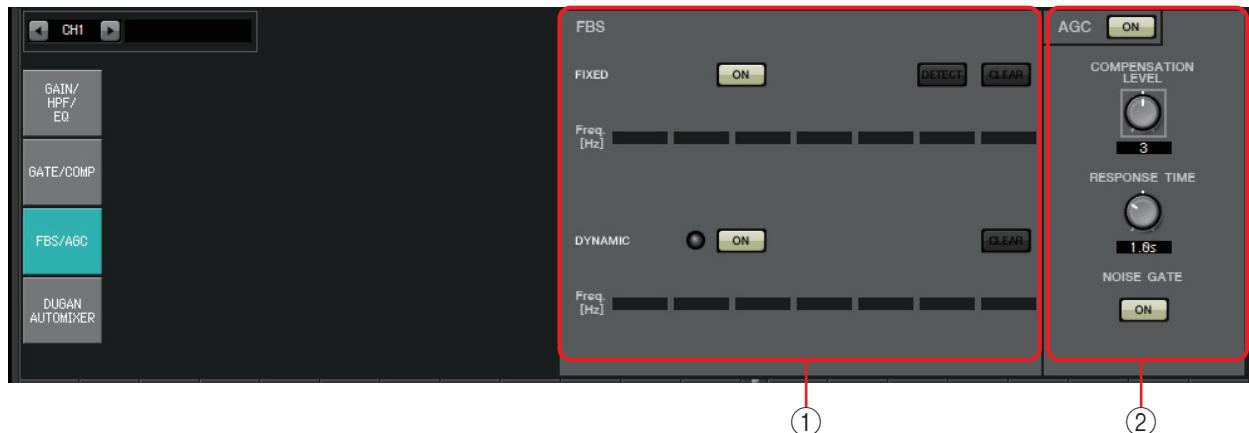
リリースタイム（入力信号がしきい値を下回ったあと、COMP の効果がなくなるまでの時間）を設定します。

- **[GAIN] ノブ**

出力ゲインを設定します。

## 「FBS/AGC」画面

「FBS (Feed Back Suppressor)」、「AGC (Auto Gain Controller)」のパラメーターを調整する画面です。



### ① FBS 設定エリア

FBS (Feed Back Suppressor) とは、マイクにスピーカーからの音声が回り込むと生じる不快なハウリングを防ぐ機能です。ハウリングは耳障りなだけではなく、スピーカーに負担をかけ、壊してしまうこともあります。そのハウリングを防ぐには、マイク位置になるべく拡声されないようにスピーカーを配置します。それでもハウリングが起きる場合は、FBS を使用するとハウリングマージンを改善できます。

#### FIXED

スピーカーやマイクの設置後、MTX シリーズの設定時に、現在の音響設備にあるハウリングポイントを事前に見つけて、フィルターを設定する方式です。位置が固定されているマイクに對して有効です。

- [ON] ボタン

測定結果を有効にします。

- [DETECT] ボタン

測定開始画面を表示します。オンライン中のみ有効です。

- [CLEAR] ボタン

フィルターの設定をクリアします。確認のメッセージが表示されますので、[Yes] ボタンをクリックして実行します。

- [Freq.]

設定したフィルターの周波数を表示します。最大 7 個のフィルターが設定されます。

#### DYNAMIC

MTX シリーズを運用しているとき、絶えず変化するハウリングポイントを見つけてフィルターの設定を更新する方式です。位置が固定できずさまざまな場所で使用するワイヤレスマイクなどに對して有効です。

- [ON] ボタン

DYNAMIC 機能のオン / オフを設定します。オンにすると FBS の動作を開始します。

- [CLEAR] ボタン

フィルターの設定をクリアします。確認のメッセージが表示されますので、[Yes] ボタンをクリックして実行します。

- [Freq.]

設定したフィルターの周波数を表示します。最大 7 個のフィルターが設定されます。

## FIXED 方式の FBS 測定をする

十分な効果を得るため、測定はマイクやスピーカーなどの音響設備を設置し、出力側の EQ などを調整したあとに行ないます。必要に応じて DYNAMIC 機能との併用も可能です。

### 1. パワーアンプの出力音量を調整します。

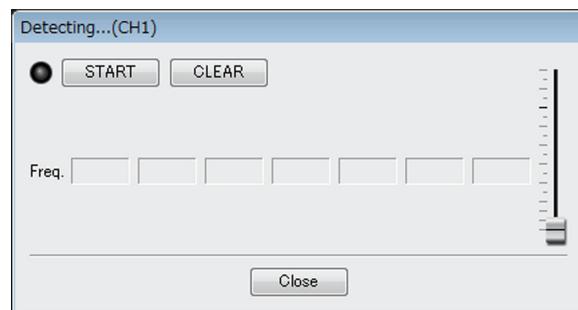
マイクで声を出しながら、パワーアンプの出力を少しづつ上げ、実際に運用する音量になるよう調整してください。また、手をたたき、ハウリングが発生しないことを確認してください。

### 2. ハウリングを除去したい空間を無音状態にします。

### 3. MTX-MRX Editor で入力チャンネルを選択します。

### 4. [FBS/AGC] ボタンをクリックします。

### 5. FIXED の [DETECT] ボタンをクリックして、測定開始画面を開きます。



### 6. 測定開始画面の [START] ボタンをクリックして、測定を開始します。

測定中はフェーダーを少しづつ上げてください。マウスホイールで操作すると細かく変更できます。

ハウリングが発生しますが、MTX がすぐにその周波数を検知しフィルターを挿入します。この操作を繰り返します。適切な結果が得られたら、[STOP] ボタンをクリックして終了します。

### 7. 測定終了後、[CLOSE] ボタンをクリックし、画面を閉じます。

#### NOTE

- ・インジケーターは以下のタイミングで点灯します。
  - 周波数が表示されたとき
  - すでに表示されている周波数が書き換わるとき
- ・効果が感じられない場合は、測定に失敗している可能性があります。[CLEAR] ボタンをクリックして測定結果を破棄してください。再度設定する場合はマイクやスピーカーの位置や向き、出力音量を調整して上記の手順 1 から作業を行なってください。
- ・全体の音量が極端に上がっていたり、マイクとスピーカーが接近しすぎたり、スピーカーからの音がマイクに直接入ったりすると測定が正確に行なわれない場合があります。
- ・FIXED の場合は、7 個のフィルターがすべて表示されたあとも近い周波数をまとめたりなど計算を繰り返します。一方、DYNAMIC の場合は、7 個すべてが表示されたあとにさらに新たなハウリングが見つかると、設定された順序が古く、かつ音質に影響の小さい設定のフィルターが破棄され、新しい設定に置き換わります。フィルターは、設定されてから一定時間経過すると自動的に破棄されます。
- ・すべての環境でハウリングが完全に除去できるわけではありません。
- ・フェーダーを上げたときに、ハウリングが自動的に消えずにより大きくなるような場合は、フェーダーを下げてスピーカーの破損などを防いでください。

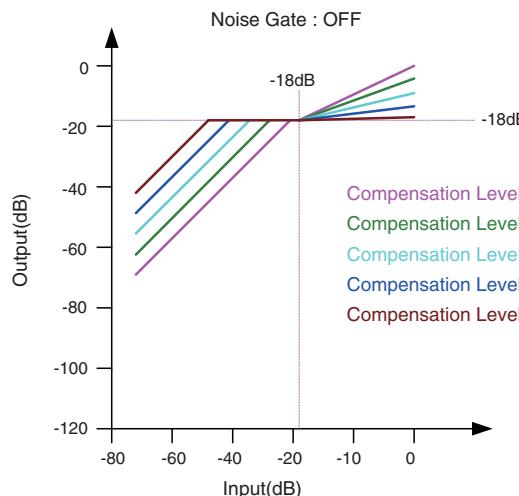
#### HINT

MTX は複数のハウリングポイントを同時に測定できません。フェーダーをゆっくりと上げてハウリングが少しづつ起きるようになると測定が容易です。

## ② AGC 設定エリア

AGC (Auto Gain Controller) とは、入力レベルに応じてゲインを自動補正し、レベル差のある信号の出力レベルを一定に保つ機能です。たとえばマイクとの位置や声の大きさが違うことで拡声される音量が変化して聞き取りにくい状態になります。そのようなときに音量を一定の範囲に自動的に調整します。

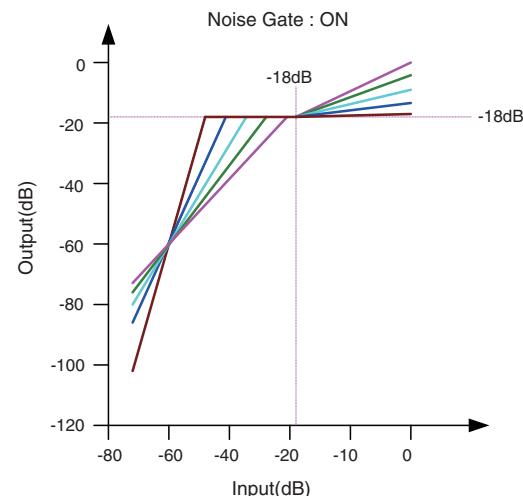
Compensation Level	Threshold	Ratio
1	-21	1
2	-27.75	1.3
3	-34.5	2
4	-41.25	4
5	-48	20



入力が Threshold 値以下の場合、Threshold 値に達したときに出力が -18dB なるように出力を調整します。

入力が Threshold 値以上で -18dB 以下の場合、出力を -18dB にします。

入力が Threshold 値以上で -18dB 以上の場合、Ratio 値で出力レベルを調整します。



ノイズゲートがオンのときは、-60dB で入出力が同じレベルとなるようにした上で、Threshold 値に達したときに出力が -18dB なるように出力を調整します。

入力が Threshold 値以上で -18dB 以下の場合、出力を -18dB にします。

入力が Threshold 値以上で -18dB 以上の場合、Ratio 値で出力レベルを調整します。

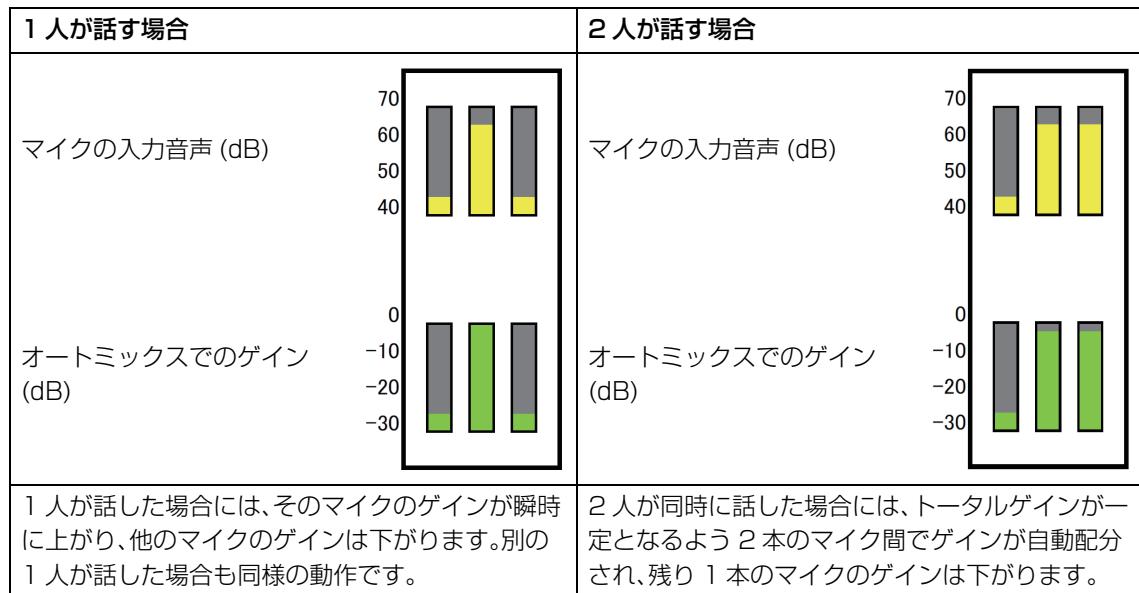
- **AGC [ON] ボタン**  
AGC のオン / オフを設定します。
- **[COMPENSATION LEVEL] ノブ**  
ゲイン補正する量を設定します。設定値が大きいほど、補正量は多くなります。
- **[RESPONSE TIME] ノブ**  
ゲイン補正の反応速度を設定します。ゲインを上げる補正の場合に有効で、6dB 上がるのにかかる時間です。
- **[NOISE GATE] ボタン**  
ノイズゲートのオン / オフを設定します。

## 「DUGAN AUTOMIXER」画面

オートミキサーは、台本がないようなスピーチ用途において、有効なマイクを検出してゲイン配分を自動最適化することで、エンジニアがフェーダー操作に掛かり切りになることなく、複数のマイク間で一貫したシステムゲインを維持します。

MTXに搭載されているDugan Automixerでは、MTX3では入力チャンネル1～4、MTX5-Dでは入力チャンネル1～8のオートミックスゲインを自動調整します。

ここでは3本のマイクを使用したDugan Automixerの状態を説明します。



Dugan Automixerは、リミッターやオートレベルコントローラーの機能とは異なります。複数の人が話しているときに、エンジニアはフェーダーで通常どおり個々のレベルを操作できます。誰も話していない場合でも、マイク音声を検出して自動的にゲインを配分するので、フェーダーを上げた状態のままにしておくことができます。

オートミキサーの効果を正しく得るために、オートミックスの対象になっているグループの全チャンネルを後段のバスでミックスさせてください。

また、特定のチャンネルをオートミックスの対象としない場合は、後述の [man][auto][mute] ボタンで [man] を選択してください。



### マスターフィールド

#### ① [reset] ボタン

各パラメーターを初期設定値にリセットするボタンです。

### ② [meters] ボタン

チャンネルコントロールフィールドのメーター表示を gain/input/output に切り替えるボタンです。

**NOTE** [weight] で入力チャンネル間の相関的な感度を調整するときは、gain にするとチャンネルコントロールフィールドでゲイン量の調整ができ、視認性が向上します。

### ③ [override] ボタン

司会者や議長など特定のマイクを除いた、すべてのマイクを瞬時にミュートさせる機能です。オンにすると、[override] ボタンがオンのチャンネルは man に設定され、[override] ボタンがオフのチャンネルは mute に設定されます。

司会者や議長など特定のマイクは、チャンネルストリップの [override] ボタンをクリックして黄色を点灯させてください。もう一度押すと元の設定に戻ります。

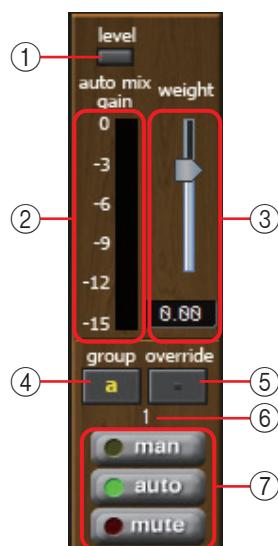
### ④ [MUTE] ボタン

グループ内の全マイクに対してミュートのオン / オフを切り替えます。

## チャンネルコントロールフィールド

グループごとに色分けされています。

同じグループのチャンネルがミックスされます。



### ① [level] インジケーター

音声がオートミックスに適切なレベルになると緑に点灯します。

**NOTE**

- ・ [level] インジケーターが消灯したら、マイクの入力ゲインを上げてください。
- ・ [level] インジケーターが赤く点灯したら、マイクの入力ゲインを下げてください。

### ② メーター

メーターには gain (緑: オートミックスゲイン) /input (黄: 入力レベル) /output (青: 出力レベル) の 3 種類の表示モードがあります。マスターフィールドの [meters] ボタンを押すたびに表示モードが変わります。

**NOTE** 通常は gain を表示するモードにしてください。

### ③ [weight] スライダー

入力チャンネル間の相関的な感度を調整します。メーターの表示を gain にして、入力がない場合にメーターがどれもほぼ同レベルになるようにウェイト設定を調整します。たとえば、1 本のマイクの近くでノイズが聞こえる場合 (例: エアコンの通風音など)、そのチャンネルのウェイト値を下げるときノイズが抑えられます。

オートミキサーは、グループ内のすべての入力のミックスに対する特定チャンネルの入力レベルの比を計算します。次の例で weight コントロールの仕組みを説明します。

○ 1つのチャンネルでウェイト設定値を上げた場合

- ・ そのチャンネルのオートミックスゲイン値が上がり、他のチャンネルの値は下がります。
- ・ ウェイト設定値が高いチャンネルは、他のチャンネルに比べてオートミックスゲインを得やすくなります。

○ 1つのチャンネルでウェイト設定値を下げた場合

- ・ そのチャンネルのオートミックスゲイン値が下がり、他のチャンネルの値は上がります。
- ・ 複数のマイクで同時に話している場合に、他のマイクとの聞き分けが難しくなります。

④ [group] ボタン

各チャンネルが所属するグループを選択します。クリックするとグループが切り替わります。MTX3 では 2 つのグループ、MTX5-D では 4 つのグループを設定できます。

⑤ [override] ボタン

マスターフィールドの [OVERRIDE] ボタンをオンしたとき、このボタンの設定によって、該当チャンネルが man モードまたは mute モードに変わります。

- ・ チャンネルコントロールフィールドの [override] ボタンがオンのときマスターフィールドの [OVERRIDE] ボタンをオンにすると、チャンネルのモードが man になります。
- ・ チャンネルコントロールフィールドの [override] ボタンがオフのときマスターフィールドの [OVERRIDE] ボタンをオンにすると、チャンネルモードが mute になります。
- ・ マスターフィールドの [OVERRIDE] ボタンをオフにすると、そのチャンネルは以前のモードに戻ります。

⑥ 入力チャンネル番号

入力チャンネルの番号を表示します。

⑦ [man]/[auto]/[mute] ボタン

そのチャンネルの man/auto/mute をトグルで切り替えるボタンです。

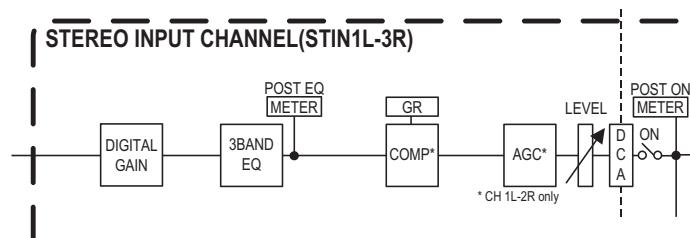
**man** : ゲインを変化させずにオーディオをそのまま通過させます。マイクで歌うときはこのモードにします。

**auto** : オートミキサーがオンになります。会話のときにこのモードを使います。

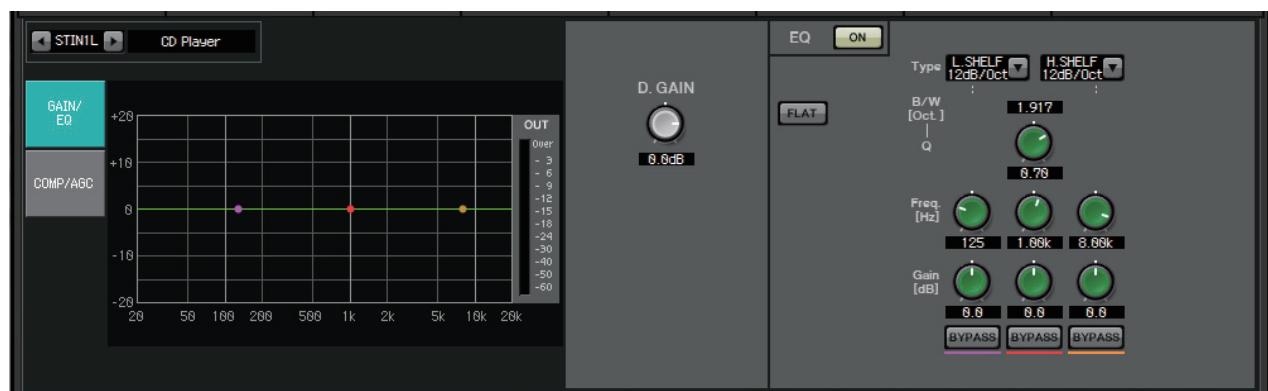
**mute** : チャンネルをミュートします。

## ステレオ入力チャンネル

### 信号の流れ



## 「GAIN/EQ」画面



「GAIN」、「EQ」のパラメーターを調整する画面です。各パラメーターの詳細については[「GAIN/HPF/EQ」画面](#)を参照してください。

## 「COMP/AGC」画面



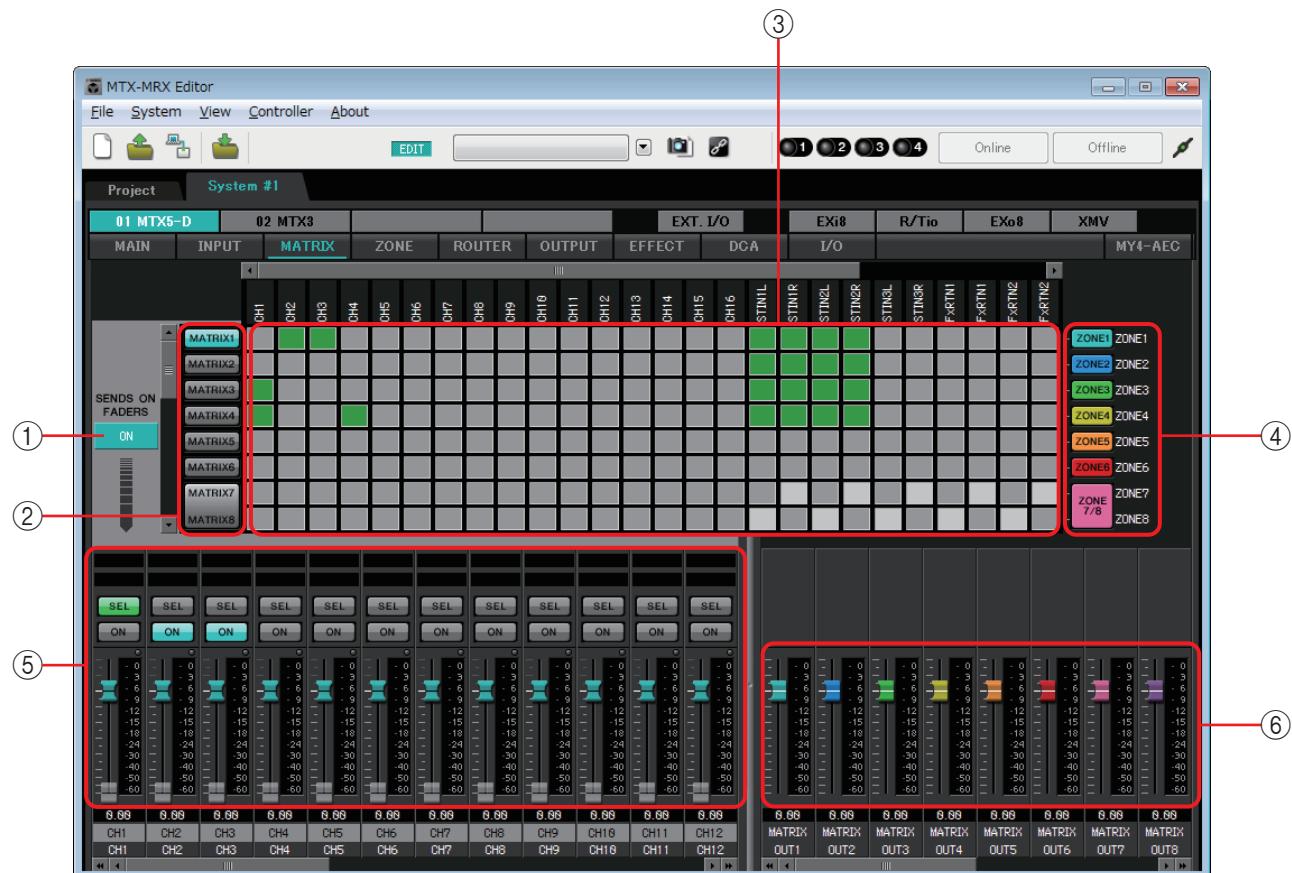
「COMP」、「AGC」のパラメーターを調整する画面です。各パラメーターの詳細については[「GATE/COMP」画面](#)と[「FBS/AGC」画面](#)を参照してください。

**HINT** CDなどを再生して曲ごとに録音レベルが異なるために聴きづらい場合、AGC機能を使って調整すると効果的です。

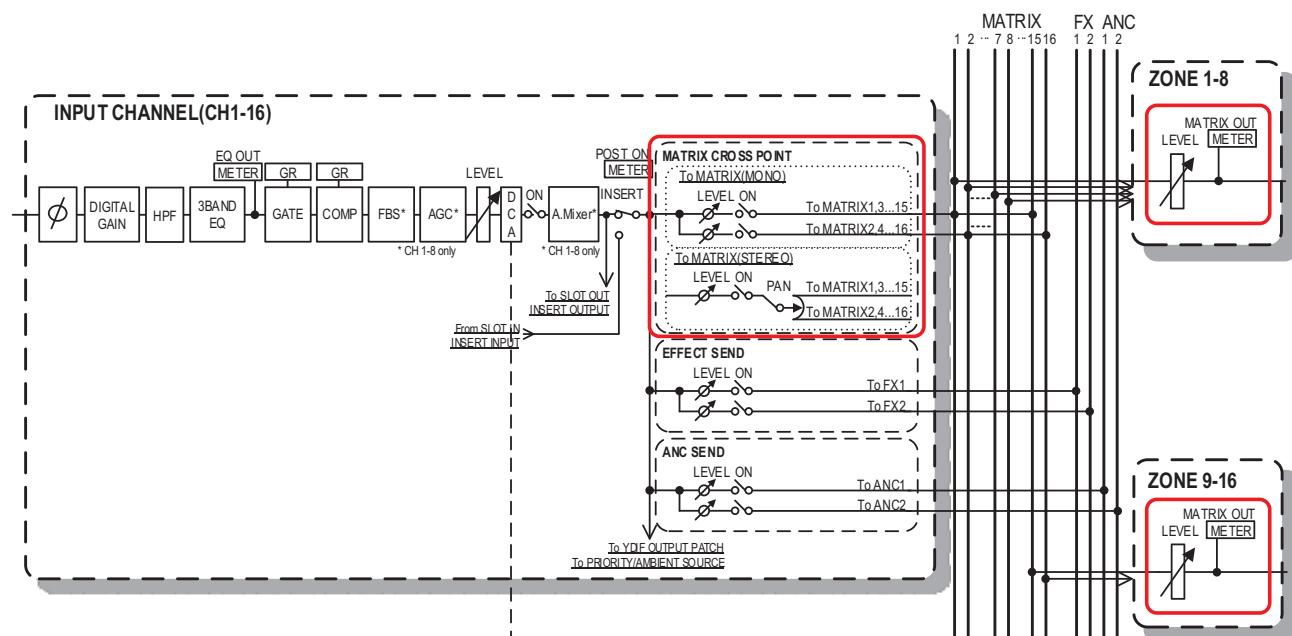
# 「MATRIX」画面

入力チャンネルの信号をミックスして送る画面です。

SENDS ON FADER モードの場合、入力チャンネルのフェーダーを使って、入力チャンネルのマトリクスバスへの送り量を調整できます。



## 信号の流れ



### ① SENDS ON FADERS [ON] ボタン

SENDS ON FADER モードのオン / オフを設定します。オフのときは、入力側のチャンネルフェーダーを入力レベルの調整に使用できます。

## ② マトリクスバス選択ボタン

信号の送り先のマトリクスバスを選択します。ステレオに設定されている対のチャンネルは、一つのボタンで表示されます。

ボタンを右クリックすると、0dB、-3dB、-6dB、-Infinity を選択して、マトリクスバスへのセンドレベルを一括で設定できます。

## ③ 入力チャンネルマトリクス

チャンネルごとのセンドレベルを表示します。横軸は入力チャンネル、縦軸は送り先のマトリクスバスを表します。センドレベルには、PAN または Blend の設定が加味されています。クリックするとセンドのオン / オフが切り替わります。またマウスドラッグをするとカーソルが通った場所のセンドのオン / オフが、ドラッグを開始した場所の状態に切り替わります。

入力チャンネルやゾーンの名称がつけられている場合は、マトリクスの上や右に名称が反映されます。

クロスポイントを右クリックすると、Matrix ON (横軸をすべてオン)、Matrix OFF (横軸をすべてオフ)、Ch ON (縦軸をすべてオン)、Ch OFF (縦軸をすべてオフ)、All ON (すべてオン)、All OFF (すべてオフ) を選択して、センドのオン / オフを一括で設定できます。

- NOTE**
- PGM1 がつながっている入力チャンネルは入力チャンネルマトリクスをオンにしないでください。
  - 縦および横のスクロールバーを使うと、隠れている ANC バスやその他のチャンネルを選択できます。

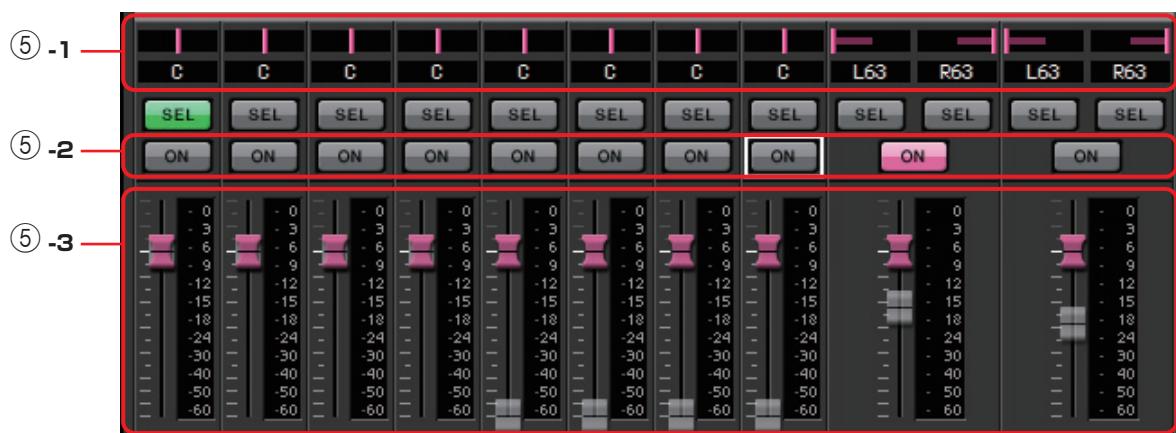


## ④ [ZONE] ボタン

マトリクスの出力先である ZONE を表示します。ボタンをクリックすると「ZONE」画面を表示します。ステレオに設定されている対のチャンネルは、一つのボタンで表示されます。ZONE9 から ZONE16 は表示のみで、ボタンではありません。

## ⑤ 入力チャンネルフェーダー

SENDS ON FADER モードがオンのとき、フェーダーや [ON] ボタンがセンド先のマトリクスバス選択ボタンと同じ色で表示されます。



### ⑤-1 PAN(操作子および数値ボックス)

マトリクスバスがステレオのときのみ操作子および数値が表示され、設定可能になります。

左に振り切ると 63L、中央は C、右に振り切ると 63R です。

**NOTE**

- ・ステレオ入力からステレオバスへ送信されるとき、「MTX Configuration」ダイアログの「Advanced Settings」ダイアログで PAN または Blend を切り替えることができます。Blend に設定した場合、操作子および数値は表示されません（右図）。
- ・数値ボックスで、[L63] または [l63] と入力すると左に振り切り、[R63] または [r63] と入力すると右に振り切ります。[C] または [c] と入力するとセンターに設定されます。

**⑤-2 [ON] ボタン**

SENDS ON FADER モードがオンのとき、センドのオン / オフを切り替えます。

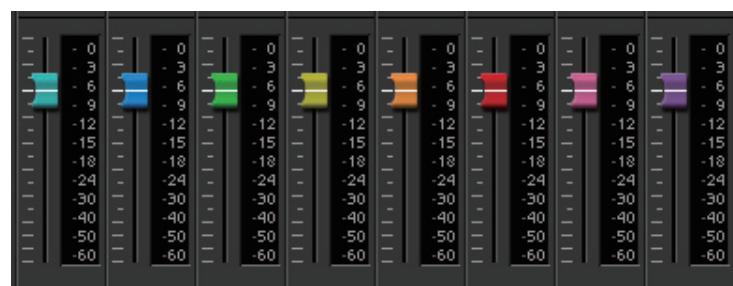
**⑤-3 フェーダー**

入力チャンネルのセンドレベルを調整します。

フェーダーを右クリックすると、0dB、-3dB、-6dB、-Infinity を選択して、センドレベルを設定できます。また、入力レベルの位置にグレーアウトされたフェーダーが表示されます（編集できません）。

**⑥ マトリクスアウトフェーダー**

フェーダーの色はマトリクスバス選択ボタンの色と連動します。

**・ フェーダー**

マトリクスアウトのレベルを調整します。

フェーダーノブを右クリックすると、0dB、-Infinity を選択して、レベルを設定できます。

## 入力チャンネルの MIX を設定する

1. [SENDS ON FADERS] ボタンをクリックします。



2. 送り先選択ボタンをクリックして、送り先のバスを選択します。



3. 各入力チャンネルのセンド量を調整します。[ON] ボタンでセンドのオン/オフを変更できます。

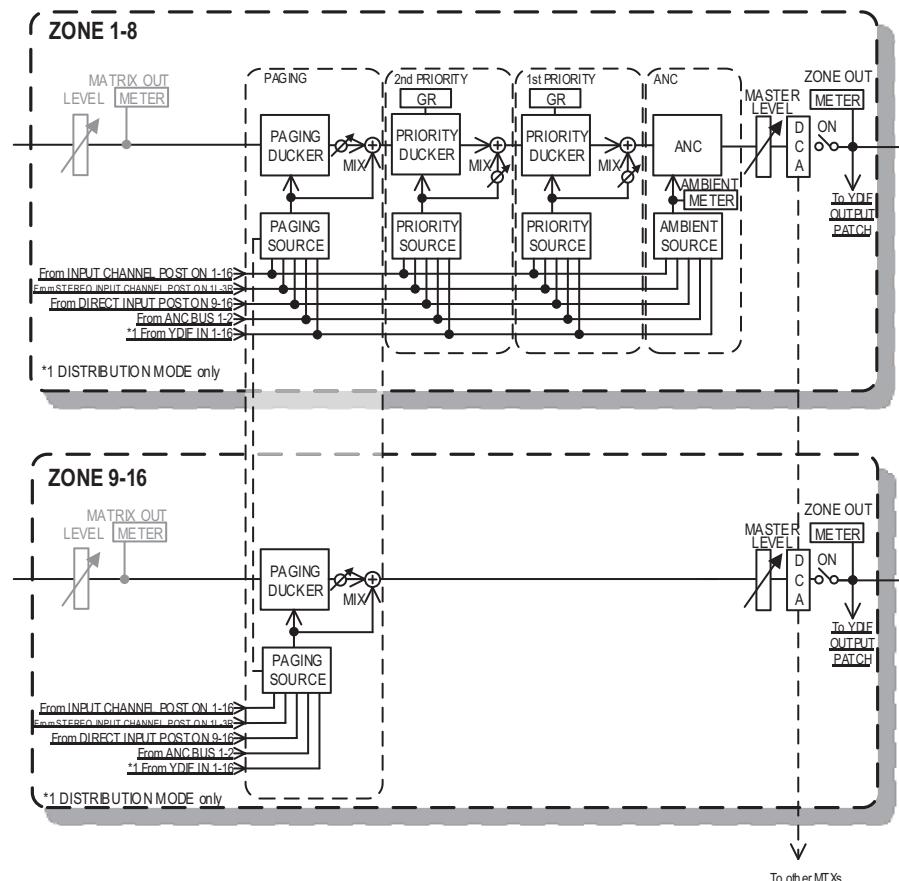


# 「ZONE」画面

PGM1に関する設定と、入力信号の優先度に応じた信号を出力するように設定する画面です。

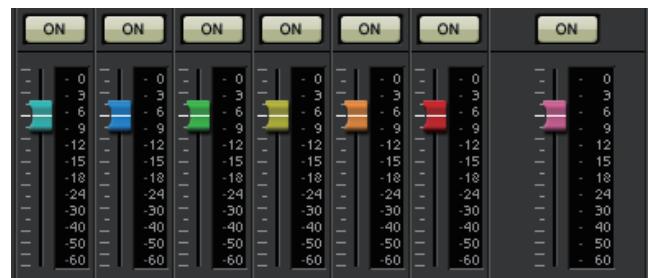


## 信号の流れ



## ①出力チャンネルフェーダー

フェーダーの色は「MATRIX」画面の [ZONE] ボタンの色と連動します。



- [ON] ボタン

ZONE OUT のオン / オフを設定します。

- フェーダー

ZONE OUT のレベルを調整します。

フェーダーノブを右クリックすると、0dB、- Infinity を選択して、センドレベルを設定できます。

### ●画面選択



各ボタンをクリックすることにより、各設定をする画面に切り替わります。

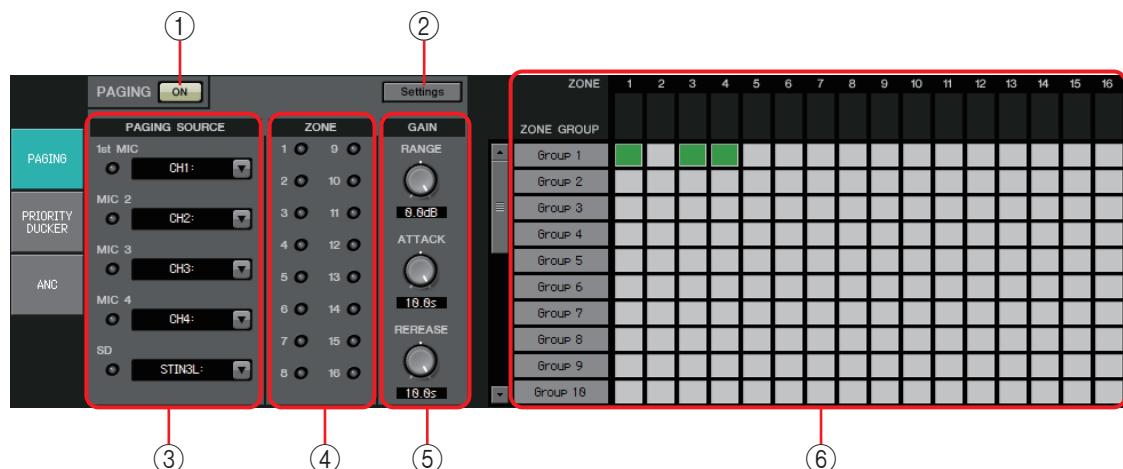
## 「PAGING」画面 (MTX5-D のみ)

この画面ではページングステーションマイクロフォン PGM1 に関する設定を行ないます。

PAGING とは「放送呼び出し」機能のことです。

設定の流れについては資料にある「[PAGING の設定の流れ](#)」や MTX セットアップマニュアルを参照してください。

ここで記述している SD のメッセージとは、MTX の SD カードに保存されている定型のアナウンスなどを指します。



### ① PAGING[ON] ボタン

PAGING 機能のオン / オフを設定します。

### ② [Settings] ボタン

クリックすると「[PGM1/PGX1](#)」ダイアログが開きます。

### ③ PAGING SOURCE 設定エリア

- インジケーター

現在放送中の PGM1 や SD があると点灯します。

- チャンネルリストボックス

ページングソースを選択します。PGM1 や SD が接続されている入力チャンネルを選択してください。1st Priority に設定している PGM1 の入力チャンネルは 1st Mic に設定してください。

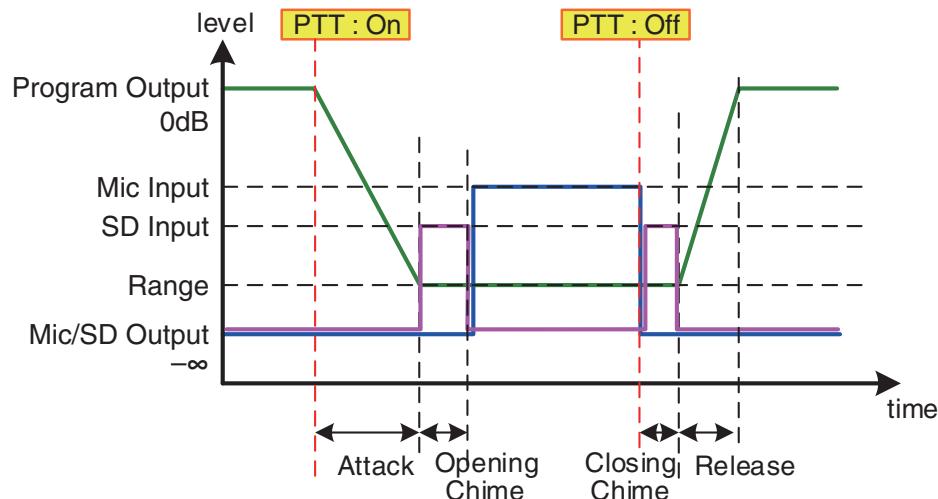
### ④ ZONE エリア

- インジケーター

PGM1 や SD のメッセージを使って現在放送中のゾーンがあると点灯します。

## ⑤ GAIN 設定エリア

各ノブは <Alt> キーを押しながらクリックすると、初期値になります。  
このエリアでは以下の流れのうち、緑色の線に関する設定をします。



### • [RANGE] ノブ

チャイムが鳴っているときや PGM1 で放送しているときの Program の値を設定します。

### • [ATTACK] ノブ

PGM1 の PTT がオンになってから Program が RANGE の値に下がるまでの時間を設定します。

### • [RELEASE] ノブ

放送またはクロージングチャイムの再生が終わってから Program が元のレベルになるまでの時間を設定します。

## ⑥ ZONE GROUP エリア

### • ゾーン名

下の OUTPUT フェーダーで設定したゾーン名を表示します。

### • グループ名

グループ名を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

### • ZONE GROUP マトリクス

PGM1/PGX1 の 1 つのゾーン / メッセージ選択ボタンで複数のゾーンを放送対象にしたいときに、ゾーングループを設定します。マトリクス上でクリックすることでオン / オフが切り替わります。緑色になっているゾーンがゾーングループに属しています。ゾーングループは 24 個まで設定できます。

## 「PRIORITY DUCKER」画面

この画面では DUCKER の設定を行ないます。

DUCKER とは、設定した入力チャンネルから音声信号が入ると、他のチャンネルからの入力を一時的に絞って、設定した入力チャンネルからの音声をはっきりと放送するために用いる機能です。優先順位は、「1st PRIORITY」の “PRIORITY SOURCE” >「2nd PRIORITY」の “PRIORITY SOURCE” > MATRIX Out の信号です。



### ① ZONE 選択ボタン

設定する ZONE を左右のボタンにより選択します。  
右には ZONE の名前が表示されます。

**NOTE** 出力チャンネルの [SEL] ボタンを使っても、ZONE を選択できます。

### ② グラフおよび GR メーター

DUCKER の設定をグラフに表示します。また、グラフの右横に DUCKER のゲインリダクション量を表示します。

### ③ DUCKER 設定エリア

**HINT** DUCKER の設定は 1st/2nd 間や他の ZONE にコピーできます。

コピー元の設定エリア内で右クリックするとリストを表示します。

- **DUCKER[ON] ボタン**  
DUCKER のオン / オフを設定します。
- **[PRIORITY SOURCE] リスト**  
DUCKER への入力信号を選択します。



**NOTE** ミックスした音声を優先度の高い音にする場合は、[ANC Bus] を選択してください。  
ANC Bus への音声のミックスは「MATRIX」画面でできます。

- **DUCKER のインジケーター**  
DUCKER が機能するとインジケーターが緑色に点灯し動作を確認できます。
- **[MIX LEVEL] ノブ**  
[PRIORITY SOURCE] リストで選択した信号が DUCKER の出力にミックスされる量を調整します。
- **[THRESHOLD] ノブ**  
DUCKER の効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

- **[RANGE] ノブ**

DUCKER の効果がかかっているときの減衰量を設定します。

この量で本線の音声をどれだけ残すのか、消すのかを設定します。

- **[ATTACK] ノブ**

Priority Source の入力信号が THRESHOLD を超えてから、本線の DUCKER が [RANGE] ノブで設定した減衰量に到達するまでの時間を設定します。

- **[HOLD] ノブ**

入力信号が THRESHOLD を下回ったあとに再び元のレベルに戻り始めるまでの時間を設定します。

- **[RELEASE] ノブ**

入力信号が HOLD の待ち時間を経たあと、DUCKER の効果がなくなるまでの待ち時間を設定します。

### DUCKER を設定する

#### 使用例

**例 1:** BGM が流れている場合に、マイクからの入力があると BGM の音量が自動的に下がります。

**例 2:** 会議にて、優先する議長のマイクからの入力があるときに、参加者の音声を抑制します。

**1.** BGM や最もプライオリティを低く設定したいマイクを任意の ZONE にパッチします。

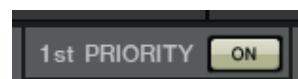
この音が、DUCKER 動作時に音量が減衰する音となります。

ZONE への入力には、Priority Source へ入力する音のパッチは行ないません。

**2.** ZONE 画面で、DUCKER を設定したい ZONE を選択します。



**3.** DUCKER の [ON] ボタンをクリックします。



**4.** 手順1でパッチした音よりも優先度の高い音を PRIORITY SOURCE のリストから選択します。

**5.** ダッキングする量を [RANGE] で調整します。

BGM のように薄く残したい場合は少なめに、音を消したい場合は -70dB など大きい値に設定します。

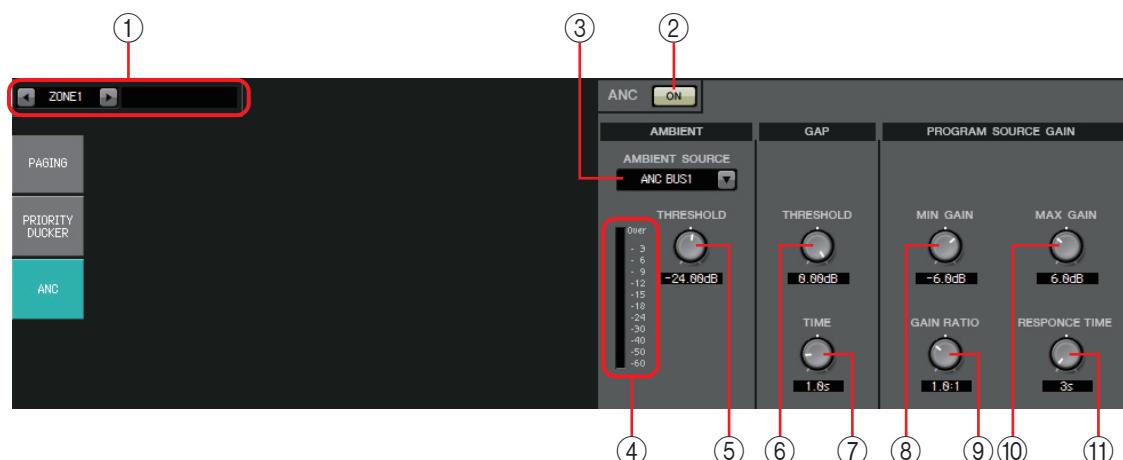
**6.** その他のパラメーターを必要に応じて調整します。



## 「ANC」画面

この画面では「Ambient Noise Compensator」(以下「ANC」と呼びます)の設定を行ないます。

ANC とは、周辺ノイズ測定用のマイクから入力されたレベルに合わせて、MTX からの出力信号を増減させる機能です。MTX に搭載している ANC は、曲間などの無音部分を検知し、その間に騒音を測定しレベルを可変する GAP タイプの ANC です。



### ① ZONE 選択ボタン

設定する ZONE を左右のボタンにより選択します。

右には ZONE の名前が表示されます。

出力チャンネルの [SEL] ボタンを使っても、ZONE を選択できます。

### ② ANC[ON] ボタン

ANC のオン / オフを設定します。

### ③ [AMBIENT SOURCE] リスト

周辺ノイズ測定用のマイクがつながっているチャンネルを選択します。

**NOTE** ANC Bus への音声のミックスは「MATRIX」画面でできます。

### ④ [ANC] レベルメーター

周辺ノイズのレベルを表示します。

### ⑤ [AMBIENT THRESHOLD] ノブ

平均的な周辺ノイズのレベルを設定します。

### ⑥ GAP [THRESHOLD] ノブ

入力信号のしきい値のレベルを設定します。入力信号のレベルが一定期間継続して設定値未満だった場合、GAP と判定します。

### ⑦ [TIME] ノブ

GAP を判定するための時間を設定します。

### ⑧ [MIN GAIN] ノブ

入力信号のレベルを補正する下限値を設定します。

### ⑨ [GAIN RATIO] ノブ

入力信号のレベルを補正する割合を設定します。

## ⑩ [MAX GAIN] ノブ

入力信号のレベルを補正する上限値を設定します。

## ⑪ [RESPONSE TIME] ノブ

レベル補正の反応速度を設定します。

**ANC を設定する****使用例**

**例 1:** スピーチ会場にて、環境雑音（ざわめきなど）に応じて ZONE の音量が上下するよう  
に自動的に調整します。

**例 2:** 飲食店にて、プライバシーを確保するために周りの会話などの雑音に応じて BGM を  
調整します。

**1. 周辺ノイズ測定用のマイクを適切なレベルで検知できるよう設置 / 設定します。**

周辺ノイズ測定用のマイクはスピーカーから離れた、部屋の中央天井面など、スピーカー  
からの直接音が入らず、環境雑音源（ざわめき、騒音）に近い場所に設置してください。

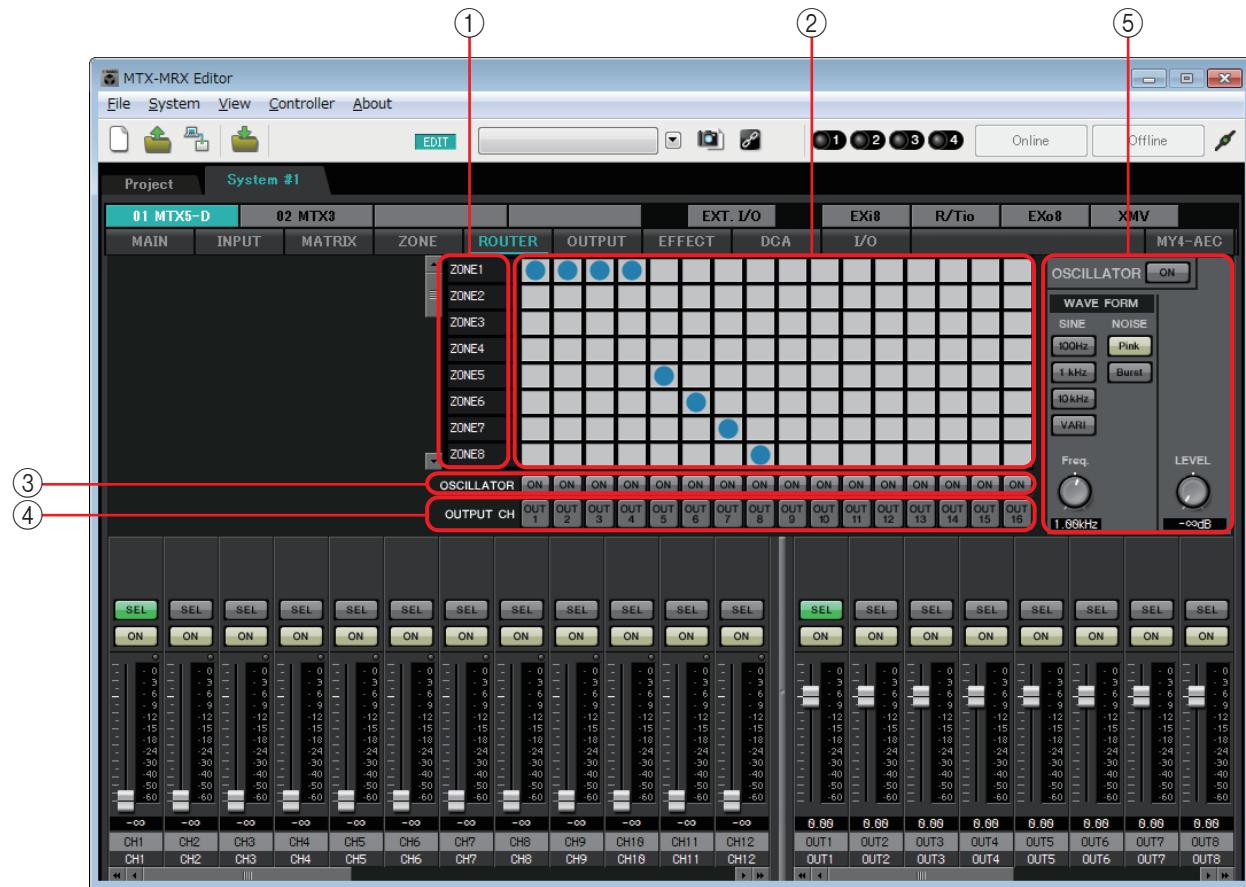
**2. ZONE を選択します。****3. ANC の [ON] ボタンをクリックします。****4. 周辺ノイズ測定用のマイクからの入力信号を AMBIENT SOURCE のリストから選択し  
ます。**

複数の周辺ノイズ測定用マイクを接続する場合は、[ANC BUS 1/2] を選択してください。

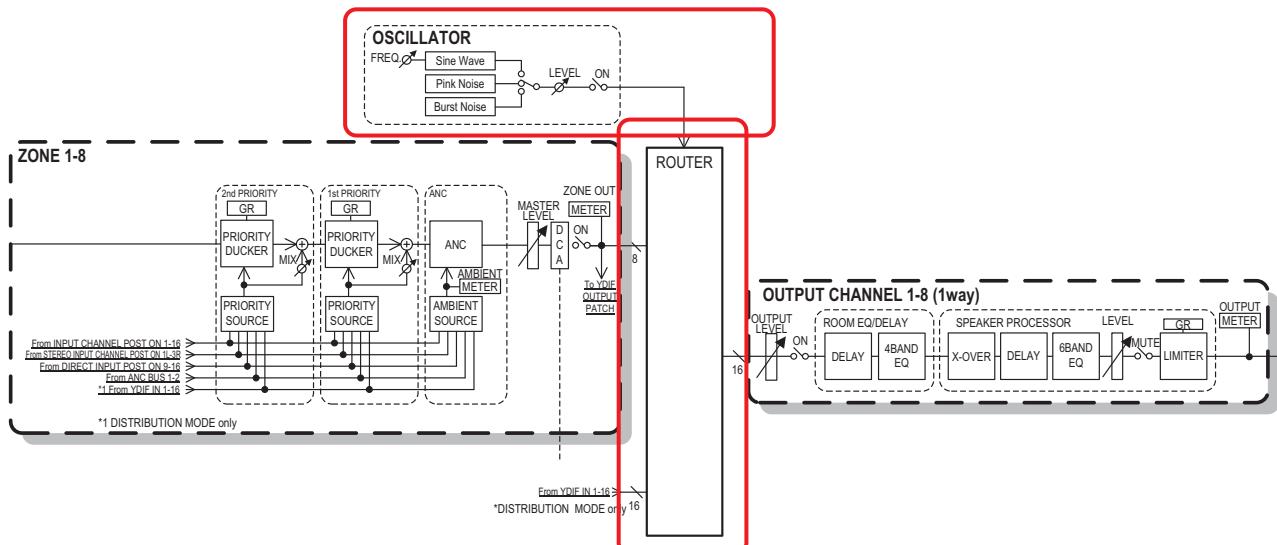
**5. ANC のしきい値を調整します。****6. パラメーターを調整します。**

# 「ROUTER」画面

ZONE 出力を出力チャンネルに振り分ける画面です。



## 信号の流れ



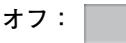
ZONE 出力、Distribution モード時の YDIF 入力信号、オシレーター信号を出力チャンネルに振り分けます。

### ① ルーターへの入力信号

ZONE 出力や YDIF 信号を表示します。

## ② ルーター

信号を振り分けるルーターです。マス目をクリックすることで出力のオン / オフを切り替えることができます。右クリックするとコンテキストメニューが表示され、一括でオフにする [All OFF] が選択できます。

オン :  オフ : 

複数の ZONE 出力を一つの出力チャンネルに出力するようなミックスはできません。

## ③ OSCILLATOR [ON] ボタン

オンに設定すると、該当チャンネルにオシレーター信号を出力します。

ただし、右側の OSCILLATOR [ON] ボタンがオンに設定されていない場合、信号は出力されません。

## ④ OUTPUT CH [OUT] ボタン

出力先チャンネルの CHANNEL EDIT 画面を表示します。

## ⑤ OSCILLATOR 設定エリア

### • OSCILLATOR [ON] ボタン

オンに設定すると、オシレーター信号を出力します。

### • WAVE FORM

#### [SINE] 信号周波数設定ボタン

オシレーターから出力する正弦波信号の周波数を設定します。

[100Hz]、[1 kHz]、[10kHz]、[VARI] が設定できます。

#### 正弦波信号 [Freq] 設定ノブ

正弦波の出力周波数を調整します。正弦波の [VARI] ボタンをクリックしたとき、有効になります。

#### [NOISE] 信号設定ボタン

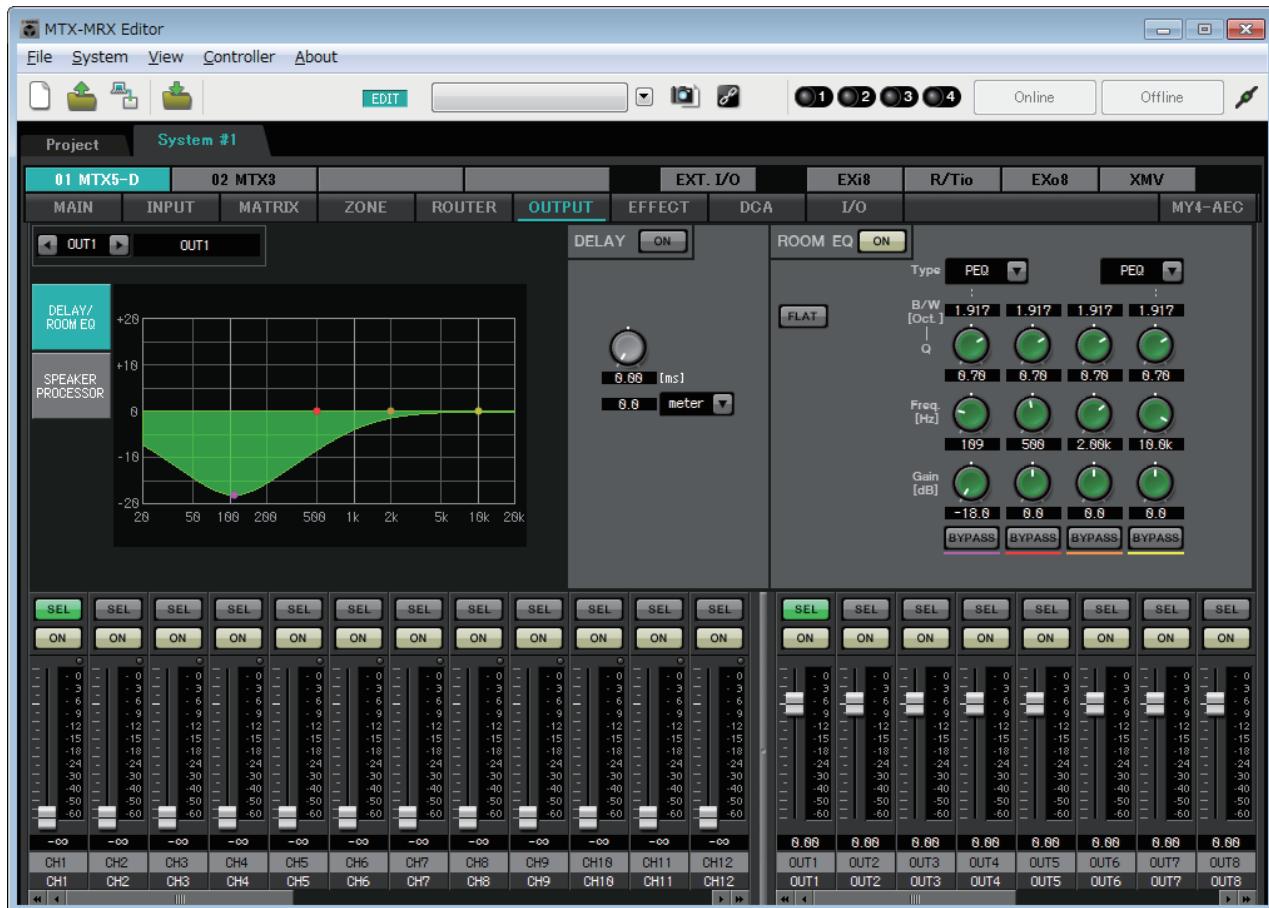
[Pink] ノイズまたは [Burst] ノイズが設定できます。

### • 出力 [LEVEL] ノブ

オシレーターから出力する信号のレベルを調整します。

# 「OUTPUT」画面

出力チャンネルの信号処理を行なう画面です。



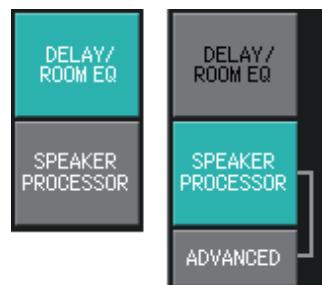
この画面では出力チャンネルに信号処理を施します。「DELAY/ROOM EQ」、「SPEAKER PROCESSOR」の信号処理を行ないます。

## ● チャンネル選択



信号処理を行なうチャンネルを左ボタンまたは右ボタンで選択します。

## ● 画面選択



各ボタンをクリックすることにより、チャンネルに施す処理をする画面に切り替わります。

### ●「OUTPUT」画面共通の操作説明

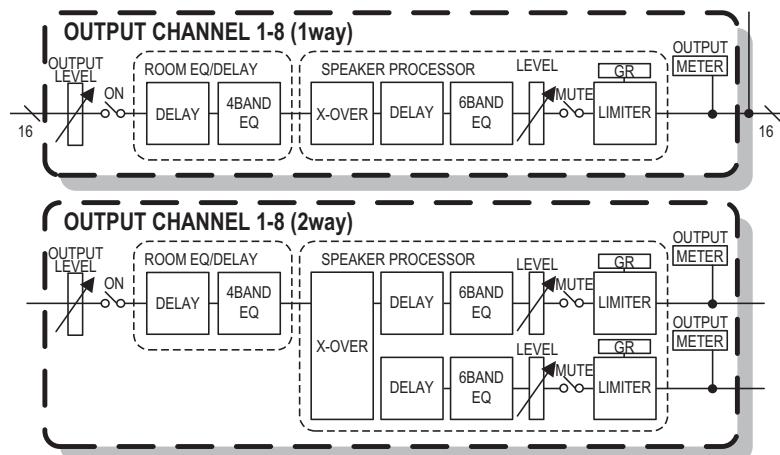
ノブや数値ボックスについては「[基本的な操作の説明](#)」を参照してください。

**HINT** チャンネルの設定は他のチャンネルにコピーすることができます。エリア内で右クリックするとリストボックスが表示されます。チャンネルを選択して、設定を貼り付けます。



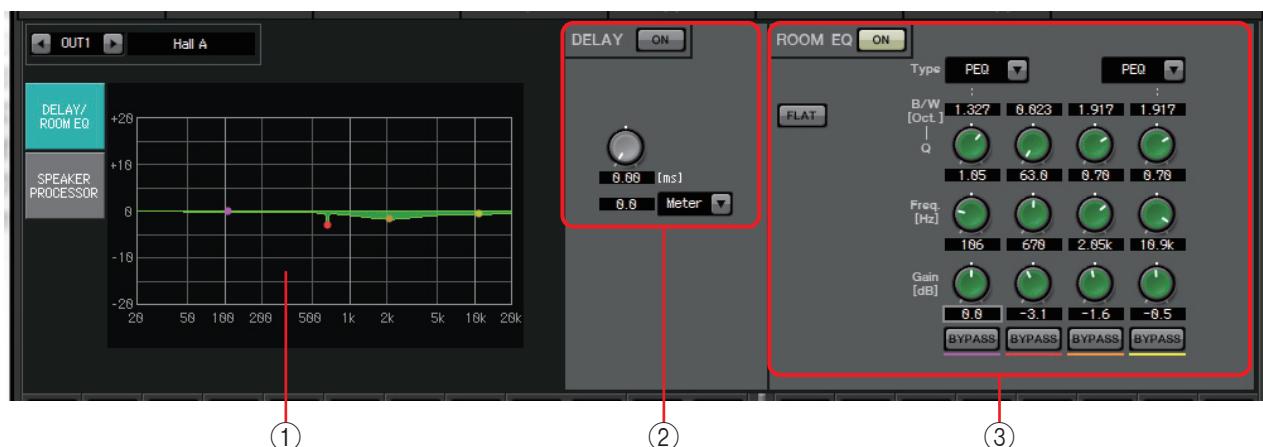
ROUTERからの信号を ROOM EQ や SPEAKER PROCESSOR で加工します。

「MTX Configuration」ダイアログの OUTPUT CHANNEL SETUP の設定 (1WAY または 2WAY) によって、信号は以下のように異なる経路で流れます。また、2WAY に設定した場合は、偶数チャンネルの画面で「DELAY」や「ROOM EQ」の設定ができないようになっています。



## 「DELAY/ROOM EQ」画面

「DELAY」、「ROOM EQ」のパラメーターを調整する画面です。



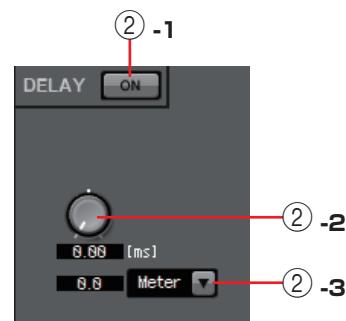
### ① ROOM EQ グラフ

ROOM EQ の効果をグラフに示します。コントロールポイントをドラッグして、パラメーターを変更します。

## ② DELAY 設定エリア

複数のスピーカーがある音響システムの場合、話者の定位がうまくいかないと、近くのスピーカーから音が出ていている状態が強調されます。そのようなとき、話者の近くのスピーカーと話者から離れたスピーカーの距離に応じて、離れたスピーカーに音声を遅延させることで話者へ定位させることができます。

また、複数のスピーカーからの音が干渉しあう場合に、一方の音声を少し遅延させることで、干渉しあう周波数を移動させ、違和感を生じさせないようにすることができます。



### ②-1 DELAY[ON] ボタン

DELAY のオン / オフを設定します。

### ②-2 Delay Time ノブ

ディレイタイム (遅延時間) を設定します。

### ②-3 Type リストボックス

Delay Time ノブで設定したディレイタイム (遅延時間) を選択した単位系に変換して、左側に表示します。

**ms** ..... ミリ秒

**Sample** ..... サンプル数 (サンプリング周波数の設定によって範囲が変わります。)

**Meter** ..... メートル / 秒

**Feet** ..... フィート / 秒

## ③ ROOM EQ 設定エリア

壁面、天井面、床面の材質やスピーカーの取り付け位置、方法により、スピーカーからの音が変化します。その変化を補正するための 4 バンドの EQ です。部屋の形状に起因する周波数特性のディップ (谷) は補正できません。

- **ROOM EQ[ON] ボタン**

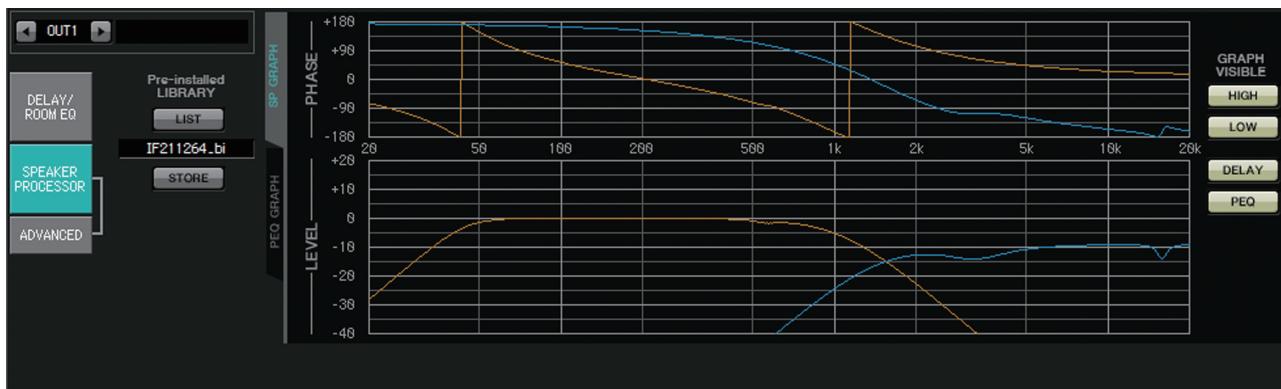
ROOM EQ のオン / オフを設定します。

以下の各種パラメーターの調整については、「[GAIN/HPF/EQ](#)」画面の EQ を参照してください。

- [FLAT] ボタン
- [Type] リストボックス
- [B/W] ボックス
- [Q] ノブ
- [Freq.] ノブ
- [Gain] ノブ
- [BYPASS] ボタン

## 「SPEAKER PROCESSOR」画面

APF(All Pass Filter)、Horn EQ、リミッターを含むスピーカー調整用「SPEAKER PROCESSOR」のパラメーター特性を確認するための画面です。パラメーターの設定は「ADVANCED」画面で行ないます。



### ■ Pre-installed LIBRARY

MTX-MRX Editor にプリインストールされているライブラリーでは、LIMITER の Threshold 値は電圧利得が 26dB のパワーアンプを使用するときの値になっています。

必要に応じて、MTX の LIMITER の設定や出力レベル、パワーアンプの電圧利得やアンテナーラーなどの設定を適切な値にしてください。

たとえば電圧利得が 30dB のパワーアンプを使用する場合は、パワーアンプのアンテナーラー値を 4dB 下げるか、MTX の LIMITER の Threshold 値を 4dB 下げてください。

XMV はタイプと設定によって電圧利得が変わります。詳細については XMV の取扱説明書を参照してください。

- [LIST] ボタン  
ライブラリーを選択し、表示します。
- [STORE] ボタン  
現在の状態をライブラリーとして保存します (拡張子は [.ce3])。

### ■ [SP GRAPH] タブ

#### PHASE

クロスオーバー位相特性曲線を表示します。PEQ と Delay の特性を加味して表示されます。シグナルタイプが 2way の場合は、High と Low に色分けして表示されます。

#### LEVEL

クロスオーバー振幅特性曲線を表示します。PEQ と Output Level の特性を加味して表示されます。

シグナルタイプが 2way の場合は、High と Low に色分けして表示されます。

#### GRAPH VISIBLE

- [HIGH] ボタン (シグナルタイプが 2way の場合のみ表示)  
High のグラフの表示 / 非表示の切り替えをします。
- [LOW] ボタン (シグナルタイプが 2way の場合のみ表示)  
Low のグラフの表示 / 非表示の切り替えをします。

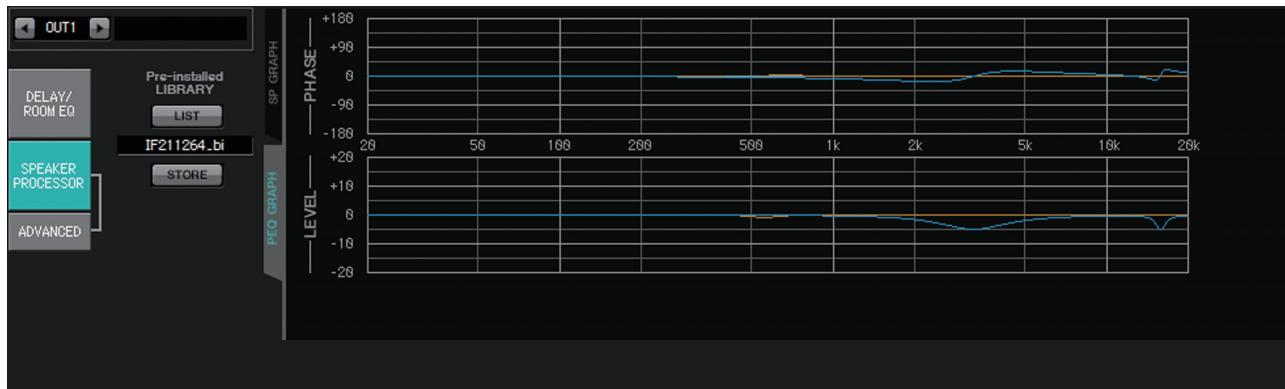
- **[DELAY] ボタン**

クロスオーバー曲線から DELAY 特性の表示 / 非表示を切り替えます。

- **[PEQ] ボタン**

クロスオーバー曲線から PEQ 特性の表示 / 非表示を切り替えます。

### ■ [PEQ GRAPH] タブ



#### PHASE PEQ

PEQ 位相特性曲線を表示します。

シグナルタイプが 2way の場合は、High と Low に色分けして表示されます。

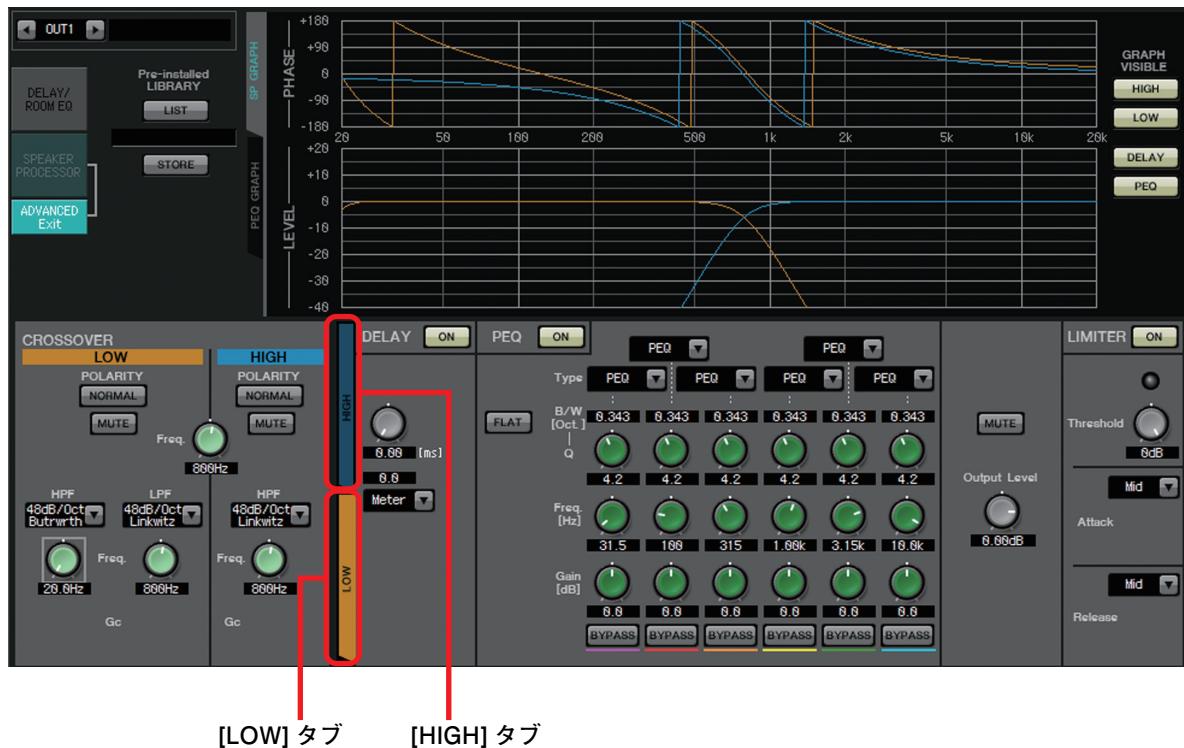
#### LEVEL PEQ

PEQ 振幅特性曲線を表示します。

シグナルタイプが 2way の場合は、High と Low に色分けして表示されます。

## 「ADVANCED」画面

「SPEAKER PROCESSOR」の詳細設定を行なう画面です。シグナルタイプが 2way の場合は、設定パラメーターが LOW と HIGH に分かれて表示されます。



「ADVANCED」画面では「PEQ GRAPH」の LEVEL PEQ 振幅特性曲線にコントロールポイントが表示されます。

### LEVEL PEQ 振幅特性曲線について

シグナルタイプが 2Way の場合は、High および Low のグラフがそれぞれ [HIGH] タブと [LOW] タブの切り替えに連動して表示されます。

## ■ CROSSOVER

### • POLARITY ボタン

各出力チャンネルから出力する信号の位相反転を設定します。NORMAL/INVERTED を切り替えます。

### • [MUTE] ボタン

各出力チャンネルの出力をミュートします。

### • [Freq.] ノブ

各出力チャンネルのクロス周波数を設定します。ミュートするとクロスオーバーのグラフが点線になります。

### • HPF/LPF タイプリストボックス

減衰幅とフィルタータイプを設定します。リストボックスをクリックするとメニューが表示されます。6種類のスロープを4種類のタイプの組み合わせが用意されています。

[6dB/Oct]、[12dB/Oct]、[18dB/Oct]、[24dB/Oct]、[36dB/Oct]、[48dB/Oct] はオクターブあたりの減衰幅を設定します。数値の小さいものはゆるやかに減衰し、数値の大きいものは急激に減衰します。

**Thru**

フィルターはかかりません。減衰せず、どの周波数でも一定の特性になります。

**AdjustGc(Adjustable Gc)**

Gc(カットオフ周波数におけるゲイン)を-6～+6dBの間で調整します。また、-3dBにするとButterworthフィルター、-6dBにするとLinkwitz-Rileyフィルターになります。選択するとGcのノブが表示されます。

**Butterworth (Butterworth)**

最も一般的な特性です。通過域は平坦で、カットオフ周波数におけるゲインは-3dBです。

**Bessel**

位相特性を重視した曲線で、減衰はButterworthよりゆるやかですが、方形波を通過させた場合に波形の乱れがありません。

**Linkwitz (Linkwitz-Riley)**

フィルターの次数は2の累乗で、LPFとHPFの出力を電圧合成したとき、全周波数帯域でゲインが0dBになるような特性です。通過域は平坦ですが、カットオフ周波数におけるゲインは-6dBです。

- **HPF/LPF [Freq.] ノブ**

HPF/LPFのカットオフ周波数を設置します。

- **HPF/LPF [Gc] ノブ (フィルタータイプで [AdjustGc] を選択したときのみ表示)**

カットオフ周波数のゲインを設定します。

## ■ [HIGH] タブ / [LOW] タブ

[DELAY]、[PEQ]、[Output Level]、[MUTE]、[LIMITER]の表示を [HIGH] タブおよび [LOW] タブで切り替えます。

## ■ DELAY

以下の各種パラメーターの調整については、「[GAIN/HPF/EQ](#)」画面を参照してください。

- **DELAY [ON] ボタン**
- **Delay Time ノブ**
- **[Type] リストボックス**

## ■ PEQ

以下の各種パラメーターの調整については、「[GAIN/HPF/EQ](#)」画面を参照してください。

- **PEQ [ON] ボタン**
- **[FLAT] ボタン**
- **[B/W] ボックス**
- **[Q] ノブ**
- **[Freq.] ノブ**
- **[Gain] ノブ**
- **[BYPASS] ボタン**
- **[Type] リストボックス**  
PEQのタイプを選択します。

周波数特性はPEQ GRAPHに表示されます。

以下のタイプについては「[GAIN/HPF/EQ](#)画面」を参照してください。

- PEQ
- L.SHELF(Low Shelf)
- H.SHELF(High Shelf)
- HPF
- LPF

#### APF (All Pass Filter)

すべての周波数範囲の信号を通過させ位相だけを変化させるフィルターです。主にクロスオーバー帯域の位相整合のために使用します。

APF 1st では、設定した周波数において位相が 90° 回転し、全帯域で見ると 0° から 180° まで回転します。APF 2nd は設定した周波数において位相が 180° 回転し、全帯域で見ると 0° から 360° まで回転します。

#### Horn EQ

定指向性ホーンスピーカーは、高域のレベルがロールオフする特性を持ちます。

Horn EQ は、この特性を補正するイコライザーです。そのため Gain は 0dB 以上、Freq. は 500Hz 以上に限定されています。

- **[MUTE] ボタン**

出力をミュートします。

- **[Output Level] ノブ**

出力レベルを設定します。

## ■ LIMITER

- **[ON] ボタン**

リミッターのオン / オフを設定します。ボタンをオフにすると、バイパスされます。

- **Gain Reduction インジケーター**

しきい値を超えた場合に点灯します。

- **[Threshold] ノブ**

しきい値を設定します。

- **[Attack]**

リミッターの立ち上がりの速さを設定します。Manual 選択時はノブが表示され、msec 単位で設定します。Fast/Mid/Slow 選択時は、Speaker Processor でクロスオーバーの HPF カットオフ周波数に合わせて以下のように自動的に設定されます。

Fast ..... カットオフ周波数の 1/4 波長

Mid ..... カットオフ周波数の 1/2 波長

Slow ..... カットオフ周波数の 1 波長

- **[Release]**

リミッターのリリースの速さを設定します。Manual 選択時はノブが表示され、msec 単位で設定します。Fast/Mid/Slow 選択時は、Speaker Processor でクロスオーバーの HPF カットオフ周波数に合わせて以下のように自動的に設定されます。

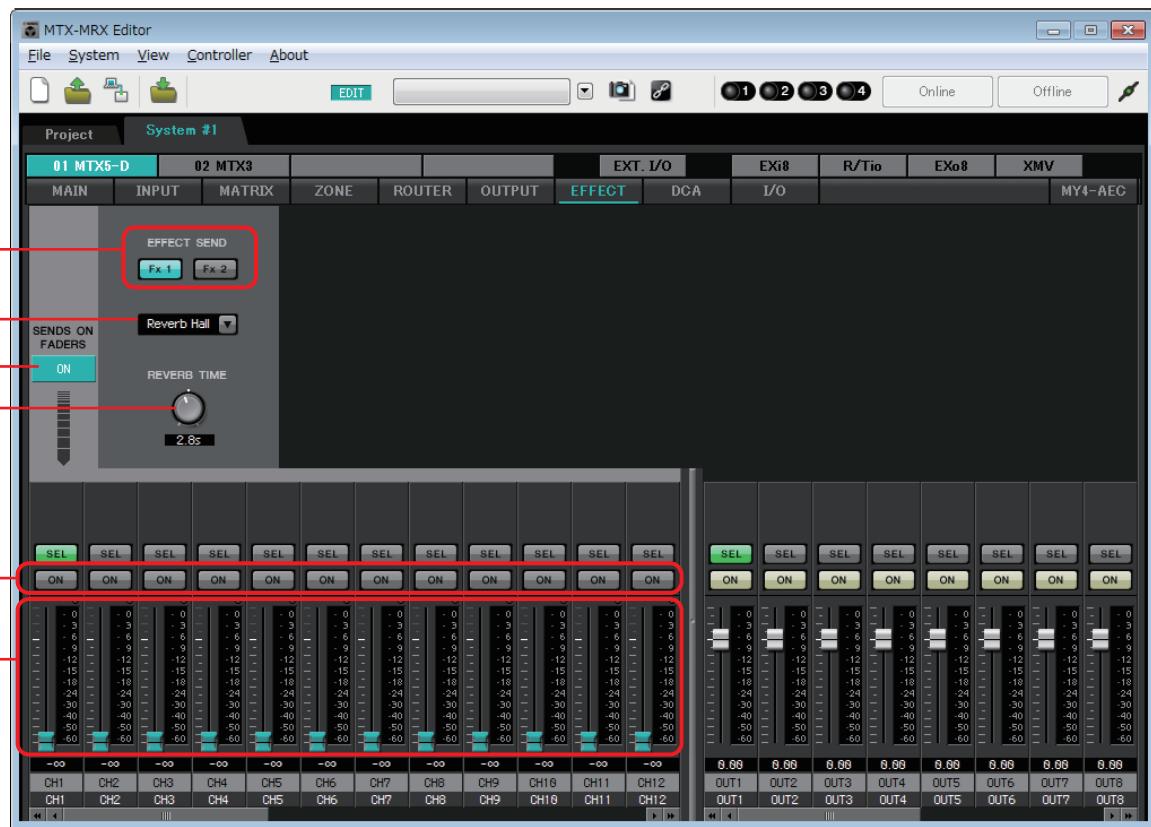
Fast ..... カットオフ周波数の 4 波長

Mid ..... カットオフ周波数の 8 波長

Slow ..... カットオフ周波数の 16 波長

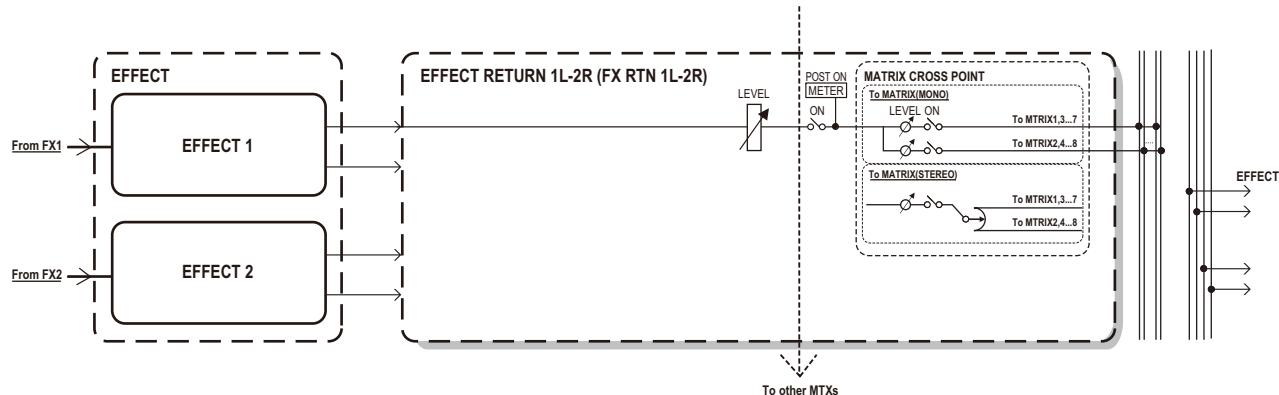
# 「EFFECT」画面

エフェクトのタイプを変更したり、パラメーターを調整したりする画面です。



この画面では入力チャンネルからエフェクト用のバスに送るエフェクトを設定できます。設定できるのはリバーブやエコーなどのタイプとそのパラメーター値、およびセンドレベルです。

## 信号の流れ



### ① SENDS ON FADERS [ON] ボタン

SENDS ON FADER モードのオン / オフを設定します。オフのときは、入力側のチャンネルフェーダーを入力レベルの調整に使用できます。

### ② [EFFECT SEND] ボタン (SENDS ON FADER モードがオンの場合のみ選択可)

エフェクトを送るバスを選択するボタンです。選択できるバスは [Fx1] と [Fx2] です。

ボタンを右クリックすると、0dB、-3dB、-6dB、-Infinity を選択して、センドレベルを一括で設定できます。

### ③ エフェクトタイプ (SENDS ON FADER モードがオンの場合のみ表示)

エフェクトのタイプをバスごとに選択します。選択できるタイプは以下の 4 種類です。

- Reverb Hall ..... コンサートホールなどの広い空間をシミュレートしたリバーブです。  
 Reverb Stage ..... 広いステージをシミュレートしたリバーブです。  
 Karaoke Echo ..... カラオケでの使用を想定したマイクエコーです。  
 Vocal Echo ..... ステージを想定したボーカル専用のエコーです。

④ **エフェクトパラメーター(SEND ON FADER モードがオンの場合のみ表示)**

エフェクトのパラメーターを調整します。エフェクトタイプがリバーブのときは [REVERB TIME] に、エコーのときは [DELAY TIME] になります。

⑤ **[ON] ボタン**

エフェクトセンドのオン / オフを設定します。

⑥ **フェーダー**

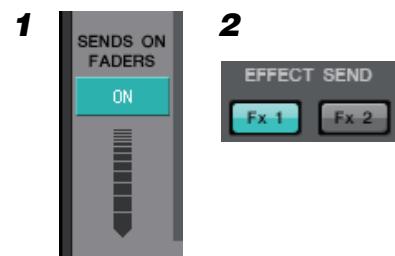
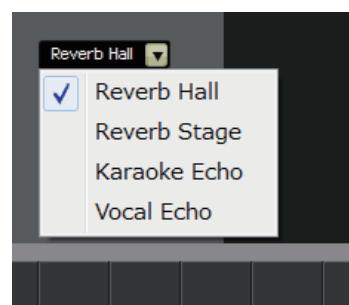
SENDS ON FADER モードがオンのときには、入力チャンネルから送るエフェクトセンドレベルを調整します。

フェーダーノブを右クリックすると、0dB、-3dB、-6dB、-Infinity を選択して、センドレベルを設定できます。

また、入力レベルの位置にグレーアウトされたフェーダーが表示されます（編集できません）。

**エフェクトを設定する**

1. SENDS ON FADERS [ON] ボタンをクリックし、オンに設定します。
2. エフェクトを送るバス ([Fx1]、[Fx2]) のボタンを選択します。
3. エフェクトのタイプをリストから選択します。



4. エフェクトのパラメーター([REVERB TIME] または [DELAY TIME]) を調整します。

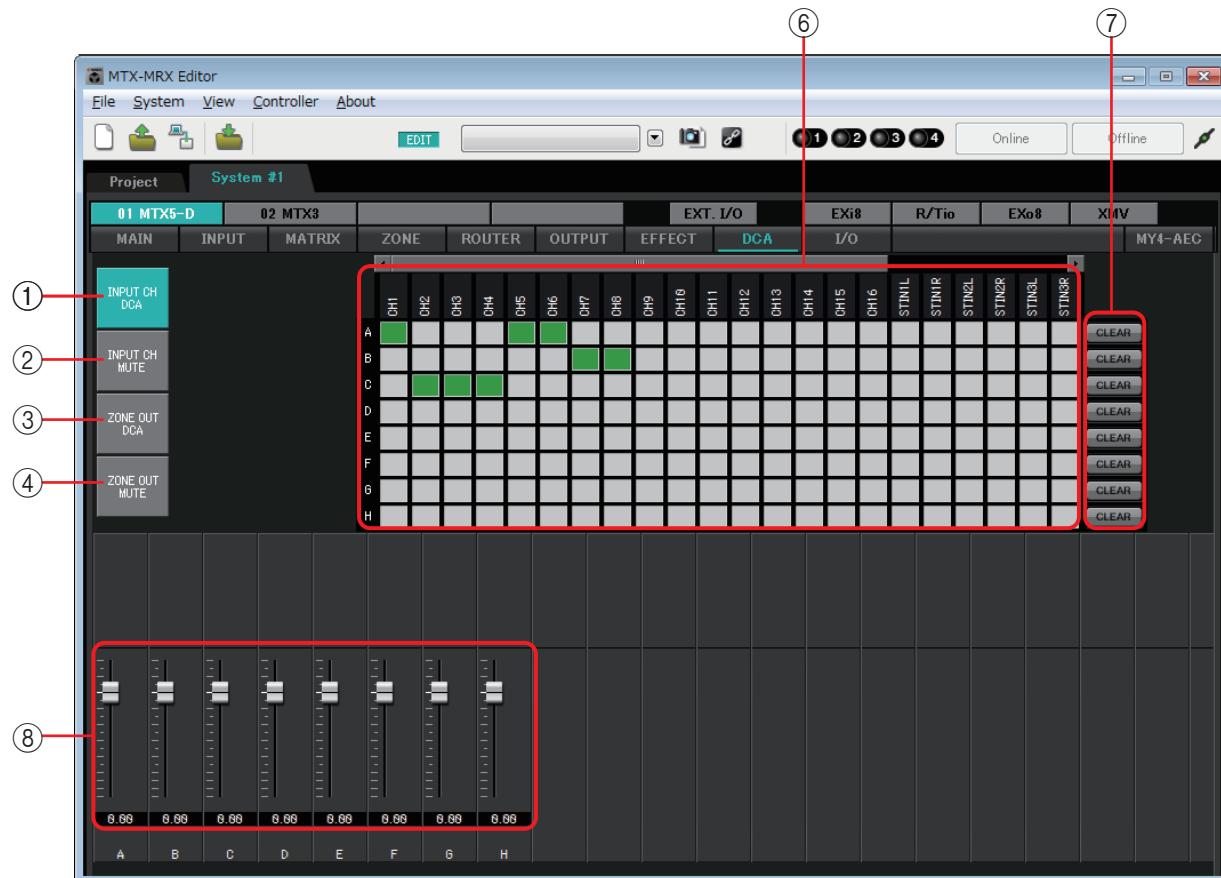


5. フェーダーでセンドレベルを調整します。



# 「DCA」画面

複数チャンネルのレベルやミュートを一括して操作する画面です。



この画面では入力チャンネルの DCA グループとミュートグループが各 8 グループ、ZONE 出力の DCA グループとミュートグループが各 8 グループ登録できます。

DCA グループでは複数チャンネルの入力レベルまたは出力レベルを一つのフェーダーで一括操作できます。また、ミュートグループでは複数チャンネルのオン / オフを一括操作できます。

DCA グループのフェーダーの設定と、ミュートグループの [MUTE] グループマスター ボタンの設定は同じ MTX/MRX システム内の MTX で共用されます。たとえば ID=1 の MTX3 で設定した場合、自動的に他の ID の MTX3 にも反映されます。MRX には共用されません。

## ① [INPUT CH DCA] ボタン

入力チャンネルの DCA グループを選択するボタンです。

## ② [INPUT CH MUTE] ボタン

入力チャンネルのミュートグループを選択するボタンです。

## ③ [ZONE OUT DCA] ボタン

ZONE 出力の DCA グループを選択するボタンです。

## ④ [ZONE OUT MUTE] ボタン

ZONE 出力のミュートグループを選択するボタンです。

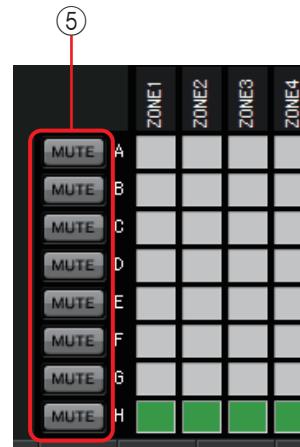
- ⑤ [MUTE] グループマスター ボタン ([INPUT CH MUTE] ボタンまたは [ZONE OUT MUTE] ボタンが選択されている場合のみ表示)

ミュートグループごとにオン / オフを切り替えるボタンです。

- ⑥ 登録チャンネルマトリクス

DCA グループやミュートグループにチャンネルを登録するマトリクスです。

縦軸にグループ名が、横軸に登録可能なチャンネル名が表示されています。交点をクリックすると、グループに登録できます。



オン :



オフ :



- ⑦ [CLEAR] ボタン

グループに登録したチャンネルを一括で解除するボタンです。

- ⑧ フェーダー ([INPUT CH DCA] ボタンまたは [ZONE OUT DCA] ボタンが選択されている場合のみ表示)

DCA グループごとにレベルを調整します。

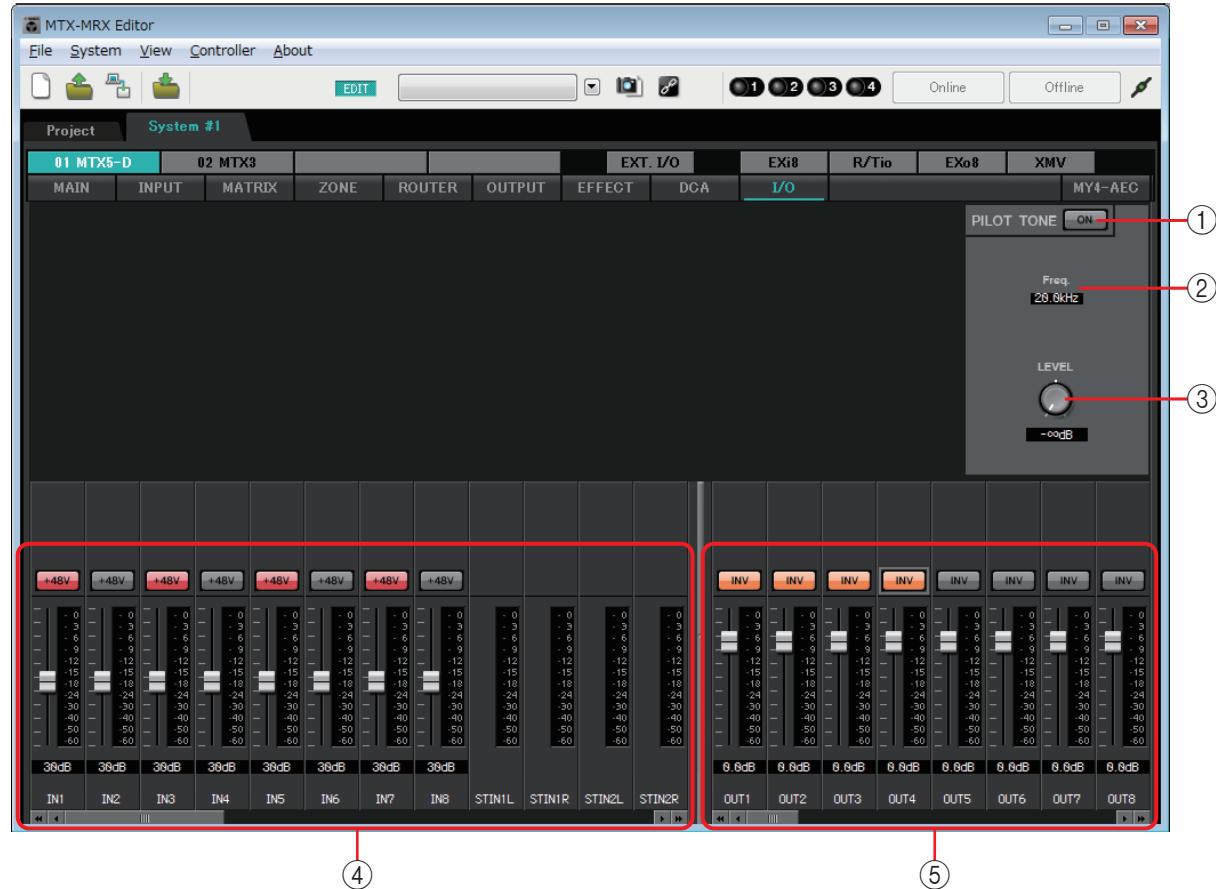
## 「I/O」画面

MTXのアナログ入力にある HA(ヘッドアンプ)に関する設定と MTX のデジタル出力に関する設定する画面です。

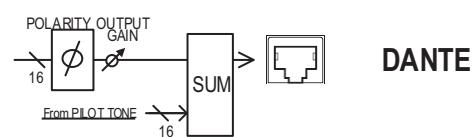
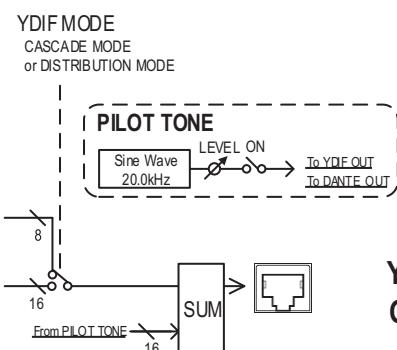
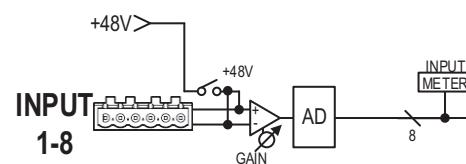
また、デジタル出力でパイロットトーンを送出するかどうかの設定もします。

パイロットトーンは PILOT TONE[ON] ボタンがオンで、デジタルアウトプットの [PT] ボタンがオンになっているチャンネルに送出されます。

パイロットトーンを受信する XMV は「Project」画面の [Device] タブにある [INPUT SOURCE] ボタンをクリックして、リダンダントに関する設定をしてください。



### 信号の流れ



**① PILOT TONE[ON] ボタン**

パイロットトーン機能のオン / オフを設定します。オフの場合、[PT] ボタンがオンでもパイロットトーンは送出されません。

**② Freq.**

パイロットトーンの中心周波数を表示します。20kHz 固定です。

**③ [LEVEL] ノブ**

パイロットトーンのレベルを設定します。

**④ アナログ入力設定エリア**

MTX のアナログ入力にある HA(ヘッドアンプ)に関する設定をします。「MAIN」画面の入力チャンネルのパラメーター編集画面と連動しています。

- **[+48V] ボタン**

HA(ヘッドアンプ)のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

**注記**

ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。

ファンタム電源をオンにする場合、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- [INPUT] 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ボタンをオンにしたまま、[INPUT] 端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ファンタム電源のオン / オフは、出力レベルを最小にした状態で行なう。

**NOTE** マスタースイッチはありません。故障の原因となりますので、接続する機器に合わせて設定してください。

- **フェーダー/ メーター**

HA のアナログゲインを調整します。

フェーダーノブを右クリックすると、0dB、-6dB を選択して、アナログゲインを設定できます。

**⑤ デジタル出力設定エリア**

MTX のデジタル出力に関する設定をします。「MAIN」画面の出力チャンネルのパラメーター編集画面と連動しています。

- **[PT] ボタン**

パイロットトーンの出力のオン / オフを設定します。PILOT TONE[ON] ボタンがオンで、[PT] ボタンがオンになっているチャンネルにパイロットトーンが送出されます。

- **POLARITY ボタン**

出力信号の極性を切り替えます。

- **フェーダー/ メーター**

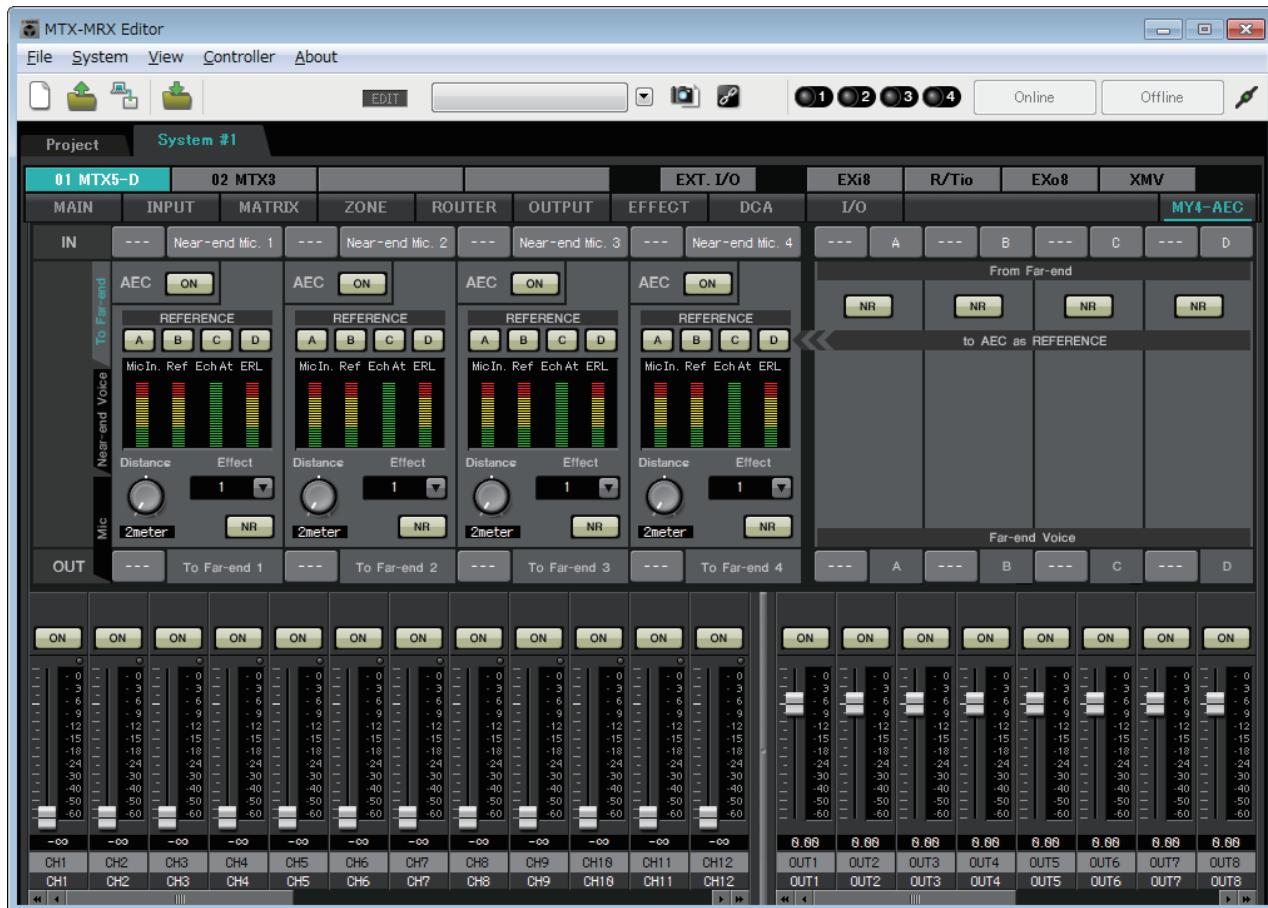
出力ゲインを調整します。

フェーダーノブを右クリックすると、0dB、-96dB を選択して、出力ゲインを設定できます。

## 「MY4-AEC」画面

MTX5-D の [SLOT] に挿入された MY4-AEC の設定をする画面です。それ以外のカードが挿入されている場合やカードが挿入されていない場合は画面が表示されません。

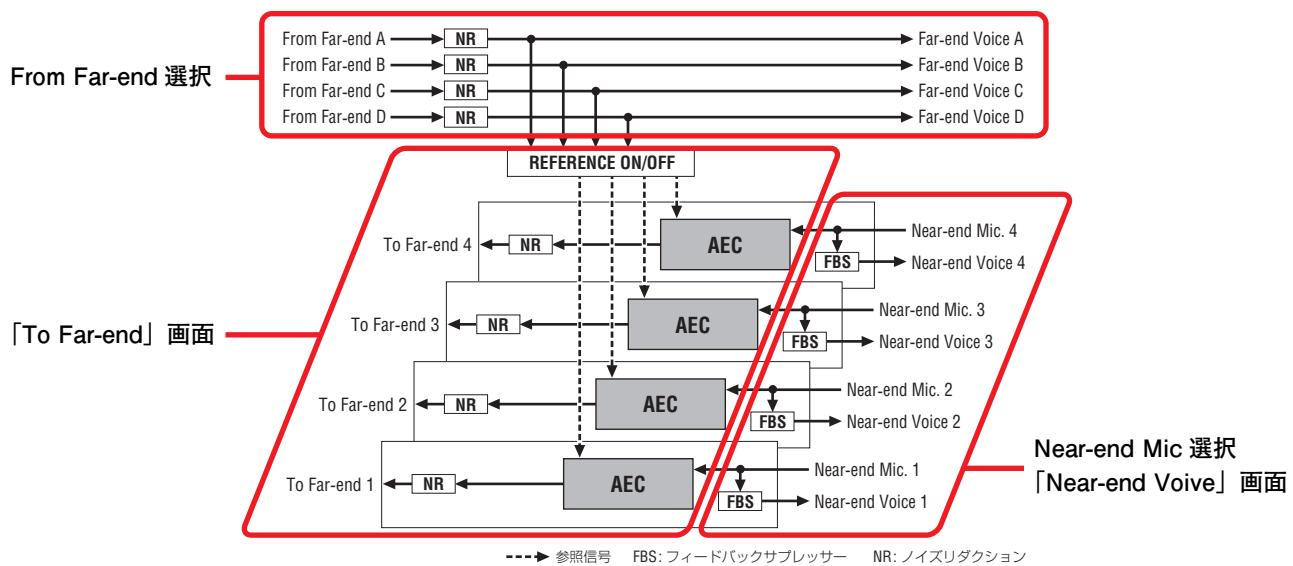
**NOTE** 設定例については「MTX5-D/MY4-AEC システムセットアップマニュアル」を参照してください。



この画面では MY4-AEC の信号に関する設定をします。

遠隔会議システムにおいて、近接地 / 遠隔地の環境のことをそれぞれ Near-end/Far-end といいます。MY4-AEC のアコースティックエコーキャンセラー(AEC)は、Far-end からの信号を参照信号としてマイク入力信号に含まれるエコー成分について学習を行ない、マイク入力信号から Far-end のエコー成分のみを差し引きます。これにより、Near-end のクリアな音声を相手側に伝達できます。

MY4-AEC の信号は以下の選択や画面で設定します。



From Far-end	遠隔地 (相手側) からの入力信号
Far-end Voice	近接地 (自分側) のスピーカーで再生する遠隔地からの信号
Near-end Mic.	近接地のマイクからの入力信号
Near-end Voice	近接地のスピーカーで再生する近接地のマイクからの信号
To Far-end	遠隔地に送信するエコーキャンセル処理した近接地のマイク信号

## 共通項目

画面が変わっても変化しない項目について説明します。

### 入力と出力について

MY4-AEC は MTX5-D のポートまたは出力チャンネルから音声信号を入力します。また、MY4-AEC は MTX5-D の入力チャンネルに音声信号を出力します。

#### ● 画面選択

各タブをクリックすることにより、音声信号に施す処理をする画面に切り替わります。



#### ● Near-end Mic 選択



近接地のマイク (Near-end Mic.) のポートを選択します。ポート選択ボタンをクリックすると、「Input Patch」ダイアログが開きます。ボタン表面には選択中のポートが表示されます。また、ポート選択ボタンの右側のボタンをクリックすると、パラメーター編集画面がポップアップ表示されます。

### ● From Far-end 選択



遠隔地からの入力信号をどのチャンネルに出力するかを選択します。

#### ① [From Far-end] 信号選択ボタン

遠隔地の音声信号 (From Far-end) を選択する「Input Patch」ダイアログを開きます。ボタン表面には選択中のポートまたはチャンネルが表示されます。

#### ② [NR] ボタン

遠隔地にあるプロジェクターや空調などの恒常的なノイズの除去を行なうノイズリダクション機能のオン / オフを切り替えます。通常はオンにすることをおすすめします。ノイズリダクションのあとで音声信号が参照信号 (REFERENCE) となります。

#### ③ [Far-end Voice] 選択ボタン

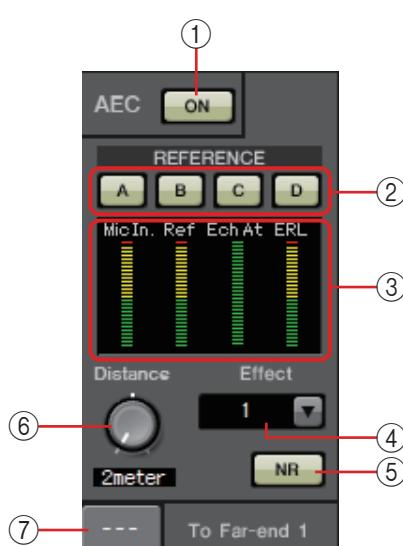
近接地のスピーカーに出力する音声信号 (Far-end Voice) の出力先を選択します。クリックすると「Output Patch」ダイアログを開きます。ボタン表面には選択中のチャンネルが表示されます。

**NOTE** Far-end Voice は Near-end Mic. とミックスしてスピーカーに出力することを想定しています。そのため、MY4-AEC から見ると、MTX の入力チャンネルに対して Far-end Voice を出力します。

## □「To Far-end」画面

マイクのエコーキャンセル処理を設定する画面です。

エコーキャンセル処理をしたあとのマイク信号は遠隔地に出力します。



### ① AEC [ON] ボタン

エコーキャンセラー機能のオン / オフを切り替えます。

### ② REFERENCE[A][B][C][D] ボタン

From Far-end 選択で設定した信号を AEC の参照信号 (REFERENCE) として使用するかどうかを選択します。複数選択した場合は、ミックスされます。

### ③ メーター

Mic In. メーター ..... 自分側のマイク (Near-end Mic.) から入力された信号のレベルを示します。

Ref In. メーター ..... 参照信号のレベルを示します。黄色がときどき点灯する程度のレベルに保つことによって、エコーキャンセラーがより効果的に機能します。

Echo Attn. メーター ..... エコーキャンセル量をチャンネルごとに表示します。このレベルが大きいほどエコーキャンセラーが機能していることを示します。

ERL メーター ..... ERL (エコーリターンロス=スピーカーから出力されて再びマイクに入力される音声のレベル) を示します。このレベルがなるべく小さくなるようにスピーカーとマイクの位置を調整すると、エコーキャンセラーがより効果的に機能します。

### ④ [Effect] リストボックス

エコーの除去量を設定します。数字が大きくなるほど多くのエコーを除去できます。しかしその分音質が劣化しますので、バランスをチェックしながら調節してください。

### ⑤ [NR] ボタン

近接地にあるプロジェクターや空調などの恒常的なノイズの除去を行なうノイズリダクション機能のオン / オフを切り替えます。通常はオンにすることをおすすめします。

## ⑥ [Distance] ノブ

設置しているマイクとスピーカーの距離をメートル単位で設定します。複数のマイクとスピーカーを接続している場合は、最も近いマイクとスピーカーの距離を設定します。距離が2m以下の場合は2に設定してください。

## ⑦ [To Far-end] チャンネル選択ボタン

遠隔地に出力する音声信号 (To Far-end) の出力先を選択します。クリックすると「Output Patch」ダイアログを開きます。

## □ 「Near-end Voice」画面

MY4-AECに内蔵されているFBS (Feed Back Suppressor)に関する設定をする画面です。



## ① FBS[ON] ボタン

フィードバックサプレッサー機能のオン / オフを切り替えます。  
MY4-AECのFBSは、絶えず変化するハウリングポイントを見つけて  
フィルターの設定を更新する方式 (DYNAMICS) です。  
MTX5-Dの電源を切るとリセットされ、ノッチフィルターを挿入してい  
ない状態に戻ります。

## ② [Width] リストボックス

ハウリングを検出した周波数に挿入するノッチフィルターの遮断幅を設  
定します。フィードバックサプレッサーによる音質変化が気になる場合は  
遮断幅を細くしてください。「1/93」に設定するとノッチフィルターの遮  
断幅が最も細くなります。ただし、その場合フィードバックサプレッサー  
の効果が小さくなることがあります。

## ③ [Depth] リストボックス

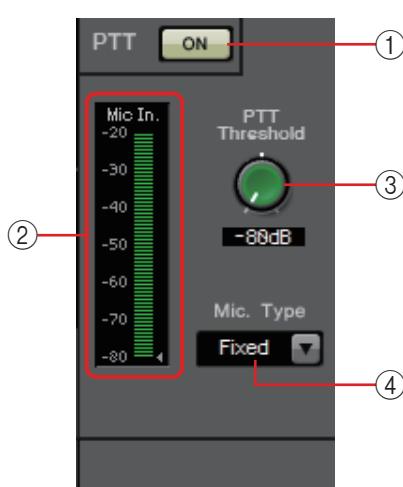
ハウリングを検出した周波数に挿入するノッチフィルターの遮断量を設  
定します。「-18」に設定するとハウリングを最も強く抑制します。ただし、  
その場合フィードバックサプレッサーによる音質変化が大きくなる場合  
があります。

## ④ [Near-end Voice] チャンネル選択ボタン

近接地に出力する音声信号 (Near-end Voice) の出力先を選択します。ク  
リックすると「Output Patch」ダイアログを開きます。

## □「Mic」画面

PTT ( プッシュトゥトーク ) スイッチ付きのマイクを使用した場合、PTT スイッチがオフのときに微小なノイズが生じることがあります。このノイズが AEC に入力されると AEC が誤って学習し、PTT スイッチをオンにして会話を再開したときにエコーが生じてしまいます。この画面はそのような現象を防ぐための設定やマイクのタイプの設定をします。



### ① PTT[ON] ボタン

オンに設定すると、近接地のマイク (Near-end Mic.) からの入力レベルが PTT Threshold で設定した値を下回ったときにマイクの PTT スイッチがオフになったと判断し、AEC の学習を停止します。通常はオンにすることをおすすめします。

### ② Mic In. メーター

近接地のマイク (Near-end Mic.) から入力された信号のレベルを示します。マイクの PTT ボタンをオフにしたときに生じるノイズのレベルもこのメーターで確認できます。

### ③ [PTT Threshold] ノブ

AEC が学習を行なう基準レベルを設定します。PTT[ON] ボタンがオンに設定されているとき、近接地のマイク (Near-end Mic.) への入力信号がこのレベルよりも下回ると AEC の学習が止まり、このレベルを超えると学習が再開します。入力信号のレベルは Mic In. メーターで確認します。

### ④ [Mic. Type] リストボックス

接続しているマイクの種類を設定します。

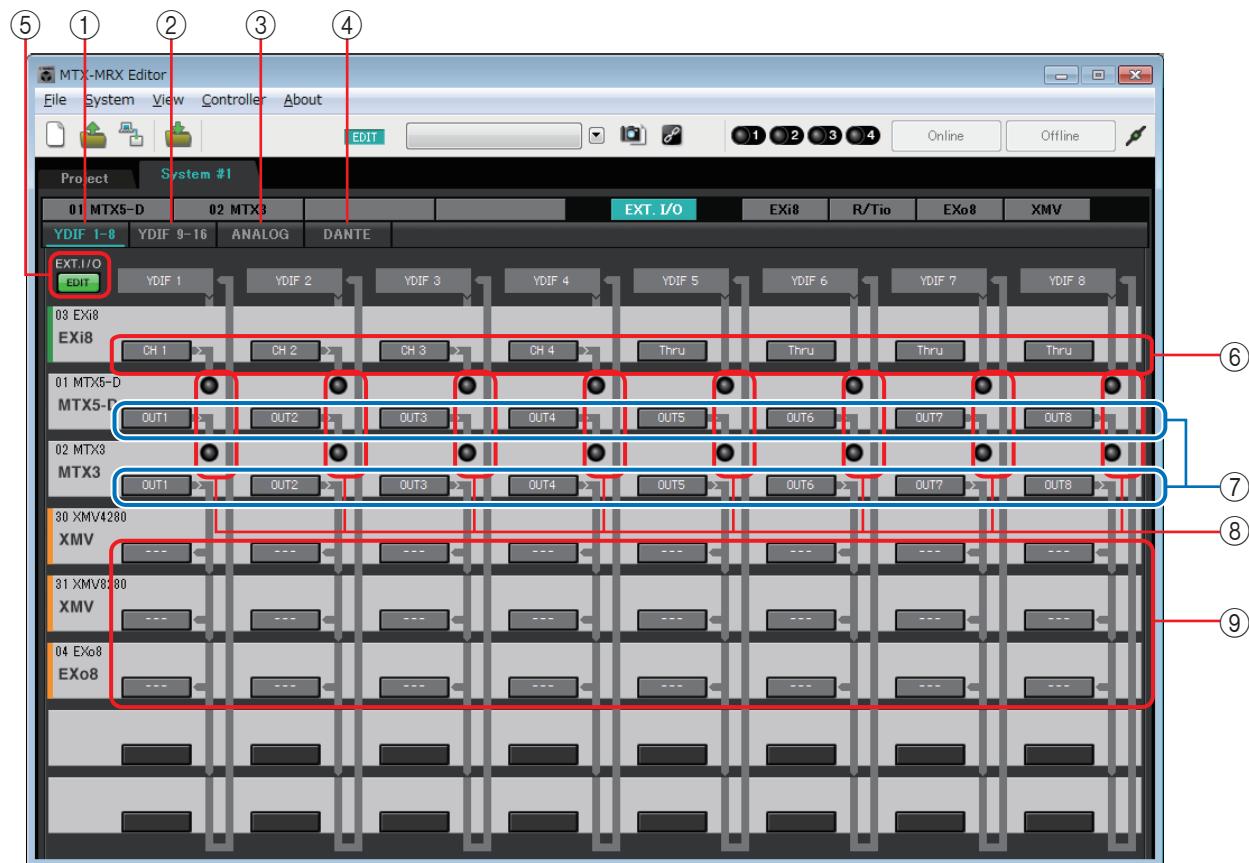
マイクとスピーカーの距離が固定された環境では「Fixed」に、ハンドマイクなど距離が変化する環境では「Moving」に設定してください。また、マイクとスピーカーの距離が固定された環境であっても、エコーが気になる場合は、「Moving」に設定してください。

# 「EXT. I/O」画面

MTX シリーズや MRX シリーズの YDIF 端子やアナログ端子の信号経路を選択します。

## □「YDIF」画面 (Distribution モード)

Distribution モードのときの画面です。



### ① [YDIF 1-8] ボタン

「YDIF1-8」画面を表示します。YDIF 1-8 チャンネルのルーティングを設定します。

### ② [YDIF 9-16] ボタン

「YDIF9-16」画面を表示します。

YDIF 9-16 チャンネルのルーティングを設定します。

### ③ [ANALOG] ボタン

「ANALOG」画面を表示します。

### ④ [DANTE] ボタン

「DANTE」画面を表示します。

### ⑤ [EDIT] ボタン

MTX/MRX 以外の機器の入力経路選択ボタン / 出力経路選択ボタンを有効にします。

**NOTE** [EDIT] ボタンは、Distribution モードで MTX/MRX 以外が YDIF 接続されていて、オフライン状態のときのみ有効です。

#### ⑥ 入力経路選択ボタン

YDIF 信号の入力元の機器とチャンネルを選択する「YDIF In Patch」ダイアログを開きます。このボタンを有効にするには、[EDIT] ボタンをクリックします。

- NOTE**
- ・ ここで設定はプリセットに含まれません。そのため、簡単に変更できないように [EDIT] ボタンをクリックしてから変更するようになっています。
  - ・ Distribution モードで EXi8 が YDIF 接続されていて、オフライン状態のときのみ有効です。

#### ⑦ MTX から YDIF への出力信号の選択ボタン

YDIF のチャンネルに MTX のどの信号を出力するかを選択する「Channel Select」ダイアログを開きます。ここで設定はプリセットに含まれます。

#### ⑧ YDIF IN の入力インジケーター

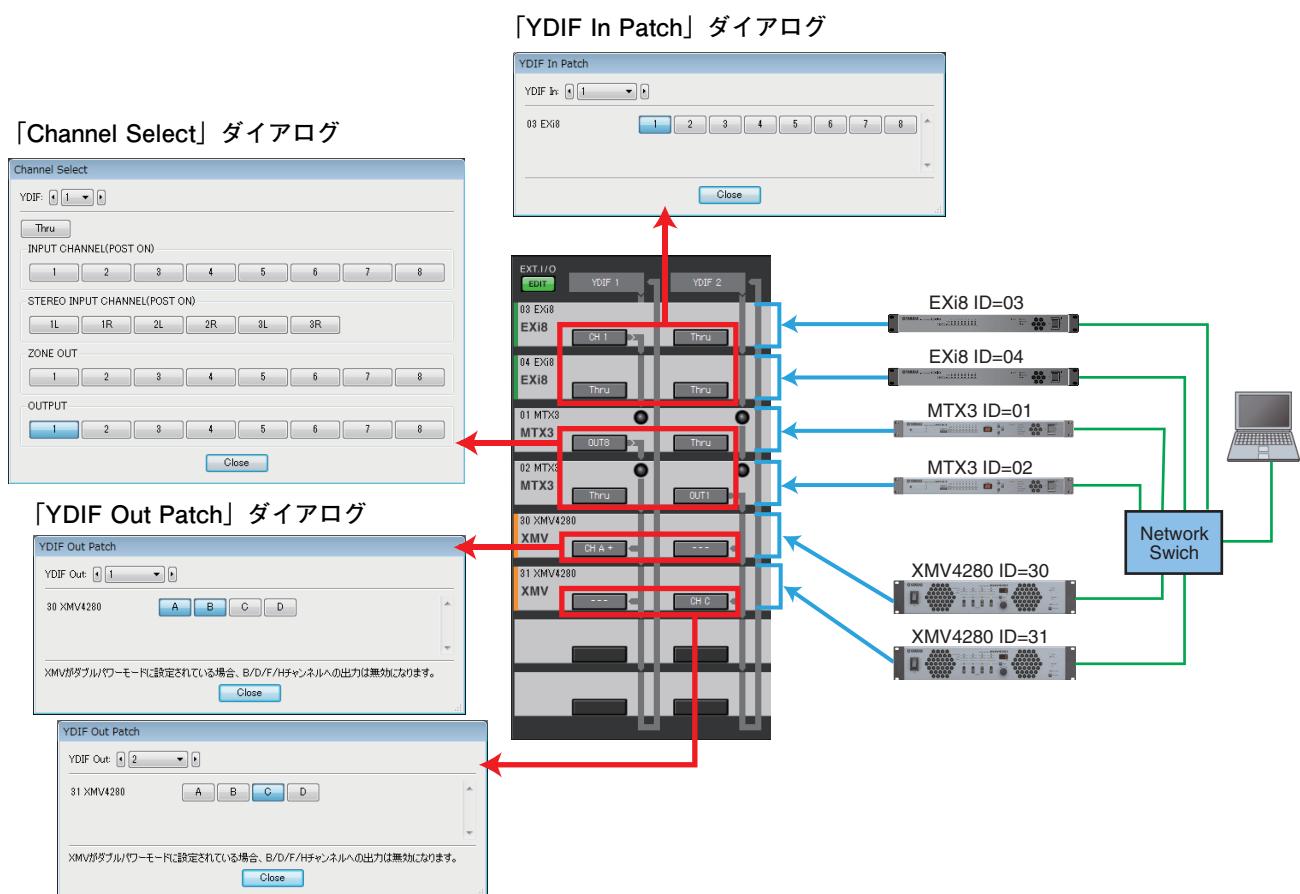
MTX/MRX の YDIF 入力信号を確認するためのインジケーターです。

#### ⑨ 出力経路選択ボタン

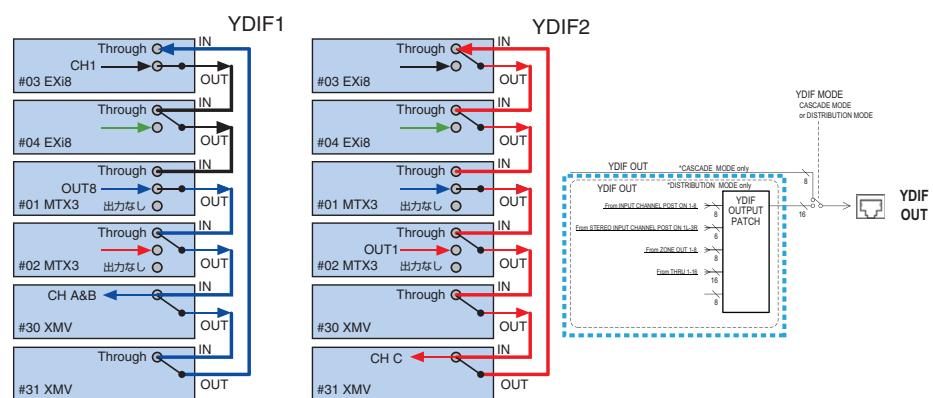
YDIF 信号の出力先の機器とチャンネルを選択する「YDIF Out Patch」ダイアログを開きます。このボタンを有効にするには、[EDIT] ボタンをクリックします。

- NOTE**
- ・ ここで設定はプリセットに含まれません。そのため、簡単に変更できないように [EDIT] ボタンをクリックしてから変更するようになっています。
  - ・ Distribution モードで XMV が YDIF 接続されていて、オフライン状態のときのみ有効です。

## 「YDIF」画面および各ダイアログの設定との相関図



上図設定時の YDIF での信号の流れ

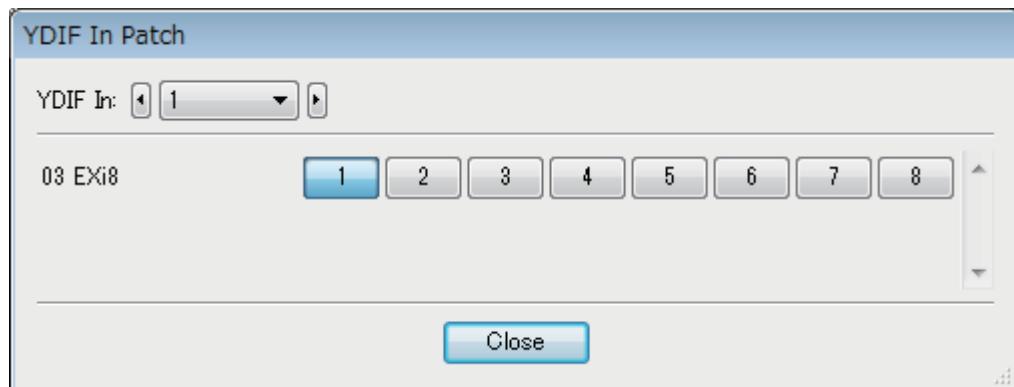


### YDIFについて

YDIF 接続時に XMV は音声信号をそのまま EXi8/EXo8、もしくは MTX/MRX に送ります。 EXi8/MTX/MRX で別の音声信号を出力するか、出力を止めないと音声信号はループします。

## □「YDIF In Patch」ダイアログ

YDIF 信号の入力元のチャンネルを選択します。



- [YDIF In:] リストボックス  
編集対象の YDIF チャンネルを選択します。
- チャンネル選択ボタン  
チャンネルを選択します。左には入力元の機器の ID とモデル名が表示されます。
- [Close] ボタン  
「YDIF In Patch」ダイアログを閉じます。

## □「YDIF Out Patch」ダイアログ

YDIF 信号の出力先のチャンネルを選択します。出力先は複数選択できます。



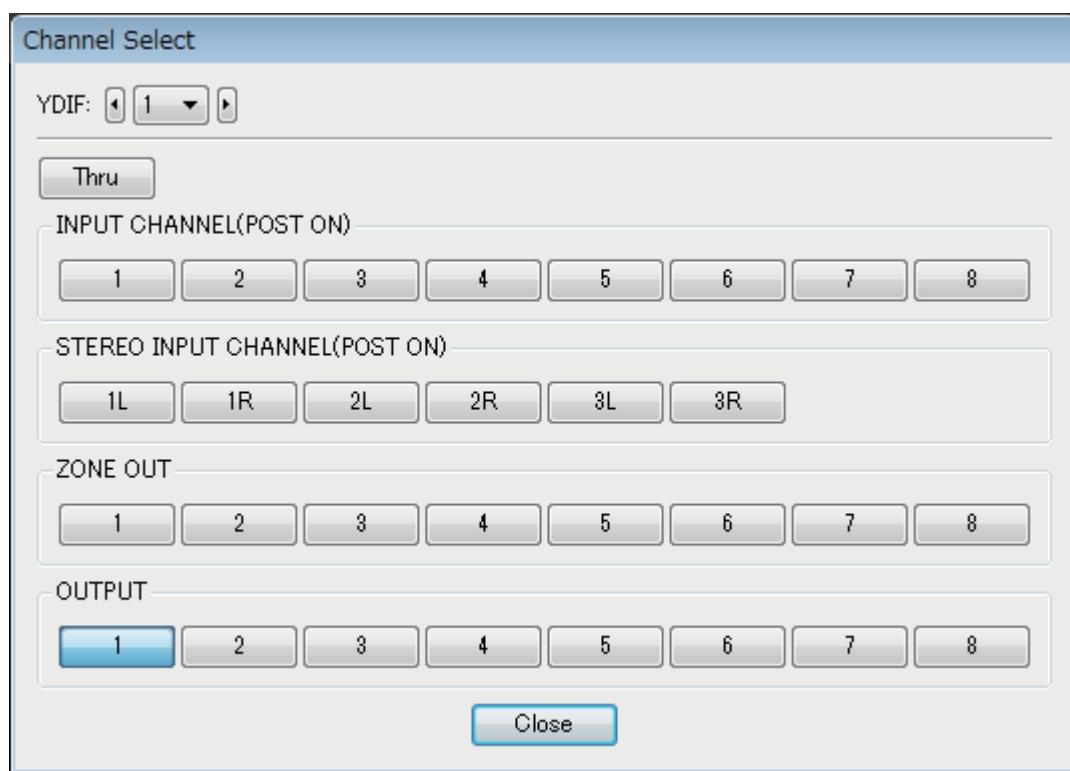
- [YDIF Out:] リストボックス  
編集対象の YDIF チャンネルを選択します。
- チャンネル選択ボタン  
チャンネルを選択します。左には出力先の機器の ID とモデル名が表示されます。  
ボタンの縁の色は「Project」画面の [Device] タブで INPUT SOURCE として設定されたものに合わせて変化します。
- [Close] ボタン  
「YDIF Out Patch」ダイアログを閉じます。

## □「Channel Select」ダイアログ

MTX から YDIF へ出力する信号を選択します。

何も選択していない場合、信号が YDIF へ出力されません。

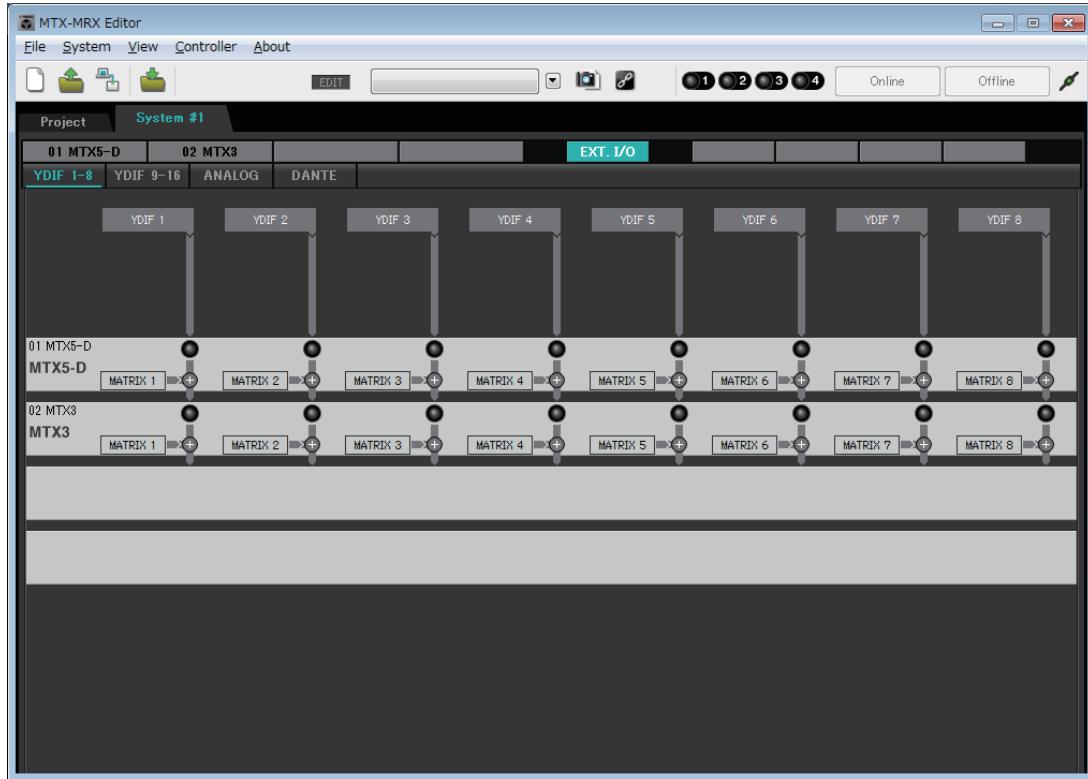
MRX は「MRX Designer」ウィンドウでの結線で送り先を決めます。



- **[YDIF:] リストボックス**  
編集対象の YDIF チャンネルを選択します。
- **[Thru] ボタン**  
YDIF 入力に入ってきた信号をそのまま、その YDIF チャンネルに送ります。
- **INPUT CHANNEL(POST ON)**  
入力チャンネルの POST(MUTE 切り替えのあと) 信号を YDIF チャンネルに送ります。
- **STEREO INPUT CHANNEL(POST ON)**  
ステレオ入力チャンネルの POST ON(MUTE 切り替えのあと) 信号を YDIF チャンネルに送ります。
- **ZONE OUT**  
ZONE 出力の信号を YDIF チャンネルに送ります。
- **OUTPUT CHANNEL**  
出力チャンネルの信号を YDIF チャンネルに送ります。
- **[Close] ボタン**  
「Channel Select」ダイアログを閉じます。

## □「YDIF」画面 (Cascade モード)

Cascade モードのときの画面です。どの MTX の MATRIX バスが、どの YDIF に出力しているかを表示します。



YDIFへの出力は「MTX Configuration」ダイアログの「OUTPUT」タブにある「CASCADE MODE」でオン/オフできます。

## □「ANALOG」画面

音声信号がアナログで入力される XMV とそのチャンネルを選択します。この設定により、アナログ接続されている XMV のパラメーターを [パラメーター編集画面](#)からコントロールできます。ただし、音声のルーティング設定はできません。



### ① MTX/MRX 切り替えボタン

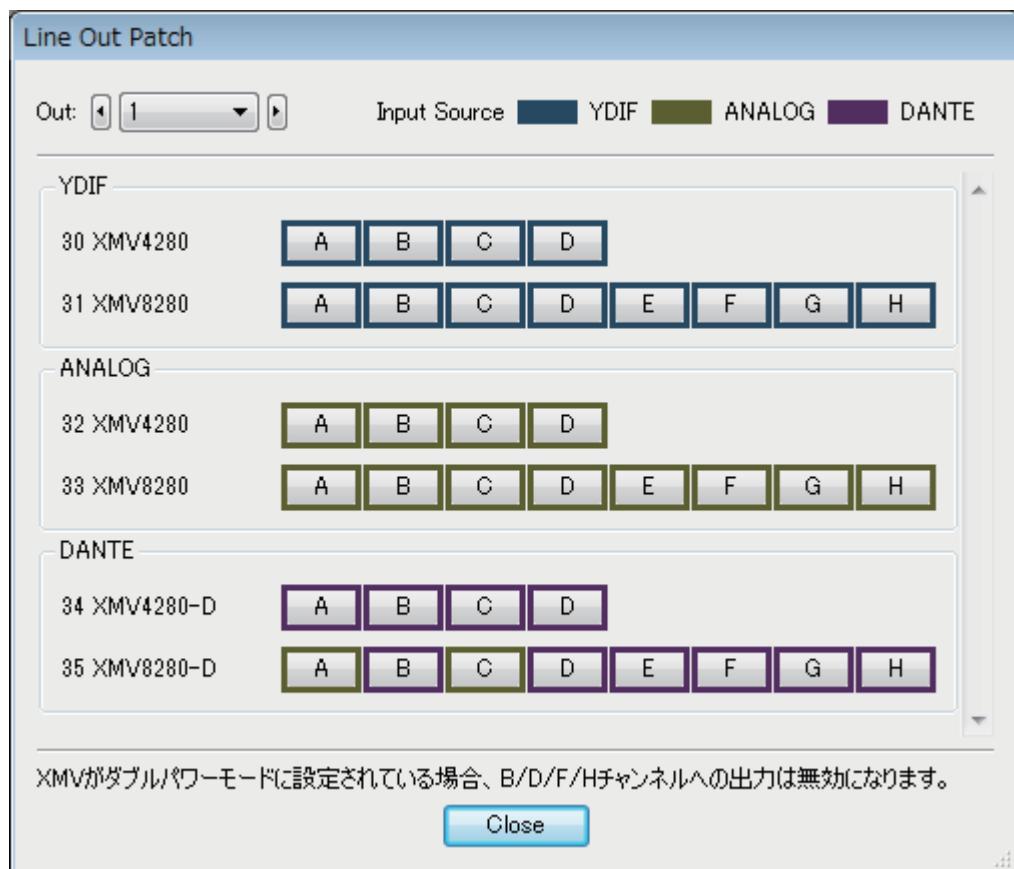
編集対象となる MTX/MRX を選択します。

### ② 出力経路の選択ボタン

出力経路を選択する「[Line Out Patch](#)」ダイアログを開きます。

## □「Line Out Patch」ダイアログ

MTX/MRX からアナログ信号を出力するときの、出力先の機器とチャンネルを設定します。出力先は複数選択できます。

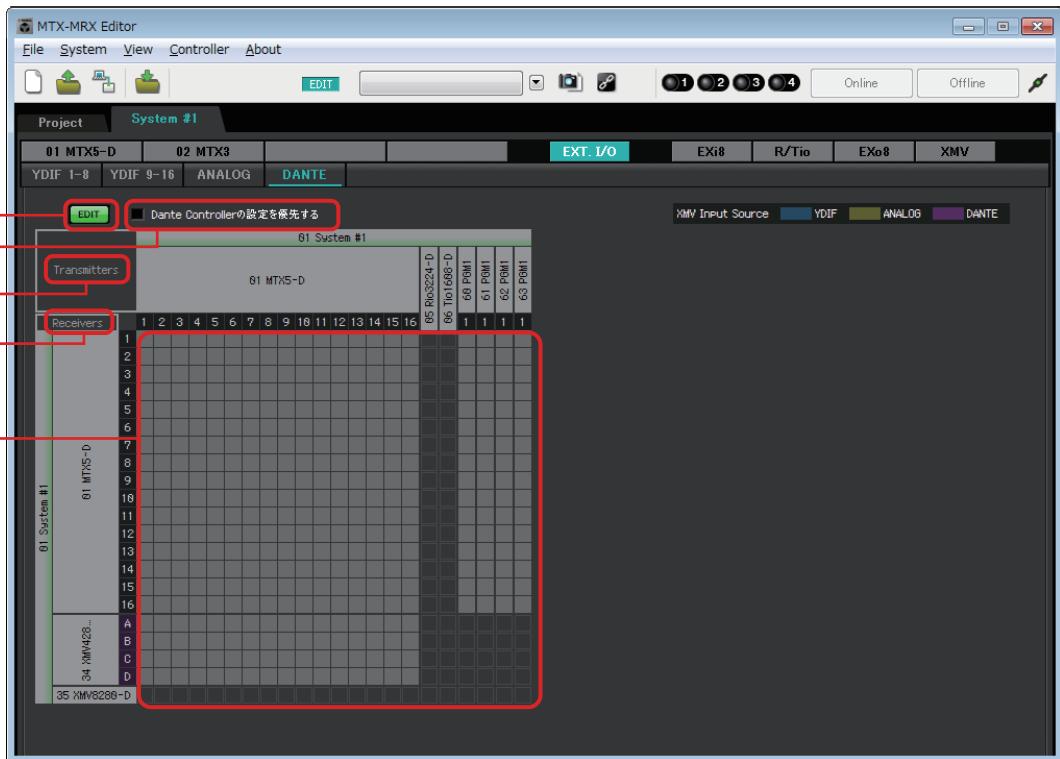


- [Out] リストボックス  
編集対象の出力チャンネルを選択します。
- チャンネル選択ボタン  
出力先の機器とチャンネルを選択します。左には出力先の機器の ID とモデル名が表示されます。  
ボタンの縁の色は「Project」画面の [Device] タブで INPUT SOURCE として設定されたものに合わせて変化します。

INPUT SOURCE	ボタンの縁の色	
YDIF	紺	
Analog	黄土	
DANTE	紫	

- [Close] ボタン  
「Line Out Patch」ダイアログを閉じます。

## □「DANTE」画面



### ① [EDIT] ボタン

オンになると編集ができます。

### ② [Dante Controller の設定を優先する] チェックボックス

Audinate 社の Dante Controller を使って Dante ネットワークを構築する場合にチェックを入れてください。MTX-MRX Editor での設定より Dante Controller の設定を優先するようになります。チェックを外すと MTX-MRX Editor でプロジェクト内の Dante ネットワークの設定ができるようになります。

### ③ [Transmitters]

送信側の機器とチャンネルが表示されます。機器名の欄をクリックすると表示を展開 / 省略します。MRX の場合、表示を展開したあとにチャンネルの範囲をクリックするとチャンネルの表示を 16 チャンネル単位で展開 / 省略します。

機器名をドラッグ & ドロップすると順番の入れ替えができます。

カーソルを機器のところに合わせると所属が見えます。

### ④ [Receivers]

受信側の機器とチャンネルが表示されます。機器名の欄をクリックすると表示を展開 / 省略します。MRX の場合、表示を展開したあとにチャンネルの範囲をクリックするとチャンネルの表示を展開 / 省略します。

XMV のチャンネルの縁の色は「Project」画面の [Device] タブで INPUT SOURCE として設定されたものに合わせて変化します。色については前ページを参照してください。

機器名をドラッグ & ドロップすると順番の入れ替えができます。

カーソルを機器のところに合わせると所属が見えます。

R シリーズ (AD/DA) や Tio1608-D が信号を受信する設定は、Dante Controller で行ってください。

**NOTE** 受信側の機器は最大 24 台からの信号を受信できます。

## ⑤マトリクス

入力チャンネルと出力チャンネルが交差する位置でクリックして、送受信の割り当てを変更します。●がつくとオンになります。Dante Controller で Device Lock されている機器は変更できません。

右クリックすると表示される Update Device Information を実行すると Device Lock の状態と Rio/Tio の Dante Device Name が更新されます。

**NOTE** マトリクスは以下の操作で表示を移動させることができます。

- ・キーボードのカーソルキーで上下左右に移動
- ・マウスホイール操作で上下に移動
- ・キーボードの <Shift> を押しながらマウスホイール操作で左右に移動

## ●AES67

MTX5-D、MRX7-D、XMV シリーズの Dante モデルが V3.20 で AES67 に対応しました。

機器を AES67 モードに設定する場合は、Dante Controller を使用してください。AES67 対応機器と MTX5-D、MRX7-D、XMV シリーズの Dante モデルのルーティングは Dante Controller を使用してください。

MTX5-D、MRX7-D、XMV シリーズの Dante モデルが何らかの AES67 対応機器から信号を受信している場合、[Transmitters] に “AES67” が表示され、マトリクスにパッチ情報が表示されます。

MTX-MRX Editor では、AES67 対応機器とのパッチを削除することはできますが、再度設定することはできません。

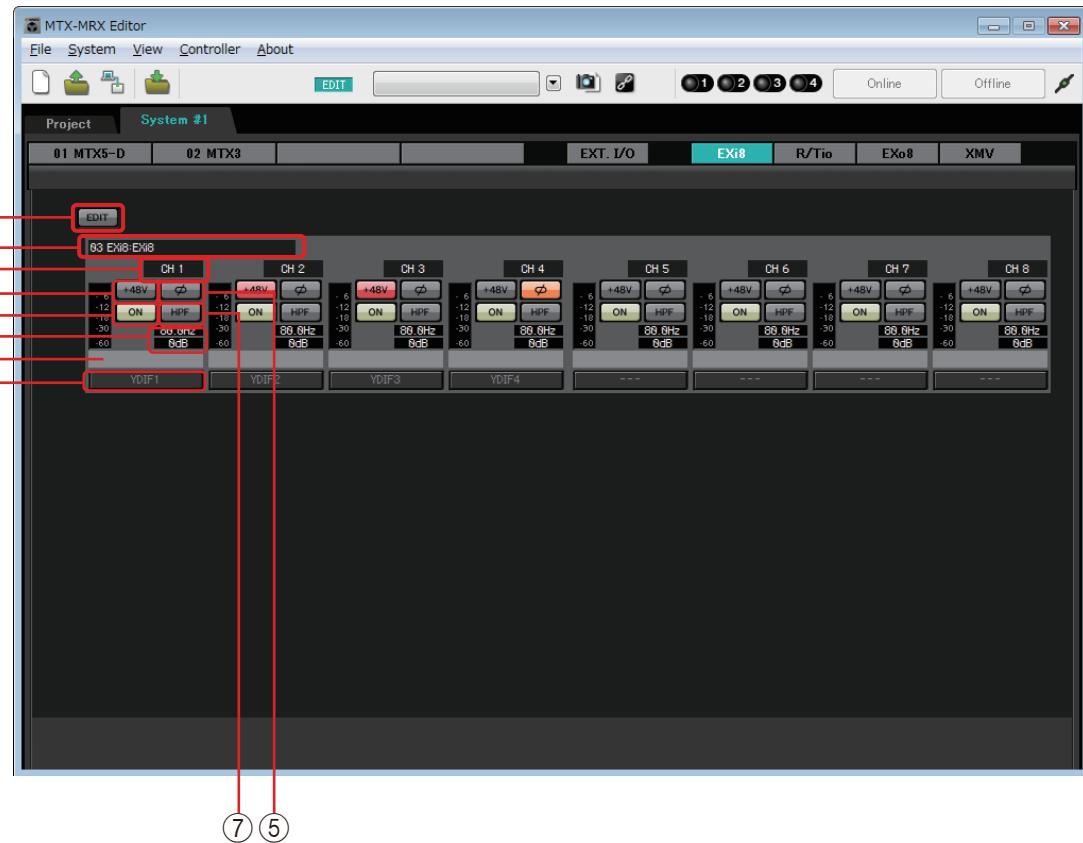
## ●Device Lock

MTX5-D、MRX7-D、XMV シリーズの Dante モデルが V3.2 で Device Lock に対応しました。

機器をロックする場合は、Dante Controller を使用してください。ロックされた機器は赤く表示されます。

## 「EXi8」画面

MTX/MRXシステムにあるEXi8のパラメーターの表示および設定をします。任意のEXi8表示領域で右クリックすると、コンテキストメニューが表示され、機器単位で設定をコピー&ペーストできます。



### ① [EDIT] ボタン

EXi8 の出力経路選択ボタンを有効にします。

**NOTE** [EDIT] ボタンはオフライン状態のときのみ有効です。

### ② EXi8 識別欄

該当 EXi8 の UNIT ID、機器のタイプ、機器名を表示します。

### ③ チャンネルインデックス

EXi8 のチャンネル番号を表示します。

### ④ [+48V] ボタン

HA のファンタム電源 (+48V) のオン / オフを切り替えます。

#### 注記

ファンタム電源が不要な場合、ボタンをオフにしてください。

ファンタム電源をオンにする場合、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- [INPUT] 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、ボタンをオフにする。
- ボタンをオンにしたまま、[INPUT] 端子でケーブルの抜き差しをしない。
- ファンタム電源のオン / オフは、出力レベルを最小にした状態で行なう。

**NOTE** マスタースイッチはありません。故障の原因となりますので、接続する機器に合わせて設定してください。

### ⑤ [φ] ボタン

入力信号の位相を切り替えます。

## ⑥ [ON] ボタン

入力チャンネルのオン / オフを切り替えます。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。

## ⑦ [HPF] ボタン / カットオフ周波数

[HPF] ボタンで、HPF(ハイパスフィルター)のオン / オフを切り替えます。

[HPF] ボタンの下にカットオフ周波数を表示します。カットオフ周波数をダブルクリックすると編集できます。

## ⑧ HA アナログゲイン

HA アナログゲイン値を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

## ⑨ チャンネル名

チャンネル名を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

## ⑩ 出力経路選択ボタン

音声信号の出力先のチャンネルを選択する「EXi Patch」ダイアログを開きます。

このボタンを有効にするには、[EDIT] ボタンをクリックします。

## □ 「EXi8 Patch」ダイアログ

EXi8 の音声信号の出力先チャンネルを選択します。



- [YDIF] ボタン

出力先のチャンネルを選択します。

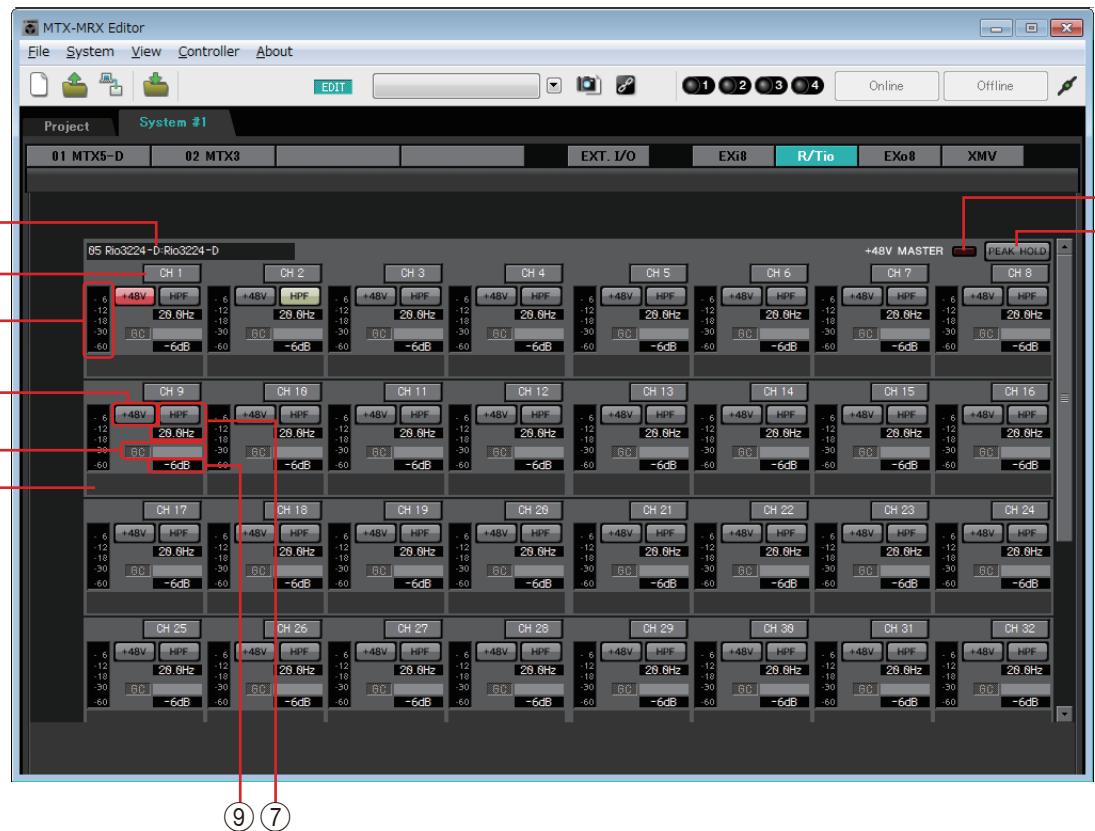
- [Close] ボタン

「EXi8 Patch」ダイアログを閉じます。

## 「R/Tio」画面

Rシリーズ(AD/DA)とTio1608-Dにあるアナログ入力端子のパラメーターの表示および設定をします。任意のRシリーズ(AD/DA)とTio1608-D表示領域で右クリックすると、コンテキストメニューが表示され、機器単位で設定をコピー&ペーストできます。

**NOTE** Ro8-Dはアナログ入力端子がないため、表示されません。



### ① 機器識別欄

「Project」画面の [Device] タブで設定した DEVICE NAME を表示します。

### ② 「+48V MASTER」インジケーター

機器のマスターファンタム電源のオン / オフ状態が表示されます。

### ③ [PEAK HOLD] ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

### ④ チャンネルボタン

機器の [INPUT] 端子番号を表示します。クリックすると該当する端子のインジケーターが約5秒間点灯し、端子を確認できます。

### ⑤ レベルメーター

入力信号のレベルを表示します。

### ⑥ [+48V] ボタン

HAのファンタム電源(+48V)のオン / オフを切り替えます。本体のマスターファンタム電源がオンのときに有効です。

**⑦ [HPF] ボタン / カットオフ周波数**

[HPF] ボタンで、HPF(ハイパスフィルター)のオン / オフを切り替えます。

[HPF] ボタンの下にカットオフ周波数を表示します。カットオフ周波数をダブルクリックすると編集できます。

**⑧ [GC] インジケーター / ゲイン値**

Rシリーズ(AD/DA)のゲインコンペンセーションのオン / オフ状態が表示されます。ゲインコンペンセーションがオンのときは、ゲインコンペンセーションにより固定されたゲイン値が表示されます。

**⑨ HA アナログゲイン**

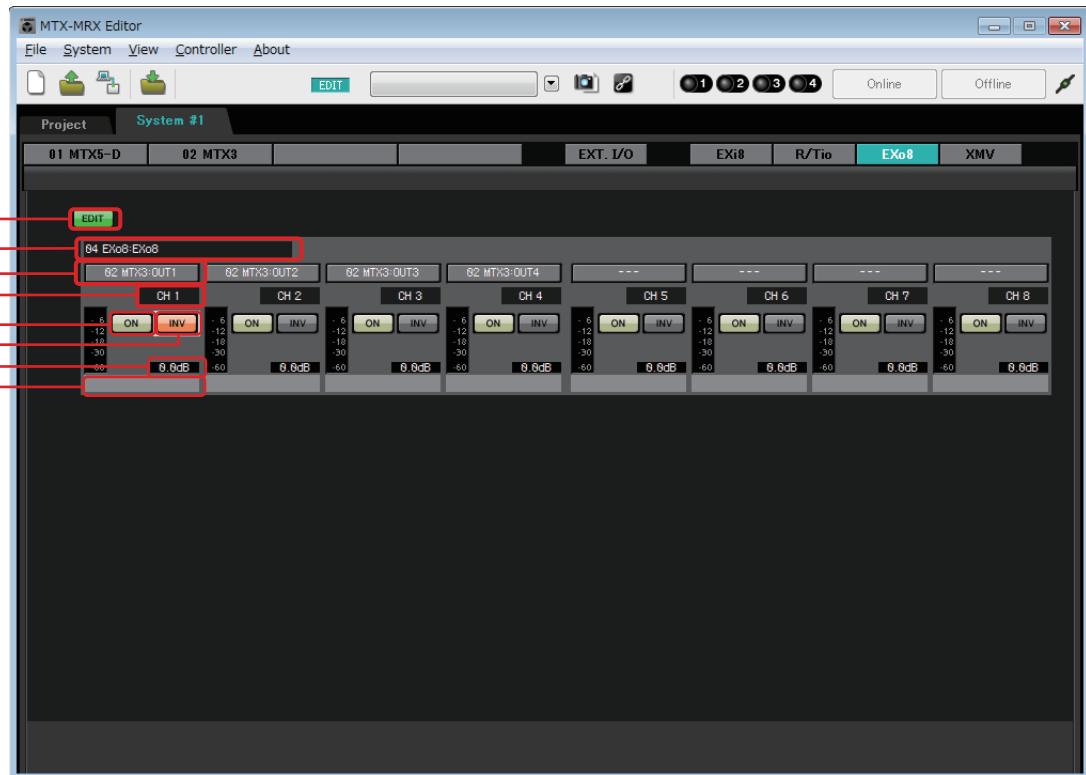
HA アナログゲイン値を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

**⑩ チャンネル名**

チャンネル名を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

## 「EXo8」画面

MTX/MRXシステムにあるEXo8のパラメーターの表示および設定をします。任意のEXo8表示領域で右クリックすると、コンテキストメニューが表示され、機器単位で設定をコピー&ペーストできます。



### ① [EDIT] ボタン

EXo8の入力経路選択ボタンを有効にします。

**NOTE** [EDIT] ボタンはオフライン状態のときのみ有効です。

### ② EXo8 識別欄

該当EXo8のUNIT ID、機器のタイプ、機器名を表示します。

### ③ 入力経路選択ボタン

音声信号の出力元の機器とチャンネルを選択する「EXo8 Patch」ダイアログを開きます。

このボタンを有効にするには、[EDIT] ボタンをクリックします。

### ④ チャンネルインデックス

EXo8のチャンネル番号を表示します。

### ⑤ [ON] ボタン

出力チャンネルのオン / オフを切り替えます。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。

### ⑥ POLARITY ボタン

出力信号の極性を切り替えます。

### ⑦ アッテネーター

EXo8の出力アッテネーター値を表示します。

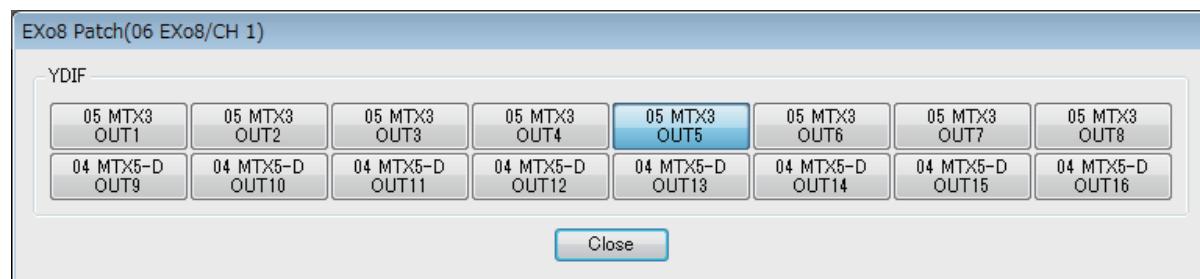
ダブルクリックすると編集できます。

### ⑧ チャンネル名

チャンネル名を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

## □「EXo8 Patch」 ダイアログ

EXo8 の音声信号の出力元チャンネルを選択します。

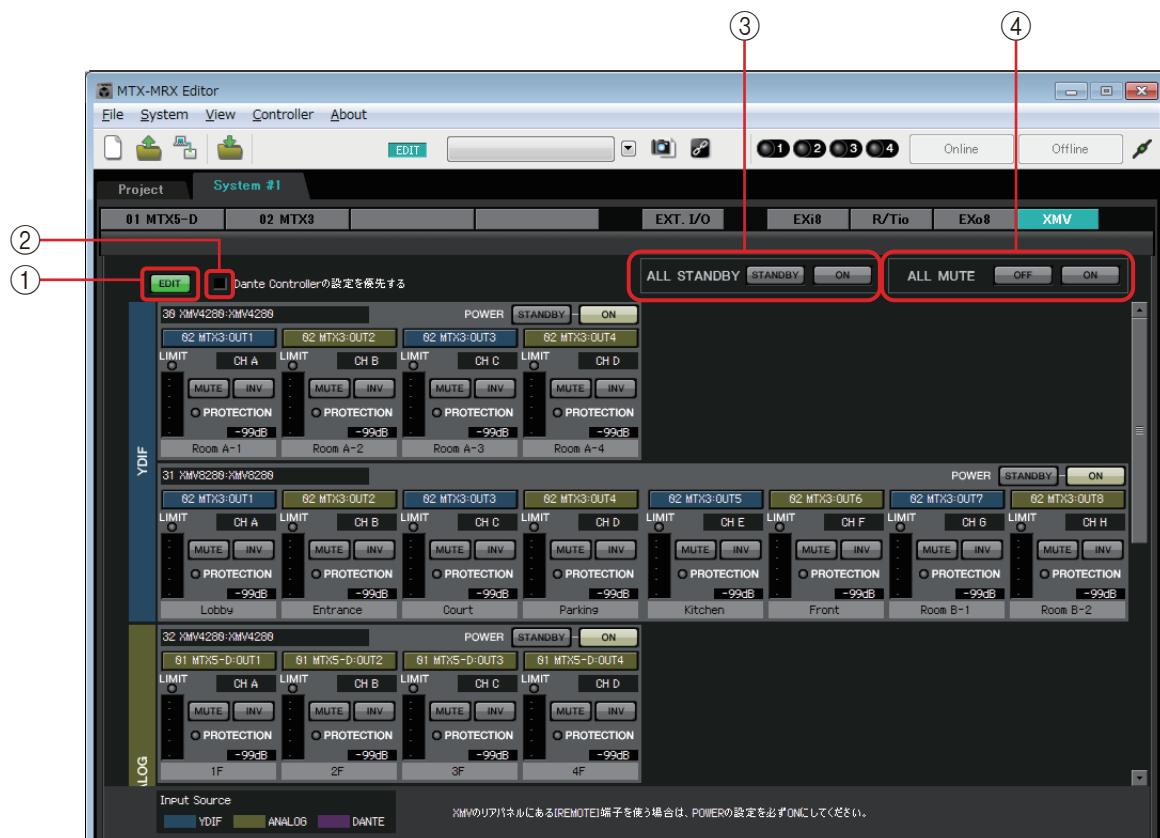


- [YDIF] ボタン  
出力元のチャンネルを選択します。
- [Close] ボタン  
「EXo8 Patch」ダイアログを閉じます。

## 「XMV」画面

MTX/MRX システムにある XMV のパラメーターの表示および設定をします。YDIF 接続、アナログ接続、Dante 接続と接続方式別にグループ化されています。任意の XMV 表示領域で右クリックすると、コンテキストメニューが表示され、機器単位で設定をコピー&ペーストできます。

**NOTE** デジタル接続とアナログ接続が混在する場合は、Project 画面の [Device] タブで XMV の入力感度を [-20dBFS] にすることをおすすめします。[-20dBFS] にすることによって、デジタル接続とアナログ接続の入力感度が同じになります。



### ① [EDIT] ボタン

YDIF 接続および Dante 接続されている XMV の入力経路選択ボタンを有効にします。

**NOTE** [EDIT] ボタンはオフライン状態のときのみ有効です。

### ② [Dante Controller の設定を優先する] チェックボックス

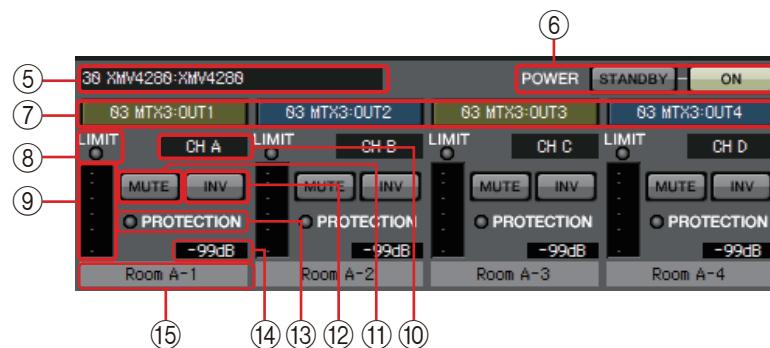
Audinate 社の Dante Controller を使って Dante ネットワークを構築する場合にチェックを入れてください。MTX-MRX Editor での設定より Dante Controller の設定を優先するようになります。

### ③ [ALL STANDBY]

[STANDBY] ボタンをクリックすると、MTX/MRX システム内のすべての XMV の電源をスタンバイにします。[ON] ボタンをクリックすると、MTX/MRX システム内のすべての XMV の電源をオンにします。

### ④ [ALL MUTE]

[OFF] ボタンをクリックすると、MTX/MRX システム内のすべての XMV のミュートを解除します。[ON] ボタンをクリックすると、MTX/MRX システム内のすべての XMV をミュートにします。



### ⑤ XMV 認別欄

該当 XMV の UNIT ID、機器のタイプ、機器名を表示します。

### ⑥ [POWER]

[STANDBY] ボタンをクリックすると、該当 XMV の電源をスタンバイにします。[ON] ボタンをクリックすると、該当 XMV の電源をオンにします。

### ⑦ 入力経路選択ボタン

音声信号の出力元の機器とチャンネルを選択する「XMV Patch」ダイアログを開きます。

YDIF 接続または Dante 接続の XMV でこのボタンを有効にするには、[EDIT] ボタンをクリックします。

ボタンの縁の色は「Project」画面の [Device] タブで INPUT SOURCE として設定されたものに合わせて変化します。

INPUT SOURCE	ボタンの縁の色	
YDIF	紺	
Analog	黄土	
DANTE	紫	

### ⑧ [LIMIT] インジケーター

XMV 本体でリミッターが機能しているときに点灯します。

### ⑨ メーター

出力信号のレベルを表示します。

### ⑩ チャンネルインデックス

XMV のチャンネル番号を表示します。

### ⑪ [MUTE] ボタン

出力チャンネルのミュートのオン / オフを切り替えます。

### ⑫ POLARITY ボタン

出力信号の極性を切り替えます。

### ⑬ [PROTECTION] インジケーター

XMV 本体でプロテクションが機能しているときに点灯します。

### ⑭ アッテネーター

XMV の出力アッテネーター値を表示します。

ダブルクリックすると編集できます。

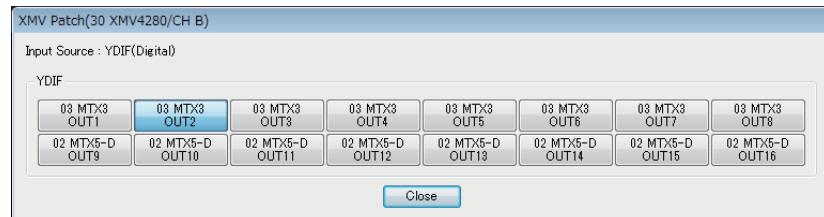
### ⑮ チャンネル名

チャンネル名を表示します。ダブルクリックすると編集できます。

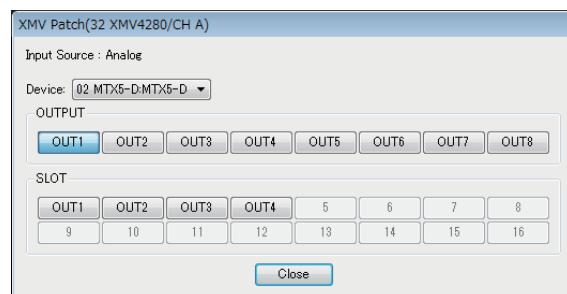
## □「XMV Patch」 ダイアログ

XMV の音声信号の出力先の機器とチャンネルを選択します。接続によって表示項目が異なります。

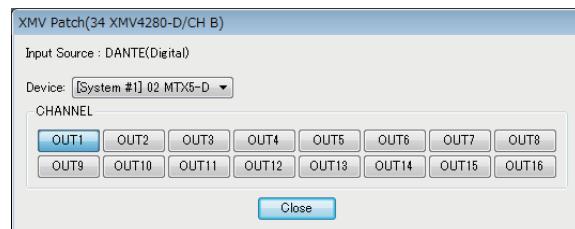
### YDIF



### アナログ



### DANTE



- **Input Source**

「Project」画面の [Device] タブで INPUT SOURCE として設定されたものを表示します。

- **[Device:] リストボックス (YDIF 以外)**

出力元の機器を選択します。

- **チャンネルボタン**

出力元のチャンネルを選択します。

- **[Close] ボタン**

「XMV Patch」ダイアログを閉じます。

# 第5章 オンラインと同期

MTX/MRX とコンピューターを接続して、MTX-MRX Editor で作成した各種設定を MTX/MRX に転送したり、MTX/MRX と MTX-MRX Editor を同期させて各種設定を変更したりします。また、MTX/MRX のデータを MTX-MRX Editor に取り込むこともできます。

MTX/MRX と MTX-MRX Editor が同期して動作する状態を「オンライン状態」と呼びます。また、その状態にするための操作を「同期 (Synchronization)」と呼びます。

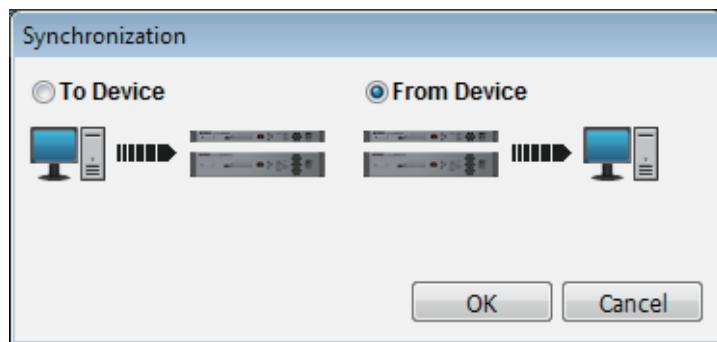
同期によって MTX-MRX Editor と MTX/MRX 本体の設定を合わせて、両者の設定を一致させるとオンライン状態となり、MTX/MRX をリアルタイムでコントロールできるようになります。

**NOTE** エマージェンシーモードになるとオンライン状態は解除されます。また、エマージェンシーモードの MTX/MRX システムと同期することはできません。

## オンライン

MTX-MRX Editor でオンライン状態にするためには、ツールボタンの [Online] ボタンをクリックすると表示される「Synchronization」ダイアログで行なう方法と、[File] メニューの [Go Online – From Devices] を選択すると表示される「Go Online – From devices」ダイアログで行なう方法があります。使い分けについては「[同期](#)」を参照してください。

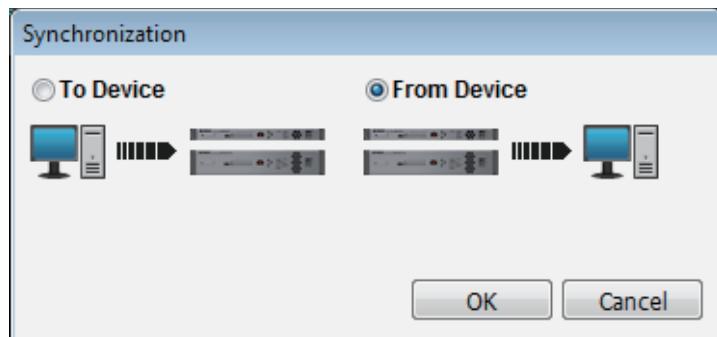
### □「Synchronization」ダイアログ



- **[To Device] ラジオボタン**  
MTX-MRX Editor の設定を MTX/MRX システムに反映させる場合に選択します。
- **[From Device] ラジオボタン**  
MTX/MRX システムの設定を MTX-MRX Editor に反映させる場合に選択します。
- **[OK] ボタン**  
クリックすると、同期するシステムを選択する表示に切り替わります。
- **[Cancel] ボタン**  
クリックすると、同期をせずにダイアログを閉じます。

## 操作手順

- ツールバーの [Online] ボタンをクリックします。  
「Synchronization」ダイアログ (同期方向選択) が表示されます。



- [To Device] または [From Device] から同期の方向を選択します。  
[OK] ボタンをクリックすると、同期するシステムを選択する表示に切り替わります。  
[Cancel] ボタンをクリックすると操作がキャンセルされます。

### [To Device] を選択した場合

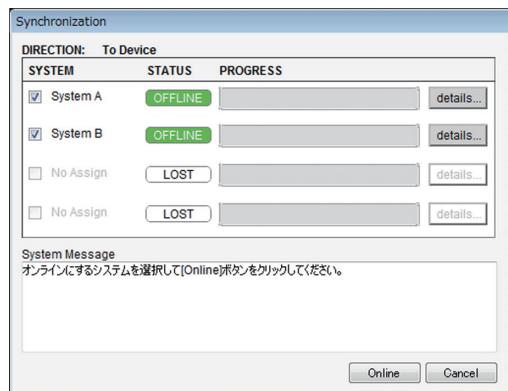
MTX-MRX Editor の設定を機器に送信し上書きします。

### [From Device] を選択した場合

機器の設定を MTX-MRX Editor に読み込みます。

**NOTE** MTX-MRX Editor のプロジェクトファイルと機器とで PIN コードが違っていると、PIN コードの確認ダイアログが表示されます。正しい PIN コードを入力するとオンライン状態にできます。

- オンラインにする MTX/MRX システムにチェックを入れます。



- [Detail] ボタン**

各 MTX/MRX システムの機器ごとの進捗や同期状態、エラーメッセージを表示します。

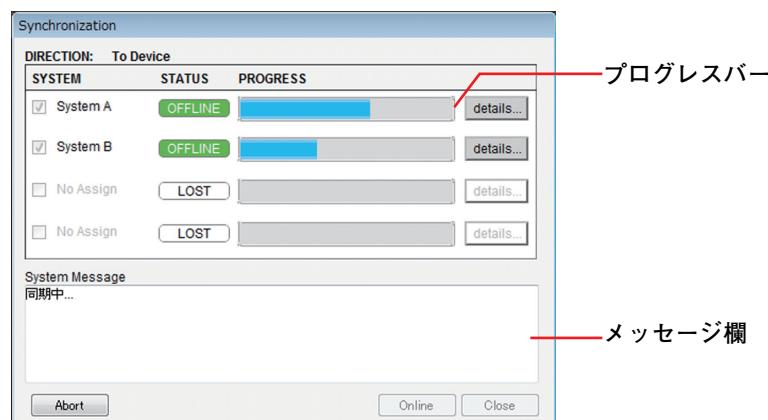
**4. [Online] ボタンをクリックします。**

同期を開始します。[Cancel] ボタンをクリックすると操作がキャンセルされます。

**NOTE** オンラインにする MTX/MRX システムに MRX が設定されているが、コンパイルを実施していない場合、自動的にコンパイルを実行します。コンパイルに失敗あるいはメモリー使用量が 100% を超えた場合、「Compile」ダイアログが表示され、同期を中止します。

**5. 同期状態の進捗が表示されます。**

[Abort] ボタンをクリックすると、動作が中断されます。同期途中に間違いに気づき、パラメーターを変更したい場合などの時間短縮に有効です。設定は途中まで送信されていますので、修正などをしたあとに、必ず同期を最後まで行なってください。



- **プログレスバー**

同期の進捗状態が表示されます。

- **メッセージ欄**

[Abort] ボタンをクリックして中断したり、エラーが発生した場合、詳細がここに表示されます。

- **[Abort] ボタン**

クリックすると、同期を中断します。

- **[Online] ボタン**

クリックすると選択した MTX/MRX システムと同期を開始します。

- **[Close] ボタン**

同期をキャンセルし、画面を閉じます。

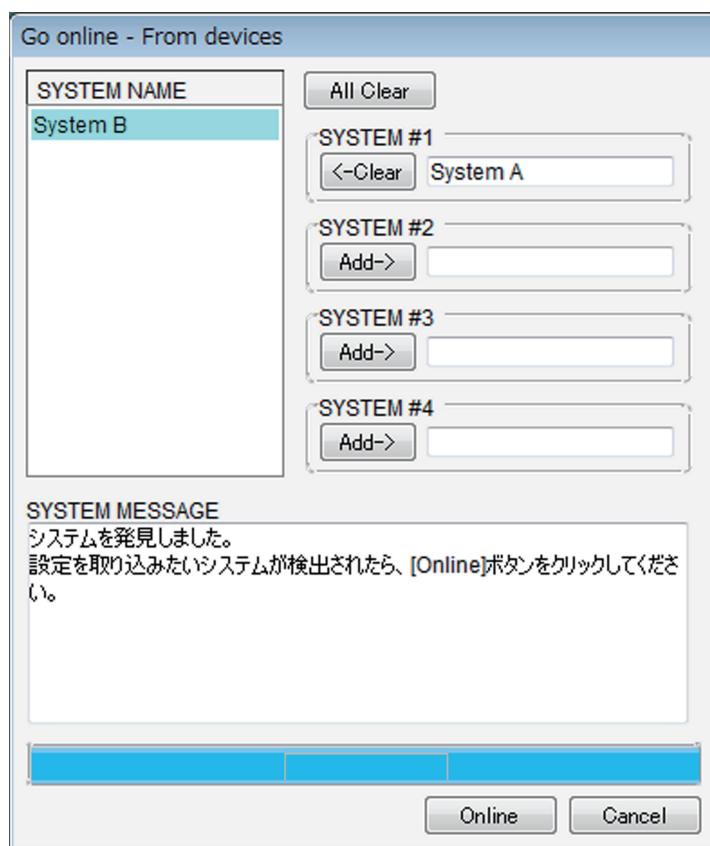
同期中は、クリックできません。

**6. 同期が正常に終了すると、進捗画面は自動的に閉じます。**

## □ 「Go online - From devices」 ダイアログ

MTX/MRX の設定 (コンフィギュレーションおよびパラメーター) を MTX-MRX Editor に取り込みます。これを実行するためには、取り込み元となる MTX/MRX が MTX-MRX Editor と To Device でオンラインになったことがある必要があります。

このダイアログでは、発見した複数の MTX/MRX システムを SYSTEM #1 から #4 にどのように割り当てて取り込むかを設定します。



- **[SYSTEM NAME] リスト**

発見した MTX/MRX システムを [All Clear] ボタンや [ $\leftarrow$ Clear] ボタンでクリアしたときにシステム名が表示されます。

- **[All Clear] ボタン**

SYSTEM #1 から #4 に設定している MTX/MRX システムをすべて [SYSTEM NAME] リストに移動します。

- **[ $\leftarrow$ Clear]/[Add->] トグルボタン**

[ $\leftarrow$ Clear] ボタンをクリックすると、設定されている MTX/MRX システムを [SYSTEM NAME] リストに移動します。[Add->] ボタンをクリックすると、[SYSTEM NAME] リストで選択されている MTX/MRX システムを設定します。

ボタンの右に設定されている MTX/MRX システム名が表示されます。

- **[Online] ボタン**

クリックすると、SYSTEM #1 から SYSTEM #4 に設定された MTX/MRX システムの設定を取り込み始めます。取り込み終わるとオンライン状態になります。

- **[Cancel] ボタン**

クリックすると、同期をせずにダイアログを閉じます。

## 同期

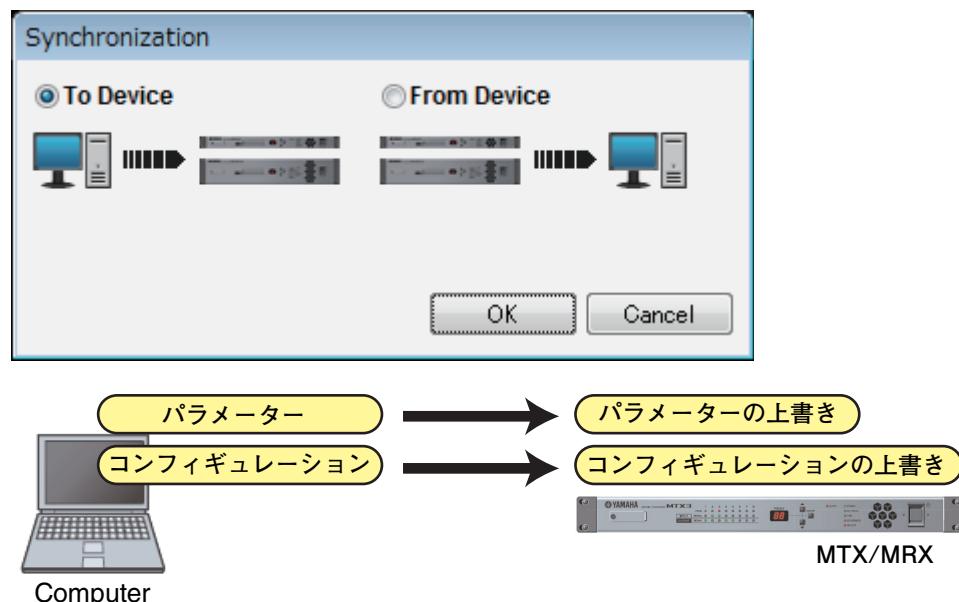
同期には以下の3つの操作があります。

### 1) コンピューター(MTX-MRX Editor)からMTX/MRX本体方向への同期

MTX-MRX Editorの設定(コンフィギュレーションおよびパラメーター)をMTX/MRXに送信します。

事前に準備したファイルを現場でMTX/MRXに設定を送り込みたいときに使用します。

「Synchronization」ダイアログで[To Device]を選択します。



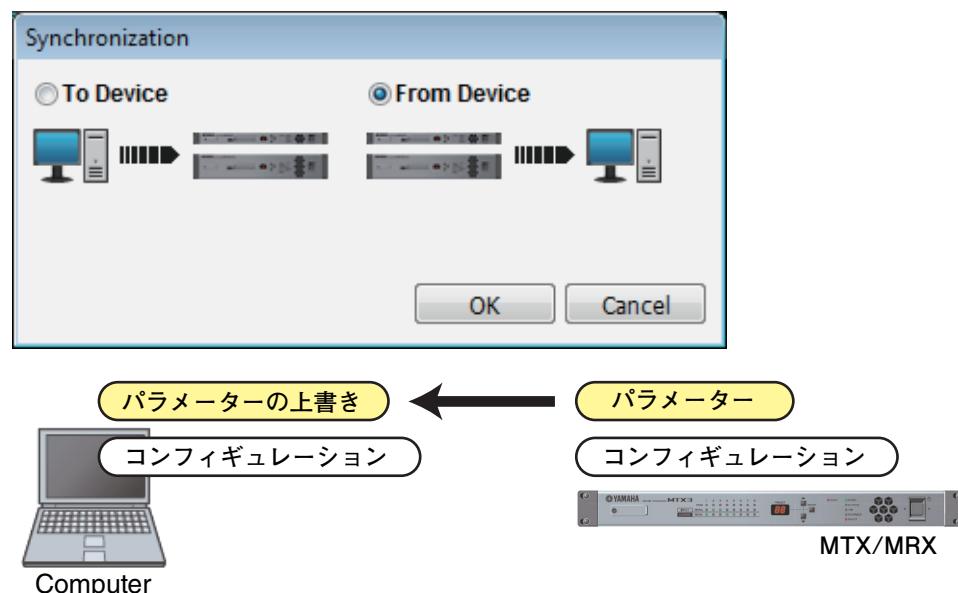
### 2) MTX/MRX本体からコンピューター(MTX-MRX Editor)方向への同期

#### ・ケース1

MTX/MRXのパラメーターをMTX-MRX Editorに取り込みます。DCPやWireless DCPを使って変更したMTX/MRX本体の設定を、再度オンラインにして変更や動作確認をする際に使用します。

「Synchronization」ダイアログで[From Device]を選択します。

**NOTE** MRX本体とMTX-MRX Editorのコンポーネントタイプやコンポーネント間の結線が異なる場合、同期できません。

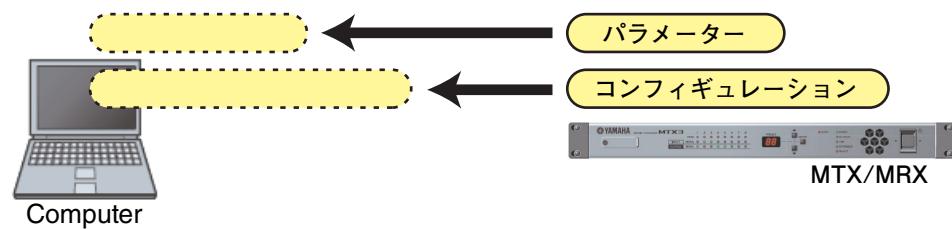
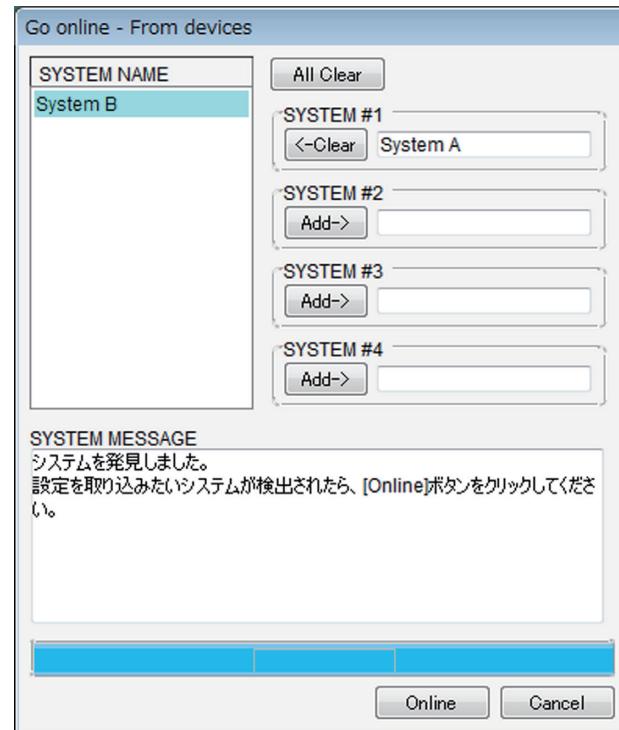


- ケース2

MTX/MRX の設定 (コンフィギュレーションおよびパラメーター) を MTX-MRX Editor に取り込みます。これを実行するためには、取り込み元となる MTX/MRX が MTX-MRX Editor と To Device でオンラインになったことがある必要があります。

MTX-MRX Editor 上に設定ファイルがない場合、すべてのコンフィギュレーションおよびパラメーターを MTX/MRX から取得し、MTX-MRX Editor でパラメーターの変更や動作確認をする際に使用します。

[File] メニューから [Go Online - From Devices] を選択します。



# 第6章 プリセット

この章では、パラメーターを一括して変更するプリセットに関する説明をします。

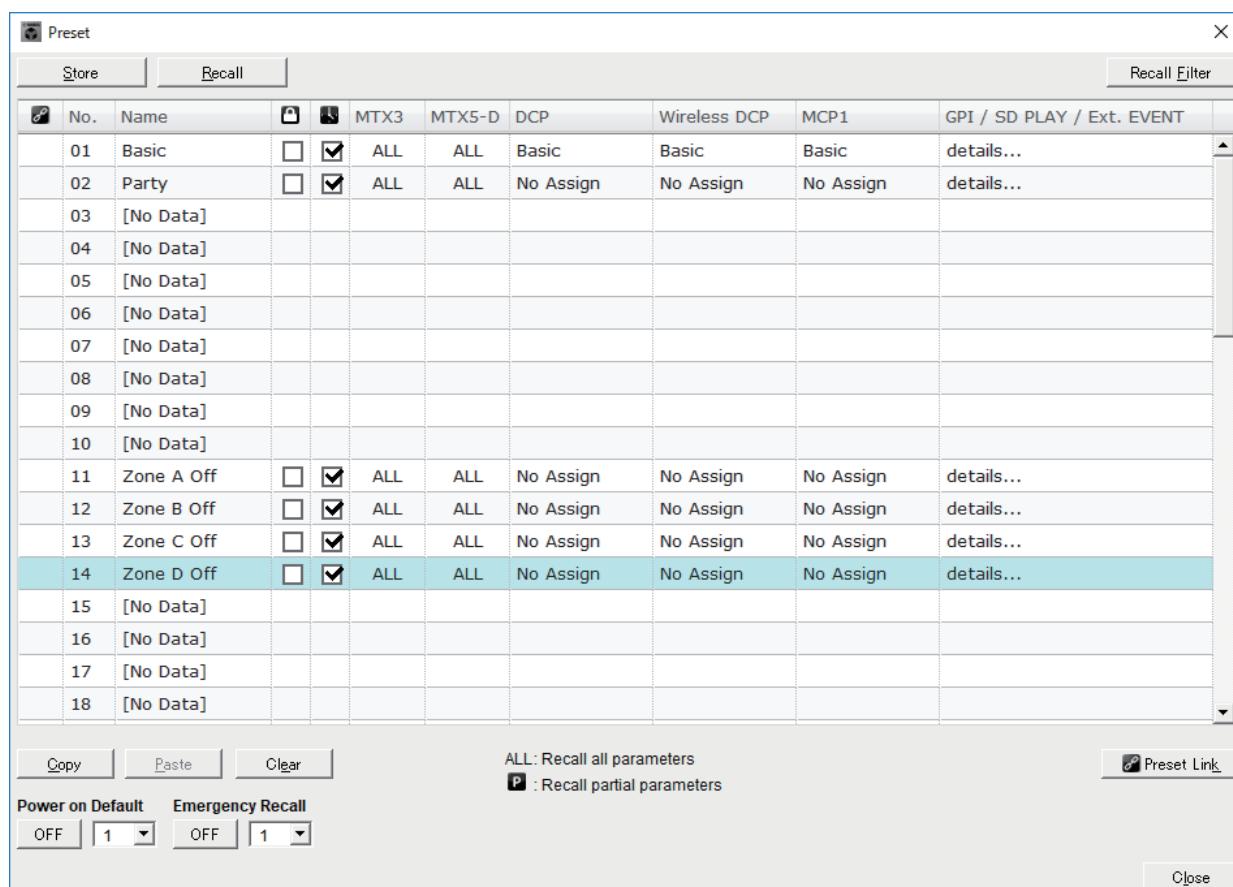
プリセットの設定はツールバーのプリセットボタンをクリックすると表示される「Preset」ダイアログで行ないます。このダイアログでは、複数のパラメーターの設定をプリセットとしてストアしておくことができ、リコールしてストアしてあったプリセット内のパラメーターを展開できます。展開されているプリセットのパラメーターはカレントパラメーターと呼びます。また、ストアしておいたプリセットを複製して新しいプリセットを作成したり、不要なプリセットを削除することもできます。

プリセットは MTX/MRX システムごとに設定してください。

**NOTE** MTX/MRX システムに機器を追加した場合は、既存のプリセットを再度ストアする必要があります。

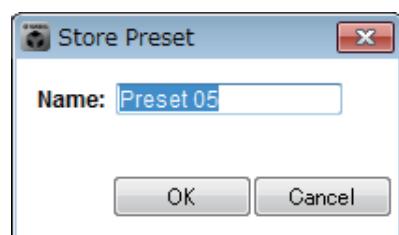
## □「Preset」ダイアログ

選択中の MTX/MRX システムのプリセットに関する設定をします。



### ● [Store] ボタン

プリセットをストアするためのボタンです。「Store Preset」ダイアログが表示されます。



- **[Name:]**

プリセット名を入力します。デフォルト状態では、「Preset + プリセット番号」が入力されています。空のプリセット名は入力できません。

- **[OK] ボタン**

プリセットのストアを実行し、ダイアログを閉じます。

- **[Cancel] ボタン**

プリセットのストアをキャンセルし、ダイアログを閉じます。

- **[Recall] ボタン**

クリックすると、選択中のプリセットをカレントパラメーターとしてリコール（読み込み）します。リコールされたプリセット番号と名前が[プリセット選択リストボックス](#)に表示されます。

- **[Recall Filter] ボタン**

[Recall Filter 設定画面](#)が表示されます。

- **プリセットリスト**

プリセットを一覧表示します。最大 50 個までのプリセットをストアできます。

 No.	Name	 MTX3	MTX5-D	DCP	Wireless DCP	MCP1	GPI / SD PLAY / Ext. EVENT	
01	Basic	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ALL	ALL	Basic	Basic	<a href="#">details...</a>
02	Party	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ALL	ALL	No Assign	No Assign	<a href="#">details...</a>
03	[No Data]							
04	[No Data]							
05	[No Data]							
06	[No Data]							
07	[No Data]							
08	[No Data]							
09	[No Data]							
10	[No Data]							
11	Zone A Off	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ALL	ALL	No Assign	No Assign	<a href="#">details...</a>
12	Zone B Off	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ALL	ALL	No Assign	No Assign	<a href="#">details...</a>
13	Zone C Off	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ALL	ALL	No Assign	No Assign	<a href="#">details...</a>
14	Zone D Off	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ALL	ALL	No Assign	No Assign	<a href="#">details...</a>
15	[No Data]							
16	[No Data]							
17	[No Data]							
18	[No Data]							

- **プリセットリンク (🔗)**

プリセットのリコールが他の MTX/MRX システムのプリセットと連動設定されているプリセットにチェックが付きます。

- **[No.]**

プリセットの番号を表示します (01 ~ 50)。変更はできません。

- **[Name]**

プリセットの名前を表示します。ストアされているプリセットを選択し、この部分をクリックすると、名前が編集できるようになります。

空のプリセットは [No Data] と表示されます。

- **プロジェクト (🔗)**

チェックボックスをオンにすると、プリセットを編集できないようにプロジェクトをかけます。

上書きや変更されたくないプリセットにプロジェクトをかけておくと、誤操作を防げます。

- **スケジューラー(■)**

チェックボックスをオンにすると、プリセットをリコールしたときにスケジューラー機能が有効になります。

**NOTE** スケジューラー機能を無効にした状態で、イベント発生時間になると、MTX/MRX 本体の [SCEDULER] インジケーターが早く点滅します。

- **[MTX3]/[MTX5-D]**

[Recall Filter 設定画面](#)で、リコールされない部分が一つでも設定されていると、「P」と表示されます。

- **[EXT. I/O]**

[Recall Filter 設定画面](#)で、リコールされない部分が一つでも設定されていると、「P」と表示されます。

R シリーズ (AD/DA) と Ti01608-D も [EXT. I/O] に含まれます。

- **[MRX7-D](MTX/MRX システムに MRX が設定されている場合のみ)**

ストアを実行すると、「ALL Parameters」と表示され、全コンポーネントのカレントパラメーターがストアされます。

MRX7-D は、任意のパラメーターのみをリコールできる機能(スナップショット、スナップショットグループ)があります。

この機能の詳細は、「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

- **[DCP]/[Wireless DCP]/[MCP1]/[GPI/SD PLAY/Ext. EVENT]**

DCP と Wireless DCP、MCP1 にはプリセットと同時にリコールされるライブラリーを表示します。GPI/SD PLAY/Ext. EVENT では常に「details...」と表示されます。設定は、ストアされているプリセットを選択し、この部分をクリックすると表示される「[Settings](#) ダイアログ」で行ないます。ただし、プロテクトが設定されている場合、「[Settings](#) ダイアログ」は表示されますが、設定の変更などはできません。

DCP と Wireless DCP、MCP1 のライブラリーが選択されていないときは「No Assign」と表示されます。「No Assign」のプリセットがリコールされると、DCP と Wireless DCP、MCP1 ではパラメーターが設定されていない状態になります。リコールされる前のパラメーターを維持したい場合は、[Recall Filter 設定画面](#)でリコールの対象から外してください。

SD Play ではリコールされる前の設定が引き継がれます。

機器間でライブラリーの情報が異なる場合、赤文字で表示されます。該当するライブラリーを「[Digital Control Panel](#) ダイアログ」や「[Wireless DCP](#) ダイアログ」、「[MCP1](#) ダイアログ」で再度ストアしてください。

**NOTE** [DCP]/[Wireless DCP]/[MCP1]/[GPI/SD PLAY/Ext. EVENT] の各設定は、「[Settings](#) ダイアログ」で設定しただけではカレントパラメーターとして反映されません。反映させるためには、該当のダイアログでプリセットをリコールしてください。

- **[Copy] ボタン**

選択されているプリセットをコピーします。

オンライン状態のときにはコピーできません。

- **[Paste] ボタン**

コピーしたプリセットを現在リストで選択されているプリセットに貼り付けます。

オンライン状態のときには貼り付けできません。

- **[Clear] ボタン**

現在リストで選択されているプリセットの内容を消去します。

オンラインのときには削除できません。

**● [Preset Link] ボタン**

MTX/MRX システム間でプリセットのリコールを連動させる設定をする「Preset Link」ダイアログを表示します。

**● [Power on Default]**

MTX/MRX 本体の電源をオンにしたときにリコールされるプリセットについて設定します。

毎回同じ設定で起動させて前回の操作をリセットしたい場合はオンにし、指定したプリセットが起動時に呼び出されるように設定してください。

前回終了時の状態が重要な場合や、同じオペレーターが操作する場合、途中で電源を切ることが想定されるなどの場合は、オフに設定してください。

- [OFF]/[ON] トグルボタン

起動時のプリセットリコールのオン / オフを設定します。

- プリセット選択リストボックス

MTX/MRX 本体の電源をオンにしたときにリコールされるプリセットの番号を選択します。

**● [Emergency Recall]**

MTX/MRX が EMG(Emergency) 信号を外部機器から受信したときや、+24V 対応の [GPI IN] 端子 (MTX3 は IN 8、MTX5-D と MRX7-D は IN 16) への入力が 2.5V 未満になったときにリコールされるプリセットを設定します。

- [OFF]/[ON] トグルボタン

リコールのオン / オフを切り替えます。+24V 対応の [GPI IN] 端子に +24V を印加していない場合はオフにしてください。

- プリセットリストボックス

リコールするプリセットの番号を選択します。

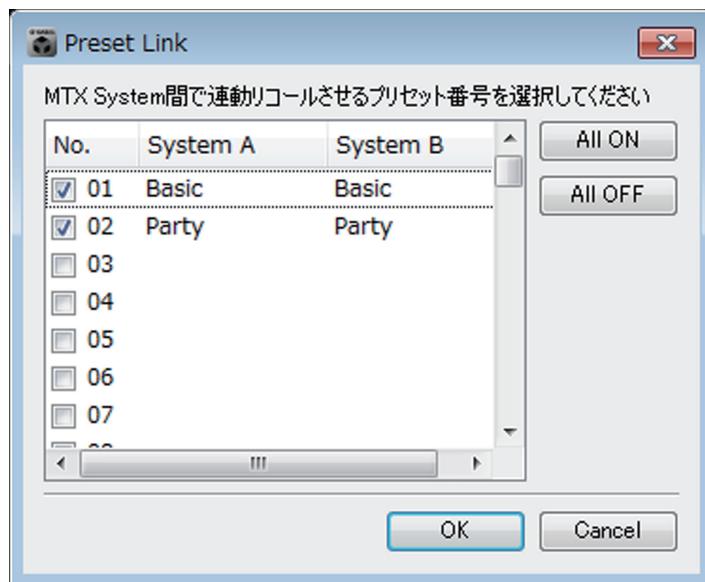
**● [Close] ボタン**

「Preset」ダイアログを閉じます。

## 「Preset Link」ダイアログ

MTX/MRX システム間でプリセットのリコールを連動させる設定をします。

サブネットの異なる MTX/MRX システム間では連動しません。



- **プリセットリスト**

プロジェクト内の MTX/MRX システムごとのプリセット名を表示します。プリセットのリコールを連動させるプリセットにチェックを入れてください。

- **[All ON] ボタン**

すべてのプリセットにチェックを入れます。

- **[All OFF] ボタン**

すべてのプリセットのチェックを外します。

- **[OK] ボタン**

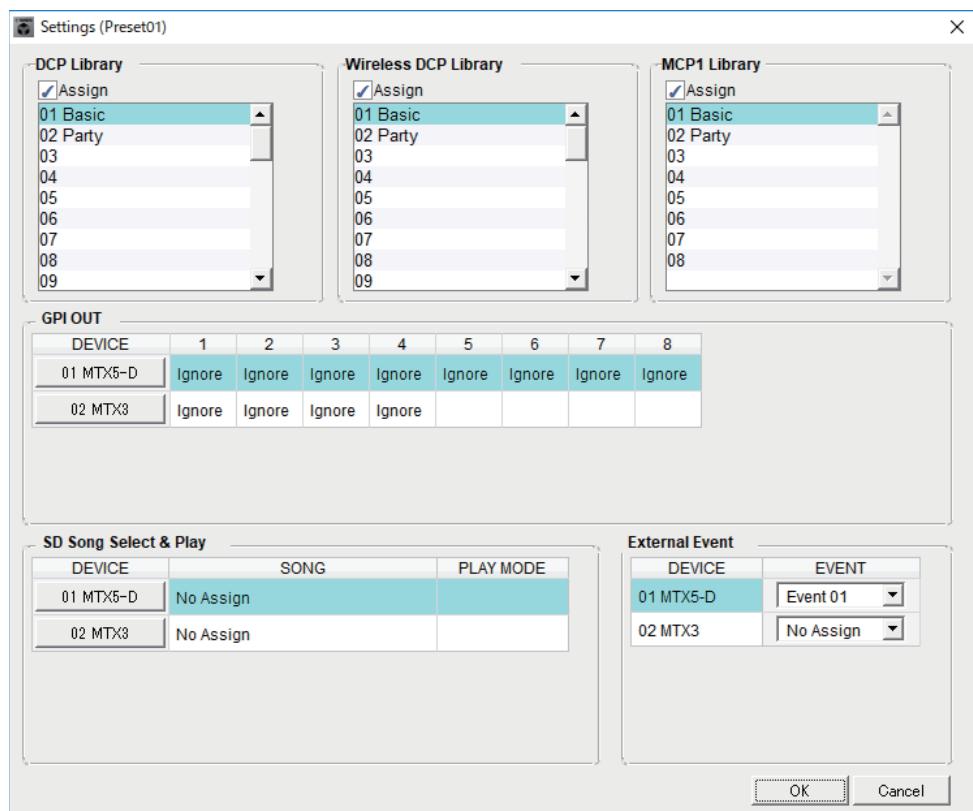
プリセットのリコール連動を設定し、ダイアログを閉じます。

- **[Cancel] ボタン**

プリセットのリコール連動の設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

## 「Settings」ダイアログ

プリセットがリコールされたときに同時にリコールされる DCP ライブラリーや Wireless DCP ライブラリー、MCP1 ライブラリー、GPI OUT、SD メモリーカードに関する設定を行ないます。



### [DCP Library]/[Wireless DCP Library]/[MCP1 Library]

プリセットがリコールされたときに同時にリコールされるライブラリーを選択します。  
[Assign] チェックボックスにチェックを入れるとライブラリーが選択できます。[Assign] チェックボックスのチェックを外すと、DCP や Wireless DCP、MCP1 から操作できないようになります。

機器間でライブラリーの情報が異なる場合、赤文字で表示されます。該当するライブラリーを「Digital Control Panel」ダイアログや「Wireless DCP」ダイアログ、「MCP1」ダイアログで再度ストアしてください。

### [GPI OUT]



プリセットのリコールと同時に出力される GPI OUT の設定を行ないます。GPI OUT の出力によって、本体の [GPI OUT] 端子に接続された機器をコントロールします。

- **MTX/MRX 選択ボタン**

変更する対象の MTX/MRX のボタンを選択します（各ボタンには UNIT ID および機器名が表示されています）。

「[GPI Out](#)」ダイアログが表示されます。

- **[GPI OUT] 端子番号および設定状況**

[GPI OUT] 端子の番号と、「[GPI Out](#)」ダイアログでの設定状況が表示されます。

### [SD Song Select & Play]

SD Song Select & Play		
MTX	SONG	PLAY MODE
01 MTX5-D	No Assign	
02 MTX3	No Assign	

MTX/MRX 選択ボタン

プリセットのリコールと同時に指定したファイルが再生されるように設定します。1 台の MTX/MRX につき 1 ファイルまたは同一フォルダー内の全ファイルをアルファベット昇順に再生できます。4 台の MTX/MRX が YDIF 接続されている場合には、同時に最大 4 ファイルまで再生可能です。

複数の曲を再生する場合は、「[SD Play](#)」ダイアログの [Folder/File] で [Play all songs in a folder] を選択し、曲を保存してあるフォルダーを指定してください。再生する曲を頻繁に入れ替えたい場合は、別の SD メモリーカードに同じ名前のフォルダーを作成し、複数の曲を SD メモリーカードごとに保存しておきます。すると、MTX-MRX Editor からの設定変更の必要もなく SD メモリーカードを交換するだけで他の曲を再生できます。

- **MTX/MRX 選択ボタン**

変更する対象の MTX/MRX のボタンを選択します（各ボタンに UNIT ID および機器名が表示されています）。

「[SD Play](#)」ダイアログが表示されます。

- **SONG**

「[SD Play](#)」ダイアログで設定したファイル名またはフォルダーナー名が表示されます。

- **PLAY MODE**

「[SD Play](#)」ダイアログの [Play Mode] の設定が表示されます。

### [External Event]



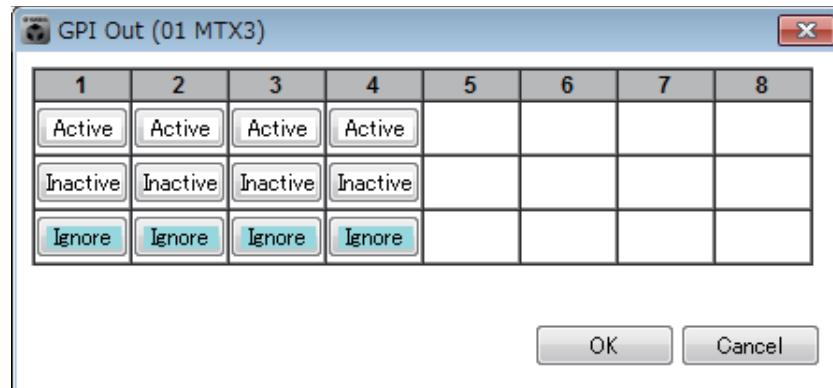
プリセットのリコールと同時に出力されるイベントの設定を行ないます。本体の NETWORK 端子や Dante [PRIMARY]/[SECONDARY] 端子 (リダンダントの時は通信をしている回線) からイベントを出力します。

「External Events」ダイアログで [Event Mode] を [On/Off] にしたイベントを設定した場合、[On] に設定したコマンドが出力されます。

- [EVENT] リストボックス  
出力するイベントを選択します。
- [OK] ボタン  
設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- [Cancel] ボタン  
設定を変更せずにダイアログを閉じます。

### ■「GPI Out」ダイアログ

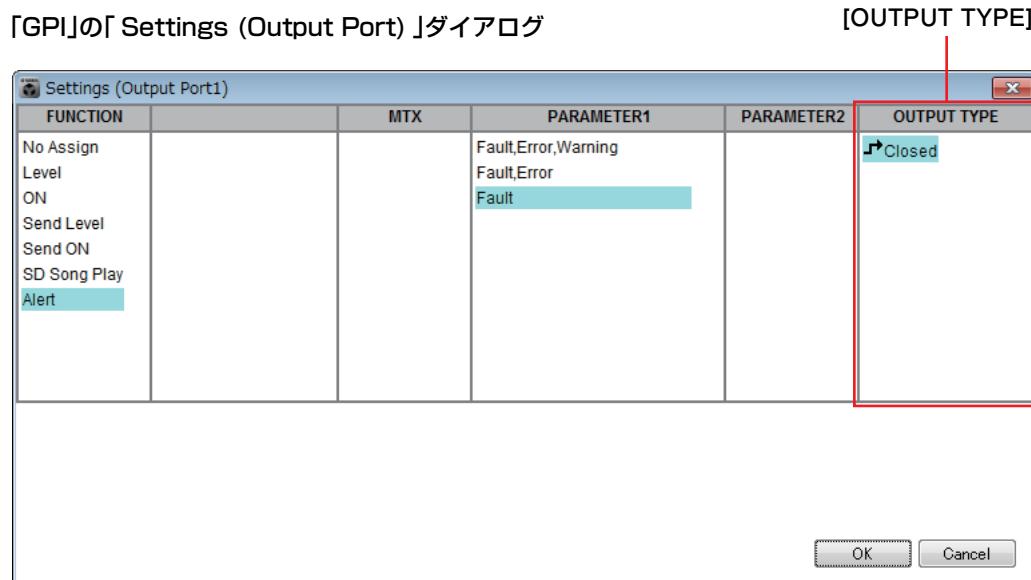
プリセットのリコールと同時に出力される GPI OUT の設定を行ないます。GPI OUT の出力によって、本体の [GPI OUT] 端子に接続された外部機器をコントロールします。



#### ● [Active]/[Inactive]/[Ignore] ボタン

GPI OUT 端子の出力を有効 (Active) にするか、OUTPUT TYPE を逆にして有効 (Inactive) にするか、無視 (Ignore) にするかを設定します。

「System」メニューの [GPI] で呼び出される「Settings」ダイアログの [OUTPUT TYPE] が [Pulse] または [Pulse Inv.] に設定されている場合は、選択肢が [Active] または [Ignore] のみとなります。



#### [Active] に設定されている場合

[OUTPUT TYPE] が [➡ Closed] のとき、[GPI OUT] 端子はクローズド（接地）となります。

[OUTPUT TYPE] が [➡ Open] のとき、[GPI OUT] 端子はオープンとなります。

[OUTPUT TYPE] が [➡ Pulse] のとき、[GPI OUT] 端子は約 250ms の間クローズド（接地）となります。

[OUTPUT TYPE] が [➡ Pulse Inv.] のとき、[GPI OUT] 端子は約 250ms の間オープンとなります。

#### [Inactive] に設定されている場合

[OUTPUT TYPE] が [➡ Closed] のとき、[GPI OUT] 端子はオープンとなります。

[OUTPUT TYPE] が [➡ Open] のとき、[GPI OUT] 端子はクローズド（接地）となります。

#### [Ignore] に設定されている場合

出力に変化はありません。GPI OUT に別の機能がアサインされていてプリセットのリコールの影響を受けたくない場合に設定します。

**NOTE** 「GPI」の「Settings (Output Port)」ダイアログの [OUTPUT TYPE] を [➡ Closed] または [➡ Open] に設定した状態で [Inactive] に設定した場合、[➡ Pulse]/[➡ Pulse Inv.] に切り替えると自動的に [Ignore] に変更されます。

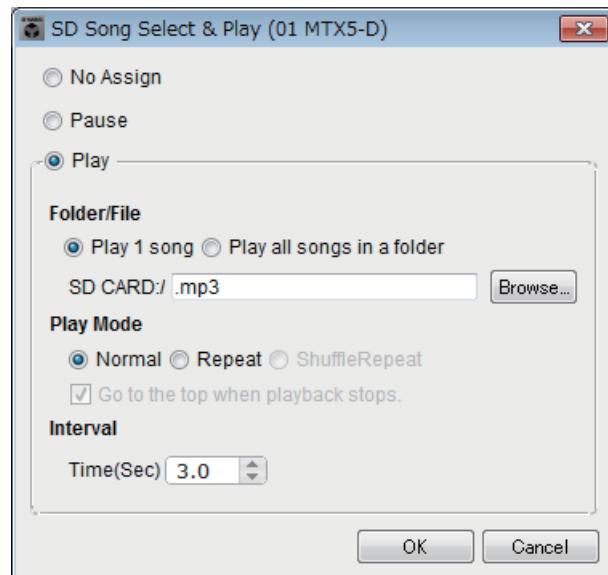
- [OK] ボタン  
設定を保存し、ダイアログを閉じます。
- [Cancel] ボタン  
設定を変更せずにダイアログを閉じます。

## ■「SD Play」ダイアログ

プリセットリコールと同時に指定したファイルが再生されるように設定します。1台のMTX/MRXにつき1ファイルまたは同一フォルダー内の全ファイルを再生できます。4台のMTX/MRXがYDIF接続されている場合は、それぞれのMTX/MRXで1ファイルずつ、システムとして最大4ファイルを再生できます。

複数のファイルを再生する場合は、[Folder/File]で[Play all songs in a folder]を選択し、ファイルを保存してあるフォルダーを指定してください。

**HINT** 再生するファイルを頻繁に入れ替えたい場合は、別のSDメモリーカードに同じ名前のフォルダーを作成し、複数の曲をSDメモリーカードごとに保存しておきます。すると、MTX-MRX Editorからの設定変更の必要もなくSDメモリーカードを交換するだけで他のファイルを再生できます。



### ○ [No Assign] ラジオボタン

プリセットのリコールで何も設定を変更しないための設定です。リコール前のプリセットでファイルが再生されている場合、再生し続けます。

### ○ [Pause] ラジオボタン

再生中のファイルを一時停止するための設定です。

### ○ [Play] ラジオボタン

ファイルを再生します。再生するファイルの詳細設定を以下で行ないます。

#### ◆[Folder/File]

- [Play 1 song]/[Play all songs in a folder]

[Play 1 song]を選択すると、[SD CARD:/]で選択中のファイルのみが再生されます。

[Play all songs in a folder]を選択すると、[SD CARD:/]で選択中のフォルダーに保存されているすべてのファイルが再生されます。

**NOTE** オーディオファイルはファイル名の昇順で100ファイルまで再生されます。

#### ◆[SD CARD:/]

再生するファイルの名前またはフォルダーネームが表示されます。名前を変更したり、直接入力することもできます。

**NOTE** 日本語も入力できます。

**[Play 1 song] を選択しているとき**

[SD CARD:/] で選択中のファイルのみが再生されます。

表示可能なファイルおよびフォルダーの形式は以下のとおりです。

- ・ ( フォルダーネーム ) ¥ ( ファイル名 ) .mp3
- ・ ( フォルダーネーム ) ¥ ( ファイル名 ) .wav
- ・ ( ファイル名 ) .mp3
- ・ ( ファイル名 ) .wav

**[Play all songs in a folder] を選択しているとき**

[SD CARD:/] で選択中のフォルダーに保存されているすべてのファイルが再生されます。

表示可能なフォルダーの形式は以下のとおりです。

- ・ ( フォルダーネーム )
- ・ 空欄

**NOTE**

- ・ フォルダーは 1 階層のみ有効です。
- ・ フォルダーネームが空欄の場合は、SD メモリーカードのルートに存在しているすべてのファイルを再生します ( ルート以下のフォルダーは含まれません )。

**◆ [Browse] ボタン**

クリックすると、再生するファイルまたはフォルダーを選択する画面が表示されます。

[Play 1 song] を選択しているときはファイルを選択してください。

[Play all songs in a folder] を選択しているときはフォルダーを選択してください。

**NOTE**

- ・ フォルダーは 1 階層のみ有効です。
- ・ フォルダーネームが空欄の場合は、SD メモリーカードのルートに存在しているすべてのファイルを再生します ( ルート以下のフォルダーは含まれません )。

**○ Play Mode****◆ [Normal]/[Repeat]/[Shuffle Repeat]**

ファイルの再生モードを設定します。

[Normal] を選択すると、指定したファイルまたはフォルダー内のファイルを 1 回再生します。

[Repeat] を選択すると、指定したファイルまたはフォルダー内のファイルを繰り返し再生します。

[Shuffle Repeat] を選択すると、指定したフォルダー内のファイルをランダムに繰り返し再生します。[Folder/File] で [Play 1 song] が選択されている場合、[Shuffle Repeat] は選択できません。

**◆ [Go to the top when playback stops.]**

オンに固定され、常に曲の先頭またはフォルダー内の先頭の曲から再生します ( プリセットのリコールの場合のみ変更できません )。

**• [Interval Time]**

ファイルを連続再生するときの再生間隔を設定します。

**• [OK] ボタン**

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

**• [Cancel] ボタン**

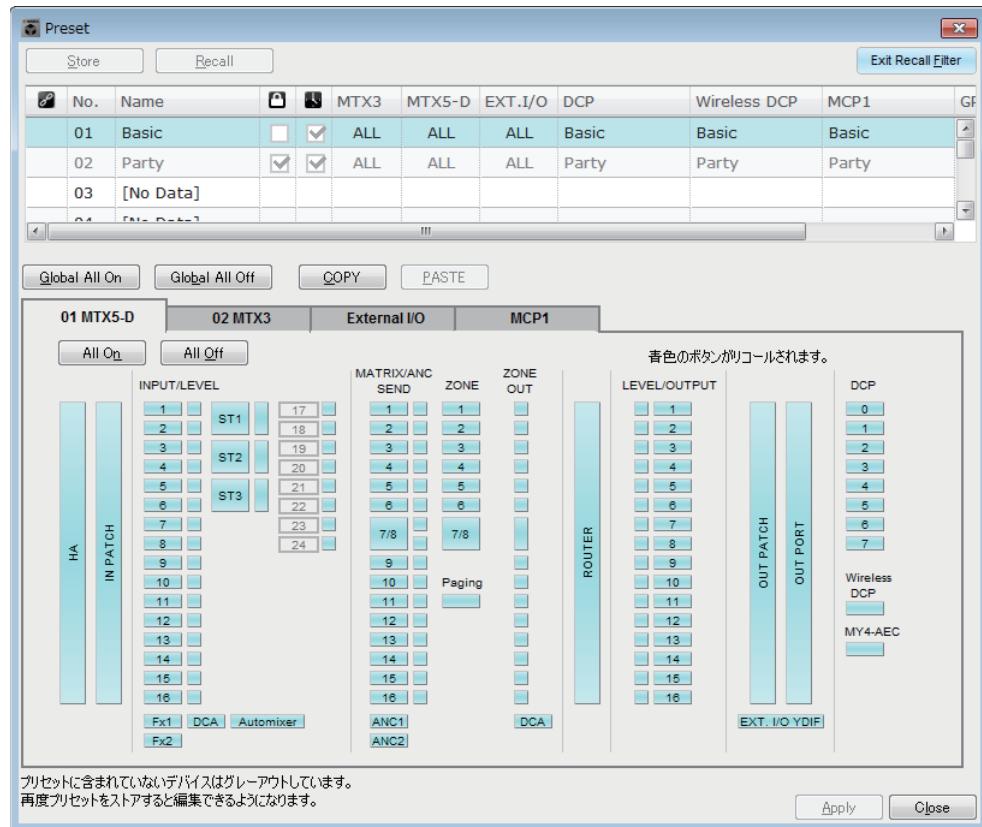
設定を変更せずにダイアログを閉じます。

## 主な使用方法

- 1.** SD メモリーカードを用意します。  
再生したいファイルを SD メモリーカードにコピーしておきます。複数のファイルを再生したい場合は、1 階層までのフォルダーに入れておきます。
- 2.** 手順 1 で用意した SD メモリーカードをコンピューターにセットします。
- 3.** [SD Song Select & Play] で、SD メモリーカードをセットする予定の MTX/MRX 選択ボタンをクリックします。  
「SD Play (MTX)」ダイアログが表示されます。
- 4.** [Browse] ボタンをクリックし、ファイルまたはフォルダーを選択します。
- 5.** SD メモリーカードを MTX/MRX にセットします。
- 6.** MTX-MRX Editor と MTX/MRX を同期させ（[「オンラインと同期」](#)を参照してください）、MTX-MRX Editor の設定を MTX/MRX に転送します。
- 7.** プリセットをリコールします。  
手順 2 で選択した MTX/MRX にセットされている SD メモリーカード内のファイルが再生されます。  
フォルダーを指定した場合は、フォルダー内のファイルを入れ替えると同様に動作します。

## Recall Filter 設定画面

プリセットをリコールするときに、パラメーターごとにリコールの対象とするかしないかを設定します。たとえば、入出力のレベルはどのプリセットでも変わらない場合、INPUT の LEVEL や OUTPUT の LEVEL をリコール対象外にすると、プリセットごとにレベルを再設定しなくても同じレベル設定のまま運用できます。



### ■ [Exit Recall Filter] ボタン

Recall Filter 設定画面を閉じ、「Preset」ダイアログに戻ります。

### ■ プリセットリスト

Recall Filter を設定したいプリセットを選択します。

- NOTE**
- ・空のプリセットは選択できません。
  - ・プロテクトがかかっているプリセットは編集できません。

### ■ [Global All On] ボタン

すべてのタブのすべてのボタンをオン(青)にします。すべての機器のすべてのパラメーターがリコールされます。

### ■ [Global All Off] ボタン

すべてのタブのすべてのボタンをオフ(白)にします。すべての機器のいずれのパラメーターもリコールされません。

### ■ [COPY] ボタン

選択されているプリセットの Recall Filter の設定をコピーします。  
オンライン状態のときにはコピーできません。

## ■ [PASTE] ボタン

コピーした Recall Filter の設定を現在選択されているプリセットに貼り付けます。  
オンライン状態のときには貼り付けできません。

## ■ [Apply] ボタン

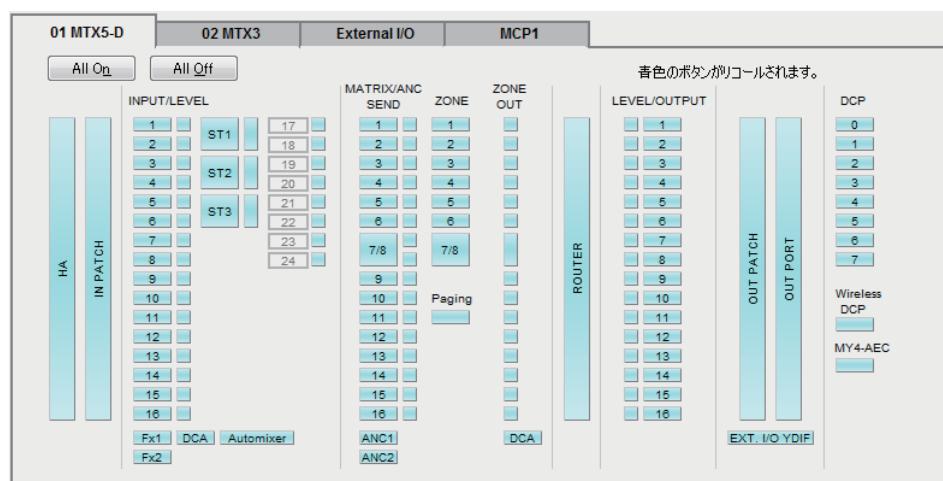
現在編集中の Recall Filter の設定を適用します。設定が編集されていないときはこのボタンはグレーアウト表示となり、クリックできません。

## ■ [Close] ボタン

ダイアログを閉じます。

## ■ [MTX]/[MRX] タブ

Recall Filter を設定する MTX/MRX を選択します。タブには UNIT ID と機器名が表示されます。



### ● [All On] ボタン

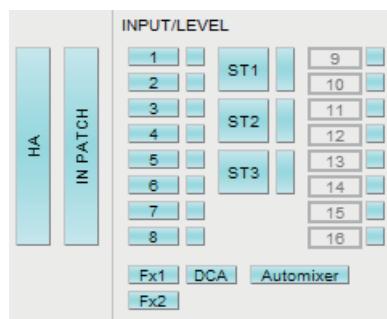
現在選択されているタブのボタンをすべてオン(青)にします。すべてのパラメーターがリコールされます。

### ● [All Off] ボタン

現在選択されているタブのボタンをすべてオフ(白)にします。いずれのパラメーターもリコールされません。

### ● パラメーター選択ボタン

MRX では [DCP] ボタンと [Wireless DCP] ボタンのみが表示されます。



### ● [HA] ボタン

オンにすると、入力ポートの HA ゲインおよびファンタム電源 (+48V) の設定がリコールされます。

- **[IN PATCH] ボタン**

オンにすると、入力パッチの設定および入力チャンネル名がリコールされます。

MY4-AEC の From Far-end、Far-end Voice、Near-end Mic.、Near-end Voice、To Far-end の入力チャンネルへのパッチはこのボタンの範囲に含まれます。

- **[INPUT]/[LEVEL] ボタン**

[INPUT] ボタンをオンにすると、入力チャンネルの以下の設定がリコールされます。

**入力チャンネル:** 位相、HPF、Digital Gain、PEQ、COMP、GATE、AGC、FBS、インサートのオン / オフ (\*)

**ステレオ入力チャンネル:** Digital Gain、PEQ、AGC、COMP

(\*) インサートのオン / オフは MTX5-D のみです。

[LEVEL] ボタンをオンにすると、入力チャンネルのレベルおよびオン / オフ (ミュート) の設定がリコールされます。

いずれもチャンネルごとに設定されます。

**NOTE** 「MTX Configuration」ダイアログの [INPUT PORT SETUP] で、「MONO x2」から「STEREO」に変更すると、[INPUT]/[LEVEL] ボタンの設定は L に従います。

- **[Fx1]/[Fx2] ボタン**

オンにすると、エフェクトのタイプや以下の設定がリコールされます。

- 入力チャンネルからエフェクトバスへのセンドレベル、センドオン / オフ
- エフェクトリターンのレベル、オン / オフ (ミュート)
- エフェクトリターン名

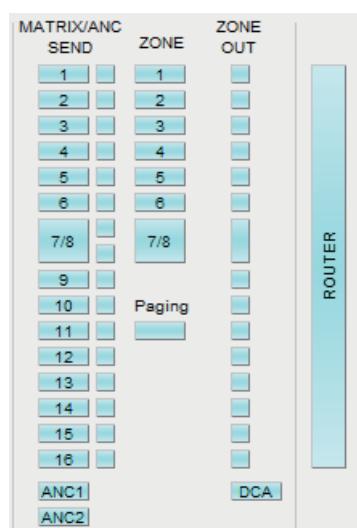
- **[DCA] ボタン (INPUT 側)**

オンにすると、以下の設定がリコールされます。

- 入力チャンネルの DCA またはミュートグループへのチャンネルアサイン情報
- DCA Group の Master Level
- ミュートグループの Master Mute

- **[Automixer] ボタン**

オンにすると、Dugan Automixer の設定がリコールされます。



- **[MATRIX SEND] ボタン**

左側のボタンをオンにすると、以下の設定がリコールされます。

- 入力チャンネルからマトリクスバスへのセンドレベル、センドオン／オフおよびステレオチャンネルのパン
- エフェクトリターンからマトリクスバスへのセンドレベル、センドオン／オフおよびステレオチャンネルのパン

右側のボタンをオンにすると、マトリクスアウトのレベルがリコールされます。

- **[ANC1 SEND]/[ANC2 SEND] ボタン**

オンにすると、入力チャンネルから ANC バスへのセンドレベルおよびセンドオン／オフがリコールされます。

- **[ZONE] ボタン**

オンにすると、以下の設定がリコールされます。

- 1st Priority の Priority Source, Mix Level, Ducker
- 2nd Priority の Priority Source, Mix Level, Ducker
- ANC
- ゾーン名

**NOTE** 「MTX Configuration」ダイアログの [INPUT PORT SETUP] で、「MONO x2」から「STEREO」に変更すると、[ZONE] ボタンの設定は奇数 ZONE に従います。

- **[PAGING] ボタン**

オンにすると、PAGING [ON] ボタンの設定がリコールされます。

- **[ZONE OUT] ボタン**

オンにすると、ZONE Out Level およびオン／オフ（ミュート）がリコールされます。

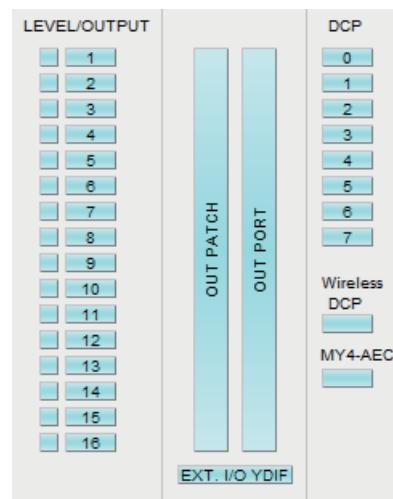
- **[DCA] ボタン (ZONE 側)**

オンにすると、以下の設定がリコールされます。

- ZONE Out の DCA またはミュートグループへのチャンネルアサイン情報
- DCA Group の Master Level
- ミュートグループの Master Mute

- **[ROUTER] ボタン**

オンにすると、ROUTER の設定がリコールされます。



- **[LEVEL]/[OUTPUT] ボタン**

[LEVEL] ボタンをオンにすると、出力チャンネルのレベルおよびオン / オフ (ミュート) の設定がリコールされます。

[OUTPUT] ボタンをオンにすると、Room EQ、Delay、Speaker Processor の設定がリコールされます。

いずれもチャンネルごとに設定されます。

- **[OUT PATCH] ボタン**

オンにすると、出力パッチの設定および出力チャンネル名がリコールされます。

- **[OUT PORT] ボタン**

オンにすると、出力ポートの出力ゲインおよび Polarity の設定がリコールされます。

- **[EXT. I/O YDIF] ボタン**

オンにすると、Distribution モードのときに MTX から YDIF へ出力する音声の設定がリコールされます。

- **[DCP] ボタン**

オンにすると、MTX に接続されている DCP (デジタルコントロールパネル) のパラメーターアサイン状態がリコールされます。ボタンに表示されているのは DCP の ID です。

- **[Wireless DCP] ボタン**

オンにすると、Wireless DCP の設定がリコールされます。8 台の Wireless DCP が接続されている場合、8 台ともオン / オフの影響を受けます。

- **[MY4-AEC] ボタン**

オンにすると、MTX5-D に挿入された MY4-AEC の設定がリコールされます。

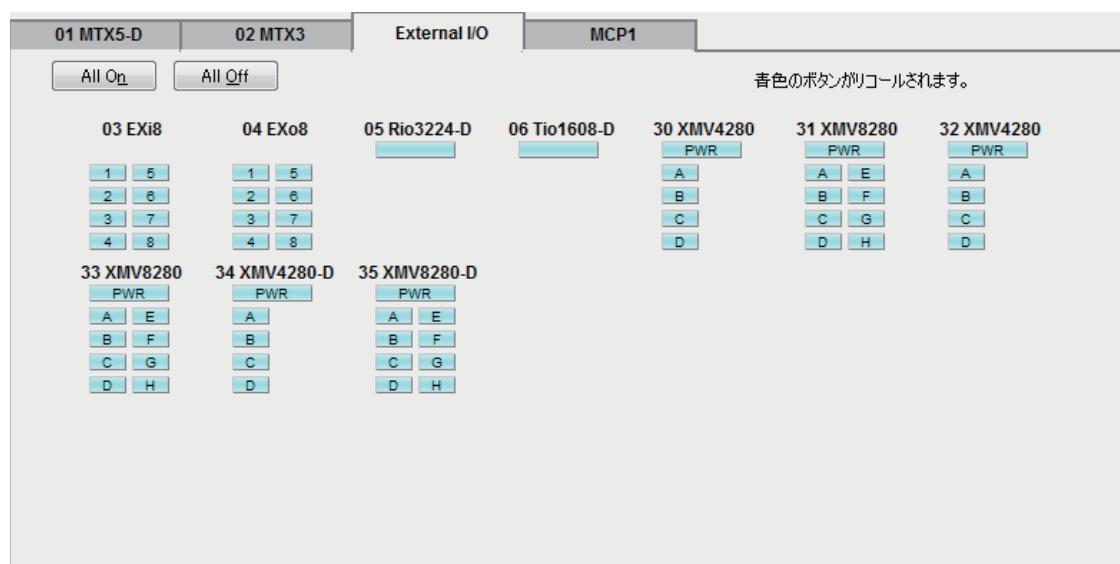
「Device Configuration Wizard」で MY4-AEC が選択されていない場合は表示されません。

以下の設定は [MY4-AEC] ボタンでのリコール設定対象外となります。

- From Far-end、Far-end Voice、Near-end Mic.、Near-end Voice、To Far-end ([IN PATCH] ボタンの範囲内)
- SRC

## ■ [External I/O] タブ

Recall Filter を設定する外部機器のパラメーターを選択します。



### ● [All On] ボタン

現在選択されているタブのボタンをすべてオン(青)にします。すべてのパラメーターがリコールされます。

### ● [All Off] ボタン

現在選択されているタブのボタンをすべてオフ(白)にします。いずれのパラメーターもリコールされません。

### ● パラメーター選択ボタン

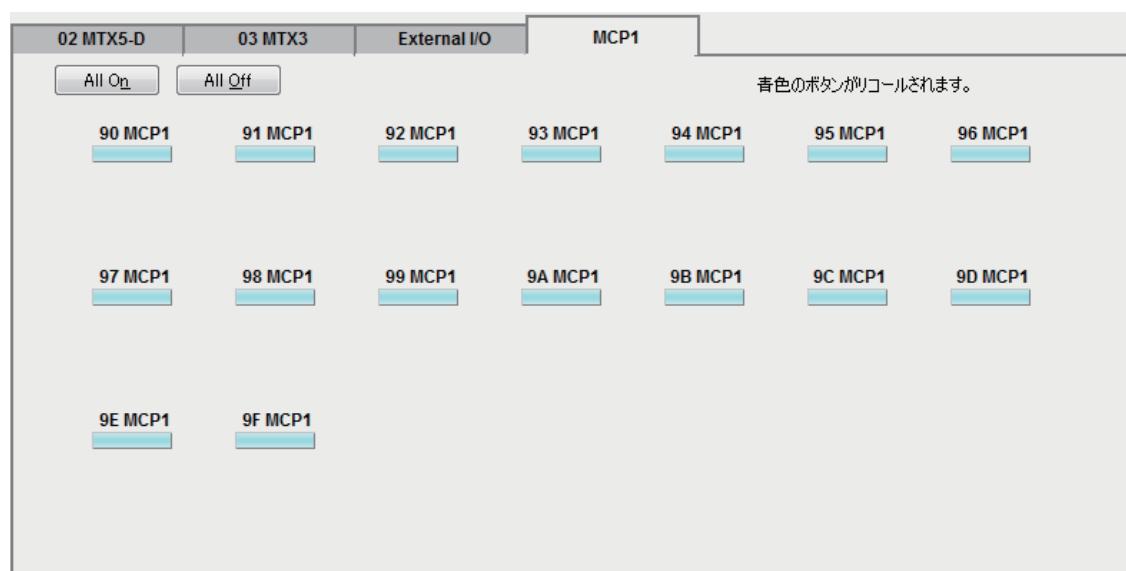
パラメーター選択ボタンが機器(UNIT ID、機器名)ごとに表示されます。これらのボタンをオンにすると、ボタンに含まれているパラメーターがチャンネルごとにリコールされます。

[PWR] ボタンは機器の電源のオン / スタンバイに、英字または数字のボタンは各機器のチャンネルに対応しています。

R シリーズ(AD/DA) や Tio1608-D の場合は、ボタンをオンにすると機器ごとに HA のパラメーターがリコールされます。

## ■ [MCP1] タブ

Recall Filter を設定する MCP1 を選択します。



### ● [MCP1] ボタン

オンにすると、MTX に接続されている MCP1 のパラメーターアサイン状態がリコールされます。

# 第7章 ダイアログ / ソフトウェアアプリケーション

ここではメニューバーやツールバーなどから呼び出されるダイアログやアプリケーションについて説明します。

## □「Startup」ダイアログ



MTX-MRX Editor を起動したときに表示されます。

### ● [New file] ラジオボタン

[OK] ボタンをクリックすると、「Device Configuration Wizard」ダイアログが開きます。

### ● [Existing file on computer] ラジオボタン

[OK] ボタンをクリックすると、選択したファイルが開きます。PIN コードを設定している場合、PIN コードの入力が求められます。

### ● [Go online - From devices] ラジオボタン

[OK] ボタンをクリックすると、ネットワーク内で運用中の MTX/MRX から MTX/MRX システムの設定を MTX-MRX Editor に取り込み、プロジェクトファイルを作成できるようにします。

設定を取り込むためには、取り込むより前に MTX-MRX Editor と “オンライン” になつたことがある MTX/MRX と接続する必要があります。機器に PIN コードを設定している場合、PIN コードの入力が求められます。

### ● [OK] ボタン

ラジオボタンで選択した操作を実行します。

## □「Network Setup」ダイアログ

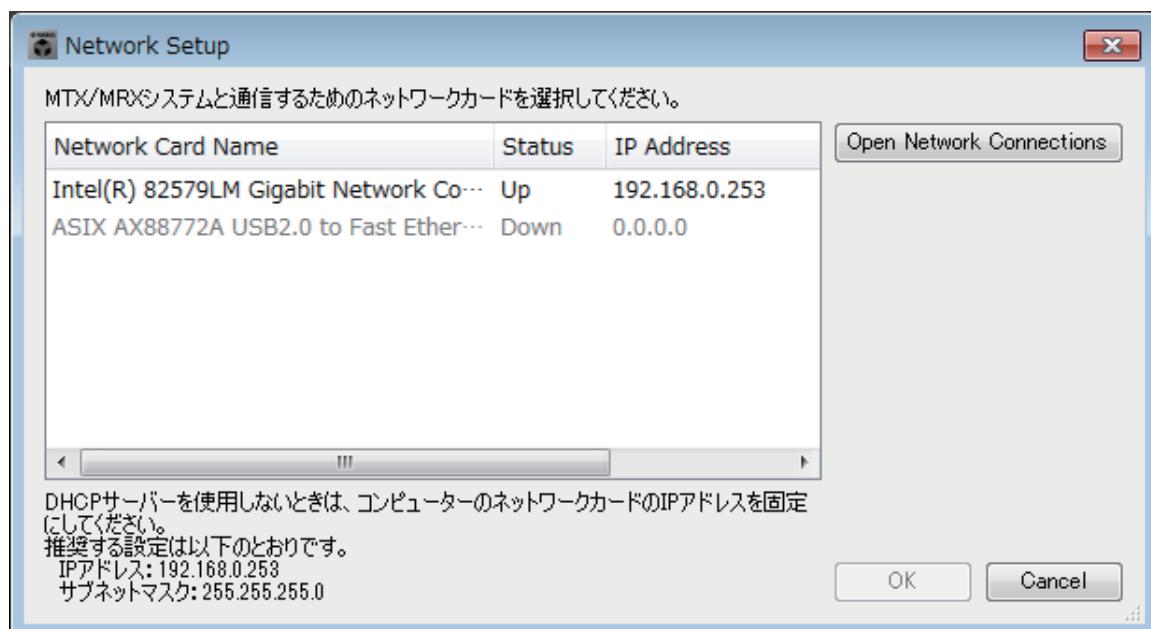
MTX/MRX と通信するためのコンピューターのネットワークインターフェースカード（以下「ネットワークカード」と呼びます）を選択します。

ネットワークアダプターの IP アドレスの変更もできます。

**NOTE** DHCP サーバーを使用しないときは、コンピューターのネットワークカードの IP アドレスを固定してください。推奨する設定は以下の通りです。

IP アドレス:192.168.0.253

サブネットマスク:255.255.255.0



ネットワークに接続されていない場合は、[Cancel] ボタンをクリックしてダイアログを閉じてください。

### ● Network Card Name

ネットワークカードの名前が表示されます。

### ● Status

ネットワークカードの状態 (Up または Down) が表示されます。

「Down」と表示されているネットワークカードは選択できません。

### ● IP Address および Subnet Mask

ネットワークカードに割り当てられている IP アドレスおよびサブネットマスクが表示されます。

ネットワークカードの設定が「IP アドレスを自動的に取得する」になっているにもかかわらず、DHCP サーバーがなく IP アドレスが割り振られていない場合は、「0.0.0.0」と表示されます。また、ネットワークカードが物理的に結線されていない場合も、同様に「0.0.0.0」と表示されます。

### ● [Open Network Connections] ボタン

コントロールパネルの「ネットワーク接続」を開きます。ネットワークカードの IP アドレスを変更するときに使います。

### ● [OK] ボタン

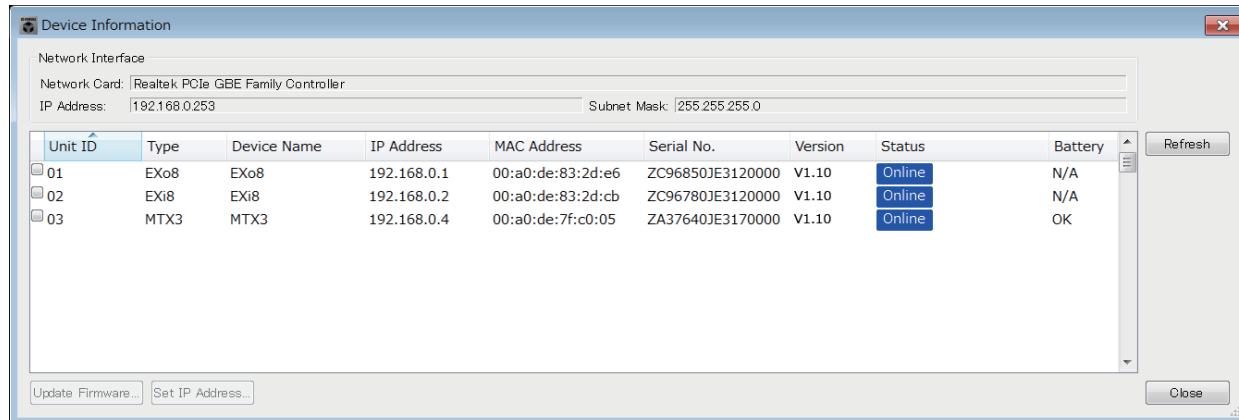
設定を更新し、ダイアログを閉じます。

### ● [Cancel] ボタン

設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

## □「Device Information」ダイアログ

ネットワーク上の機器を一覧で表示し、ファームウェアのアップデートやIPアドレスの変更を行ないます。



### ● Network Interface

「Select Network Interface Card」ダイアログで選択中のネットワークカードの名前/IPアドレス/サブネットマスクが表示されます。

### ● 機器リスト

- **Identify ボタン**

UNIT ID の左にあるこのボタンを押すと、対象の機器のインジケーターが5秒間点滅します。

- **Unit ID**

機器の UNIT ID が表示されます。

UNIT ID が重複している場合は、その旨が以下のように表示されます。

Unit ID	Type	Device Name	I
02	XMV4140	XMV4140	
03	XMV4140	XMV4140	
01	MTX3	MTX3	
02	MTX3	MTX3	1
04	XMV4140	XMV4140	

- **Type**

機器のモデル名が表示されます（デジタルコントロールパネルは除く）。

- **Device Name**

機器名が表示されます。この名前は、Project画面下部の[Device]タブのDEVICE NAMEで変更できます。

- **IP Address/MAC Address**

機器に設定されているIPアドレス/MACアドレスが表示されます。

- **Serial No.**

機器のシリアルナンバーが表示されます。

- **Version**

ファームウェアのバージョンが表示されます。

- **Status**

オンラインまたはオフラインの状態が表示されます。  
また、機器をアップデートする際は進行状況が表示されます。

- **Battery**

電池を内蔵している機器の電池残量が表示されます。

EMPTY: 残量が 0 ~ 0.5V。ただちに使用を中止して、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

LOW: 残量が 0.5 ~ 2.5V。お早めにヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

OK: 残量が 2.5 ~ 3.5V。問題ありません。

N/A: 電池を内蔵していません。

- **[Update Firmware] ボタン**

ファームウェアをアップデートします。  
このボタンをクリックすると、「Update Firmware」ダイアログが開きます。

**NOTE**

- ・「フォルダーの選択」ダイアログが開いたときは、アップデート用のファイルが存在するフォルダーを選択し、[OK] ボタンをクリックしてください。
- ・R シリーズ (AD/DA) と Tio1608-D のファームウェアのアップデートは Windows ソフトウェアアプリケーション R Remote を使って実施してください。

- **[Set IP Address] ボタン**

機器の IP アドレスおよびサブネットマスクを設定します。  
このボタンをクリックすると、「IP Address」ダイアログが開きます。

- **[Refresh] ボタン**

ネットワーク上の機器を再検索します。  
アップデート実行中は、クリックできません。

- **[Close] ボタン**

ダイアログを閉じます。  
アップデート実行中は、クリックできません。

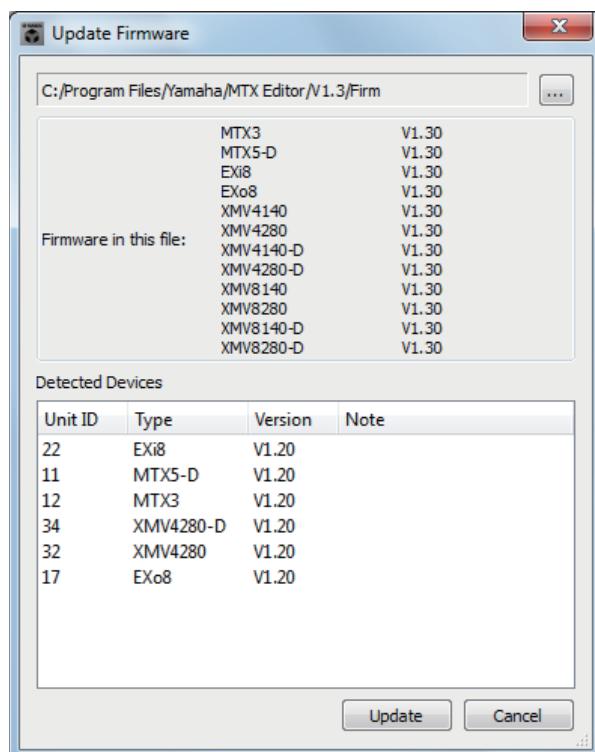
## 「Update Firmware」 ダイアログ

MTX/MRX や XMV などのファームウェアをアップデートするダイアログです。

MTX5-D や XMV8280-D などの Dante 機器では、Dante ファームウェアをアップデートする必要がある場合があります。Dante ファームウェアのアップデート方法については「MTX/MRX システムファームウェアアップデートガイド」を参照してください。

**NOTE**

- ・アップデートをすると、データの互換性がなくなる場合があります。アップデートをする前に最新のプロジェクトファイルを保存しておいてください。アップデートのあとに最新のプロジェクトファイルを最新のバージョンの MTX-MRX Editor で開いてください。
- ・R シリーズ (AD/DA) と Tio1608-D のファームウェアのアップデートは Windows ソフトウェアアプリケーション R Remote を使って実施してください。



● **ファイル**

Firmware in this file に表示されているアップデート用ファイルが入っているフォルダーの.fup ファイルを表示します。

● **[...] ボタン**

アップデート用のファイルを選択する場合にクリックします。このボタンをクリックすると「ファイルの選択」ダイアログが表示されるので.fup ファイルを選択してください。

● **Firmware in this file**

フォルダーに存在するファームウェアのバージョンを機器ごとに表示します。

● **Detected Devices**

検出した機器を表示します。

**Unit ID** ..... 機器の UNIT ID が表示されます。

**Type** ..... 機器のモデル名が表示されます。

**Version** ..... 機器のファームウェアのバージョンが表示されます。

● **[Update] ボタン**

アップデートを実行します。

選択したフォルダーにアップデート用のファイルが存在しない場合は、このボタンはグレーアウト表示となりクリックできません。

**● [Cancel] ボタン**

アップデートを中止し、ダイアログを閉じます。

**■ アップデート手順**

該当するすべての機器を一度にアップデートできます。

**NOTE** プロジェクトと異なる PIN コードが設定されている MTX/MRX がある場合、PIN コードの入力が必要になります。

1. MTX/MRX システム内のすべての該当する機器で、ディップスイッチの7と8をOFFにします (RESUME モード)。
2. MTX/MRX システム内のすべての該当する機器の電源をオンにします。
3. 「Device Information」ダイアログで [Update Firmware] ボタンをクリックします。  
「フォルダーの選択」ダイアログが開いたときは、アップデート用のファイルが存在するフォルダーを選択し、[OK] ボタンをクリックしてください。
4. 「Update Firmware」ダイアログが開きます。  
フォルダーに存在するファームウェアのバージョンが表示されます。別のフォルダーを指定する場合は、[...] ボタンをクリックしてください。
5. [Update] ボタンをクリックしてアップデートを実行します。  
アップデート実行中は、機器のインジケーターが点滅します。  
**NOTE** アップデート実行中は、機器本体の電源を切らないでください。
6. アップデートが完了すると、該当する機器のインジケーターが点灯します。  
アップデートが完了すると、自動的に再起動します。  
**NOTE** 該当する機器の [ALERT] インジケーターが点滅している場合は、何らかのエラーが発生しアップデートに失敗しています。フロントパネルの [PRESET] ディスプレイにアラート番号が表示されますので、資料のアラート一覧でエラーの内容を確認のうえ対応してください。
7. 「Device Information」ダイアログを閉じます。  
アップデートが正常に終了すると、機器の再起動後、MTX-MRX Editor の Project 画面に MTX/MRX システム内の機器が再表示されます。

## 「IP Address」ダイアログ

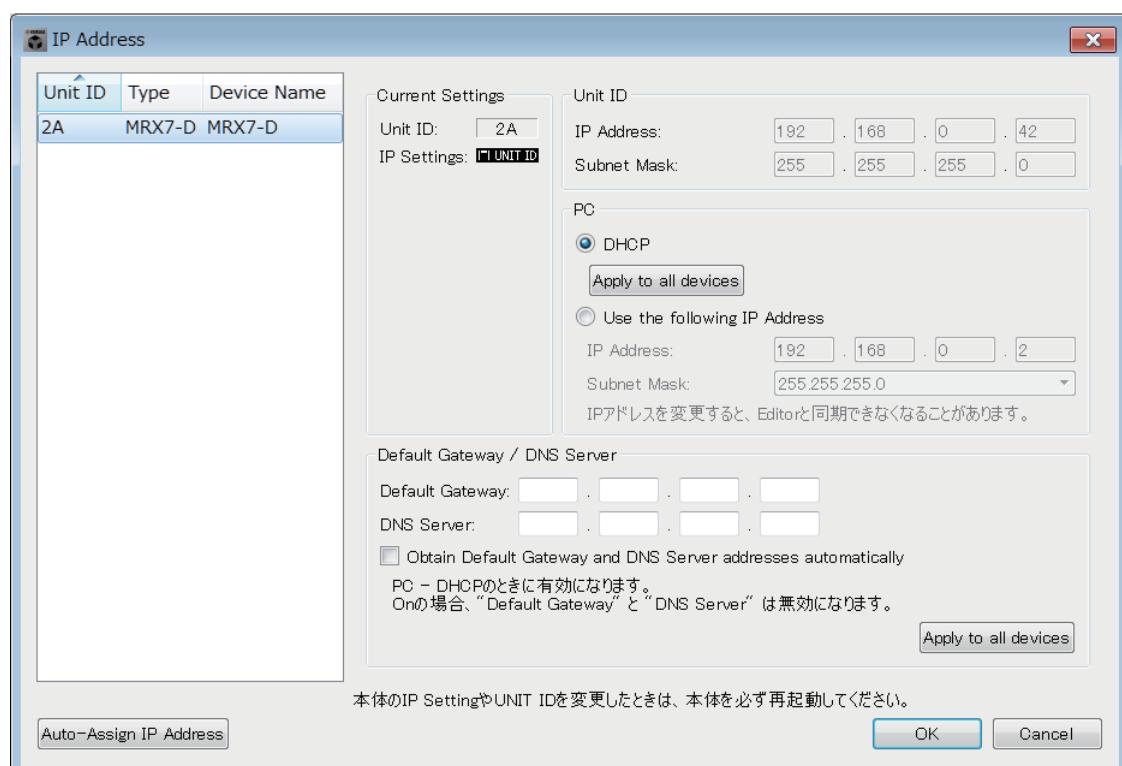
機器のIP設定をします。

機器の設定として、「IP SETTINGS」を「UNIT ID」または「STATIC IP(Auto)」にし、コンピューターのIPアドレスは「192.168.0.253」、サブネットマスクは「255.255.255.0」に設定することを推奨します。

オンライン状態のときは編集できません。

MTX-MRX Editorで異なるサブネットのMTX/MRXシステムをコントロールする場合は、機器を固定IPアドレスで運用する必要があります。詳細については資料の「[サブネット越しに機器をコントロールするための設定](#)」を参照してください。

**NOTE** PINコードを設定している場合、PINコードの入力が求められます。PINを解除できなかった機材は機器リストに表示されず、設定変更でがきません。



機器のIPアドレスおよびサブネットマスクを固定したいときは、このダイアログで以下のように設定してください。

1. コンピューターのIPアドレスを「192.168.0.253」、サブネットマスクを「255.255.255.0」に設定します。
2. 機器の設定として、「IP SETTINGS」を「UNIT ID」または「STATIC IP(Auto)」にして、全機器のUNIT IDをFD以外で、全機器が重複しないように設定してから、機器の電源をオンにします。
3. 「IP Address」ダイアログの左にあるリストで変更する機器を選択します。
4. 「IP Address」ダイアログで[Use the following IP Address]ラジオボタン(機器に固定IPアドレスを設定)を選択します。
5. [IP Address]と[Subnet Mask]に値を設定します。
6. [OK]ボタンをクリックします。
7. 機器の設定として、PCモードまたはSTATIC IP(MANUAL)にします。
8. 機器の電源をオフにしたあと、10秒ほど空けて電源をオンにします。

9. 「Device Information」ダイアログの [Refresh] ボタンをクリックします。

機器の IP アドレスが変更されていることを確認してください。

**HINT** 複数機器の設定を変える場合は手順 3 から 5 を繰り返したあと、手順 6 以降に進んでください。

### ● 機器リスト

ネットワーク上の機器が表示されます。クリックすると右側に現在の機器の設定が表示され、変更可能になります。

### ● Current Settings

本体に設定されている UNIT ID と IP Setting が表示されます。

### ● Unit ID/Static IP(Auto)

本体で IP Setting が「UNIT ID」または「STATIC IP (Auto)」に設定されている場合、IP アドレスとサブネットマスクが表示されます。

### ● PC/Static IP(Manual)

#### ○ [DHCP] ラジオボタン (MTX/MRX システム機器のみ)

選択すると、DHCP サーバーを利用して IP アドレスを設定します。

DHCP サーバーが存在していないとき、IP アドレスは [0.0.0.0] に設定されます。これを解消するには、DHCP サーバーの接続を確認してください。もしくは、本体リアパネルのディップスイッチで IP Setting を [UNIT ID](IP アドレスを UNIT ID から生成するモード) に設定してください。

#### ○ [Apply to all the devices] ボタン (MTX/MRX システム機器のみ)

機器リストに表示されているすべての機器を DHCP モードにします。

#### ○ [Use the following IP Address] ラジオボタン (MTX/MRX システム機器のみ)

選択すると、ここで設定した IP アドレスおよびサブネットマスクを使用します。

#### ○ IP Address/Subnet Mask

機器の IP アドレスとサブネットマスクを設定します。

IP アドレスはコンピューターを含む他の機器の IP アドレスと重ならないようにしてください。

**NOTE** 以下の IP アドレスは設定できません。

192.168.0.0 – ネットワークアドレスと重複するため使用禁止

192.168.0.255 – ブロードキャストアドレスと重複するため使用禁止

選択できるサブネットマスクは以下の通りです。

128.0.0.0	255.255.128.0
192.0.0.0	255.255.192.0
224.0.0.0	255.255.224.0
240.0.0.0	255.255.240.0
248.0.0.0	255.255.248.0
252.0.0.0	255.255.252.0
254.0.0.0	255.255.254.0
255.0.0.0	255.255.255.0(初期値)
255.128.0.0	255.255.255.128
255.192.0.0	255.255.255.192
255.224.0.0	255.255.255.224
255.240.0.0	255.255.255.240
255.248.0.0	255.255.255.248
255.252.0.0	255.255.255.252
255.254.0.0	
255.255.0.0	

- **Default Gateway(MTX/MRX システム機器以外)**  
デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。

● **Default Gateway / DNS Server(MTX/MRX システム機器のみ)**

- **Default Gateway**  
デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。
- **DNS Server**  
DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
- [Obtain Default Gateway and DNS Server address automatically] チェックボックス  
チェックを入れるとデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスを自動取得します。上のデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスの設定は無効となります。
- **[Apply to all devices] ボタン**  
機器リストに表示されているすべての機器に同じデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの設定をします。

● **[Auto-Assign IP Addresses] ボタン**

クリックすると「Auto-Assign IP Address」ダイアログが開きます。

● **[OK] ボタン**

設定内容を機器に送信し、ダイアログを閉じます。

機器の IP Setting が [PC] の状態で IP アドレスを変更した場合は、一時的に通信が切斷されます。

● **[Cancel] ボタン**

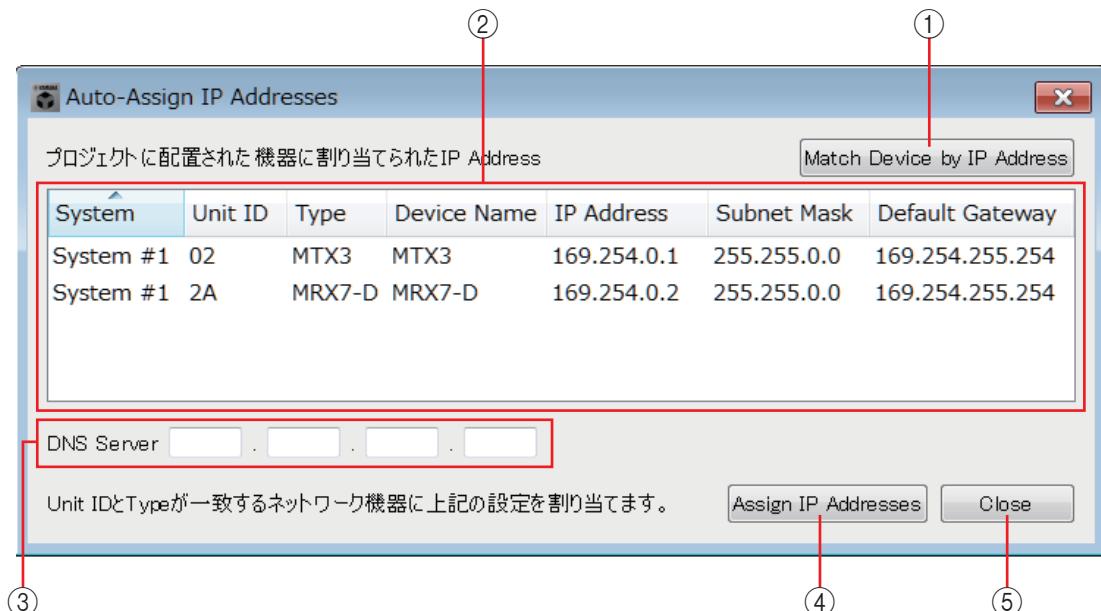
設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

**NOTE** 機器の設定として「IP SETTINGS」が「UNIT ID」または「STATIC IP(Auto)」のとき、ネットワークアドレスの設定がコンピューターと本体とで異なっている場合は通信できません。コンピューターのネットワークアドレスを必ず本体のネットワークアドレスに合わせて設定してください。  
本体のアドレスがわからない場合は、本体リアパネルのディップスイッチで IP Setting を「UNIT ID」に設定しておくことをおすすめします。

## 「Auto-Assign IP Address」ダイアログ

「Match Device by IP Address」ダイアログで MTX-MRX Editor に配置した機器に設定した IP アドレスなどの情報を一括で「IP Address」ダイアログに反映させます。

詳細については資料の「[サブネット越しに機器をコントロールするための設定](#)」を参照してください。



### ① [Match Device by IP Address] ボタン

クリックすると「Match Device by IP Address」ダイアログが開きます。

### ② 機器リスト

「Match Device by IP Address」ダイアログで MTX-MRX Editor に配置した機器に設定した IP 設定の情報を表示します。

### ③ DNS Server

DNS サーバーを設定します。

### ④ [Assign IP Address] ボタン

機器リストに表示されている情報と DNS Server の設定を「IP Address」ダイアログに反映します。「IP Address」ダイアログで [DHCP] ラジオボタンが有効になっていても、[Use the following IP Address] ラジオボタンを有効に切り替えます。

### ⑤ [Cancel] ボタン

ダイアログを閉じます。

## □「Match Device by IP Address」ダイアログ

MTX-MRX Editor が IP アドレスでネットワーク上の機器を識別するモードに変更します。

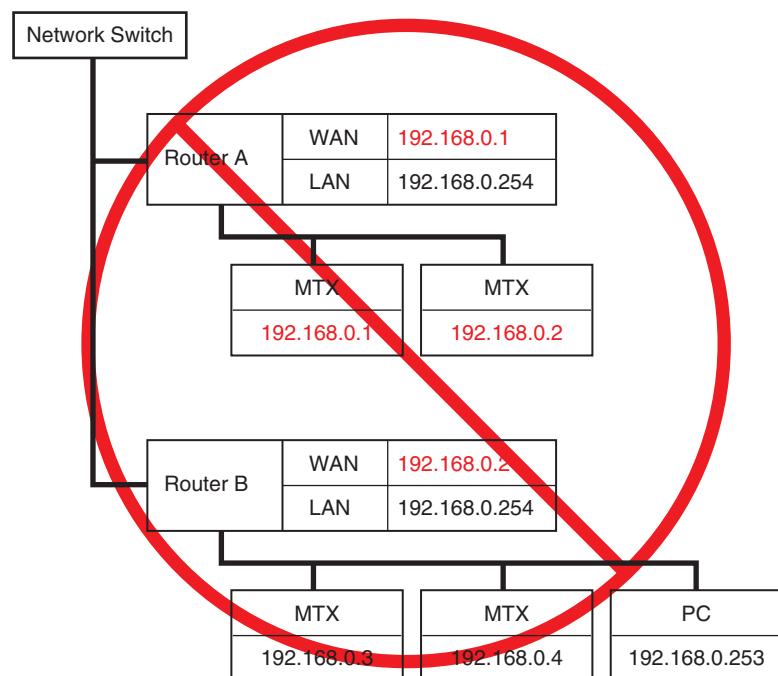
MTX-MRX Editor と異なるサブネットに配置された MTX/MRX システムをコントロールする場合は、ここで設定してください。

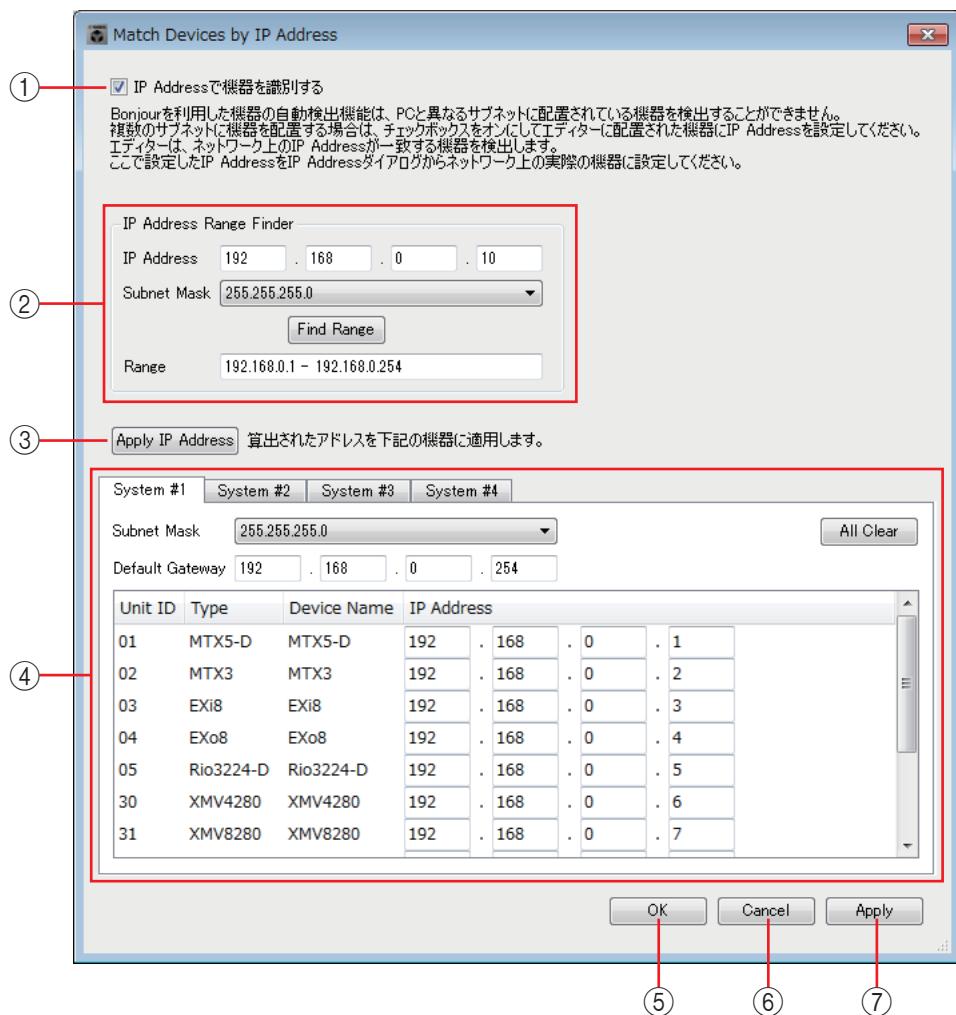
設定手順については「[サブネット越しに機器をコントロールするための設定](#)」を参照してください。

異なるサブネットにある機器とは以下のことができません。

- Preset Link
- Dante の音声通信

IP アドレスは通信経路全体で唯一なものになるようにしてください。通信経路上に同じ IP アドレスの機器があると、識別できないことがあります。





### ① [IP Address で機器を識別する] チェックボックス

チェックを入れると、機器を UNIT ID ではなく、IP アドレスで識別するようになります。

### ② [IP Address Range Finder] エリア

IP アドレスが連番で良い場合、割り当てる IP アドレスを計算します。

- [IP Address]

使用する IP アドレスを入力します。

- [Subnet Mask]

サブネットマスクを選択します。選択できるサブネットマスクについては「IP Address」ダイアログをご確認ください。

- [Find Range] ボタン

クリックすると、入力された IP アドレスとサブネットマスクから、設定できる範囲を計算します。

- [Range]

計算した IP アドレスの範囲を表示します。

### ③ [Apply IP Address] ボタン

クリックすると、「IP Address Range Finder」エリアで算出した IP アドレスをシステムタブ内の機器に反映します。

**④ システムタブ**

システム内の機器の設定を表示 / 編集します。

- **[Subnet Mask]**

サブネットマスクを選択します。選択できるサブネットマスクについては「IP Address」ダイアログをご確認ください。

- **[Default Gateway]**

サブネット内のデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。

- **機器リスト**

システム内の機器の IP アドレスを入力します。

- **[All Clear] ボタン**

機器の IP アドレスの情報を削除します。

**⑤ [OK] ボタン**

設定を更新し、ダイアログを閉じます。

**⑥ [Cancel] ボタン**

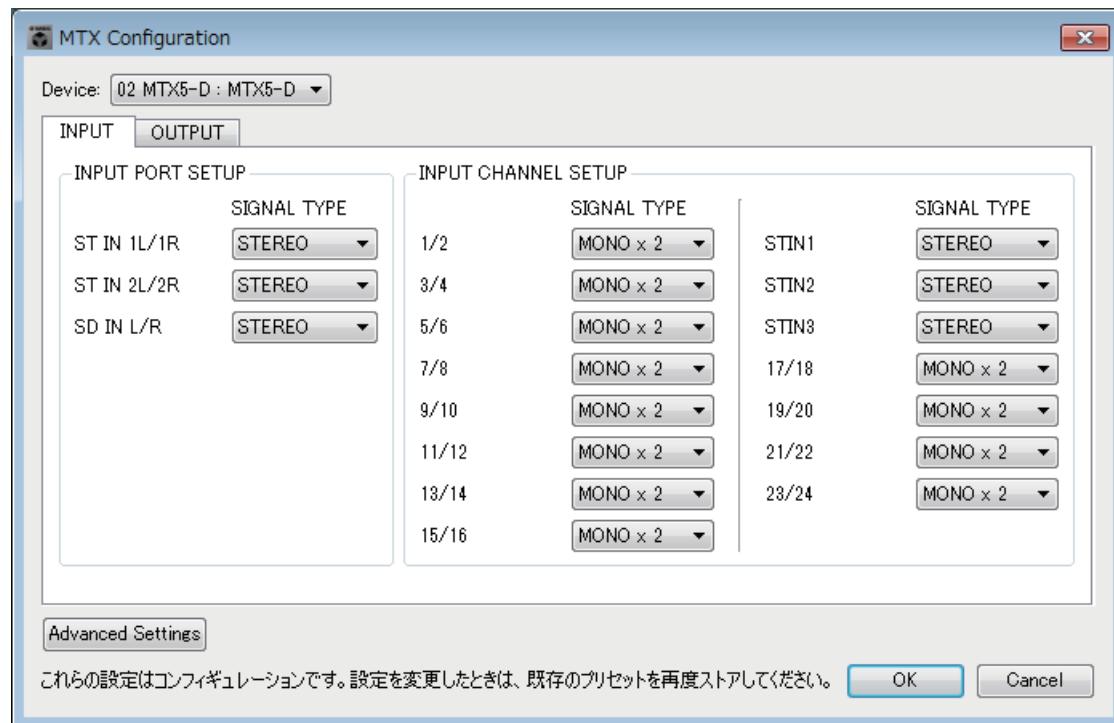
設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

**⑦ [Apply] ボタン**

設定を更新します。

## □「MTX Configuration」ダイアログ

MTXの入力ポートや出力チャンネル、マトリクスバスなど、入出力の設定を機器ごとに行ないます。



**NOTE** これらの設定はプリセットに含まれないため、Preset Recall 機能での変更はできません。

● **Device:**

MTX/MRX システム内の MTX を選択します。

左から、「UNIT ID」「Type( 機器のモデル名 )」「Device Name( 機器の名称 )」の順に表示されます。

● **[Advanced Settings] ボタン**

「Advanced Settings」ダイアログが開きます。

● **[OK] ボタン**

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

● **[Cancel] ボタン**

設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

● **[INPUT] タブ**

入力に関する設定をします。

● **INPUT PORT SETUP**

ステレオ入力ポートへの入力について設定します。

STEREO.....ステレオ信号のまま入力します。

SUM.....L および R の入力を足し合わせて 1 つのチャンネルにします。入力パッチへの入力が 1 本になります。

● **INPUT CHANNEL SETUP**

入力チャンネルについて設定します。ここでの設定は、「MAIN」画面の入力チャンネルリストに影響します。

MONO x2.....入力チャンネルをモノラル 2 チャンネルとして扱います。

STEREO.....入力チャンネルを 1 組のステレオチャンネルとして扱います。

## ● [OUTPUT] タブ

出力に関する設定をします。

### • MATRIX BUS SETUP

マトリクスバスについて設定します。ここで設定は、「MATRIX」画面に影響します。

MONO x2..... 入力チャンネルをモノラル 2 チャンネルとして扱います。

STEREO..... 入力チャンネルを 1 組のステレオチャンネルとして扱います。

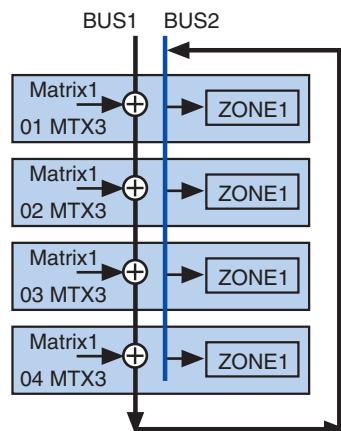
**NOTE** MTX/MRX システムの YDIF モードが Cascade モードの場合は、MTX/MRX システム内のすべての MTX でパラメーターが共通となります。

### • CASCADING MODE

ZONE への入力ソースをマトリクスごとに設定します。Distribution モードのときは、設定できません。

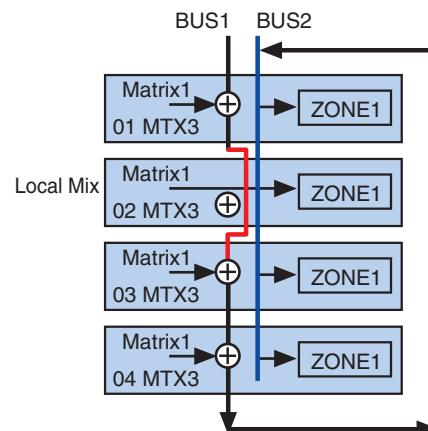
#### オン

すべての MTX のマトリクスアウトがマトリクスごとにミックスされます。また、そのミックス信号が ZONE への入力として使用されます。



#### オフ

バスからのミックスを使用せずに、マトリクスアウトが ZONE への入力として使用されます。

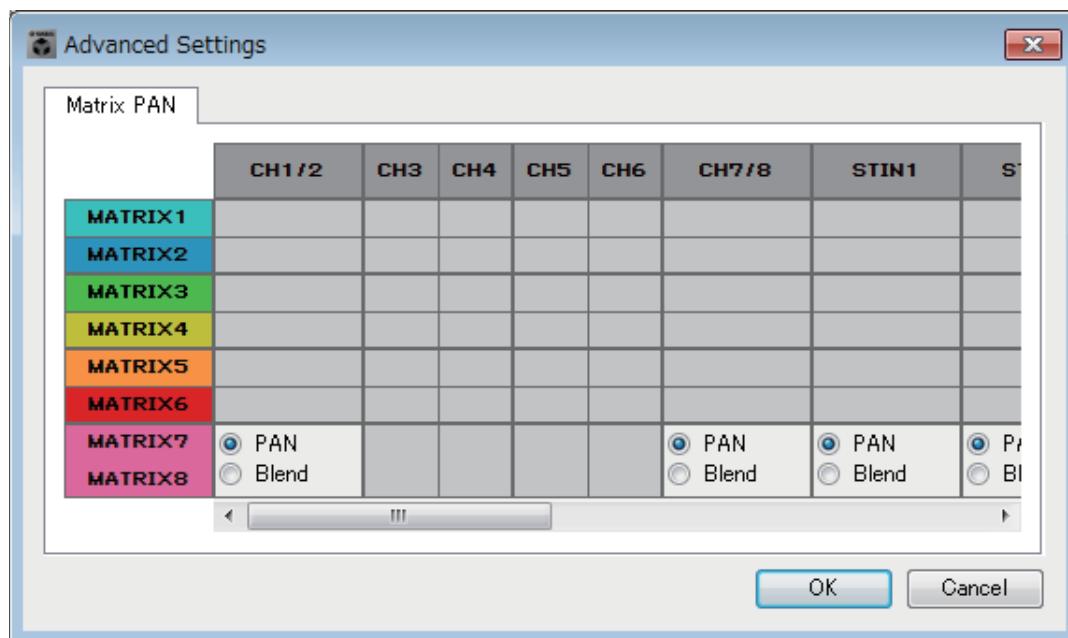


### • OUTPUT CHANNEL SETUP

出力チャンネルのスピーカープロセッサーのタイプ (1WAYx2 または 2WAY) を設定します。ここで設定は、「MAIN」画面のチャンネルストリップに影響します。

## 「Advanced Settings」ダイアログ

マトリクスのパンのモード (PAN または Blend) を設定します。入出力とともにステレオの場合のみ設定できます。



[Blend] に設定すると、ステレオ音声の右チャンネルおよび左チャンネルをステレオ感を残したままミックスします。たとえば古いステレオ録音の音声の場合、右と左でまったく違った音声が録音されている場合があり、それをステレオ BGM システムで流すと場所によって音楽が違って聴こえます。「Blend」はそれを和らげる効果があります。

### ● [OK] ボタン

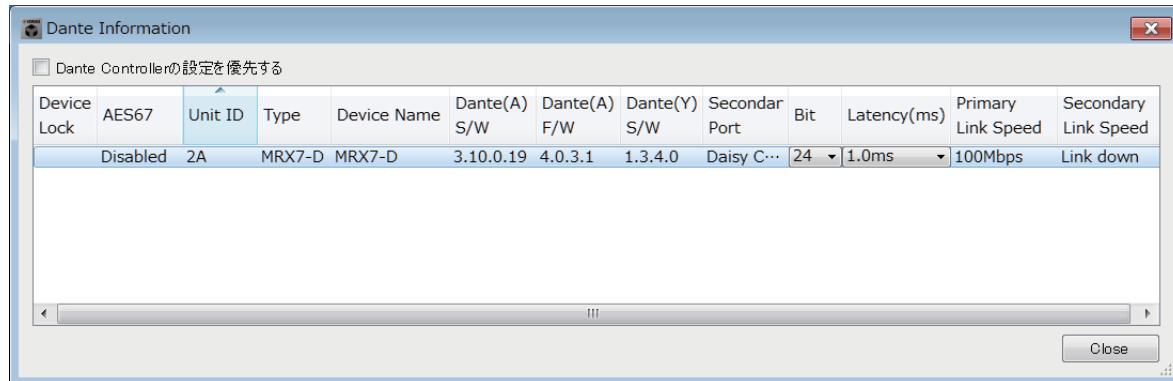
設定を保存し、ダイアログを閉じます。

### ● [Cancel] ボタン

設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

## □ 「Dante Information」 ダイアログ

MTX5-D や XMV8280-D などの Dante 機器の Dante に関する設定を表示します。



### ● [Dante Controller の設定を優先する] チェックボックス

Audinate 社の Dante Controller を使って Dante ネットワークを構築する場合にチェックを入れてください。MTX-MRX Editor での設定より Dante Controller の設定を優先するようになります。チェックを外すと MTX-MRX Editor でプロジェクト内の Dante ネットワークの設定ができるようになります。

### ● [Device Lock]

Dante Controller で Device Lock されていると、鍵アイコンが表示されて編集の対象外となります。

### ● [AES67]

機器が AES67 モードになっている場合「Enabled」と表示されます。

### ● [UNIT ID]

機器の UNIT ID を表示します。

### ● [Type]

機器のモデル名が表示されます。

### ● [Device Name]

機器名が表示されます。この名前は、Project 画面下部の [Device] タブの DEVICE NAME で変更できます。

### ● [Dante(A) S/W]/[Dante(A) F/W]/[Dante(Y) S/W]

Dante フームウェアのバージョンを表示します。

### ● [Secondary Port]

ディップスイッチの [SECONDARY PORT] の設定を表示します。

### ● [Bit]

ビットレートを表示します。オフライン状態で設定を変更できます。

### ● [Latency(ms)]

レイテンシーをミリ秒単位で表示します。オフライン状態で設定を変更できます。

### ● [Primary Link Speed]/[Secondary Link Speed]

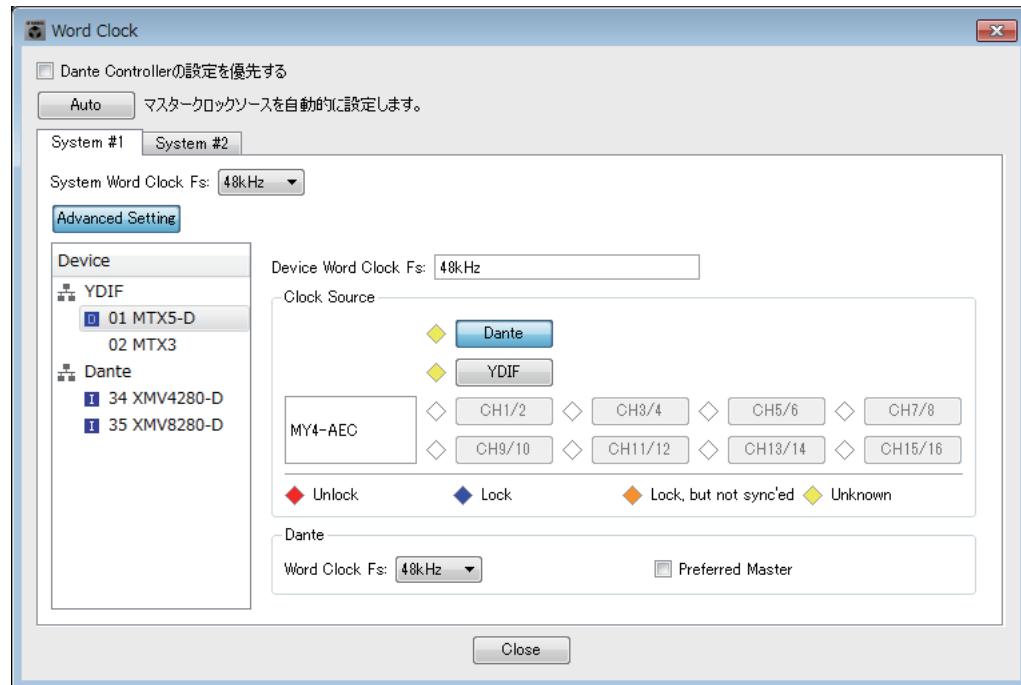
Dante 端子の通信速度設定を表示します。端子に他の機器が接続されていない場合や断線している場合などは「Link Down」と表示されます。

### ● [Close] ボタン

ダイアログを閉じます。

## □「Word Clock」ダイアログ

MTX/MRX システムのワードクロックの設定を変更します。通常は「Device Configuration Wizard」ダイアログでコンフィギュレーションを作成したときに最適な値に設定されています。Mini-YGDAI カードをワードクロックマスターにするなどの場合に、このダイアログで設定してください。



### ● [Dante Controller の設定を優先する] チェックボックス

Audinate 社の Dante Controller を使って Dante ネットワークを構築する場合にチェックを入れてください。MTX-MRX Editor での設定より Dante Controller の設定を優先するようになります。チェックを外すと MTX-MRX Editor でプロジェクト内の Dante ネットワークの設定ができるようになります。

### ● [Auto] ボタン

プロジェクト内のすべての MTX/MRX システムのワードクロックとマスタークロックを設定します。オフライン状態でのみ有効です。

### ● システム切り替えタブ

ワードクロックを設定する MTX/MRX システムを選択します。

### ● [System Word Clock Fs:] リストボックス

MTX/MRX システムのワードクロックを設定します。

### ● [Advanced Setting] ボタン

詳細設定の画面に表示を切り替えます。上図は [Advanced Setting] ボタンをクリックした状態です。

### ● [Device] リスト

ワードクロックの変更ができる機器が表示されます。ワードクロックの詳細を設定する機器をクリックすることでその機器の設定画面に切り替わります。UNIT ID の左にあるアイコンはクロックソースが何に設定されているかを表します。

アイコン	クロックソース
D	Dante
I	Internal
S	Mini-YGDAI カード
なし	YDIF

**NOTE** 以下の機器は表示されません。

- EXi8
- EXo8
- YDIF で接続されている XMV
- アナログで接続されている XMV

### ● [Device Word Clock Fs:]

機器のワードクロックを表示します。オンライン状態のときは機器のワードクロック値を表示します。オフライン状態のときは以下のように表示します。

MTX5-D/ MRX7-D	DANTE をワードクロックソースとしている場合は、Dante の [Word Clock Fs:] で設定されている値を表示。 それ以外は「---」を表示。
MTX3	Internal の 44.1kHz または 48kHz を選択している場合は、その値を表示。 YDIF を選択している場合は、「---」を表示。
Dante 対応 XMV	「48kHz」と表示。

### ● [Clock Source]

ボタンで機器のワードクロックのソースを選択します。選択可能なボタンの左側に状態を示すインジケーターが表示されます。オフライン状態のときは検出できないのですべてのインジケーターが黄色になります。

インジケーター	状態
◆	ロック状態。
◆	ロックはしているが同期していない状態。
◆	アンロック状態。
◆	外部機器が接続されていない、有効なクロック入力がないなどの理由で、クロックの状態を検出できない状態。

### ● [Dante]

Dante のワードクロックを設定します。Dante Controller で Device Lock されている機器は鍵アイコンが表示され、設定できません。

#### • [Word Clock Fs:] リストボックス

機器のワードクロックの表示 / 設定をします。Dante Controller で Device Lock されていると、鍵アイコンが表示されて編集の対象外となります。Dante Controller で AES67 モードにされていると、「48kHz」と表示され編集の対象外となります。

#### • [Preferred Master] チェックボックス

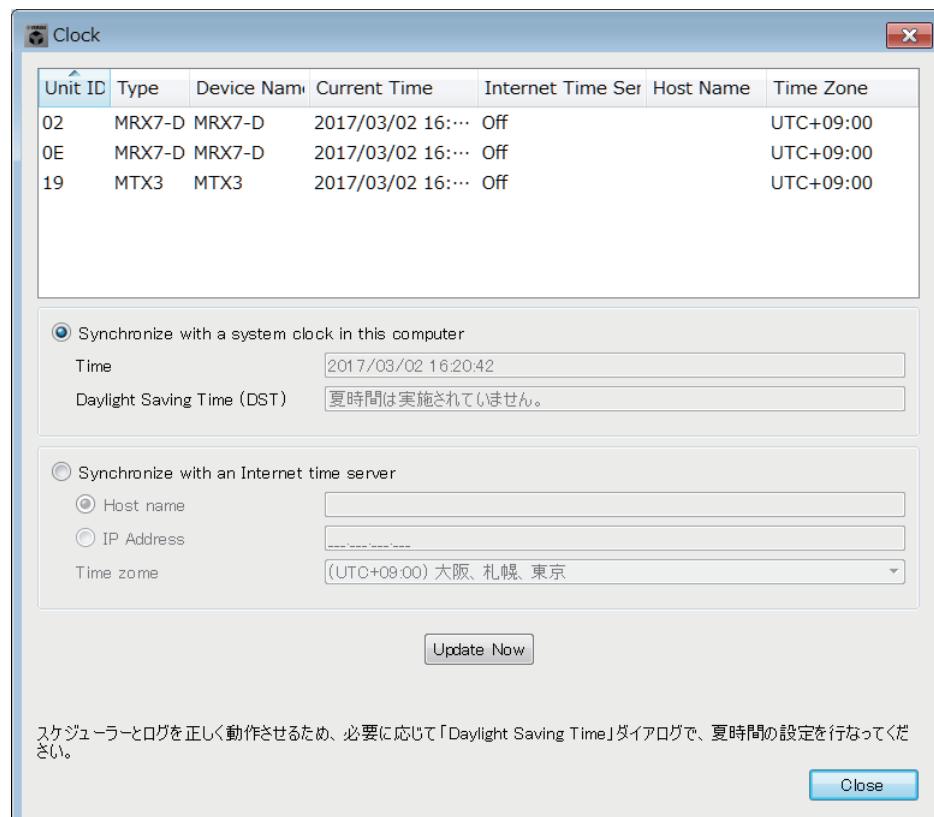
チェックを入れると、機器が Dante ネットワーク内のクロックマスターになる確率を上げます。MTX/MRX システムに MTX-MRX Editor が対応していない Dante 機器を組み込むが、MTX/MRX システムの機器をクロックマスターにしたい場合に使用します。Dante Controller で Device Lock されていると、編集の対象外となります。

### ● [Close] ボタン

ダイアログを閉じます。

## □「Clock」ダイアログ

MTX/MRX システムとして接続されているすべての機器の内蔵時計は、オンライン状態にするたびにコンピューターの時計の日付および時間が送信され、自動的に更新されます。このダイアログからコンピューターの時計の日時を送信すると、オンライン状態 / オフライン状態にかかわらず同一ネットワークに接続されている MTX/MRX の日時を更新します。MTX/MRX 以外の機器の内蔵時計は、MTX/MRX が更新します。



### ● Unit ID

UNIT ID を表示します。

### ● Type

機器のタイプを表示します。

### ● Device Name

機器名を表示します。

### ● Current Time

機器の時間情報を表示します。

### ● Internet Time Server

機器がタイムサーバーから時間情報を取得するような設定のときには On を表示し、タイムサーバーを使わない設定のときには Off を表示します。

### ● Host Name

機器がタイムサーバーから時間情報を取得するような設定のときには、タイムサーバーのホスト名または IP アドレスを表示します。

### ● Time Zone

機器のタイムゾーン情報を表示します。

**● [Synchronize with a system clock in this computer] ラジオボタン**

選択すると、オンライン状態にするたびにコンピューターの時計の日付および時間を送信して、MTX/MRX の内蔵時計を自動的に更新します。

- [Time]

夏時間の設定を無視したコンピューターの時計の日付および時間を表示します。

MTX/MRX の内蔵時計の日付と時刻が、この表示と一致していれば、MTX/MRX とコンピューターの時刻情報が同期しています。

- [Daylight Saving Time(DST)]

コンピューターの夏時間を表示します。夏時間の設定がされていない場合は「夏時間は実施されていません」と表示します。

**● [Synchronize with an Internet time server] ラジオボタン**

選択して [Update Now] ボタンを押すと、指定されたタイムサーバーから時間情報を取得して、MTX/MRX の内蔵時計を更新します。設定後は、24 時間ごとにタイムサーバーと同期します。

必要な入力がされていない場合、時間情報の取得ができないことがありますので、グレーアウトしていない入力箇所には必ず適切な入力をしてください。

**注記**

外部のタイムサーバーを指定する場合は、別途インターネット接続環境を構築し、環境に合わせて IP Address ダイアログで [DNS server address] と [Default Gateway] を設定してください。

外部のタイムサーバーを指定する場合は信頼できるサーバーを指定してください。信頼できないサーバーを指定するとウィルスに感染するなどのリスクが発生します。

- [Host name]

選択した場合、タイムサーバーのホスト名を入力してください。

- [IP Address]

選択した場合、タイムサーバーの IP アドレスを入力してください。

- [Time zone]

グリニッジ標準時に対して、地域の時間差を設定します。デフォルトではコンピューターのタイムゾーンが設定されています。

- [Update Now] ボタン

クリックすると設定に合わせて、機器の内蔵時計を更新します。

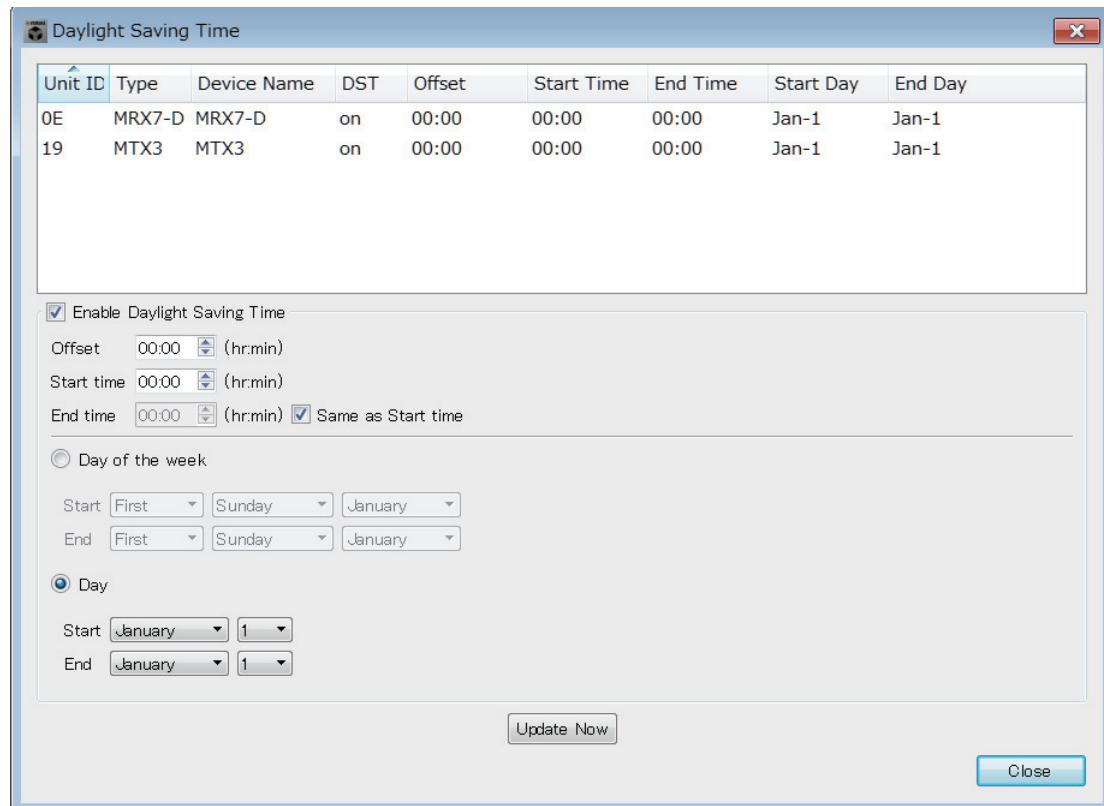
**● [Close] ボタン**

ダイアログを閉じます。

## □「Daylight Saving Time」ダイアログ

オンライン状態 / オフライン状態にかかわらず同一ネットワークに接続されている MTX/MRX のサマータイム (= Daylight Saving Time) の設定をします。

- NOTE**
- ・「Scheduler」ダイアログで、サマータイム開始時刻または終了時刻の前後 2 時間に設定されたイベントは、正しく実行されません。
  - ・新規でプロジェクトを作成すると、コンピューターの「日付と時刻」のサマータイム設定が自動的にこのダイアログに反映されます。



### ● Unit ID

UNIT ID を表示します。

### ● Type

機器のタイプを表示します。

### ● Device Name

機器名を表示します。

### ● DST

機器にサマータイムが設定されているときには On を表示し、サマータイムが設定されていないときには Off を表示します。

### ● Offset

機器のサマータイム期間に早める時間を表示します。

### ● Start Time

機器のサマータイム開始時間を表示します。

### ● End Time

機器のサマータイム終了時間を表示します。

**● Start Day**

機器のサマータイム開始日を表示します。

**● End Day**

機器のサマータイム終了日を表示します。

**● [Enable Daylight Saving Time] チェックボックス**

オンにすると、サマータイム表示が有効になります。

**NOTE** コンピューターの「日付と時刻」で、「自動的に夏時間の調整をする」チェックボックスをオンにしている場合は、「Daylight Saving Time」ダイアログの [Enable Daylight Saving Time] チェックボックスも必ずオンにしてください。

**• Offset**

サマータイム期間に早める時間を設定します。

たとえば Offset に 01:00、Start time に 12:00 を設定すると、サマータイム開始日の 12:00 になったときに時計を 13:00 にします。

**• Start time**

サマータイムの開始時間を設定します。

**• End time**

サマータイムの終了時間を設定します。開始時間と同じ場合は、[Same as Start time] をチェックします。

たとえば Offset に 01:00、End time に 12:00 を設定すると、サマータイム終了日の サマータイムで 12:00 になったときに時計を 11:00 にします。[Same as Start time] にチェックが入っていると、Start time で指定した時間にしたがって自動的に終了日にサマータイムを解除して元の時間に戻します。

**● Day of the week**

オンにすると、サマータイム期間を曜日で設定します。Start で開始日、End で終了日を何回目の何曜日かで設定します。たとえば、4月の第1日曜は「First」「Sunday」「April」、10月の最終日曜日は「Last」「Sunday」「October」と設定します。

**● Day**

サマータイム期間を日で設定します。Start で開始日、End で終了日を月日で設定します。

**● [Update Now] ボタン**

クリックすると設定に合わせて、機器の内蔵時計を更新します。

**● [Close] ボタン**

ダイアログを閉じます。

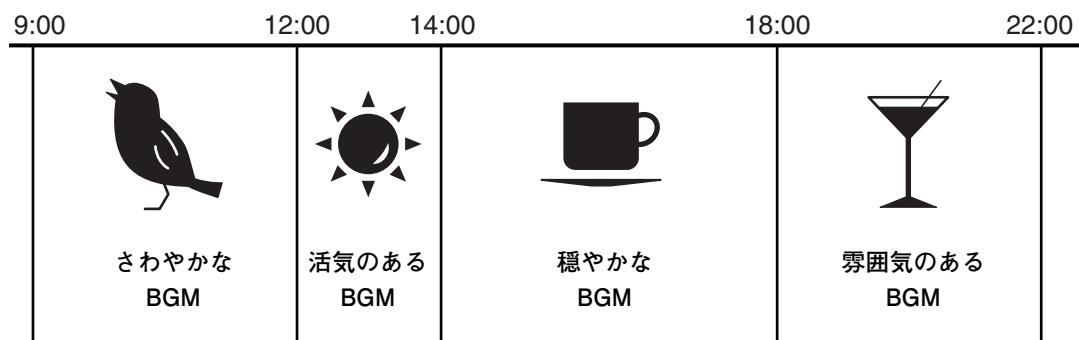
## □「Scheduler」ダイアログ

あらかじめ設定しておいた日時にプリセットを切り替えたり、SDメモリーカードに保存してある曲や効果音を再生できます。これらの個々の設定を「イベント(Event)」と呼びます。

### <使用例1>

#### 時間帯によってBGMを切り替える

商業施設などで、時間帯によってBGMの種類を変えることができます。



### <使用例2>

#### 曜日によってBGMを再生する時間帯を切り替える

商業施設などで、曜日や営業時間によってBGMのパターンや再生する時間帯を変えることができます。

- 月～金曜日



- 土曜日



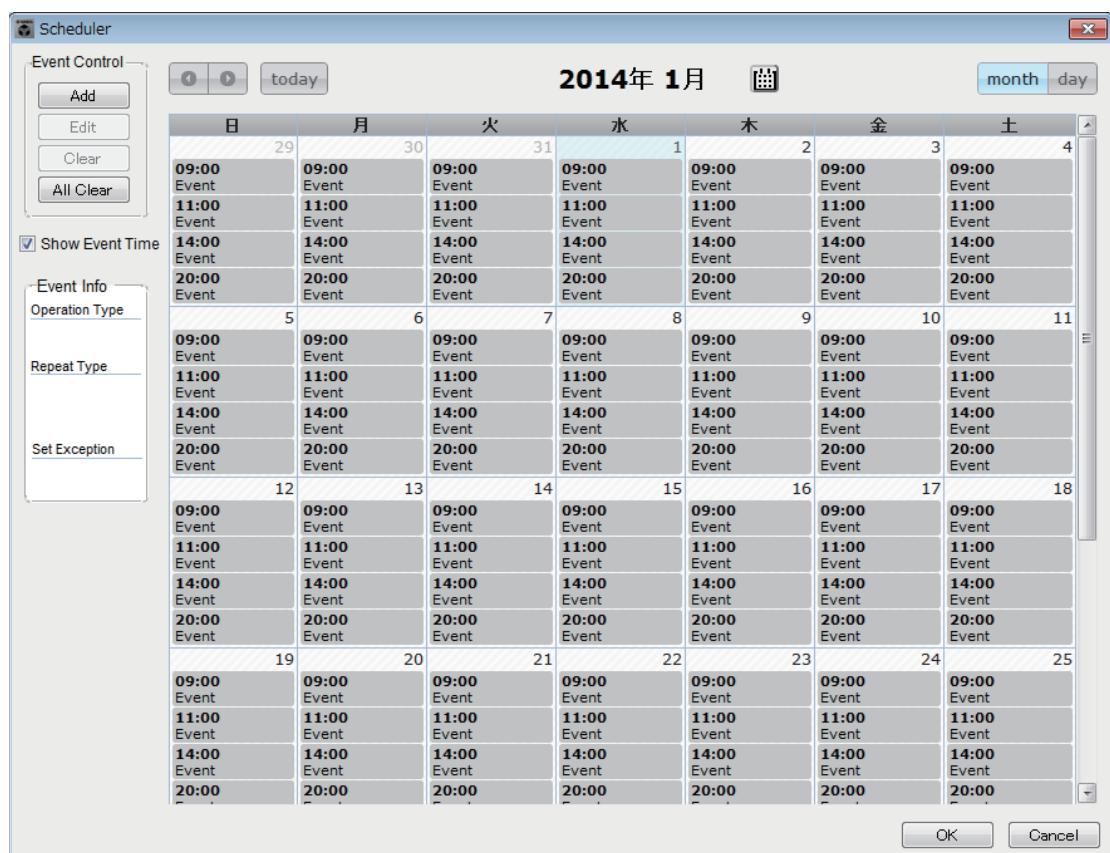
- 日曜日



このほか、クリスマスなどの季節物のBGMを流したり、休業日に再生を止めたりなどの例外パターンも設定できます。

**NOTE**

- イベントが設定されていると、MTX/MRXのフロントパネルの[SCEDULER]インジケーターが黄色に点灯します。イベントの1分前になると、インジケーターが点滅します。
- 同時に複数のイベントが設定されている場合、1秒ずつの間をおいてすべてのイベントを起動します。この間、MTX/MRXのフロントパネルの[SCEDULER]インジケーターは点滅し続けます。
- 「Daylight Saving Time」ダイアログで[Enable Daylight Saving Time]チェックボックスをオンに設定しているとき、サマータイム開始時刻または終了時刻の前後2時間に設定されたイベントは、正しく実行されません。

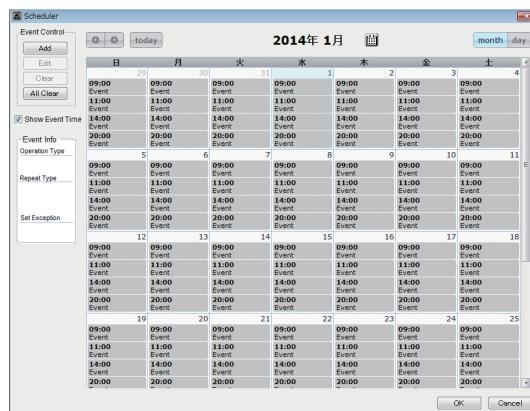


イベントは50イベント、例外は50パターンまで登録できます。

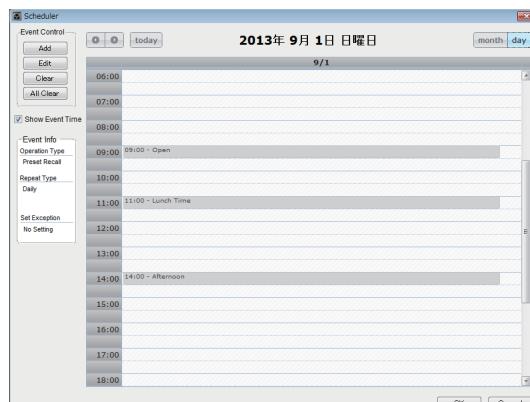
### ● [Month] ボタン / [Day] ボタン

カレンダーを月表示または日表示に切り替えます。

#### 月表示



#### 日表示



- カレンダーで任意の日付をダブルクリックすると、「Add Event」ダイアログが表示され、イベントを追加できます
- 周期イベント以外はイベントをドラッグ & ドロップで移動させることができます（月表示のときは日付の移動、日表示のときは時間の移動）。
- 月表示のときは、カレンダーアイコンをクリックすると、年月の選択画面が表示されます。

### ● [Today] ボタン

月表示の場合は、今月のカレンダーが表示されます。

日表示の場合は、本日のスケジュールが表示されます。

**● [ < ]/[ > ] ボタン**

月表示の場合は、前月 / 翌月のカレンダーが表示されます。

日表示の場合は、前日 / 翌日のスケジュールが表示されます。

**● Event Control**

- **[Add] ボタン**

「Add Event」ダイアログが開きます。

イベントを追加します。

- **[Edit] ボタン**

「Edit Event」ダイアログが開きます。

現在選択されているイベントの内容を編集します。イベントが選択されていないときは、ボタンがグレーアウト表示になります。

- **[Clear] ボタン**

現在選択されているイベントを削除します。イベントが選択されていないときは、ボタンがグレーアウト表示になります。

- **[All Clear] ボタン**

登録されているイベントをすべて削除します。

**● [Show Event Time] チェックボックス**

チェックを入れると、月表示のときにイベントの時間を表示します。

**● Event Info**

選択されているイベントの、「Add Event」ダイアログや「Edit Event」ダイアログで設定した情報を表示します。

- **OperationType**

イベントを起動したときに実行する操作を表示します。

- **RepeatType**

イベントの周期を表示します。

- **SetException**

例外としてイベントを起動しない日時を表示します。

**● [OK] ボタン**

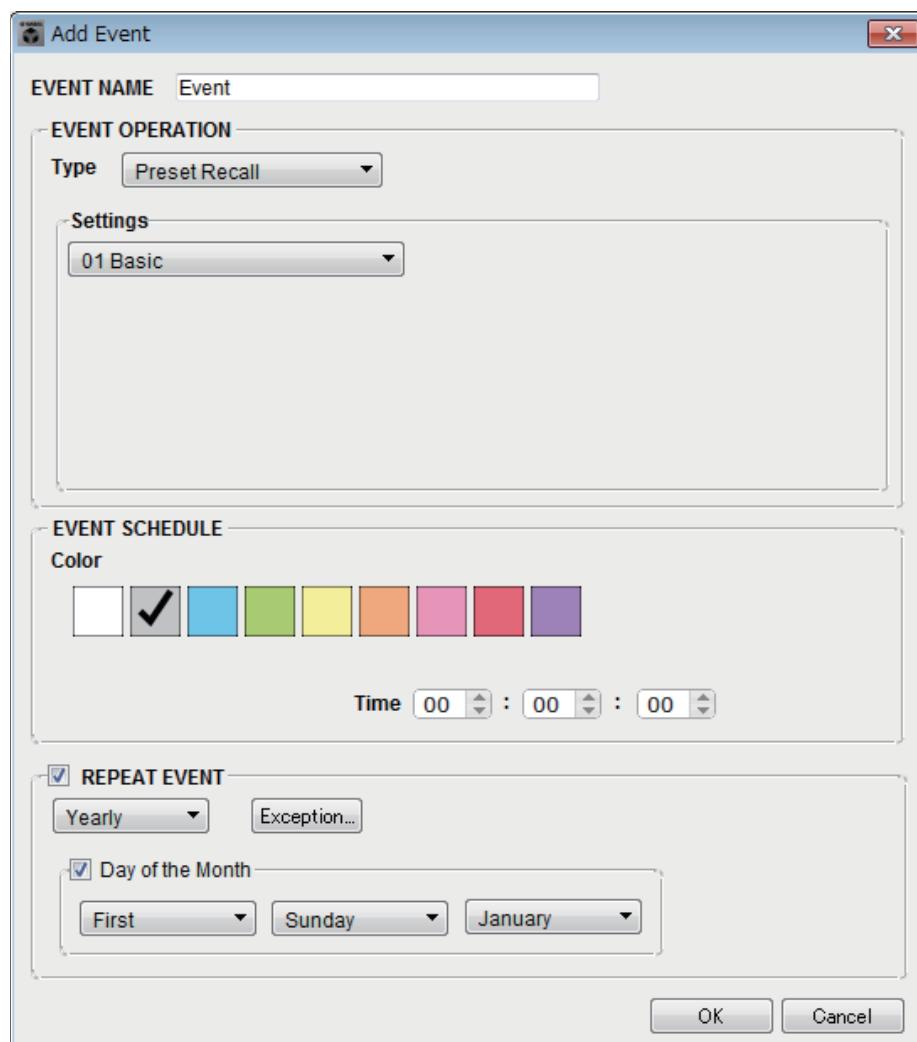
設定を保存し、ダイアログを閉じます。

**● [Cancel] ボタン**

設定を変更せずにダイアログを閉じます。

## 「Add Event」ダイアログ / 「Edit Event」ダイアログ

MRX シリーズ独自の設定については、「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。



### ● EVENT NAME

イベントの名前を入力します。

### ● EVENT OPERATION

- [Type] リストボックス

イベントを起動したときに実行する操作を選択します。

**NOTE** 「Preset」ダイアログでは、プリセットに GPI Out や SD Song Select & Play の操作を含めることができます。プリセットをリコールしないで [GPI OUT] 端子から外部機器を操作したい場合は GPI Out を、再生するオーディオファイルを変更したい場合は SD Song Select & Play を選択してください。

**Preset Recall** ..... プリセットをリコール(呼び出し)します。

**GPI Out** ..... [GPI OUT] 端子を制御します。

**SD Song Select & Play** ..... SD メモリーカードに保存されているオーディオファイルを再生または停止します。

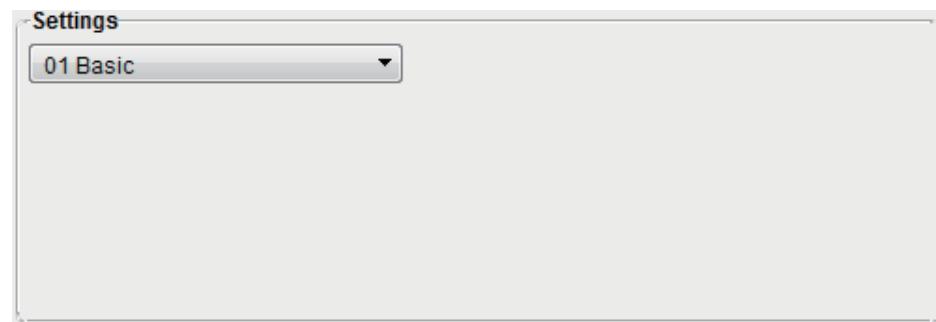
**Snapshot Recall** ..... MRX7-D のパラメーターをリコールする機能です。詳細については「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

**Paging** ..... 放送先 (ZONE) を指定して SD メモリーカードに保存されているオーディオメッセージを再生します。

- **Settings**

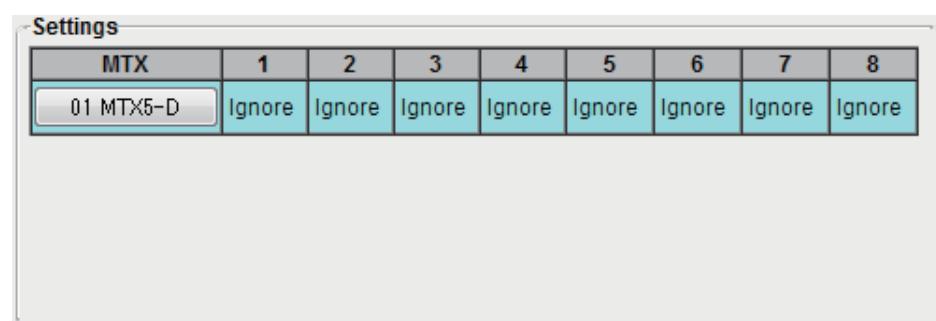
[Type] リストボックスで選択したイベントによって内容が変わります。

Preset Recall を選択した場合



リコールしたいプリセットを選択します。

GPI Out を選択した場合

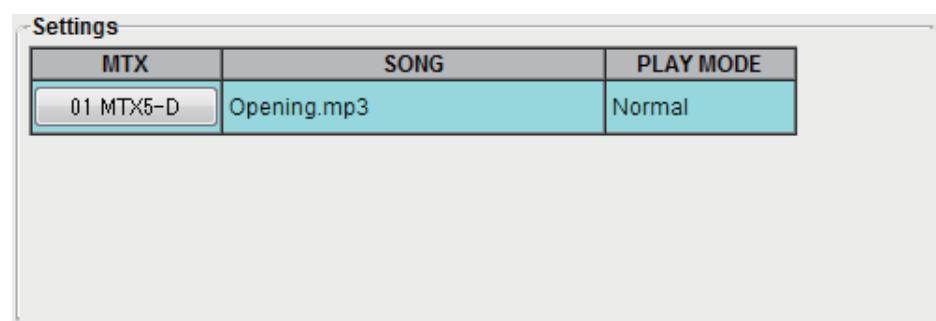


イベント起動時の GPI OUT 端子の状態を MTX/MRX ごとに設定します。

設定したい MTX/MRX のボタンをクリックすると、「GPI Out」ダイアログが開きます。

設定方法は、「Preset」ダイアログの「[Settings](#)」ダイアログと同様です。

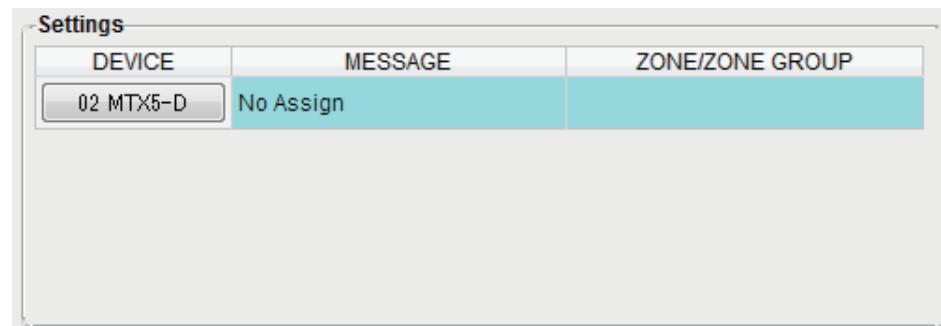
SD Song Select & Play を選択した場合



イベント起動時に、SD メモリーカードに保存されているオーディオファイルをどのように再生または停止をするかを MTX/MRX ごとに設定します。

設定したい MTX/MRX のボタンをクリックすると、「SD Play」ダイアログが開きます。

設定方法は、「Preset」ダイアログの「[Settings](#)」ダイアログと同様です。

Paging を選択した場合

イベント起動時に、SD メモリーカードに保存されているメッセージファイルをどの ZONE/ZONE GROUP に放送するかを MTX/MRX ごとに設定します。

設定したい MTX/MRX のボタンをクリックすると、「SD Message Select」ダイアログが開きます。

Paging 機能を使う場合は、「ZONE」画面で Paging や Zone Group を設定し、「PGM1/PGX1」ダイアログでチャイムなどの設定をしてください。

**● EVENT SCHEDULE**

イベントが起動する日時を設定します。

- [Color] 選択スイッチ

カレンダーに表示されるイベントの色を選択します。これを使ってイベントを色分けすると見やすくなります。

- [Date]

イベントの起動日付を設定します。(年/月/日)

直接入力または右にあるカレンダーアイコンをクリックして表示されるカレンダーで日付を変更します。

下記の REPEAT EVENT の設定によっては表示されない場合があります。

- [Time]

イベントの起動時刻を設定します。(時:分:秒、24 時間表示)

設定したい時/分/秒をクリックし、スピンドルまたは直接入力して数値を変更します。

下記の REPEAT EVENT をチェックし、イベントの周期を「Hourly」に設定した場合は、分/秒のみ設定可能となります。

### ● [REPEAT EVENT]

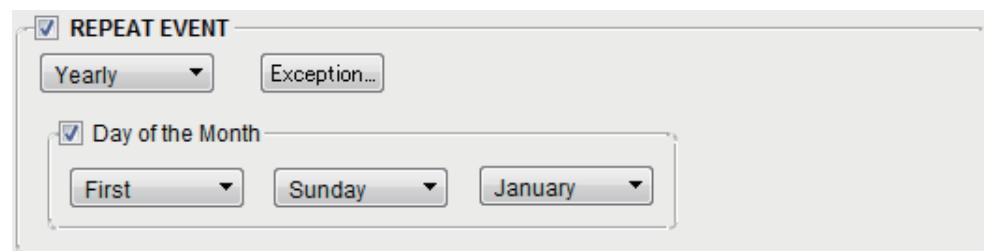
チェックボックスをオンになると、周期的なイベントを設定できます。

- [Yearly]/[Monthly]/[Weekly]/[Daily]/[Hourly] リストボックス  
イベントの周期を選択します。

#### • イベント起動日時

イベントを周期的に起動する日時を設定します。イベントの周期によって設定できる項目が変わります。

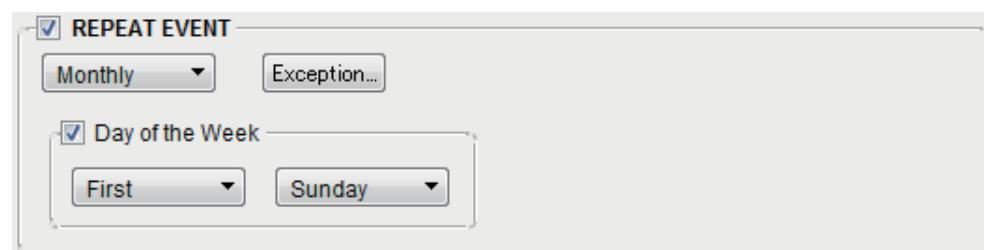
#### イベントの周期が [Yearly] の場合



[Day of the Month] がオンのとき、「〇月」「第〇」「〇曜日」および [Time] で設定した日時になると、毎年イベントを起動します。

[Day of the Month] がオフのとき、カレンダーで選択した日 ([Date] に表示されます) および [Time] で設定した時刻になると、毎年イベントを起動します。

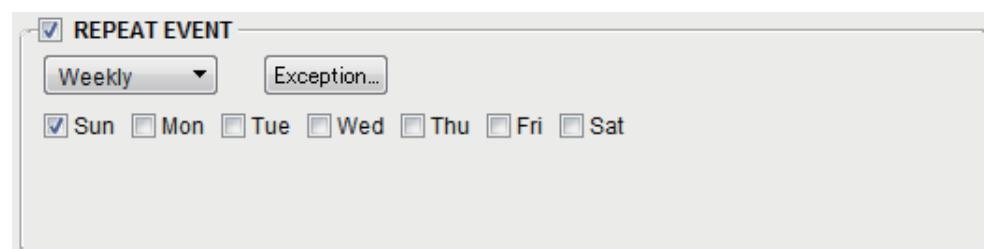
#### イベントの周期が [Monthly] の場合



[Day of the Week] がオンのとき、「第〇」「〇曜日」および [Time] で設定した日時になると、毎月イベントを起動します。

[Day of the Week] がオフのとき、カレンダーで選択した日 ([Date] に表示されます) および [Time] で設定した時刻になると、毎月イベントを起動します。

#### イベントの周期が [Weekly] の場合



選択した曜日および [Time] で設定した時刻になると、毎週イベントを起動します。

#### イベントの周期が [Daily] の場合

[Time] で設定した時刻 (時:分:秒) になると、毎日イベントを起動します。

#### イベントの周期が [Hourly] の場合

[Time] で設定した時刻 (分:秒) になると、毎時イベントを起動します。

● [Exception] ボタン

「Event Exception」ダイアログが開きます。

周期的なイベントを設定したとき、例外としてイベントを起動しない日時を設定します。

● [OK] ボタン

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

● [Cancel] ボタン

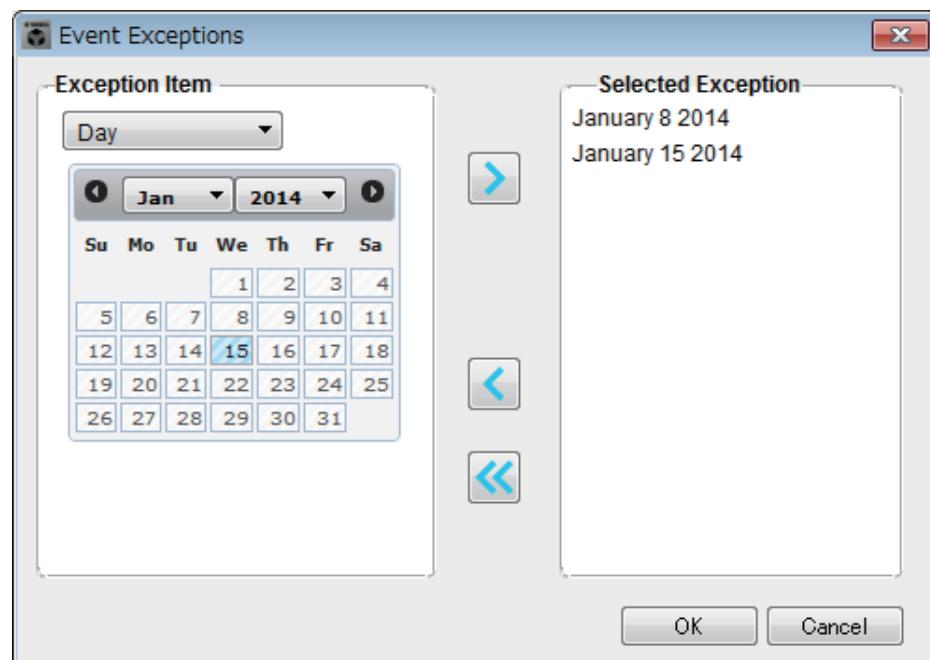
設定を変更せずにダイアログを閉じます。

■「Event Exception」ダイアログ

例外としてイベントを起動しない日時を設定します。イベントの周期によって設定できる項目が変わります。

例)・毎週水曜日の定休日はBGMを流さない

・毎月第3日曜日のイベント時ののみ特定のBGMを流す



● Exception Item

イベントの周期が [Yearly] の場合

イベントを起動しない年を設定します。

[Year]のみ設定できます。

イベントの周期が [Monthly] の場合

イベントを起動しない月または日を設定します。

[Month]と[Day]のみ設定できます。

イベントの周期が [Weekly] の場合

イベントを起動しない月、週、または日を設定します。

[Month]、[Week]、[Day]のみ設定できます。

イベントの周期が [Daily] の場合

イベントを起動しない月、週、日、または曜日を設定します。

[Month]、[Week]、[Day]、[Day of the week]のみ設定できます。

### イベントの周期が [Hourly] の場合

イベントを起動しない月、週、日、曜日、または時間（1時間ごと）を設定します。  
[Month]、[Week]、[Day]、[Day of the week]、[Hour] が設定できます。

#### ● [ > ] ボタン

例外として設定した日時を右側のリストに加えます。

#### ● [ < ] ボタン

例外として設定した日時を右側のリストから削除します。

#### ● [ << ] ボタン

例外として設定した日時を右側のリストからすべて削除します。

#### ● [OK] ボタン

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

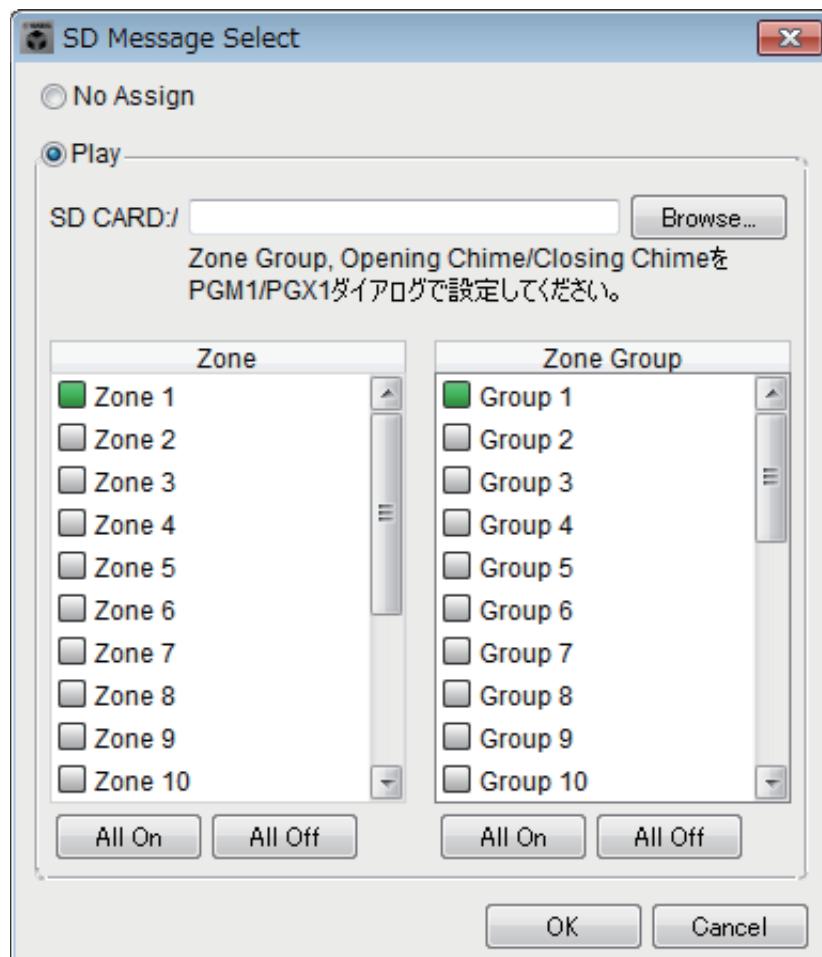
#### ● [Cancel] ボタン

設定を変更せずにダイアログを閉じます。

## ■「SD Message Select」ダイアログ

スケジューラーで放送する SD メモリーカード内のメッセージファイルの選択と、放送する Zone や Zone Group を選択します。

Zone Group やチャイムを使う場合は、「PGM1/PGX1」ダイアログで設定してください。



#### ● [No Assign] ラジオボタン

選択すると、イベント起動時に放送しません。

**● [Play] ラジオボタン**

選択すると、イベント起動時に設定に合わせて放送をします。

**● SD CARD:/**

選択されているメッセージファイルが表示されます。

**● [Browse] ボタン**

クリックするとメッセージファイルを選択する画面が表示されます。

**● [Zone]/[Zone Group]**

放送する ZONE や ZONE Group を設定します。中の四角をクリックしてオン(緑)/オフ(白)を切り替えます。

**● [All On]/[All Off] ボタン**

クリックすると、ZONE や ZONE Group をすべてオンにするかすべてオフにします。

**● [OK] ボタン**

クリックすると、設定を保存してダイアログを閉じます。

**● [Cancel] ボタン**

クリックすると、設定を保存しないでダイアログを閉じます。

## □「Remote Control」 ダイアログ

外部コントローラーを接続する場合のポート番号の確認や、RS-232C に外部コントローラーを接続する場合の設定をします。

- NOTE**
- ・1台のMTX/MRX に接続できる外部コントローラーと Wireless DCP は合わせて9つまでです。
  - ・MTX/MRX のIPアドレスは「Device Information」ダイアログで確認できます。



● [Device:] リストボックス

設定するMTX/MRXを選択します。UNIT IDと機器のタイプ、機器名が表示されます。

● [Network IP PORT No.]

MTX3のNETWORK端子またはMTX5-D/MRX7-DのDante[PRIMARY]/[SECONDARY]端子のポート番号を表示します。端子には最大8台までの外部コントローラーやWireless DCPを接続できます。

● [Remote(RS-232C) BIT RATE] リストボックス

RS-232Cの通信速度を選択します。「38400」bpsと「115200」bpsが選択できます。RS-232Cには1台の外部コントローラーを接続できます。

● [OK] ボタン

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

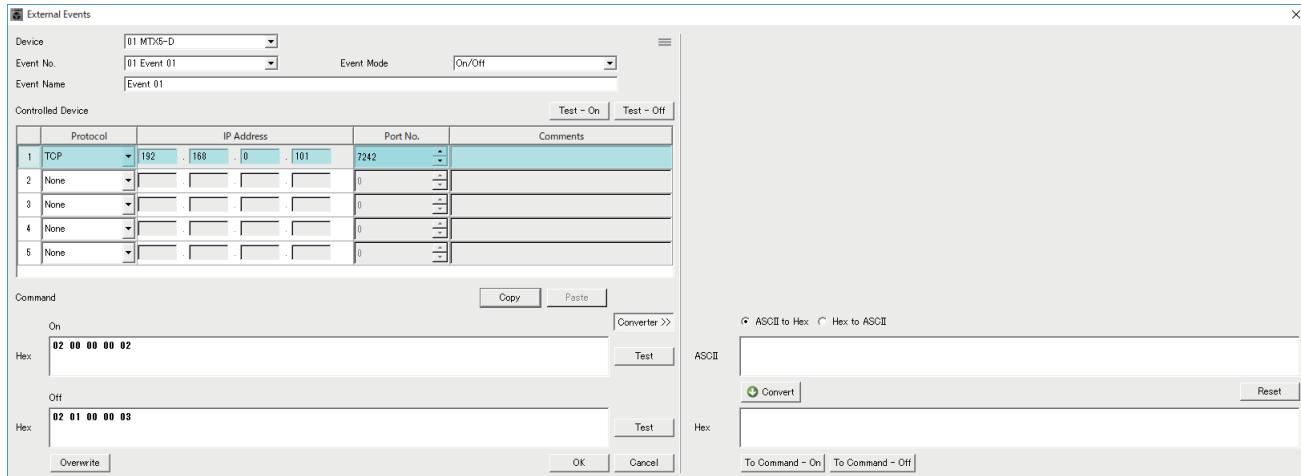
● [Cancel] ボタン

設定を変更せずにダイアログを閉じます。

## □「External Events」ダイアログ

MTX/MRX の「プリセットのリコール」「GPI IN からの入力」「DCP などの外部機器の操作」をトリガーにして、Dante 端子または NETWORK 端子がつながっているネットワークに送信するコマンドの設定を行ないます。

**NOTE** コマンドを送信するのみで、コマンドの返答は破棄します。



機器ごとに 20 個までの External イベントが設定できます。1 個のイベントには 5 つまでのコマンドを設定できます。

### ● [Device] リストボックス

コマンドを発信する MTX/MRX を選択します。リストボックスには UNIT ID、MTX/MRX の名称の順で表示されます。

### ● メニューボタン (≡)

クリックすると、以下のファンクションが実行できます。

- [Copy Event]  
選択しているイベントの内容をコピーバッファにコピーします。
- [Copy All Event]  
すべてのイベントの内容をコピーバッファにコピーします。
- [Paste Event]  
コピーバッファにあるイベントの設定を上書きします。
- [Clear Event]  
選択しているイベントの内容を初期化します。
- [Clear All Event]  
すべてのイベントの内容を初期化します。

### ● [Event No.] リストボックス

イベントの番号を選択します。

### ● [Event Mode] リストボックス

トリガーが発生したときのコマンドが [On/Off] 系か [1 shot] 系かを選択します。  
DCP などのボタンにイベントを割り当てた場合、以下のように動作します。

- [On/Off]

ボタンを押すたびに MTX/MRX が On コマンドと Off コマンドを交互に送信します。

- [1 shot]

ボタンを押すたびに MTX/MRX が設定されたコマンドを送信します。

### ● [Event Name] テキストボックス

イベントの名称を設定します。

### ● [Test - On]/[Test - Off] ボタン

コマンドを「Controlled Device」欄で設定された順に MTX-MRX Editor から直接送信します。[Command Type] リストボックスで [1 shot] を選択している場合は、[Test - Off] ボタンが無効になります。

**NOTE** コマンドの送信はオンラインでもオフラインでも実行できます。

### ● 「Controlled Device」欄

コマンドを受け取る機器の情報を設定します。トリガーを受け取ると、欄の上からコマンドを送信します。

受信する機器の設定については、各機器のコマンドに関する資料を参照してください。

- [Protocol] リストボックス

コマンドを受信する機器が対応しているプロトコルを選択します。

- [IP Address] テキストボックス

コマンドを受信する機器の IP アドレスを設定します。

- [Port No.] テキストボックス

コマンドを受信する機器のポート番号を設定します。

- [Comments] テキストボックス

テキストを 32Byte まで入力できます。機器名などを入れて、識別しやすくするなどに活用してください。

### ● [Copy] ボタン

選択しているコマンドの「Controlled Device」欄と Command テキストボックスの情報をコピーバッファにコピーします。

### ● [Paste] ボタン

コピーバッファにある「Controlled Device」欄と Command テキストボックスの情報を上書きします。

### ● [Test] ボタン

Command テキストボックスに入力されているコマンドを MTX-MRX Editor から直接送信します。

### ● [Overwrite] / [Insert] ボタン

[Insert] にすると、Command テキストボックスでの入力がインサート（挿入）になり、先頭や中程で 16 進数を追加することができます。

### ● Command テキストボックス

[Event Mode] リストボックスで [On/Off] を選択した場合、DCP などのボタンを押すたびに MTX/MRX が On コマンドと Off コマンドを交互に送信します。[Event Mode] リストボックスで [1 shot] を選択した場合、DCP などのボタンを押すたびに MTX/MRX が設定されたコマンドを送信します。

コマンドは 16 進数で XX という形式で入力されます。

仕様書などで機器をコントロールするコマンドが文字列で提供されているとき、Converter を使用して 16 進数に変換して、入力してください。

**NOTE** コマンドの最大長は 128 バイトです。

### ● [Converter>>] ボタン

文字列のコマンドを 16 進数に変換するための領域を表示します。

### ● [ASCII to Hex]/[Hex to ASCII] ラジオボタン

文字列を 16 進数に変換するか、16 進数を文字列に変換するかを選択します。

### ● [ASCII]/[Hex] テキストボックス

[ASCII to Hex]/[Hex to ASCII] ラジオボタンの選択で、上のテキストボックスが ASCII か Hex に変わります。

[Convert] ボタンをクリックすると、変換結果が下のテキストボックスに表示されます。

### ● [Reset] ボタン

[ASCII]/[Hex] テキストボックスの内容を消去します。

### ● [To Command] ボタン

文字列を変換した 16 進数のコマンドを Command テキストボックスに反映させます。

[Command Type] リストボックスで [On/Off] を選択した場合、[Command - On] に反映させるのか、[Command - Off] に反映させるのかボタンが分かれます。

### ● [OK] ボタン

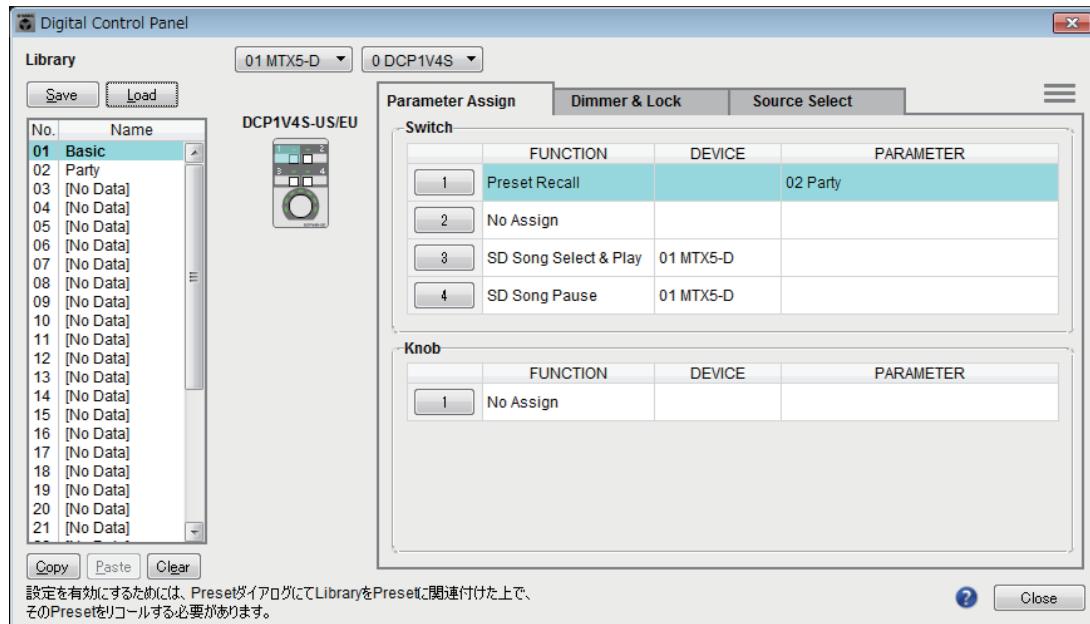
設定を更新し、ダイアログを閉じます。IP アドレスが不正だったり、コマンドの書式が不正だったりする場合は、エラーメッセージを表示してダイアログは閉じません。

### ● [Cancel] ボタン

設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

## □「Digital Control Panel」ダイアログ

MTX/MRX のパラメーターを DCP1V4S などのデジタルコントロールパネル（以下「DCP」とする）の操作子にアサインし、DCP から操作できるようにします。また、DCP 本体の LED の輝度やパネルロックの設定を行ないます。オンライン状態のときは設定できません（設定の確認のみ可能）。



DCP に関する設定を「Library」として 32 個まで保存できます。また、プリセットと関連付けて呼び出すことができます。

[Parameter Assign]/[Dimmer & Lock]/[Source Select] などのタブで編集したあと、[Library] リストから保存する Library をクリックして、[Save] ボタンをクリックすることで Library に保存されます。[Library] リストで呼び出す Library をクリックして、[Load] ボタンをクリックすることで Library が呼び出され、[Parameter Assign]/[Dimmer & Lock]/[Source Select] などのタブに設定が展開されます。

- NOTE**
- 保存した Library をプリセットに関連付けると、プリセットをリコールしたときに MTX/MRX システムに接続されているすべての DCP（最大 32 台）のパラメーターアサインを一括でリコール / ストアします。特定の DCP のみをリコールしたい場合は、「Preset」ダイアログの [Recall Filter] を設定してください。
  - 事前に、「Device Configuration Wizard」ダイアログで MTX/MRX および DCP の配置や ID の設定をしておく必要があります。その設定をしていない場合は「Digital Control Panel」ダイアログを開くことができず、アラートが表示されます。
  - [Source Select] タブは MTX/MRX システムに MRX がある場合に表示されます。詳細については「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

### ● MTX/MRX 選択リストボックス

設定対象の DCP が接続されている MTX/MRX を選択します。リストボックスには UNIT ID、MTX/MRX の名称の順で表示されます。

### ● DCP 選択リストボックス

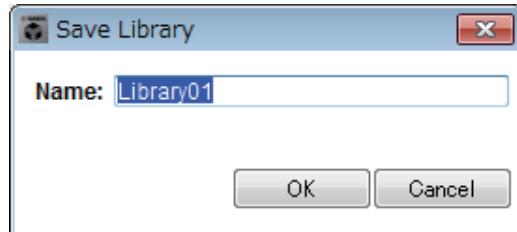
設定対象の DCP を選択します。MTX/MRX 選択リストボックスで選択した MTX/MRX に接続されているすべての DCP が UNIT ID、DCP の名称の順で表示されます。

また、選択した DCP の型番およびイラストがリストボックスの下方に表示されます。

[Parameter Assign] タブで選択されている操作子がハイライト表示されます。

### ● [Save] ボタン

Library をセーブするためのボタンです。「Save Library」ダイアログが表示されます。ロードされている Library のパラメーターを変更すると赤文字になります。セーブまたはロードをすると黒文字になります。



- [Name:]

Library の名称を入力します。

すでに存在する Library 名や、空白の Library 名は入力できません。

- [OK] ボタン

Library を保存し、ダイアログを閉じます。

- [Cancel] ボタン

Library の作成を中止し、ダイアログを閉じます。

### ● [Load] ボタン

クリックすると、選択中のライブラリーをカレントパラメーターとしてロード（読み込み）します。

### ● [Library] リスト

セーブまたはロードする Library を選択します。現在ロードされている Library は太字になります。

セーブ済みの Library をダブルクリックすると、Library の名前を変更できます。

- [Copy] ボタン

選択されている Library をコピーします。

オンライン状態のときにはコピーできません。

- [Paste] ボタン

コピーした Library を現在リストで選択されている Library に貼り付けます。

オンライン状態のときには貼り付けできません。

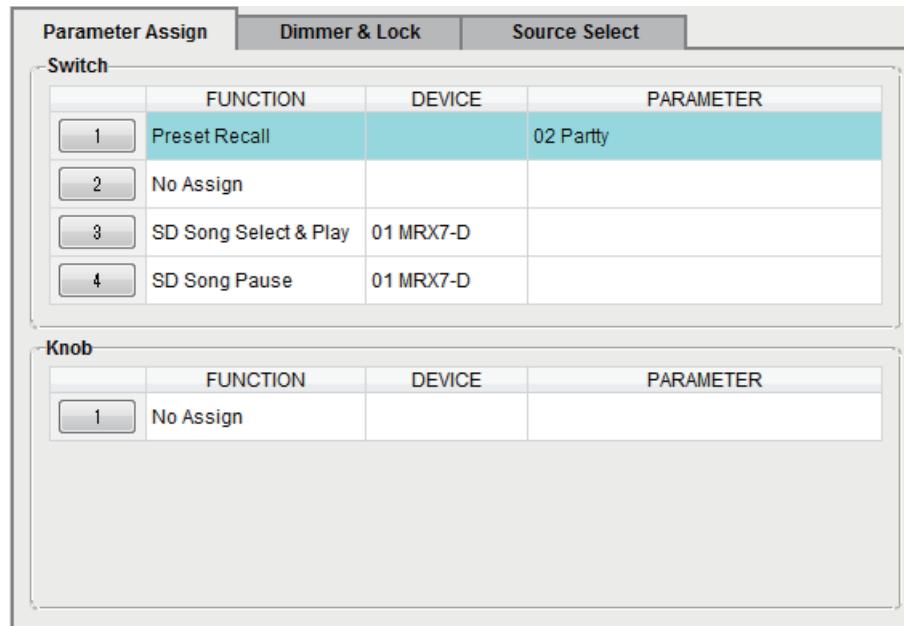
- [Clear] ボタン

現在リストで選択されている Library の内容を消去します。

オンラインのときには削除できません。

### ● [Parameter Assign] タブ

MTX/MRX のパラメーターを各操作子にアサインします。



現在選択されている操作子がハイライト表示されます。

同時に、タブの左側に表示されているイラストでも、該当の操作子がハイライト表示されます。

#### ○ 各操作子の選択ボタン

ボタンをクリックすると各操作子の設定を行なう「Settings」ダイアログが表示されます。

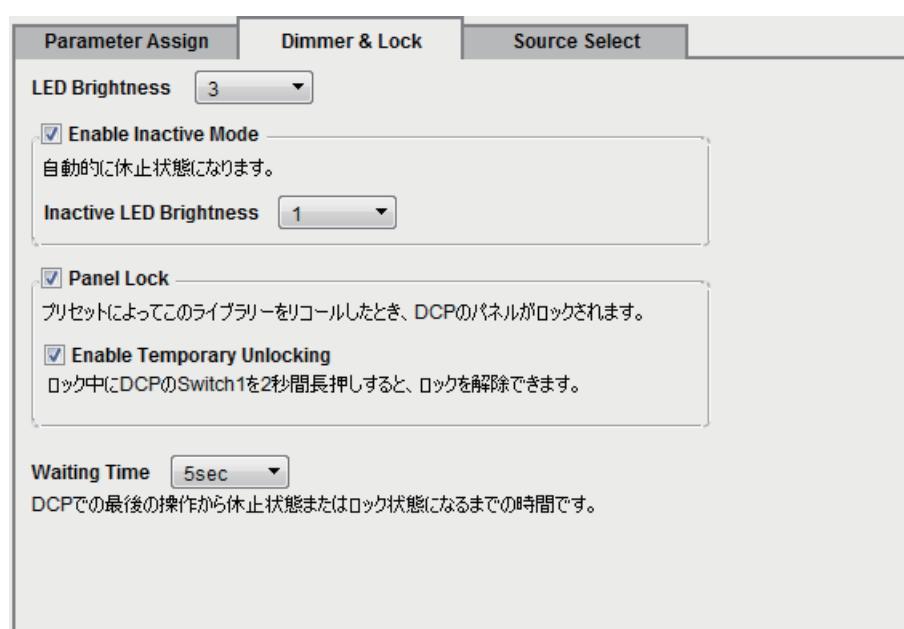
操作子でコントロールする機器やパラメーターを設定します。

#### ○ [FUNCTION]/[DEVICE]/[PARAMETER]

「Settings」ダイアログで設定した項目が表示されます。

### ● [Dimmer & Lock] タブ

DCP 本体の LED の輝度や休止状態に関する設定を行ないます。



- **[LED Brightness] リストボックス**

DCP の LED の輝度を設定します。値が大きくなるほど明るくなります。

- **[Enable Inactive Mode] チェックボックス**

チェックボックスをオンにすると、[Waiting Time] で設定した時間後に、自動的に休止状態になります。

[Inactive LED Brightness] では、休止時の LED の輝度を設定します。

チェックボックスがオフの場合は、グレーアウト表示となり設定できません。

- **[Panel Lock] チェックボックス**

チェックボックスをオンにすると、プリセットでライブラリーをリコールしたとき DCP のパネルがロックされます。

[Enable Temporary Unlocking] チェックボックスをオンにすると、DCP のスイッチ 1 を 2 秒長押しすると、ロックを解除できるようになります。

- **[Waiting Time]**

最後の操作から休止状態またはロック状態になるまでの時間を設定します。

- **メニュー ボタン (≡)**

クリックすると、以下のファンクションが実行できます。

- **[Copy]**

表示している DCP の Parameter Assign、Dimmer&Lock、Source Select をコピー バッファにコピーします。

- **[Paste]**

表示している DCP にコピー バッファにある同機種の Parameter Assign、Dimmer&Lock、Source Select の設定を上書きします。

ただし上書きできるのは同じ MTX/MRX システム内でコピーしたもののみです。

- **[Initialize]**

表示している DCP の Parameter Assign、Dimmer&Lock、Source Select の設定を初期化します。

- **[Clear [Parameter Assign]]**

表示している DCP の Parameter Assign の設定を初期化します。

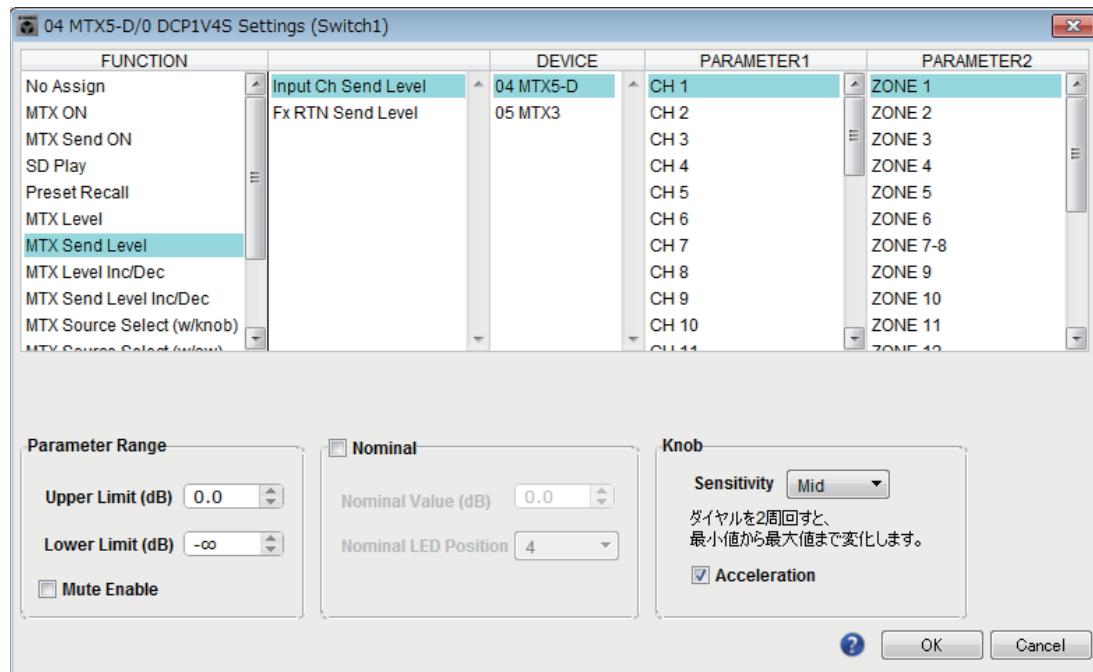
- **[Close] ボタン**

ダイアログを閉じます。

## 「Settings」ダイアログ

「Digital Control Panel」ダイアログ、「Wireless DCP」ダイアログ、「GPI」ダイアログから呼び出されるダイアログです。

**NOTE** 「Preset」ダイアログと「Scheduler」ダイアログから呼び出される「Settings」ダイアログについては第6章にある「Settings」ダイアログを参照してください。



### ● [FUNCTION] リスト

コントロールする機能を選択します。[No Assign] を選択すると、機能をアサインしません。選択する機能によって [FUNCTION] の設定範囲、[DEVICE]、[PARAMETER1]、[PARAMETER2] の内容が変わります。また、下半分に表示されるオプションも変化します。機能や表示などについては「Settings」ダイアログ設定一覧を参照してください。

### ● [DEVICE] リスト

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

### ● [PARAMETER1] リスト/[PARAMETER2] リスト

機能のパラメーターを設定します。

パラメーターについては「Settings」ダイアログ設定一覧を参照してください。

### ● [OK] ボタン

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

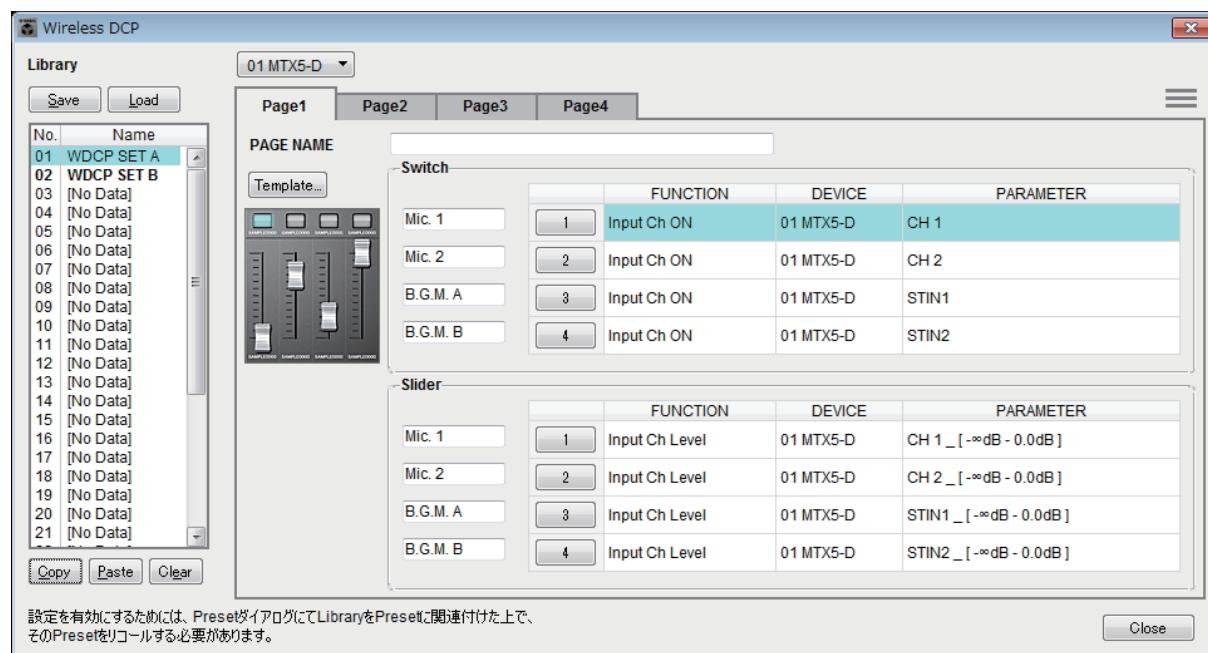
### ● [Cancel] ボタン

設定を変更せずにダイアログを閉じます。

## □「Wireless DCP」ダイアログ

MTX/MRX のパラメーターを iOS アプリケーション「Wireless DCP」の操作子にアサインし、Wireless DCP から操作できるようにします。オンライン状態のときは設定できません（設定の確認のみ可能）。

Wireless DCP の詳細については、「Wireless DCP 取扱説明書」を参照してください。



Wireless DCP に関する設定を「Library」として 32 個まで保存できます。また、プリセットと関連付けて呼び出すことができます。

- NOTE**
- 保存した Library をプリセットに関連付けてください。関連付けないと Wireless DCP の設定が反映されません。
  - [Source Select] タブは MTX/MRX システムに MRX がある場合に表示されます。詳細については「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

以下の項目については、「Digital Control Panel」ダイアログを参照してください。

- [Save] ボタン
- [Load] ボタン
- [Library] リスト
- [Copy] ボタン
- [Paste] ボタン
- [Clear] ボタン
- 各操作子の選択ボタン
- [FUNCTION]/[DEVICE]/[PARAMETER]
- 「Settings」ダイアログ
- [Close] ボタン

### ● MTX/MRX 選択リストボックス

設定する iPhone などのモバイルデバイスが接続される MTX/MRX を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

### ● [Page] タブ

編集するページをタブで選択します。

**● メニューボタン (≡)**

クリックすると、以下のファンクションが実行できます。

- **[Clear Page]**

表示しているページを初期化します。

- **[Clear All Pages]**

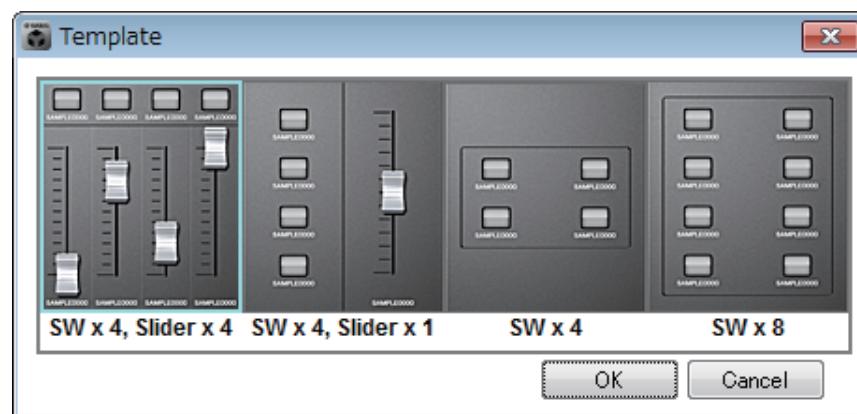
選択されている MTX/MRX の Wireless DCP に関する設定を初期化します。

**● [PAGE NAME]**

ページに名前を付けます。Wireless DCP の「ページ選択」画面で名前が表示されます。

**● [Template] ボタン**

クリックすると「Template」ダイアログが開きます。「Wireless DCP」で表示される操作子を選択します。



使用するテンプレートをクリックして選択します。

- **[OK] ボタン**

選択したテンプレートを保存し、ダイアログを閉じます。

- **[Cancel] ボタン**

テンプレートの選択を中止し、ダイアログを閉じます。

**● 操作子ラベル**

操作子に名前を付けます。

## □「MCP1」ダイアログ

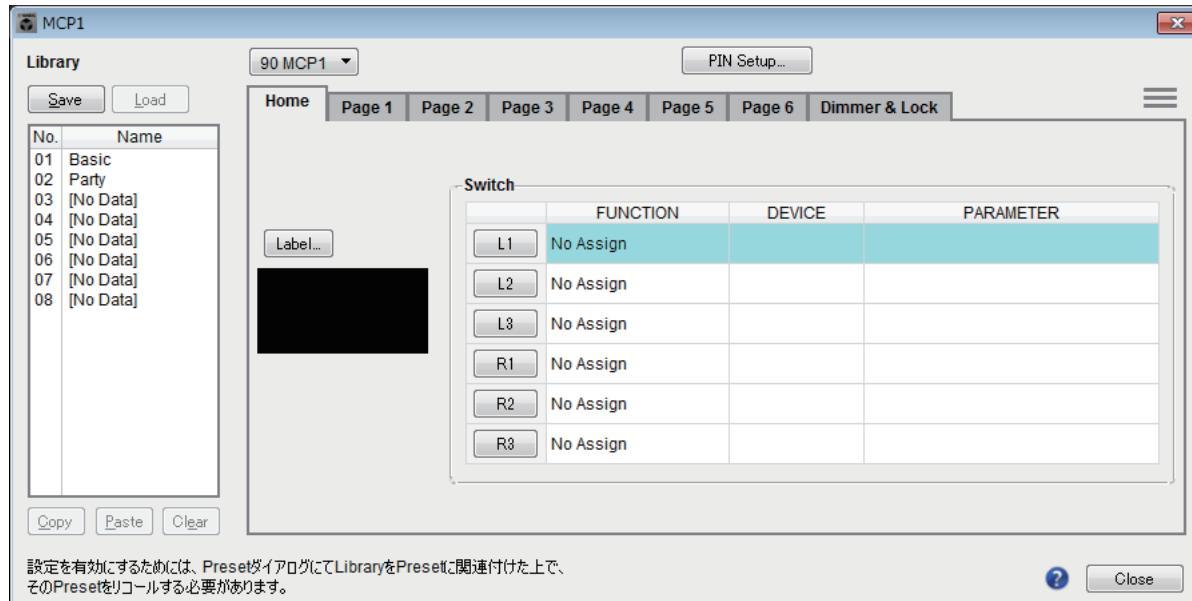
MCP1 は MTX/MRX システムに最大 16 台まで接続できます。

MTX/MRX の [NETWORK] 端子または Dante 端子と PoE ネットワークスイッチを Ethernet ケーブルで接続し、PoE ネットワークスイッチと MCP1 を Ethernet ケーブルで接続してください。

ネットワークスイッチが PoE 非対応の場合は、ネットワークスイッチと MCP1 の間に PoE インジェクターを接続してください。

PSE (PoE ネットワークスイッチや PoE インジェクター) には電源を供給するポートと供給しないポートがある場合があります。MCP1 は電源を供給するポートに接続してください。

このダイアログでは MCP1 の L1/2/3、R1/2/3 スイッチやディスプレイに関する設定をします。



MCP1 に関する設定を「Library」として 8 個まで保存できます。また、プリセットと関連付けて呼び出すことができます。

[Home]/[Page 1] ~ [Page 6]/[Dimmer & Lock]/[Source Select] などのタブで編集したあと、[Library] リストから保存する Library をクリックして、[Save] ボタンをクリックすることで Library に保存されます。

[Library] リストで呼び出す Library をクリックして、[Load] ボタンをクリックすることで Library が呼び出され、[Home]/[Page 1] ~ [Page 6]/[Dimmer & Lock]/[Source Select] などのタブに設定が展開されます。

- NOTE**
- 保存した Library をプリセットに関連付けると、プリセットをリコールしたときに MTX/MRX システムに接続されているすべての MCP1(最大 16 台)の [HOME] や [Page 1] から [Page 6] の設定を一括でリコール / ストアします。特定の MCP1 のみをリコールしたい場合は、「Preset」ダイアログの [Recall Filter] を設定してください。
  - 事前に、「Device Configuration Wizard」ダイアログで MTX/MRX および MCP1 の配置や ID の設定をしておく必要があります。その設定をしていない場合は「MCP1」ダイアログを開くことができず、アラートが表示されます。
  - [Source Select] タブは MTX/MRX システムに MRX がある場合に表示されます。詳細については「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

### ● MCP1 選択リストボックス

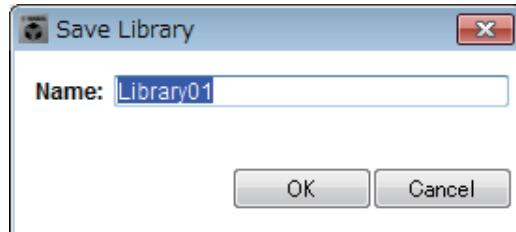
設定対象の MCP1 を選択します。MTX/MRX システムに接続されているすべての MCP1 が UNIT ID、MCP1 の名称の順で表示されます。

### ● [PIN Setup] ボタン

3 種類の PIN を設定する「PIN Setup」ダイアログが表示されます。

### ● [Save] ボタン

Library をセーブするためのボタンです。「Save Library」ダイアログが表示されます。ロードされている Library のパラメーターを変更すると赤文字になります。セーブまたはロードをすると黒文字になります。



- [Name:]

Library の名称を入力します。

すでに存在する Library 名や、空白の Library 名は入力できません。

- [OK] ボタン

Library を保存し、ダイアログを閉じます。

- [Cancel] ボタン

Library の作成を中止し、ダイアログを閉じます。

### ● [Load] ボタン

クリックすると、選択中のライブラリーをカレントパラメーターとしてロード（読み込み）します。

### ● [Library] リスト

セーブまたはロードする Library を選択します。現在ロードされている Library は太字になります。

セーブ済みの Library をダブルクリックすると、Library の名前を変更できます。

- [Copy] ボタン

選択されている Library をコピーします。

オンライン状態のときにはコピーできません。

- [Paste] ボタン

コピーした Library を現在リストで選択されている Library に貼り付けます。

オンライン状態のときには貼り付けできません。

- [Clear] ボタン

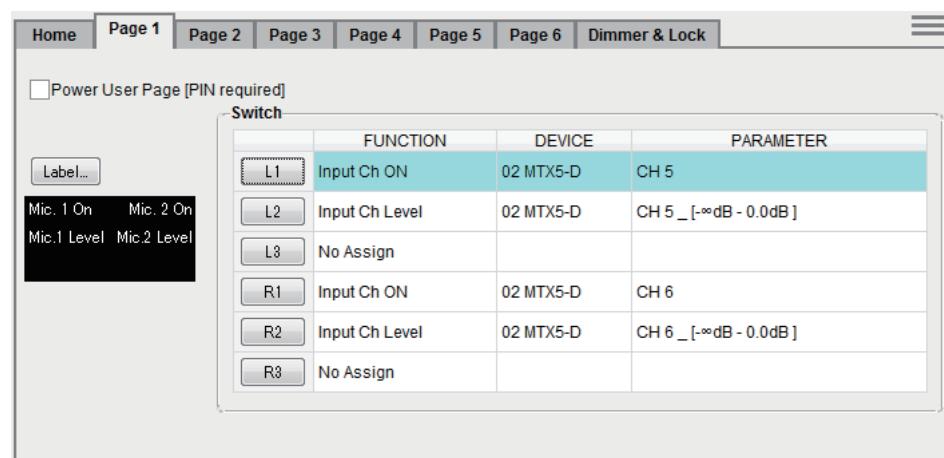
現在リストで選択されている Library の内容を消去します。

オンラインのときには削除できません。

### ● [Home]/[Page 1] ~ [Page 6] タブ

MCP1 のページに関する設定をします。ホームページは起動時に表示されたり、MCP1 のホームページスイッチをタッチしたときに表示されるページです。

ホームページではスイッチに [Open Page] を割り当てるときページを切り替えることができます。ここでは [Page 1] タブで説明します。



現在選択されているスイッチがハイライト表示されます。

#### ○ [Power User Page [PIN required]] チェックボックス ([Home] ページ以外)

チェックを入れると、ページを開くときに「PIN Setup」ダイアログの [Power User PIN:] で設定した PIN コードを MCP1 で入力する必要があります。

#### ○ [Label] ボタン

ボタンをクリックするとディスプレイの画像を作成するための「Label」ダイアログが表示されます。ボタンの下には現在設定されている画像を表示します。

#### ○ 各スイッチの選択ボタン

ボタンをクリックすると各スイッチの設定を行なう「Settings」ダイアログが表示されます。

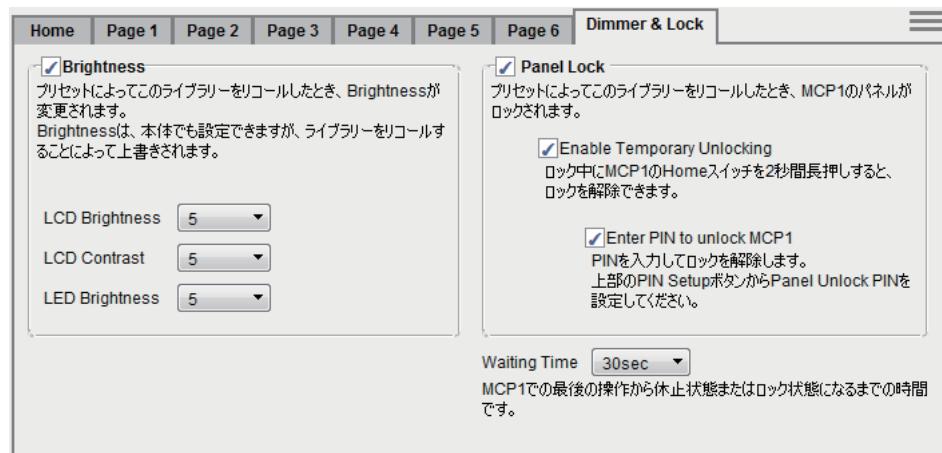
スイッチでコントロールする機器やパラメーターを設定します。

#### ○ [FUNCTION]/[DEVICE]/[PARAMETER]

「Settings」ダイアログで設定した項目が表示されます。

### ● [Dimmer & Lock] タブ

MCP1 のディスプレイやスイッチの輝度やパネルロックに関する設定を行ないます。



#### • [Brightness] チェックボックス

チェックボックスをオンにすると、プリセットによって現在編集中のライブラリーをリコールしたとき、ディスプレイの明るさやコントラスト、スイッチの明るさを変更できます。

[LCD Brightness] ではディスプレイの明るさを設定します。数字が大きいほど明るくなります。

[LCD Contrast] ではディスプレイのコントラストを設定します。数字が大きいほど明暗の差が大きくなります。

[LED Brightness] では、スイッチの明るさを設定します。数字が大きいほど明るくなります。

チェックボックスがオフの場合は、グレーアウト表示となり設定できません。

#### • [Panel Lock] チェックボックス

チェックボックスをオンにすると、プリセットでライブラリーをリコールしたとき MCP1 のパネルがロックされます。

[Enable Temporary Unlocking] チェックボックスをオンにすると、MCP1 のホームスイッチを 2 秒以上長押ししたときにロックを解除できるようになります。

[Enter PIN to unlock MCP1] チェックボックスをオンにすると、MCP1 のホームスイッチを 2 秒長押ししたあと、「PIN CODE」ダイアログの [Panel Unlock PIN:] で設定した PIN コードを MCP1 で入力する必要があります

#### • [Waiting Time]

最後の操作から休止状態またはロック状態になるまでの時間を設定します。

**● メニューボタン (≡)**

クリックすると、以下のファンクションが実行できます。

- **[Copy]**

表示している MCP1 の Home、Page 1 ~ Page 6、Dimmer&Lock、Source Select をコピーバッファにコピーします。

- **[Paste]**

表示している MCP1 にコピーバッファにある Home、Page 1 ~ Page 6、Dimmer&Lock、Source Select の設定を上書きします。

ただし上書きできるのは同じ MTX/MRX システム内でコピーしたもののみです。

- **[Initialize]**

表示している MCP1 の Home、Page 1 ~ Page 6、Dimmer&Lock、Source Select の設定を初期化します。

- **[Clear Page]**

表示している Home または Page 1 ~ Page 6 の設定を初期化します。

- **[Clear All Page]**

表示している MCP1 の Home と Page 1 ~ Page 6 の設定をすべて初期化します。

**●  ボタン**

クリックすると MCP1 の設定に関するヘルプが表示されます。

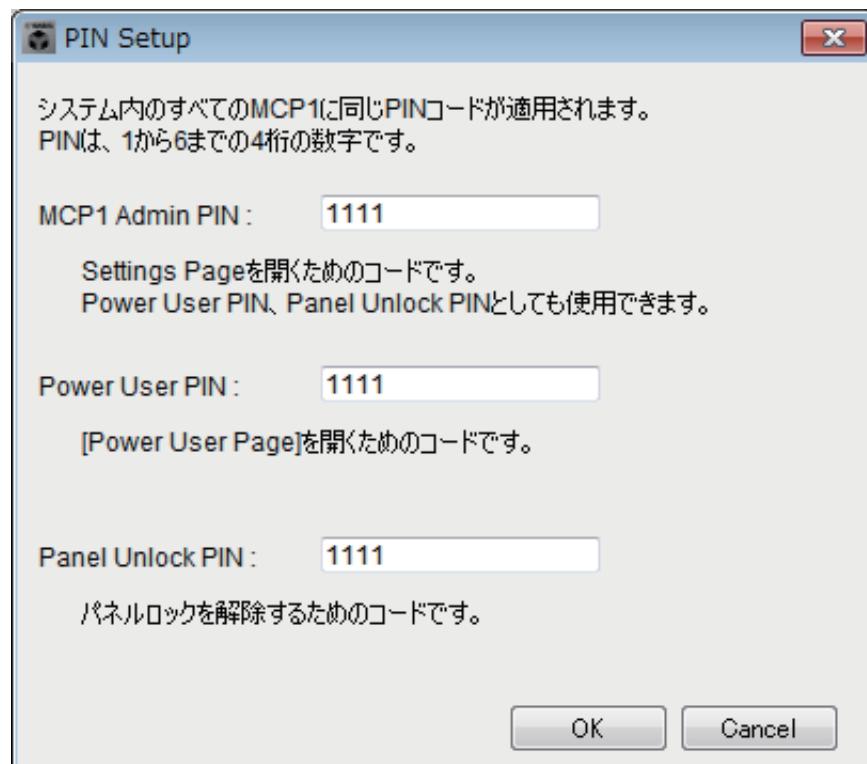
**● **[Close] ボタン****

ダイアログを閉じます。

## □「PIN Setup」 ダイアログ

MTX/MRX システム内のすべての MCP1 に関連する PIN コードを設定します。

MCP1 と一度でもオンラインにすると、PIN コードが設定されます。特に設定していない場合は、1111 でロックを解除してください。



### ● [MCP1 Admin PIN :] テキストボックス

MCP1 の Settings ページを開くための PIN コードです。

「Power User PIN」や「Panel Unlock PIN」としても使用できます。

### ● [Power User PIN :] テキストボックス

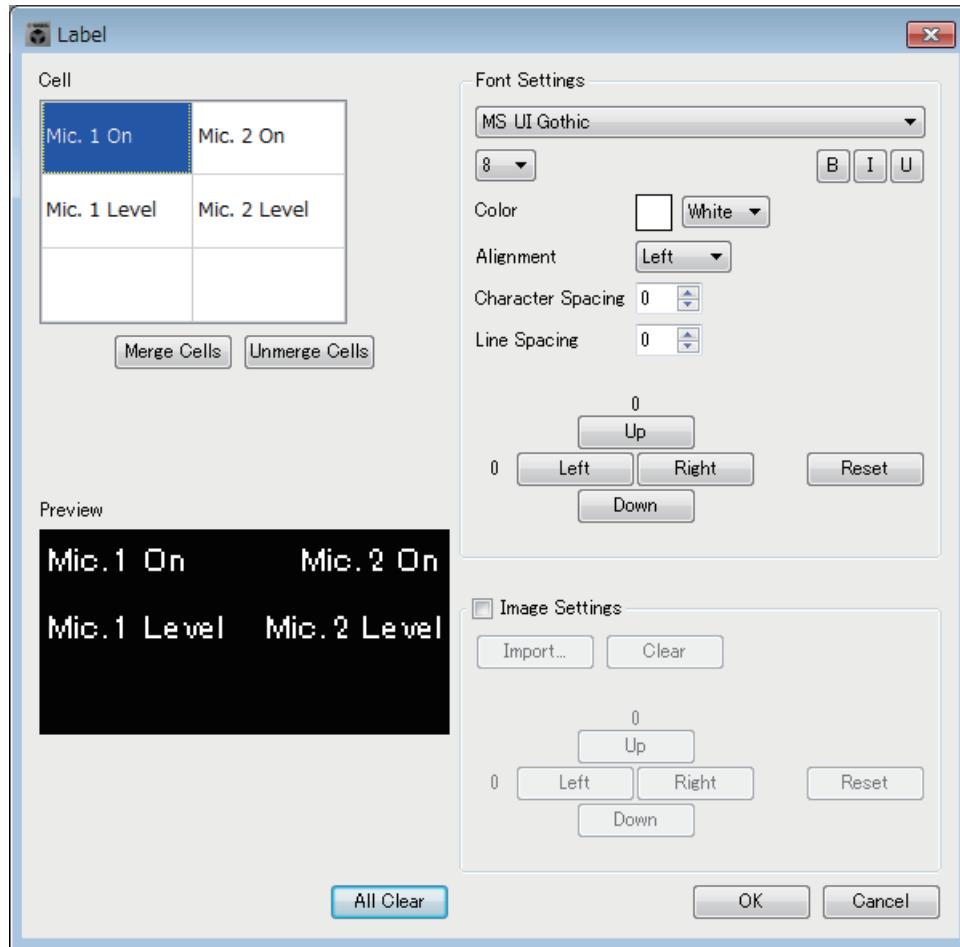
「MCP1」ダイアログの [Page 1] ~ [Page 6] タブで [Power User Page [PIN required]] にチェックを入れたページを開くための PIN コードです。

### ● [Panel Unlock PIN:] テキストボックス

「MCP1」ダイアログの [Dimmer & Lock] タブで [Enter PIN to unlock MCP1] にチェックを入れたとき、パネルロックを解除するための PIN コードです。

## □「Label」ダイアログ

MCP1 のディスプレイに表示するページの画像を作成します。



### ● [Cell]

ページ画面を編集します。

文字列を編集する場合、セルを選択してダブルクリックするか **<F2>** キーを押してください。**<Enter>** キーを押すかマウスで他のセルを選択すると確定します。

画像を入れる場合、セルを選択して [Image Settings] チェックボックスにチェックを入れて、[Import] ボタンを押して、画像ファイルを選択してください。

セルの移動はマウス操作だけではなく、カーソルキーと **<Tab>** キー、**<Enter>** キーでもできます。また、**<Shift>** キーを押しながらセルの移動をすると範囲選択できます。

### ● [Merge Cells] ボタン

セルを複数選択してクリックすると、セルを結合します。

### ● [Unmerge Cells] ボタン

結合されたセルを選択してクリックすると、セルの結合を解除します。

### ● [Font Settings] エリア

選択しているセル内のフォントに関する設定をします。設定の反映については「Preview」で確認してください。

#### • フォントリストボックス

文字列のフォントを選択します。フォントはコンピューターにインストールされているものが選択できます。

- **フォントサイズリストボックス**

文字列のフォントサイズを選択します。

- **[B]/[I]/[U] ボタン**

クリックするとセル内の文字列を太文字にしたり、イタリック体にしたり、下線付きにしたりします。

- **「Color」**

セル内の文字列の色が表示されます。ボタンをクリックすると白 / 黒の切り替えができます。

- **[Alignment] リストボックス**

セル内の文字列の表示位置を選択します。

- **[Character Spacing] スピンボックス**

セル内の文字の間隔を設定します。

- **[Line Spacing] スpinボックス**

セル内の行の間隔を設定します。

- **[Up]/[Left]/[Right]/[Down]/[Reset] ボタン**

セル内の文字位置を調整します。移動量が数字で表示されます。[Reset] ボタンをクリックすると初期値になります。

- **「Image Settings」**

チェックを入れると選択しているセル内の背景画像に関する設定をします。

- **[Import] ボタン**

クリックすると「Open File」ダイアログが開きます。画像データを選択したあと、[OK] ボタンをクリックすると、画像をどのようにセルに配置するかを選択する「Re-size Image」ダイアログが開きます。選択できる画像の拡張子は \*.png と \*.bmp と \*.jpg です。

- **[Clear] ボタン**

クリックすると、背景画像を削除します。

- **[Up]/[Left]/[Right]/[Down]/[Reset] ボタン**

セル内の背景画像位置を調整します。移動量が数字で表示されます。[Reset] ボタンをクリックすると初期値になります。

- **「Preview」**

ページイメージを表示します。

- **「All Clear」ボタン**

セルの情報をすべて初期化します。

- **「OK」ボタン**

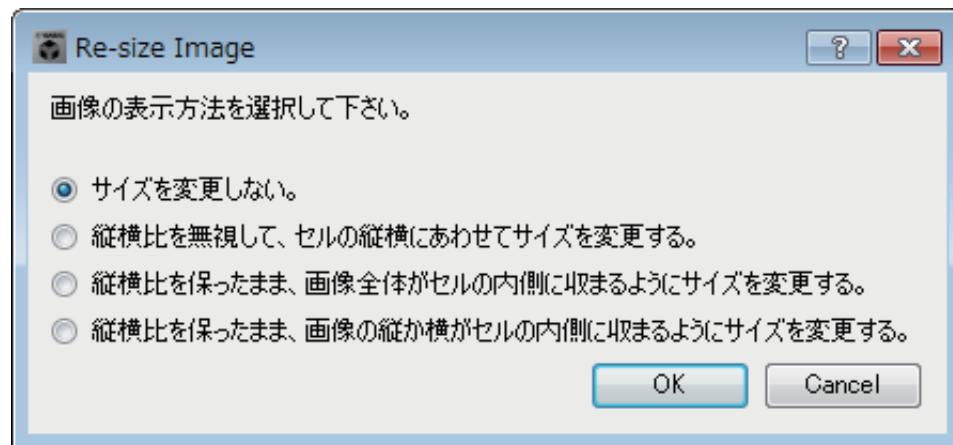
設定情報を保持してダイアログを閉じます。

- **「Cancel」ボタン**

設定情報を破棄してダイアログを閉じます。

## □「Re-size Image」ダイアログ

画像をどのように配置するかを選択します。



### ●選択ラジオボタン

選択肢は上から以下となります。

- ・ サイズを変更しない。
- ・ 縦横比を無視して、セルの縦横に合わせてサイズを変更する。
- ・ 縦横比を保ったまま、画像全体がセルの内側に収まるようにサイズを変更する。
- ・ 縦横比を保ったまま、画像の縦か横がセルの内側に収まるようにサイズを変更する。

### ●[OK] ボタン

セルに画像を設定して、ダイアログを閉じます。

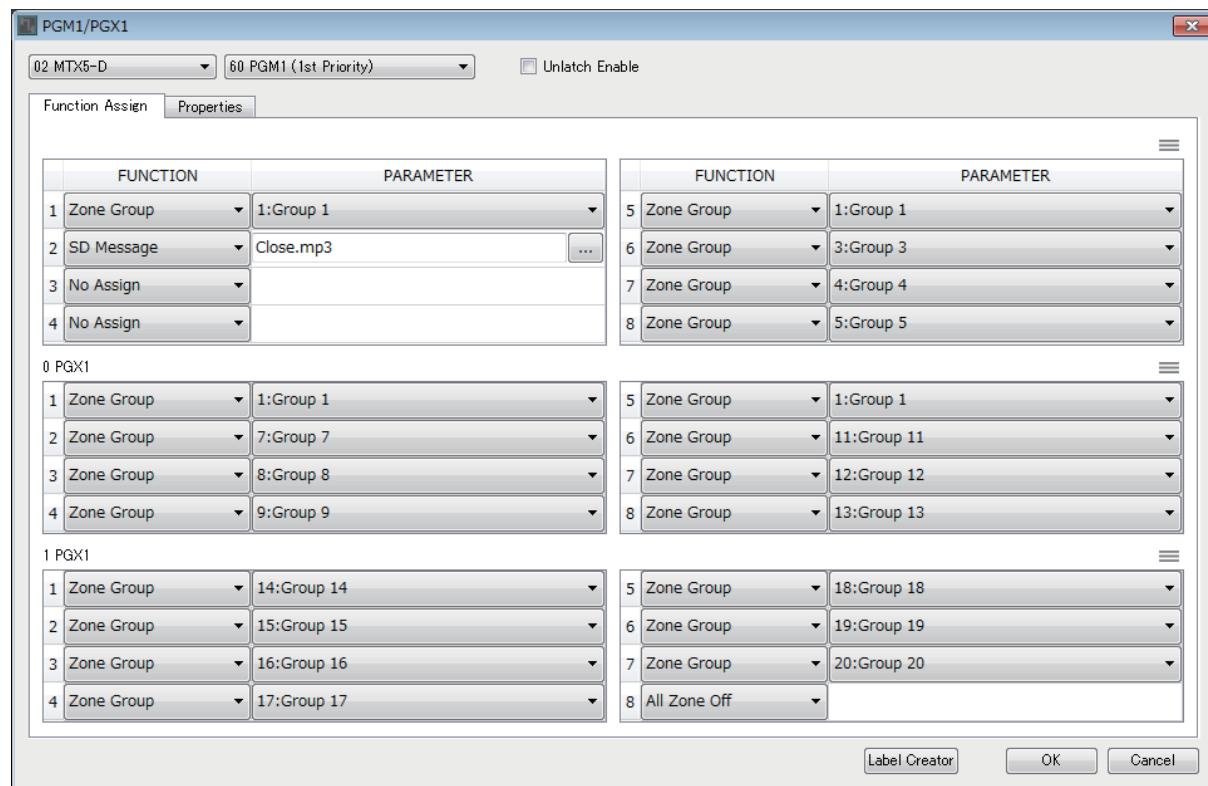
### ●[Cancel] ボタン

セルに画像を設定せずにダイアログを閉じます。

## □「PGM1/PGX1」ダイアログ

PGM1 や PGX1 のゾーン / メッセージ選択ボタンへの割り当てや、PTT ボタンの設定をします。

このダイアログは MTX5-D や MRX7-D でのみ表示できます。MRX7-D で PGM1 を使用する場合は MRX Designer で「Paging」コンポーネントを配置してください。



### ● MTX/MRX 選択リストボックス

設定対象の PGM1 が接続されている MTX/MRX を選択します。リストボックスには UNIT ID、MTX/MRX の名称の順で表示されます。

### ● PGM1 選択リストボックス

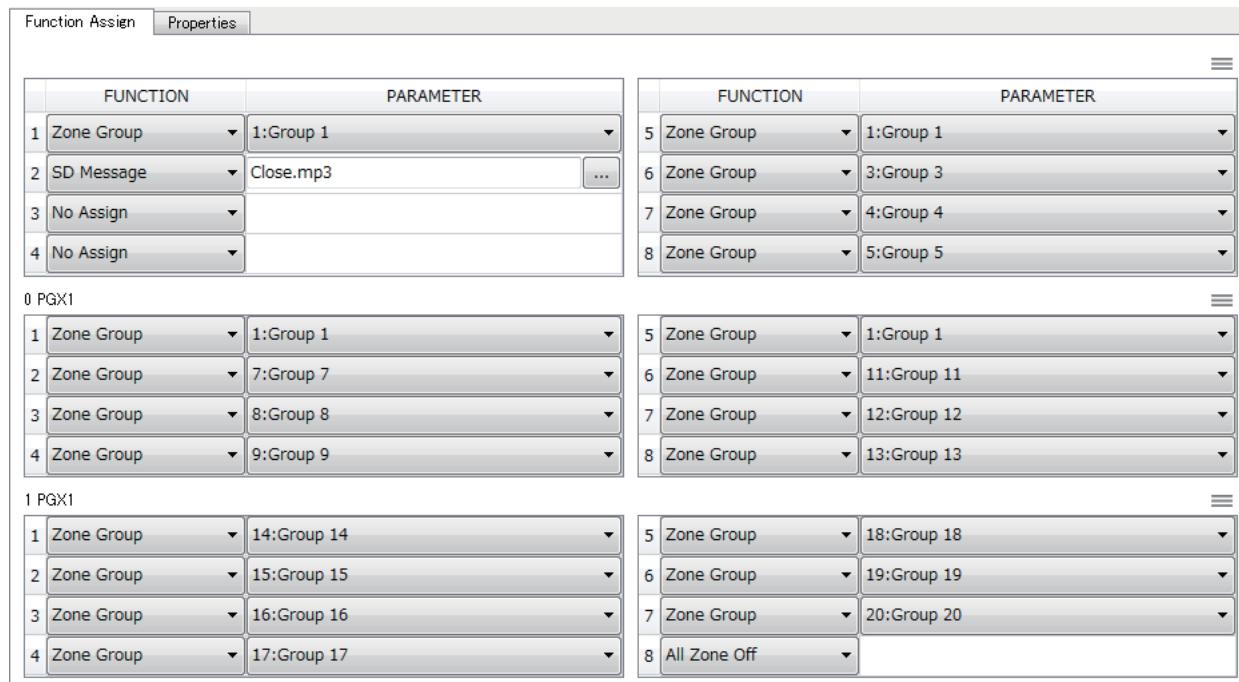
設定対象の PGM1 を選択します。MTX/MRX 選択リストボックスで選択した MTX/MRX に接続されているすべての PGM1 が UNIT ID、PGM1 の名称の順で表示されます。

### ● [Unlatch Enable] チェックボックス

チェックを入れると、選択されている PGM1 の PTT ボタンがラッチとアンラッチ併用方式になります。チェックを入れていないと PTT ボタンがラッチ方式になります。

### ● [Function Assign] タブ

PGM1 や PGX1 のゾーン / メッセージ選択ボタンに機能を割り当てます。



「FUNCTION」には以下の選択肢があります。

- [No Assign]

ボタンに機能を割り当てません。

- [Zone]

放送するゾーンを選択 / 選択解除します。

選択したときにゾーン / メッセージインジケーターが点灯します。

- [Zone Group]

放送する複数のゾーンを一括して選択 / 選択解除します。

ゾーングループは、MTX5-D では「ZONE」画面の「PAGING」画面、MRX7-D では「Paging」コンポーネントの「Zone Group」ウィンドウで設定してください。

グループに登録されているすべてのゾーンに放送できる状態になっているときにゾーン / メッセージインジケーターが点灯します。

- [Zone Group (Legacy)]

放送する複数のゾーンを一括して選択します。選択解除はできません。

ゾーングループは、MTX5-D では「ZONE」画面の「PAGING」画面、MRX7-D では「Paging」コンポーネントの「Zone Group」ウィンドウで設定してください。

- [SD Message]

再生するメッセージのファイルを選択します。

- [All Zone Off]

すべてのゾーン / ゾーングループを選択解除します。

他の PGM1/PGX1 のゾーン / ゾーングループの選択状態には影響しません。

- [All Zone On/Off]

すべてのゾーン / ゾーングループを選択 / 選択解除します。

他の PGM1/PGX1 のゾーン / ゾーングループの選択状態には影響しません。

すべてのゾーン / ゾーングループに放送できる状態になっているときにゾーン / メッセージインジケーターが点灯します。

- メニューボタン (≡)

メニューボタンをクリックすると、以下のファンクションが実行できます。

- [Copy]

該当する機器の FUNCTION と PARAMETER をコピーバッファにコピーします。

- [Paste]

コピーバッファにある FUNCTION と PARAMETER を該当する機器に上書きします。

- [Clear]

該当する機器の FUNCTION と PARAMETER を初期化します。

### ● [Properties] タブ

PGM1 の動作について設定します。



- [すべての放送を停止します。] ラジオボタン

選択すると、MTX/MRX システムがエマージェンシーモードのとき、スケジューラーを含むページング放送ができなくなります。

- [1st Priority PGM1 以外の放送を停止します。] ラジオボタン

選択すると、MTX/MRX システムがエマージェンシーモードのとき、1st Priority PGM1 のみページング放送ができます。

- [Opening Chime]/[Closing Chime] チェックボックス

チェックを入れると、オープニングチャイム / クロージングチャイムを設定できます。右のボタンをクリックして再生するチャイムのファイルを指定してください。同じ MTX/MRX につながっている PGM1 (Paging Device Group) で共通の設定となります。

- [Maximum paging duration] リストボックス

PTT オンにしてから自動的にオフにするまでの時間を選択します。メッセージを再生中は指定時間を過ぎてもオフになりません。同じ MTX/MRX につながっている PGM1 で共通の設定となります。

- [スケジューラーの Paging イベントを PGM1 より優先して放送します。Paging イベントの優先度は、1st Priority PGM1 より低くなります。] チェックボックス

チェックを入れると優先順位が「1st Priority PGM1 > イベント > 普通の PGM1」になります。チェックを入れていないと優先順位が「1st Priority PGM1 > 普通の PGM1 > イベント」になります。

### ● [Label Creator] ボタン

クリックすると「PGM1 Label Creator」アプリケーションが起動します。

### ● [OK] ボタン

設定を保持してダイアログを閉じます。

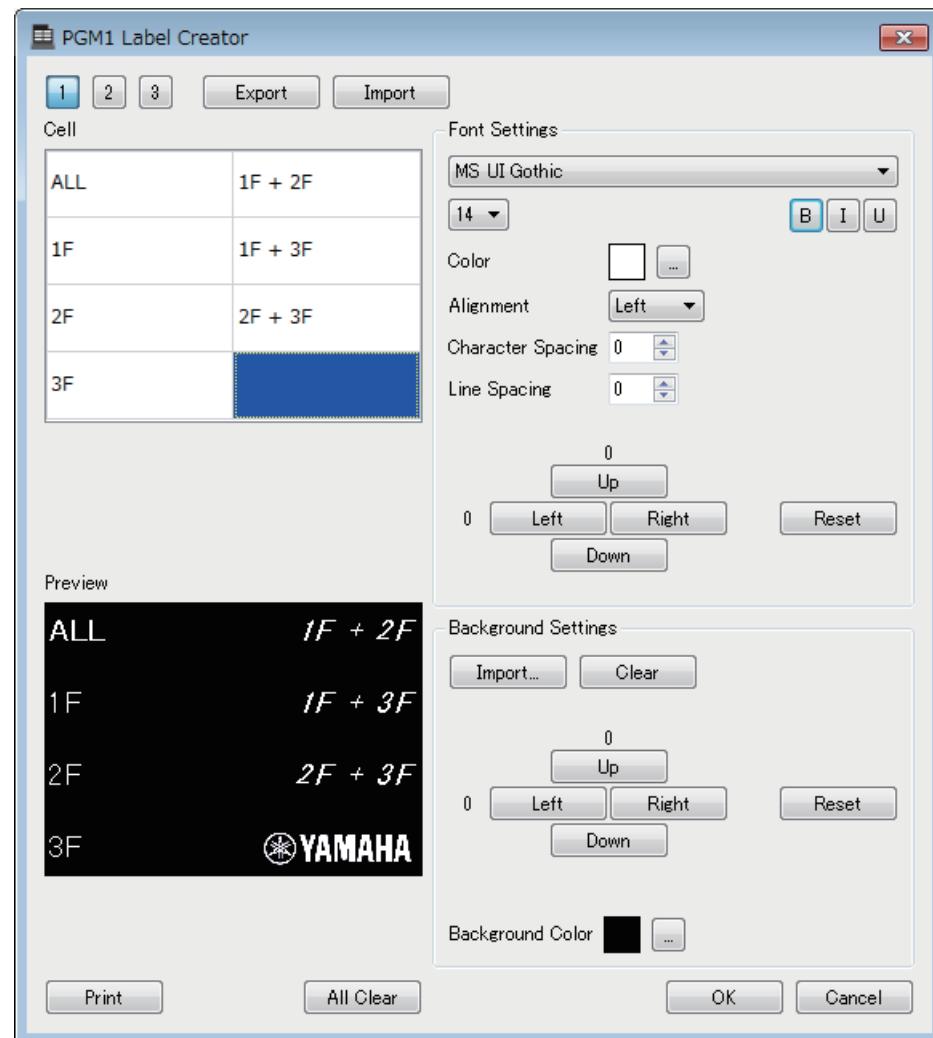
### ● [Cancel] ボタン

設定を破棄してダイアログを閉じます。

## □ 「PGM1 Label Creator」 アプリケーション

PGM1 や PGX1 のラベルの印刷画像を作成します。

印刷するときにはコンピューターとプリンターを接続しておいてください。



### ● パターン選択ボタン

ラベルのパターンを選択します。PGM1 Label Creator は 1 つのコンピューターに 3 つまでのパターンを登録できます。

### ● [Export] ボタン

設定をファイルに保存します。クリックすると「Save File」ダイアログが開きます。拡張子は \*.plc です。

### ● [Import] ボタン

\*.plc ファイルの設定を取り込みます。クリックすると「Load File」ダイアログが開きます。

### ● [Cell]

ラベルを編集します。

文字列を編集する場合、セルを選択してダブルクリックするか <F2> キーを押してください。<Enter> キーを押すかマウスで他のセルを選択すると確定します。

画像を入れる場合、セルを選択して「Background Settings」エリアの [Import] ボタンを押して、画像ファイルを選択してください。

セルの移動はマウス操作だけでは無く、カーソルキーや <Tab> キー、<Enter> キーでもできます。また、<Shift> キーを押しながらセルの移動をすると範囲選択できます。

## ●「Font Settings」エリア

選択しているセル内のフォントに関する設定をします。設定の反映については「Preview」で確認してください。

- **フォントリストボックス**

文字列のフォントを選択します。フォントはコンピューターにインストールされているものが選択できます。

- **フォントサイズリストボックス**

文字列のフォントサイズを選択します。

- **[B]/[I]/[U] ボタン**

クリックするとセル内の文字列を太文字にしたり、イタリック体にしたり、下線付きにしたりします。

- **「Color」**

セル内の文字列の色が表示されます。ボタンをクリックすると色を選択するための「Select Color」ダイアログが開きます。

- **[Alignment] リストボックス**

セル内の文字列の表示位置を選択します。

- **[Character Spacing] スピンボックス**

セル内の文字の間隔を設定します。

- **[Line Spacing] スpinボックス**

セル内の行の間隔を設定します。

- **[Up]/[Left]/[Right]/[Down]/[Reset] ボタン**

セル内の文字位置を調整します。移動量が数字で表示されます。[Reset] ボタンをクリックすると初期値になります。

## ●「Background Settings」

選択しているセル内の背景画像に関する設定をします。

- **[Import] ボタン**

クリックすると「Open File」ダイアログが開きます。画像データを選択したあと、[OK] ボタンをクリックすると、画像をどのようにセルに配置するかを選択する「Re-size Image」ダイアログが開きます。選択できる画像の拡張子は \*.png と \*.bmp と \*.jpg です。

- **[Clear] ボタン**

クリックすると、背景画像を削除します。

- **[Up]/[Left]/[Right]/[Down]/[Reset] ボタン**

セル内の背景画像位置を調整します。移動量が数字で表示されます。[Reset] ボタンをクリックすると初期値になります。

- **「Background Color」**

セル内の背景の色が表示されます。ボタンをクリックすると色を選択するための「Select Color」ダイアログが開きます。

**● [Preview]**

印刷イメージを表示します。

**● [Print] ボタン**

クリックすると印刷ダイアログが表示されます。

**● [All Clear] ボタン**

選択されているパターンのセルの設定をすべて初期化します。

**● [OK] ボタン**

設定情報を保持してアプリケーションを終了します。設定情報は MTX-MRX Editor のプロジェクトファイルに保持されないので、設定情報を再利用する場合は [Export] ボタンをクリックして、ファイル保存してください。

**● [Cancel] ボタン**

設定情報を破棄してアプリケーションを終了します。

## □ 「GPI」 ダイアログ

GPI は、General Purpose Interface( 汎用インターフェース ) の略です。GPI 入出力を使うことによりカスタムメイドのコントローラーや外部機器から MTX/MRX をリモートコントロールできます。GPI 入力端子に接続されたコントローラーで、MTX/MRX のプリセット切り替え、コンポーネントのパラメーター変更などができます。GPI 入出力は機器ごとに設定します。

GPI 出力端子に LED やランプなどの表示器や他社の外部制御機器を接続し、プリセットやパラメーターの設定状態に応じて外部の機器をコントロールできます。

[GPI] 端子の接続方法などハードウェアに関する詳細は機器本体の取扱説明書を参照してください。

### <使用例 1>

#### 自作のスイッチパネルを使ってプリセットを切り替える

MTX/MRX の [GPI IN-1] 端子から [GPI IN-3] 端子にそれぞれモーメンタリースイッチを接続し、Preset1 ~ 3 を呼び出すように設定してプリセットの切り替えを行ないます。

### <使用例 2>

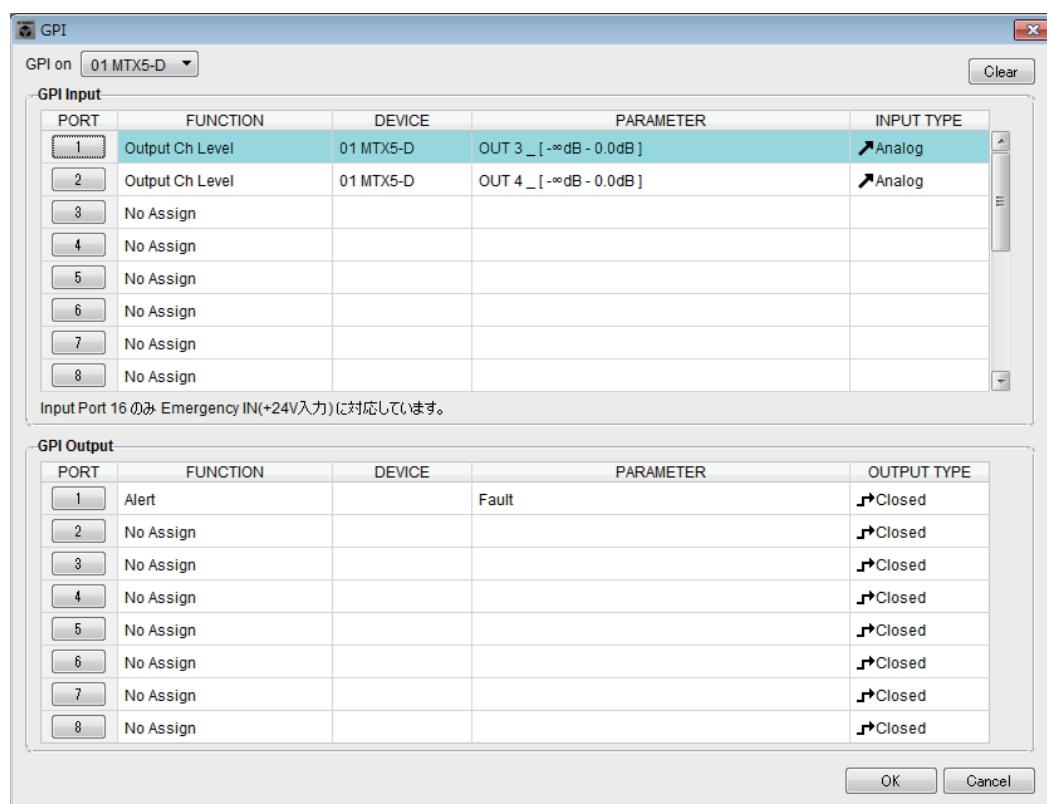
#### MTX/MRX の音量をコントロールする

MTX/MRX のいずれかの [GPI IN] 端子に可変抵抗を接続し、GPI Input Port に Output Ch Level を割り当てて音量をコントロールします。

### <使用例 3>

#### 複数台の MTX/MRX の音量をコントロールする

MTX/MRX のいずれかの [GPI IN] 端子に可変抵抗を接続し、GPI Input Port に ZONE Out DCA Group を割り当てて、複数台の MTX のゾーン音量を連動してコントロールします。



このダイアログは、オフライン状態のときのみ編集可能です。

#### ● [GPI on] リストボックス

設定対象の MTX/MRX をリストから選択します。リストには、MTX/MRX システムに配置された MTX/MRX の UNIT ID および機器名が表示されます。

**● [Clear] ボタン**

全ポートの設定を初期化します。

**● PORT 選択ボタン**

各ポートの設定を行なう「Settings」ダイアログが表示されます。

パラメーターについては「Settings」ダイアログ設定一覧を参照してください。

**● [OK] ボタン**

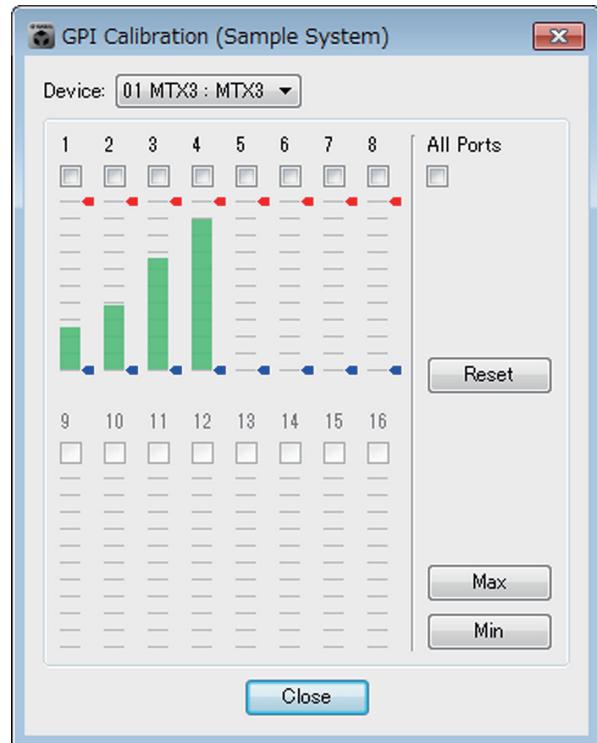
設定を保存し、ダイアログを閉じます。

**● [Cancel] ボタン**

設定を変更せずにダイアログを閉じます。

## □ 「GPI Calibration」 ダイアログ

MTX/MRX 本体の [GPI] 端子の入力電圧検出範囲のキャリブレーションを行ないます（オンライン状態のときのみ設定可能）。[GPI] 端子の入力電圧を安定させるために検出範囲を補正します。



### ● [Device:] リストボックス

MTX/MRX システム内の MTX/MRX を選択します。

左から、「UNIT ID」「Type( 機器のモデル名 )」「Device Name( 機器の名称 )」の順に表示されます。

### ● チャンネル選択チェックボックス

チェックしたチャンネルをキャリブレーションの対象とします。

### ● [All Ports] チェックボックス

すべてのチャンネルのチェックボックスをチェックします。

### ● キャリブレーション情報

リアルタイムで入力電圧をグラフ表示します。

### ● [Reset] ボタン

チェックしたチャンネルのキャリブレーションをリセットします。

### ● [Max] ボタン

チェックしたチャンネルの現在の入力電圧を最大値にセットします。

セットした最大値は赤いバーで表示します。

### ● [Min] ボタン

チェックしたチャンネルの現在の入力電圧を最小値にセットします。

セットした最小値は青いバーで表示します。

### ● [Close] ボタン

ダイアログを閉じます。

### **キャリブレーションの設定方法**

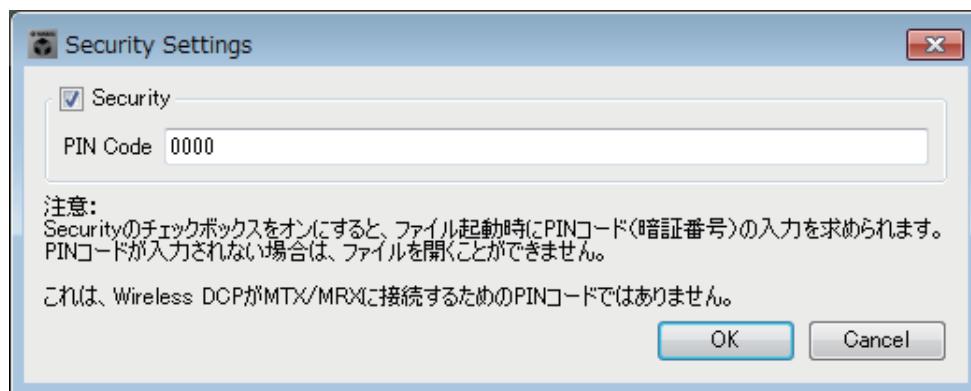
1. MTX/MRX の [GPI] 端子に外部機器を接続します。
2. キャリブレーションを行なうチャンネル番号のチェックボックスをチェックします。  
すべてのチャンネルを選択したいときは [All Ports] チェックボックスをチェックします。
3. 外部機器からの入力値を最大にして [Max] ボタンを、最小にして [Min] ボタンをクリックし、検出範囲を設定します。  
配線による電圧降下の補正や出力機器の仕様に合わせて、最適な範囲に設定できます。

**NOTE**

- ・ オン / オフが切り替わるスレッショルド値は、入力電圧の最大値と最小値の中央値（最大値と最小値を足して 2 で割った値）になります。誤動作防止のため、検出範囲を十分にとって設定してください。
- ・ ケーブルの長さやノイズの影響により電圧が下がる場合は、入力電圧の最大値および最小値を調整してください。また、電圧が不安定になることがあるので、最大値および最小値の間が十分に離れるように外部回路を構成 / 設定してください。

## □「Security Settings」 ダイアログ

MTX/MRX システムではセキュリティのために PIN コード ( 暗証番号 ) を設定できます。



### ● [Security] チェックボックス

このチェックボックスをオンにすると、プロジェクトファイル起動時に「Security」ダイアログが開きます。

チェックボックスをオフにしておくと、すべてのユーザーが MTX-MRX Editor で変更ができるようになります。

### ● [PIN Code]

[Security] チェックボックスがオンのとき、PIN コード ( 暗証番号 ) を入力します (4 衝の半角数字)。

半角数字以外や空の PIN コードは入力できません。

- NOTE**
- PIN コードは、このダイアログで確認できます。他のユーザーに見られないようにしてください。
  - PIN コードを忘れた場合、該当プロジェクトファイルを開くことができなくなります。

### ● [OK] ボタン

設定を更新し、ダイアログを閉じます。

オンライン状態のときは、これらの設定がプロジェクト内のすべての MTX/MRX に送信されます。

オフライン状態のときは、オンライン操作をしたときに送信されます。

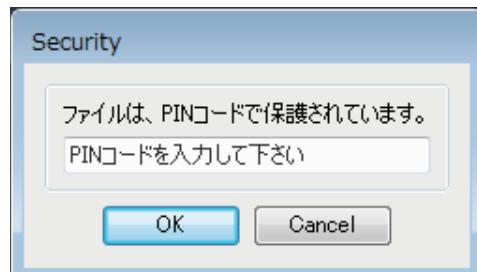
### ● [Cancel] ボタン

設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

## 「Security」 ダイアログ

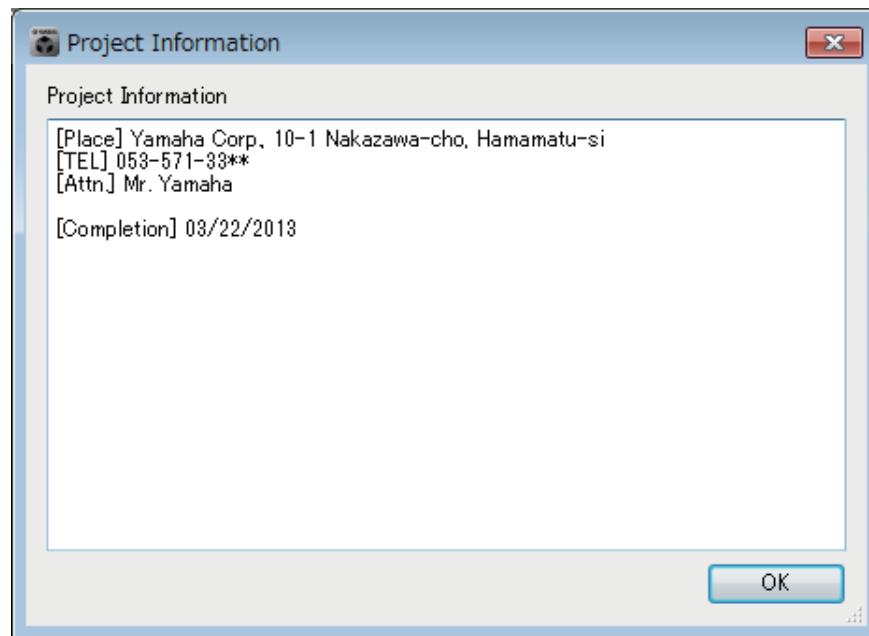
PIN コードが設定されているプロジェクトファイルを開くとき、「Security」ダイアログが表示されます。

PIN コードを入力後、[OK] ボタンをクリックしてください。



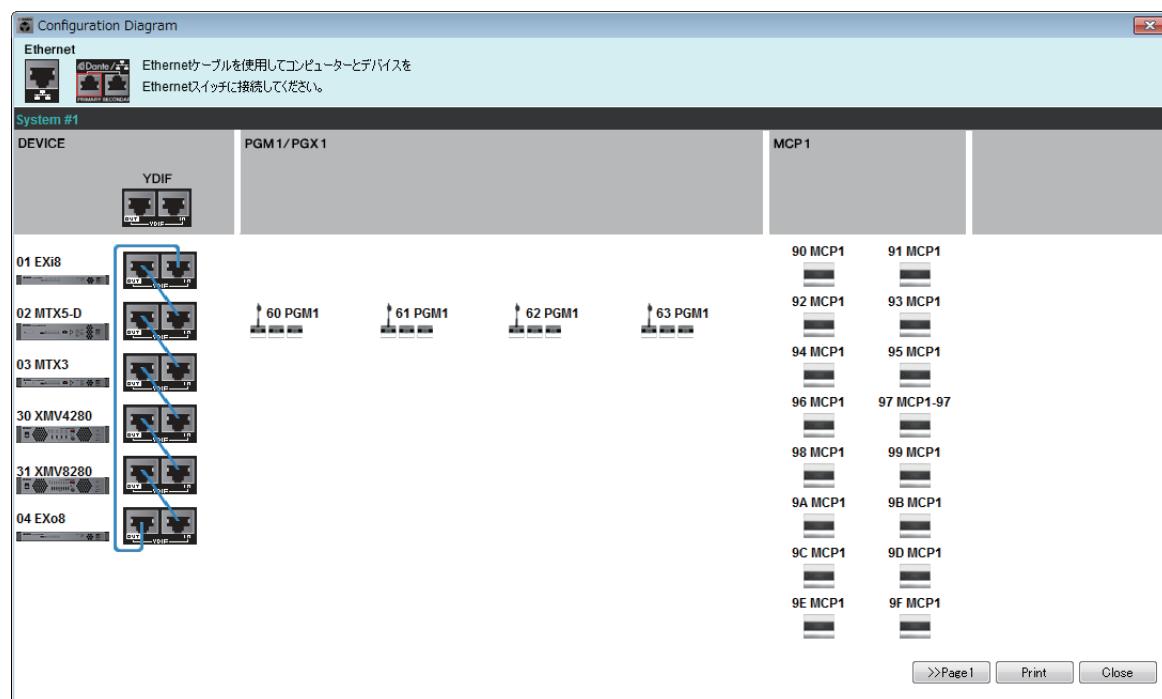
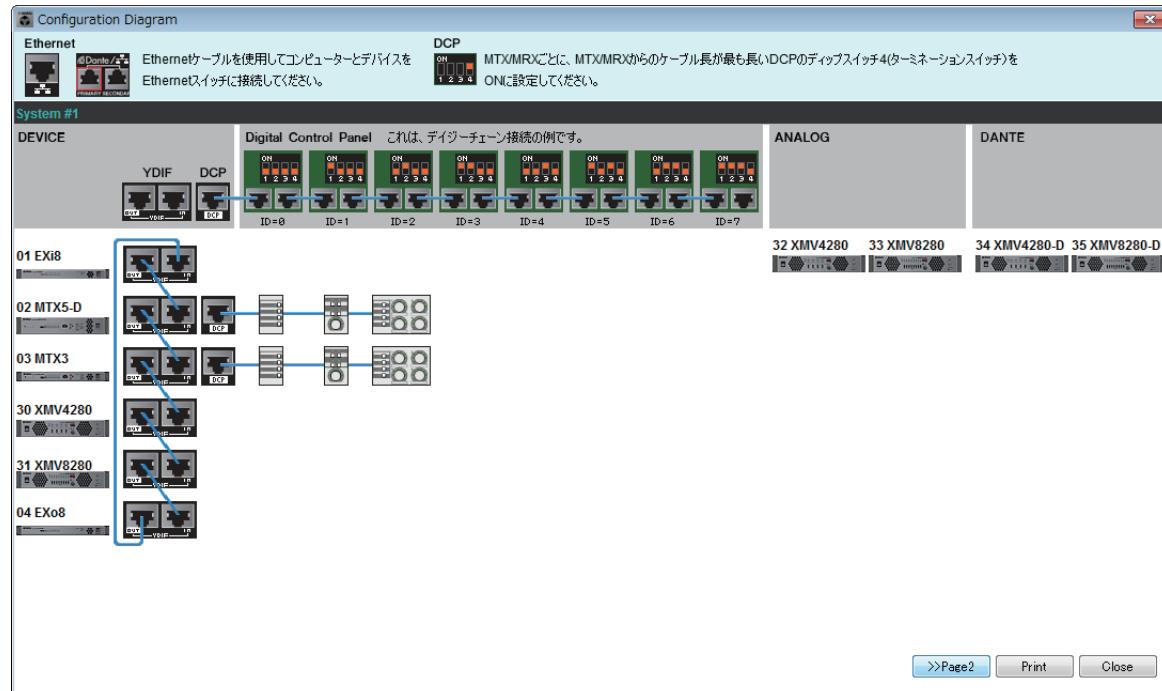
## □「Project Information」 ダイアログ

物件情報や連絡先などのメモをプロジェクトファイルに記しておくことができます。



## □「Configuration Diagram」 ダイアログ

MTX/MRX、XMV や DCP などの機器の接続図を表示します。接続図は印刷できます。



### ● [>>Page 2]/[>>Page 1] ボタン

接続図の画面を切り替えます。

### ● [Print] ボタン

接続図の印刷を開始します。

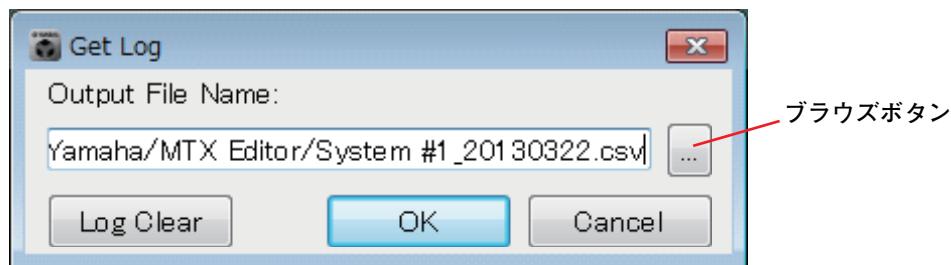
### ● [Close] ボタン

接続図を印刷せずにダイアログを閉じます。

## □「Get Log」 ダイアログ

MTX/MRX システムの動作記録である「ログ」は MTX/MRX 本体のメモリーに保存されます。このダイアログでは、お使いのコンピューターが接続されているサブネット内に存在するすべての MTX/MRX のログを出力し、ファイルとして保存します。ログファイルの形式は「.csv」です。

- NOTE**
- Project 画面の [Alert] タブではアラート一覧で記載している Information までは表示しませんが、ログとしては取得します。
  - MCP1 と PGM1/PGX1 はログ取得対象外です。



### ● [Output File Name] テキストボックス

取得したログファイルの保存場所（絶対パス）を表示します。直接入力もできます。

### ● ブラウズボタン

ファイルブラウザを開き、ログとして出力されるファイルを選択します。

### ● [Log Clear] ボタン

サブネット内に存在するすべての MTX/MRX のログを消去します。

クリックすると、確認のメッセージが表示されます。[Yes] ボタンをクリックすると、ログの消去を実行します。[No] ボタンをクリックすると、操作をキャンセルしダイアログを閉じます。PIN コードの入力が求められることがあります。

### ● [OK] ボタン

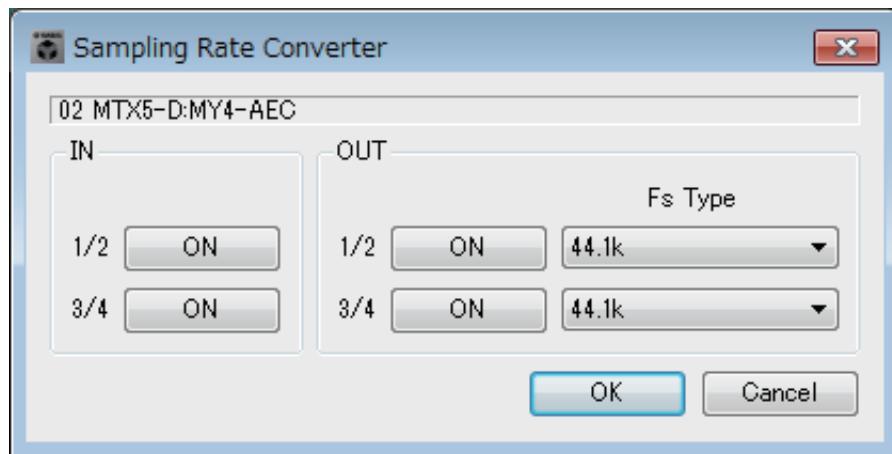
ログファイルを出力し、ダイアログを閉じます。

### ● [Cancel] ボタン

ログファイルの出力をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

## □ 「Sampling Rate Converter」ダイアログ

機器の SLOT に挿入された MY4-AEC や MY8-AE96S の SRC(Sampling Rate Converter) のオン / オフと出力するワードクロック値を設定します。



### ● [ON] ボタン

SRC のオン / オフを切り替えます。また、ボタンにオン / オフ状態を表示します。

### ● [Fs Type] リストボックス (MY4-AEC のみ)

SRC がオンのときに、MY4-AEC から出力するワードクロックを選択します。

AES/EBU\_IN\_CH1/2 を選択すると、MY4-AEC の入力 1/2 に入ってきたワードクロックを出力します。AES/EBU\_IN\_CH3/4 を選択すると、MY4-AEC の入力 3/4 に入ってきたワードクロックを出力します。

### ● [OK] ボタン

設定を反映して、ダイアログを閉じます。

### ● [Cancel] ボタン

設定を反映しないで、ダイアログを閉じます。

## □ 「Input Source/Redundant」ダイアログ

XMV の入力ソースをチャンネル単位でデジタルにするかアナログにするかを設定します。また、入力ソースをデジタルにした場合、パイロットトーンまたはアナログの入力を検知して入力ソースをデジタルからアナログに切り替える設定をします。ここではデジタルが YDIF の場合の画面で説明します。



### ● [Redundant Mode] リストボックス

リダンダントの方法を選択します。

- [Off]  
リダンダントをしません。
- [Backup]  
断線などのトラブルでデジタル入力のパイロットトーンが途切れたとき、アナログ入力に切り替えます。
- [Override]  
アナログ音声を検出したとき、デジタル入力を規定のアナログ入力に切り替えます。

**NOTE** MTX3 や MTX5-D を含むシステムの YDIF 接続が切断された場合、ワードクロック信号の供給が途絶えるため、MTX3 や MTX5-D からのアナログ出力音声が周期的に途切れます。この事象は YDIF を接続しなおすことで解消されます。なお、この事象は MRX7-D では発生しません。

### ● [Auto Return] チェックボックス

チェックを入れると、以下のようになります。

- **Backup モードの場合**

デジタル入力が復帰したら、入力ソースをデジタルに切り替えます。

- **Override モードの場合**

アナログ入力がしきい値を下回ったときに、入力ソースをアナログからデジタルに戻します。

### ● チャンネルリストボックス

設定をする入力チャンネルを選択します。

### ● 「Primary Input Source」エリア

入力をデジタルにするかアナログにするかをチャンネル単位で切り替えます。

- **[YDIF(Digital)]/[Dante(Digital)] ラジオボタン**

該当チャンネルの信号を YDIF または Dante から取得します。

YDIF や Dante のパッチは「EXT. I/O」画面で設定してください。

- **[Redundant] チェックボックス**

チェックを入れると、リダンダント機能が有効になります。

[Redundant Mode] リストボックスでリダンダントモードが決まります。[Off] が選択されている場合、ここにチェックを入れてもリダンダント機能は無効です。

- **[Analog] ラジオボタン**

信号を該当チャンネルと同名のアナログ入力端子から取得します。

### ● 「Redundant Mode - Backup」エリア

チャンネルごとにパイロットトーンの検出に関する設定をします。MTX5-D のパイロットトーンを使う場合は、20.0kHz にしてください。

- **[Frequency] スピンボックス**

パイロットトーンの中心周波数を設定します。

- **[Detection Threshold] スピンボックス**

パイロットトーン入力レベルのしきい値を設定します。しきい値以上の入力をパイロットトーンとみなします。

- **[Detection Time] スpinボックス**

パイロットトーンの検出時間を設定します。設定した時間間隔内にパイロットトーンを検出できないとき、入力が途切れたと判断します。

- **[Notch Filter] チェックボックス**

チェックを入れると、パイロットトーンの周波数成分を除去し、アンプからパイロットトーンを出力しないためのノッチフィルターを有効にします。

- **[Q] スpinボックス**

ノッチフィルターの周波数帯域の幅を設定します。

**NOTE** MTX3 や MTX5-D を含むシステムの YDIF 接続が切断された場合、ワードクロック信号の供給が途絶えるため、MTX3 や MTX5-D からのアナログ出力音声が周期的に途切れます。この事象は YDIF を接続しなおすことで解消されます。なお、この事象は MRX7-D では発生しません。

**● 「Redundant Mode - Override」エリア**

チャンネルごとに Override モードのアナログ入力に切り替える条件の設定をします。

- **[Override Threshold] スピンボックス**

アナログ入力のしきい値を設定します。しきい値を超えたときに入力ソースをアナログに切り替えます。

- **[Auto Return Delay] スpinボックス**

[Auto Return] チェックボックスにチェックが入っているとき、アナログ入力がしきい値を下回ったと判定してからデジタル入力に切り替えるまでの時間を設定します。

**● [Save Changes] ボタン**

設定を保持してダイアログを閉じます。

**● [Cancel] ボタン**

設定の変更を破棄してダイアログを閉じます。

## 「Settings」ダイアログ設定一覧

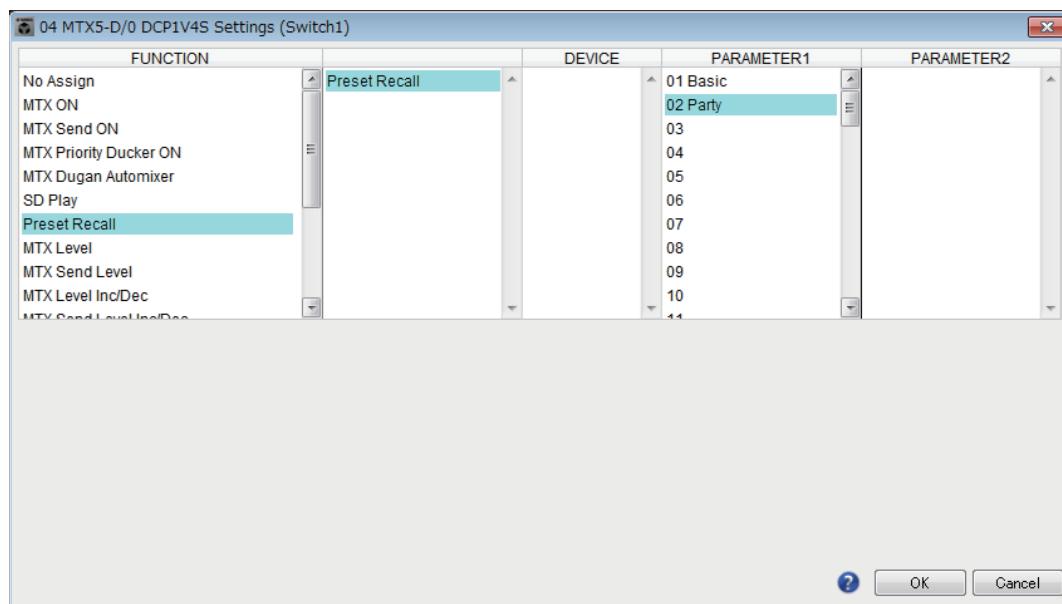
ここでは以下の「Settings」ダイアログの設定について説明します。

MRX シリーズ独特の設定については、「MRX Designer ユーザーガイド」を参照してください。

- DCP/Wireless DCP/MCP1
- GPI Input
- GPI Output

### ■ DCP/Wireless DCP/MCP1

DCP、Wireless DCP や MCP1 のスイッチやノブ / スライダーの設定について説明します。



#### ● [FUNCTION] が [No Assign] の場合

コントローラーのスイッチやノブ / スライダーで何も設定を変更しないための設定です。  
[DEVICE] および [PARAMETER1/2] は無効です。

#### ● [FUNCTION] が [Open Page] の場合 (MCP1 の HOME ページのみ)

MCP1 のスイッチで MCP1 のページを切り替えます。

#### ● [FUNCTION] が [MTX ON] の場合 (スイッチのみ)

スイッチでパラメーターのオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch ON
- Fx RTN ON
- ZONE Out ON
- Output Ch ON
- Input Ch Mute Group
- ZONE Out Mute Group

**NOTE** Input Ch Mute Group と ZONE Out Mute Group ではミュートがオンのときに本体の LED が消灯します。

○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER1]

パラメーターのオン / オフをコントロールするチャンネルを設定します。

● [FUNCTION] が [MTX Send ON] の場合 (スイッチのみ)

スイッチでセンドのオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send ON
- Fx RTN Send ON

○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER1][PARAMETER2]

センドのオン / オフをコントロールするチャンネルを設定します。

● [FUNCTION] が [MTX Priority Ducker ON] の場合 (スイッチのみ)

スイッチでZONEのDuckerのオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- 1st Priority
- 2nd Priority

○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER 1]

Duckerのオン / オフをコントロールするZONEを選択します。

● [FUNCTION] が [MTX Dugan Automixer] の場合 (スイッチのみ)

スイッチでパラメーターのオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Override(master)
- Mute(master)
- override(Ch)

○ [DEVICE]

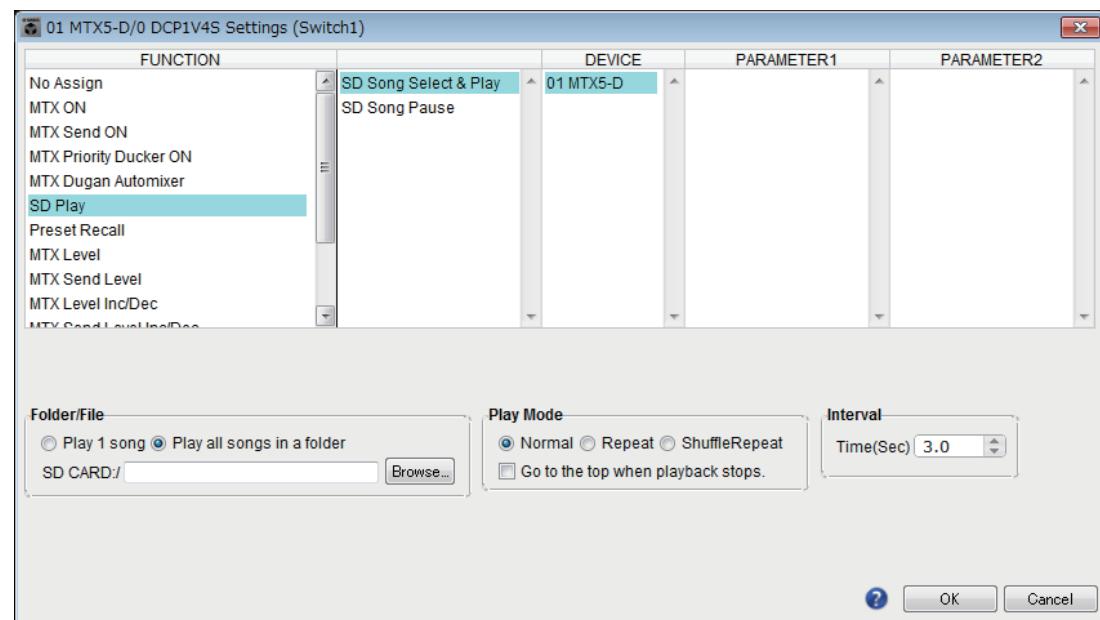
変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER 1]

Override(master) と Mute(master) ではオン / オフをコントロールするグループを、  
override(Ch) ではオン / オフをコントロールするチャンネルを選択します。

### ● [FUNCTION] が [SD Play] の場合 (スイッチのみ)

スイッチで指定したオーディオファイルを再生 / 停止します。



以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- SD Song Select & Play
- SD Song Pause

#### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

#### ○ [Folder/File] (パラメータータイプが [SD Song Select & Play] の場合のみ)

再生したい曲またはフォルダーを SD メモリーカードから選択します。

##### ◆ [Play 1 song]/[Play all songs in a folder]

[Play 1 song] を選択すると、[SD CARD:/] で選択中の曲のみが再生されます。

[Play all songs in a folder] を選択すると、[SD CARD:/] で選択中のフォルダーに保存されているすべての曲が再生されます。

**NOTE** オーディオファイルはファイル名の昇順で 100 曲まで再生されます。

##### ◆ [SD CARD:/] テキストボックス

再生する曲の名前またはフォルダーネ名が表示されます。名前を変更したり、直接入力することもできます。

**NOTE** 日本語も入力できます。

##### ◆ [Browse] ボタン

##### [Play 1 song] を選択しているとき

[SD CARD:/] に表示するファイルを選択します。

表示可能なファイルおよびフォルダーの形式は以下の通りです。

- ( フォルダーネ名 )\ ( ファイル名 ).mp3
- ( フォルダーネ名 )\ ( ファイル名 ).wav
- ( ファイル名 ).mp3
- ( ファイル名 ).wav

[Play all songs in a folder] を選択しているとき

[SD CARD:/] に表示するフォルダーを選択します。選択中のフォルダーに保存されている曲が 100 曲まで再生されます。

表示可能なフォルダーの形式は以下の通りです。

- ・(フォルダーナン)
- ・空欄

- NOTE**
- ・フォルダーは 1 階層のみ有効です。
  - ・フォルダーナンが空欄の場合は、SD メモリーカードのルートに存在している曲を再生します(ルート以下のフォルダーは含まれません)。

## ○ [Play Mode] ( パラメータータイプが [SD Song Select &amp; Play] の場合のみ )

## ◆ [Normal]/[Repeat]/[Shuffle Repeat]

曲の再生モードを設定します。

[Normal] を選択すると、指定した曲またはフォルダー内の曲を 1 回再生します。

[Repeat] を選択すると、指定した曲またはフォルダー内の曲を繰り返し再生します。

[Shuffle Repeat] を選択すると、指定したフォルダー内の曲をランダムに繰り返し再生します。[Folder/File] で [Play 1 song] が選択されている場合は、[Shuffle Repeat] が選択できません。

## ◆ [Go to the top when playback stops.]

曲の再生を止めたときに、停止位置で待機するか先頭位置に戻るかを設定します。

オンにすると、次に再生を始めたときに曲の先頭またはフォルダー内の先頭の曲から再生します。

オフにすると、次に再生を始めたときに前回の停止位置から再生します。

## ● [FUNCTION] が [Preset Recall] の場合 ( スイッチのみ )

スイッチで指定のプリセットをリコールします。

## ○ [PARAMETER1]

リコールするプリセット番号を選択します。

## ● [FUNCTION] が [MTX Level] または [MTX Send Level] の場合

ノブ / スライダー / MCP1 の場合

ノブ、スライダーや MCP1 のスイッチでレベルやセンドレベルをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

**MTX Level の場合**

- ・Input Ch Level
- ・Fx RTN Level
- ・Matrix Out Level
- ・ZONE Out Level
- ・Output Ch Level
- ・1st Priority Mix Level
- ・2nd Priority Mix Level
- ・Input Ch DCA Group
- ・ZONE Out DCA Group

- NOTE** 複数の入力チャンネルをコントロールしたい場合は、[Input Ch DCA Group] または [ZONE Out DCA Group] を使用します。

**MTX Send Level の場合**

- ・Input Ch Send Level
- ・Fx RTN Send Level

## ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

## ○ [PARAMETER1]/[PARAMETER2]

レベルをコントロールするチャンネルを設定します。

## ○ [Parameter Range]

レベルの変更可能範囲を [Upper Limit] および [Lower Limit] で設定します。

[Mute Enable] をオンにすると、レベルが [Lower Limit] で設定した値よりも下回った場合にミュート状態 (-∞ dB) になります。

- NOTE**
- 下記の [Nominal Value] で設定するノミナル値が [Upper Limit] を上回ると、[Upper Limit] が [Nominal Value] と連動して上がります。一方、ノミナル値が [Lower Limit] を下回ると、[Lower Limit] が [Nominal Value] と連動して下がります。
  - [Parameter Range] を使うと、ユーザーが使う音量コントロールの可変範囲を制限できます。たとえば、BGM の最大音量を設定したり、可変範囲を -6dB ~ +6dB などの狭い範囲に設定して音量を微調整するコントローラーとして使用できます。

## ○ [Nominal] チェックボックス (DCP のみ)

ノミナル機能に関する設定を行ないます。

ノミナル値を設定することで、通常音量時の位置を特定の LED ポジションとして設定できます。たとえば、センターの LED を通常使用状態のボリューム位置として設定し、また最大値をシステムに許容される最大音量に設定しておくと、騒がしい場合などに BGM の音量を上げてシステムを壊してしまうことを防げます。

チェックボックスをオンにすると、ノミナル機能がオンになります。

[Nominal Value] ではノミナル値を設定します。

[Nominal LED Position] では、レベルがノミナル値に達したときに点灯する LED の位置を設定します。

チェックボックスがオフ（ノミナル機能がオフ）の場合は、両パラメーターともグレーアウト表示となり設定できません。

## ○ [Knob](DCP のみ)

DCP のノブに関する設定を行ないます。

[Sensitivity] では DCP のノブの回転操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

[Acceleration] をオンにすると、ノブを速く回したときにパラメーターの変化が加速します。[Sensitivity] で [Fast] を選択している場合は、[Acceleration] はグレーアウト表示となり設定できません。

## ○ [Switch](MCP1 のみ)

MCP1 のスイッチに関する設定を行ないます。

[Sensitivity] では MCP1 のスイッチのタッチ操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

**スイッチの場合 (DCP1 V4S-US/EU のみ)**

スイッチでノブのコントロール対象の切り替えを設定します。

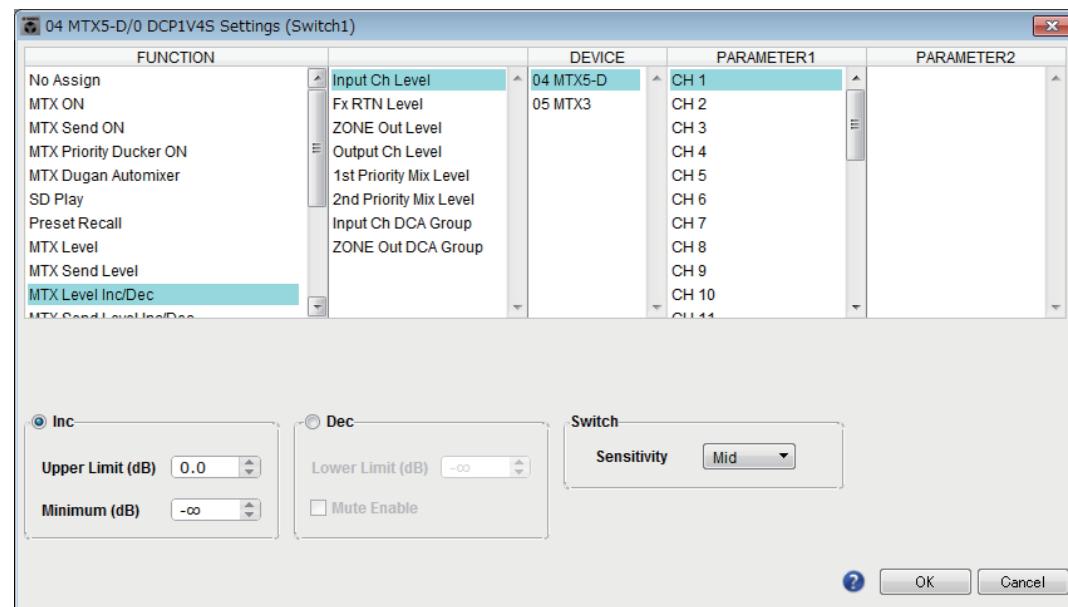
ノブに複数の機能を持たせたいときに使用してください。

スイッチに [MTX Level] または [MTX Send Level] を設定した場合、ノブの操作子の選択ボタンがグレーアウトして、ノブの設定ができない状態になります。

各種設定については、上記のノブ / スライダーの場合を参照してください。

- [FUNCTION] が [MTX Level Inc/Dec] または [MTX Send Level Inc/Dec] の場合  
(DCP のスイッチのみ)

スイッチでレベルやセンドレベルを上げたり下げたりします。



以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

#### MTX Level Inc/Dec の場合

- Input Ch Level
- Fx RTN Level
- Matrix Out Level
- ZONE Out Level
- Output Ch Level
- 1st Priority Mix Level
- 2nd Priority Mix Level
- Input Ch DCA Group
- ZONE Out DCA Group

#### MTX Send Level Inc/Dec の場合

- Input Ch Send Level
- Fx RTN Send Level

#### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

#### ○ [PARAMETER1]/[PARAMETER2]

レベルやセンドレベルの上げるまたは下げるチャンネルを設定します。Send Level Inc/Dec の場合は、[PARAMETER2] で ZONE や Fx、ANC を設定します

#### ○ [Inc]

選択すると、スイッチを押すたびにレベルやセンドレベルが上がります。

##### ◆ [Upper Limit]

スイッチを押したときのレベルの上限を設定します。

##### ◆ [Minimum]

パラメーターの現在値が設定した値以下だった場合、スイッチを 1 回押したときに設定した値にします。

○ [Dec]

選択すると、スイッチを押すたびにレベルやセンドレベルが下がります。

◆ [Lower Limit]

スイッチを押したときのレベルの下限を設定します。

◆ [Mute Enable] チェックボックス

オンにすると、レベルが [Lower Limit] で設定した値よりも下回った場合に Mute 状態 (-∞ dB) になります。

○ [Switch]

スイッチに関する設定を行ないます。

[Sensitivity] では DCP のスイッチの押下操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

● [FUNCTION] が [MTX Source Select] の場合 (DCP/Wireless DCP)

[Input Ch Send ON] を設定したスイッチで Matrix のセンドポイントを選択して、[Input Ch Send Level] を設定したスイッチ / ノブ / スライダーでセンドポイントのレベルを調整します。

### センドレベルの調節をノブ / スライダーで行なう場合 (DCP4S-EU/US 以外)

以下はスイッチでセンドのオン / オフを、ノブ / スライダーでセンドレベルの調節をする例です。

FUNCTION : MTX Source Select (1)

Settings (Switch1)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER2
MTX send Level Inc/Dec	Input Ch Send On	01 MTX5-D	Zone1
<b>MTX Source Select</b>	Input Ch Send Level		<input checked="" type="checkbox"/> CH 1 <input type="checkbox"/> CH 2 <input type="checkbox"/> CH 3
			<span style="color: green;">■</span> ON <span style="color: gray;">■</span> OFF <span style="color: black;">■</span> IGNORE

Settings (Switch2)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER2
MTX send Level Inc/Dec	Input Ch Send On	01 MTX5-D	Zone1
<b>MTX Source Select</b>	Input Ch Send Level		<input type="checkbox"/> CH 1 <input checked="" type="checkbox"/> CH 2 <input type="checkbox"/> CH 3
			<span style="color: green;">■</span> ON <span style="color: gray;">■</span> OFF <span style="color: black;">■</span> IGNORE

Settings (Knob1)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER2
MTX send Level Inc/Dec	Source Select	01 MTX5-D	Zone1
<b>MTX Source Select</b>	Input Ch Send Level		Zone2 Zone3

Diagram illustrating the connection between the software settings and the physical hardware controls:

- Software Settings (Left):** Shows the 'Matrix' tab of the software interface. The 'SENDS ON FADERS' section is set to 'ON'. The 'SEL' buttons for CH1, CH2, CH3, CH4, and CH5 are set to 'ON'. The 'Matrix' section shows a 2x8 grid of buttons labeled 'MATRIX1' through 'MATRIX8'. The 'Matrix' section is circled in red.
- Physical Control (Top Left):** A small image of a control panel with two knobs. Red arrows point from the 'Matrix' section in the software to the knobs on the physical panel. The text 'Click' is written next to the knobs.
- Software Settings (Middle):** Shows the 'Matrix' tab with the 'SEL' buttons for CH1, CH2, CH3, CH4, and CH5 set to 'OFF'. The 'Matrix' section is circled in red.
- Physical Control (Top Right):** A small image of a control panel with two knobs. Red arrows point from the 'Matrix' section in the software to the knobs on the physical panel. The text 'Click' is written next to the knobs.
- Software Settings (Bottom):** Shows the 'Matrix' tab with the 'SEL' buttons for CH1, CH2, CH3, CH4, and CH5 set to 'Not Changed'. The 'Matrix' section is circled in red.
- Physical Control (Bottom):** A small image of a control panel with two knobs. Red arrows point from the 'Matrix' section in the software to the knobs on the physical panel. The text 'Click' is written next to the knobs.

The diagram shows the relationship between the software configuration and the physical control knobs, indicating that clicking the knobs in the software interface changes the 'SEL' status of the channels in the matrix.

この例でのスイッチの設定とノブ / スライダーの設定について説明します。

## スイッチの設定

スイッチに以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send On

### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

### ○ [PARAMETER1]/[PARAMETER2]

[PARAMETER1] で対象となる ZONE を設定します。

[PARAMETER2] で左側の□をクリックすることで、チャンネルのオン / オフ / 無視 (IGNORE) を設定します。オンは 1 つのチャンネルにのみ設定できます。

## ノブ / スライダーの設定

### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

### ○ [PARAMETER1]

[PARAMETER1] で対象となる ZONE を設定します。

### ○ [Parameter Range]

レベルの変更可能範囲を [Upper Limit] および [Lower Limit] で設定します。

[Mute Enable] をオンにすると、レベルが [Lower Limit] で設定した値よりも下回った場合にミュート状態 (-∞ dB) になります。

- NOTE**
- ・下記の [Nominal Value] で設定するノミナル値が [Upper Limit] を上回ると、[Upper Limit] が [Nominal Value] と連動して上がります。一方、ノミナル値が [Lower Limit] を下回ると、[Lower Limit] が [Nominal Value] と連動して下がります。
  - ・[Parameter Range] を使うと、ユーザーが使う音量コントロールの可変範囲を制限できます。たとえば、BGM の最大音量を設定したり、可変範囲を -6dB ~ +6dB などの狭い範囲に設定して音量を微調整するコントローラーとして使用できます。

### ○ [Nominal] チェックボックス (DCP のみ)

ノミナル機能に関する設定を行ないます。

ノミナル値を設定することで、通常音量時の位置を特定の LED ポジションとして設定できます。たとえば、センターの LED を通常使用状態のボリューム位置として設定し、また最大値をシステムに許容される最大音量に設定しておくと、騒がしい場合などに BGM の音量を上げてシステムを壊してしまうことを防げます。

チェックボックスをオンにすると、ノミナル機能がオンになります。

[Nominal Value] ではノミナル値を設定します。

[Nominal LED Position] では、レベルがノミナル値に達したときに点灯する LED の位置を設定します。

チェックボックスがオフ (ノミナル機能がオフ) の場合は、両パラメーターともグレーアウト表示となり設定できません。

### ○ [Knob](DCP のみ)

DCP のノブに関する設定を行ないます。

[Sensitivity] では DCP のノブの回転操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

[Acceleration] をオンにすると、ノブを速く回したときにパラメーターの変化が加速します。[Sensitivity] で [Fast] を選択している場合は、[Acceleration] はグレーアウト表示となり設定できません。

### センドレベルの調節をスイッチで行なう場合

以下はスイッチでセンドのオン / オフとセンドレベルの調節をする例です。

FUNCTION : MTX Source Select (2)

Settings (Switch1)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER2
MTX send Level Inc/Dec	Input Ch Send On	01 MTX5-D Zone1	<input checked="" type="checkbox"/> CH 1
<b>MTX Source Select</b>	Input Ch Send Level	Zone2 Zone3	<input type="checkbox"/> CH 2 <input checked="" type="checkbox"/> CH 3
<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF <input type="checkbox"/> IGNORE			

Settings (Switch2)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER2
MTX send Level Inc/Dec	Input Ch Send On	01 MTX5-D Zone1	<input type="checkbox"/> CH 1
<b>MTX Source Select</b>	Input Ch Send Level	Zone2 Zone3	<input checked="" type="checkbox"/> CH 2 <input checked="" type="checkbox"/> CH 3
<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF <input type="checkbox"/> IGNORE			

Settings (Switch3)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER2
MTX send Level Inc/Dec	Source Select	01 MTX5-D Zone1	
<b>MTX Source Select</b>	Input Ch Send Level	Zone2 Zone3	
<input type="radio"/> Inc <input checked="" type="radio"/> Dec			

Settings (Switch4)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER2
MTX Source Select(w/sw)	Source Select	01 MTX5-D Zone1	
<b>MTX Xpoint</b>	Input Ch Send Level	Zone2 Zone3	
<input type="radio"/> Inc <input checked="" type="radio"/> Dec			

Diagram illustrating the connection between the software settings and the physical MTX Xpoint hardware. The software shows four stages of configuration:

- Initial State:** Shows the 'Inc' button selected in the software.
- Intermediate State:** Shows the 'Dec' button selected in the software. The hardware shows the 'SEL' buttons for CH1 and CH2 being pressed, indicated by red arrows and the text 'Click Click Click...'. The 'ON OFF' buttons for CH1 and CH2 are also highlighted in red.
- Transition:** The hardware shows the 'SEL' buttons for CH1 and CH2 being released, indicated by red arrows and the text 'ON OFF Not Changed'.
- Final State:** Shows the 'Dec' button selected in the software. The hardware shows the 'SEL' buttons for CH1 and CH2 being pressed again, indicated by red arrows and the text 'OFF ON Not Changed'.

この例でのスイッチの設定について説明します。

## スイッチの設定

スイッチに以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send On
- Input Ch Send Level

### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

### ○ [PARAMETER1]/[PARAMETER2]

[PARAMETER1] で対象となる ZONE を設定します。

Input Ch Send On の場合は [PARAMETER2] で左側の□をクリックすることで、チャンネルのオン / オフ / 無視 (IGNORE) を設定します。オンは 1 つのチャンネルにのみ設定できます。

Input Ch Send Level の場合、以下のパラメーターも設定します。

### ○ [Inc]

選択すると、スイッチを押すたびにレベルやセンドレベルが上がります。

#### ◆ [Upper Limit]

スイッチを押したときのレベルの上限を設定します。

#### ◆ [Minimum]

パラメーターの現在値が設定した値以下だった場合、スイッチを 1 回押したときに設定した値にします。

### ○ [Dec]

選択すると、スイッチを押すたびにレベルやセンドレベルが下がります。

#### ◆ [Lower Limit]

スイッチを押したときのレベルの下限を設定します。

#### ◆ [Mute Enable] チェックボックス

オンにすると、レベルが [Lower Limit] で設定した値よりも下回った場合に Mute 状態 (-∞ dB) になります。

### ○ [Switch]

スイッチに関する設定を行ないます。

[Sensitivity] ではスイッチの押下操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

### ● [FUNCTION] が [MTX Source Select] の場合 (MCP1)

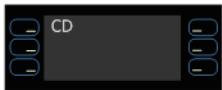
[Input Ch Send ON] を設定したスイッチで Matrix のセンドポイントを選択して、[Input Ch Send Level] を設定したスイッチ / ノブ / スライダーでセンドポイントのレベルを調整します。

FUNCTION : MTX Source Select

Settings (SwitchL1)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER 2
MTX send Level	Input Ch Send On	01 MTX5-D	Zone1
MTX Source Select	Input Ch Send Level		CH 1 CH 2 CH 3
			<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF <input type="checkbox"/> IGNORE

CD



Settings (SwitchR1)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER 2
MTX send Level	Input Ch Send On	01 MTX5-D	Zone1
MTX Source Select	Input Ch Send Level		CH 1 CH 2 CH 3
			<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF <input type="checkbox"/> IGNORE

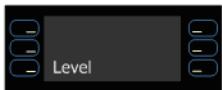
TV

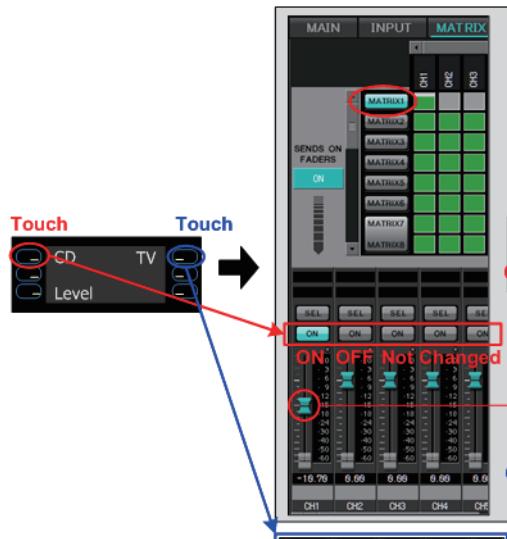


Settings (SwitchL3)

FUNCTION	DEVICE	PARAMETER 1	PARAMETER 2
MTX send Level	Input Ch Send On	01 MTX5-D	Zone1
MTX Source Select	Input Ch Send Level		Zone2 Zone3

Level











この例でのスイッチの設定について説明します。

247

MTX-MRX Editor ユーザーガイド

スイッチに以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send On
- Input Ch Send Level

○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER1]/[PARAMETER2]

[PARAMETER1] で対象となる ZONE を設定します。

Input Ch Send On の場合は [PARAMETER2] で左側の□をクリックすることで、チャンネルのオン / オフ / 無視 (IGNORE) を設定します。オンは 1 つのチャンネルにのみ設定できます。

Input Ch Send Level の場合、以下のパラメーターも設定します。

○ [Parameter Range]

◆ [Upper Limit]

スイッチを押したときのレベルの上限を設定します。

◆ [Lower Limit]

スイッチを押したときのレベルの下限を設定します。

◆ [Mute Enable] チェックボックス

チェックを入れると、レベルが [Lower Limit] で設定した値よりも下回った場合に Mute 状態 (-∞ dB) になります。

○ [Switch]

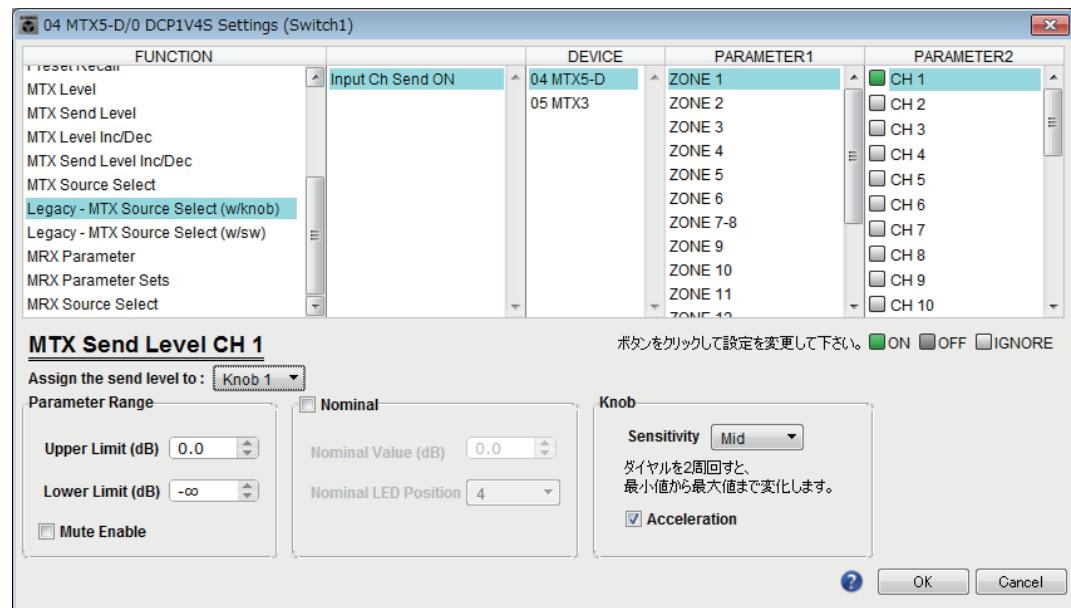
スイッチに関する設定を行ないます。

[Sensitivity] ではスイッチのタッチ操作に対してパラメーターが変化する感度を設定します。

● [FUNCTION] が [Legacy - MTX Source Select w/knob] の場合  
(ノブ付き DCP のスイッチのみ)

スイッチによる複数チャンネルのセンドのオン / オフのコントロールと、ノブによる任意チャンネルのセンドレベルのコントロールをします。

**NOTE** 同じソースを複数の DCP で設定した場合、操作した DCP の変更情報は他の DCP に反映されません。それぞれの DCP は最後に操作された状態 (LED の点灯とノブのアサイン) を保持します。



○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER1]/[PARAMETER2]

[PARAMETER1] で対象となる ZONE を設定します。

[PARAMETER2] で左側の□をクリックすることで、チャンネルのオン / オフ / 無視 (IGNORE) を設定します。オン / オフ / 無視は複数のチャンネルに設定できます。オンのチャンネルを選択すると、ダイアログの下半分にノブに関する設定項目が表示されます。

○ [Assign the send level to:] リストボックス

現在選択されているチャンネルのセンドレベルをコントロールするノブを選択します。1 つのノブに割り当てられるチャンネルは 1 つのみです。

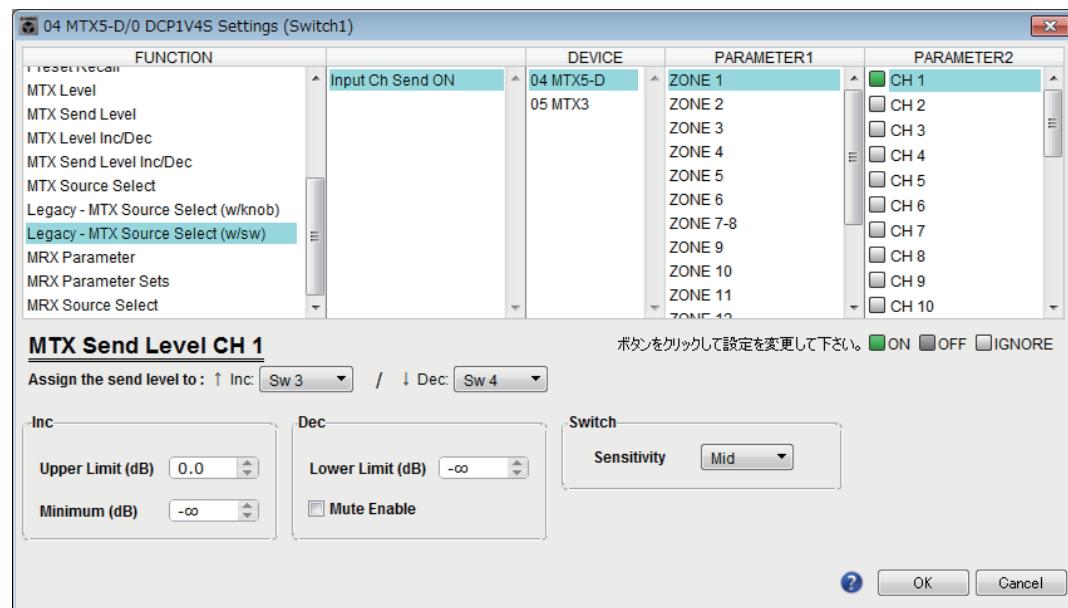
○ [Parameter Range]/[Nominal]/[Knob]

[Assign the send level to:] リストボックスで設定したノブに関する設定をします。各種設定については、ノブ / スライダーの [FUNCTION] が [MTX Level] の場合を参照してください。

● [FUNCTION] が [Legacy - MTX Source Select w/sw] の場合 (DCP のスイッチのみ)

スイッチによる複数チャンネルのセンドのオン / オフのコントロールと、スイッチによる任意チャンネルのセンドレベルのコントロールをします。

**NOTE** 同じソースを複数の DCP で設定した場合、操作した DCP の変更情報は他の DCP に反映されません。それぞれの DCP は最後に操作された状態 (LED の点灯とノブのアサイン) を保持します。



○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER1]/[PARAMETER2]

[PARAMETER1] で対象となる ZONE を設定します。

[PARAMETER2] で左側の□をクリックすることで、チャンネルのオン / オフ / 無視 (IGNORE) を設定します。オン / オフ / 無視は複数のチャンネルに設定できます。オンのチャンネルを選択すると、ダイアログの下半分にスイッチに関する設定項目が表示されます。

○ [Assign the send level to] リストボックス

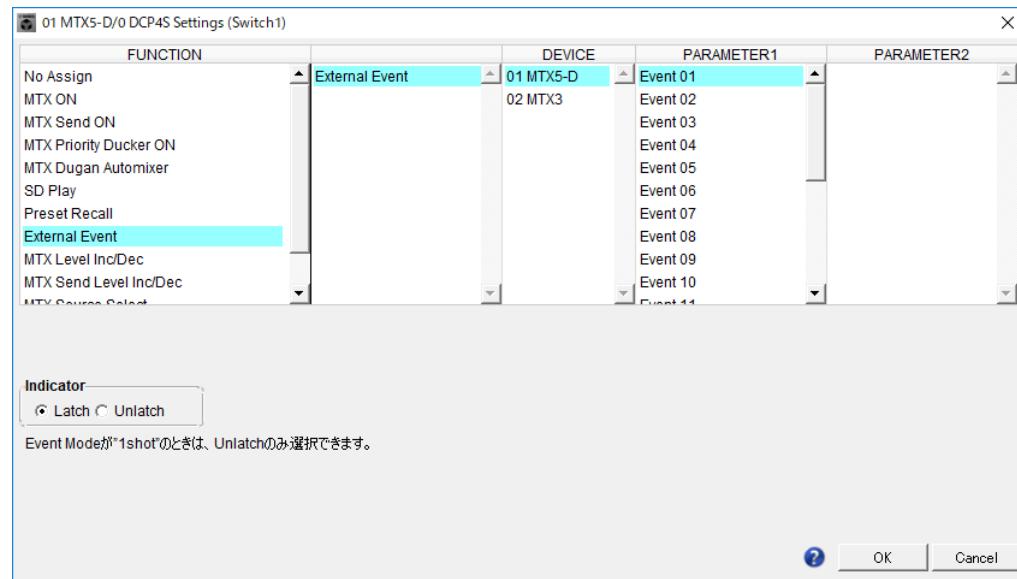
他のスイッチに選択しているチャンネルのセンドレベルを上げたり下げたりする機能を割り当てます。

○ [Inc]/[Dec]/[Switch]

[Assign the send level to:] リストボックスで設定したスイッチに関する設定をします。各種設定については、スイッチの [FUNCTION] が [MTX Send Level Inc/Dec] の場合を参照してください。

● [FUNCTION] が [External Event] の場合 (スイッチのみ)

スイッチで、「Event」ダイアログで設定したコマンドを出力します。



○ [DEVICE]

コマンドを出力する機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ [PARAMETER1]

実行するイベントを選択します。

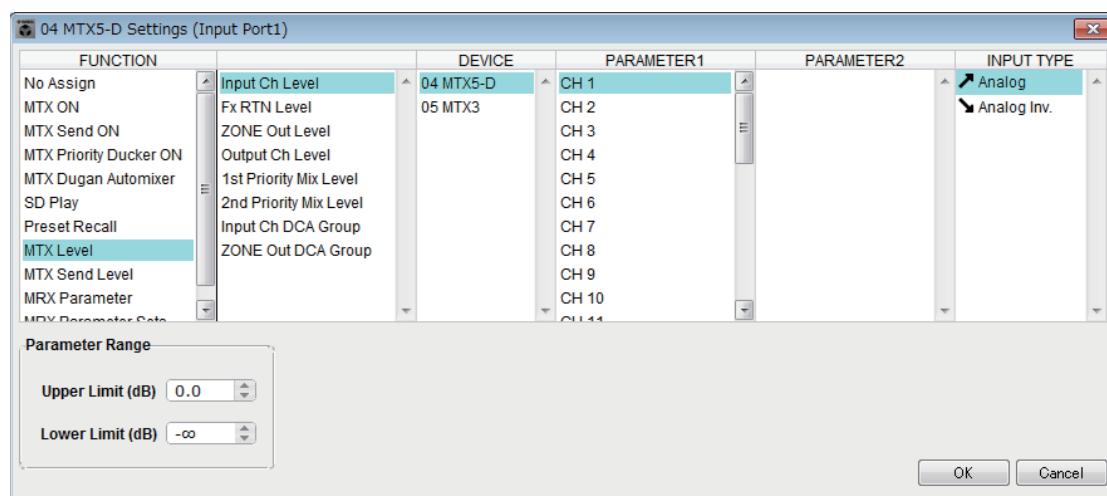
○ [Indicator]

スイッチのインジケーターでオン / オフ状態を表示するか (Latch)、スイッチを押したときだけ点灯するか (Unlatch) を選択します。

[\[External Events\] ダイアログ](#)で [Event Mode] を [1 shot] にしたイベントを選択している場合、[Unlatch] のみ選択できます。

## ■ GPI Input

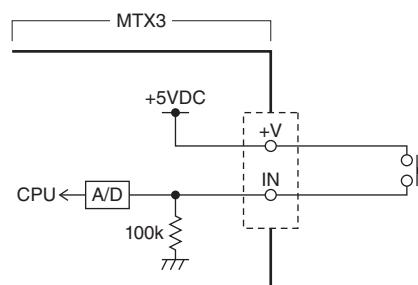
機器本体の [GPI IN] 端子の設定について説明します。



### [GPI IN] 端子を使った接続例

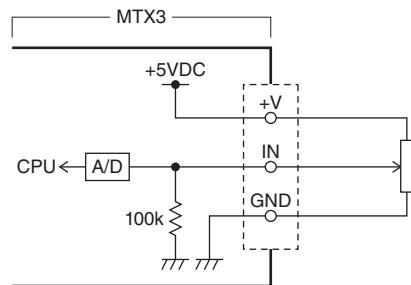
#### 接続例 1:

MTX/MRX をスイッチでコントロールする場合



#### 接続例 2:

MTX/MRX を 10kΩ B カーブ可変抵抗器でコントロールする場合



### [INPUT TYPE] について

[INPUT TYPE] では以下の設定ができます。

- Analog
- Analog Inv.
- High Active
- Low Active
- Rising Edge
- Falling Edge

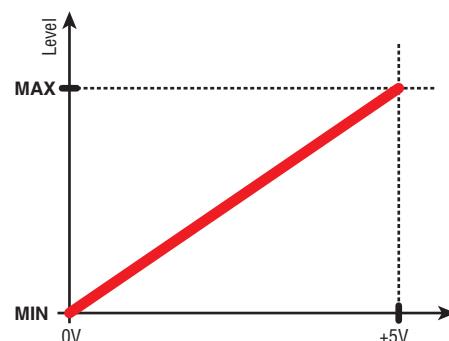
**NOTE**

- ・オン / オフが切り替わるスレッショルド値は、入力電圧の最大値と最小値の中央値（最大値と最小値を足して 2 で割った値）になります。誤動作防止のため、検出範囲を十分にとつて設定してください（「GPI Calibration」ダイアログ参照）。
- ・ケーブルの長さやノイズの影響により電圧が下がる場合は、「GPI Calibration」ダイアログで入力電圧の最大値および最小値を調整してください。また、電圧が不安定になることがあるので、最大値および最小値の間が十分に離れるように外部回路を構成 / 設定してください。
- ・GPI Output のいずれかのポートに ON を割り当てると、オン / オフの状態を表示できます。

## ○ ↗ Analog

[FUNCTION] で [Level] や [Send Level] を選択したときに使います。

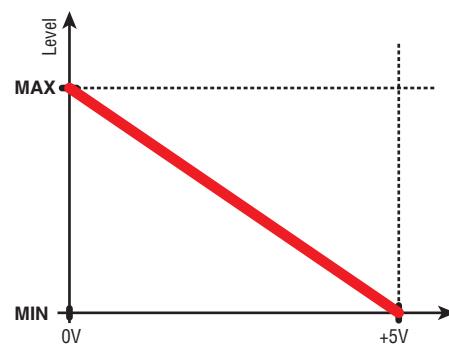
GPI IN への入力電圧が最大 (5V) のときにレベルが最大値となり、最小 (0V) のときにレベルが最小値となります。



## ○ ↘ Analog Inv.

[FUNCTION] で [Level] や [Send Level] を選択したときに使います。

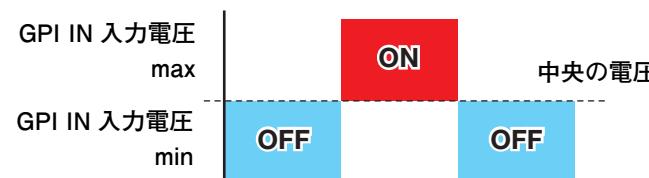
GPI IN への入力電圧が最大 (5V) のときにレベルが最小値となり、最小 (0V) のときにレベルが最大値となります。



## ○ ↗ High Active

[FUNCTION] で [ON] や [Send ON] を選択したときに使います。

GPI IN への入力電圧が中央の電圧を上回ると機能をオンにし、下回ると機能をオフにします。

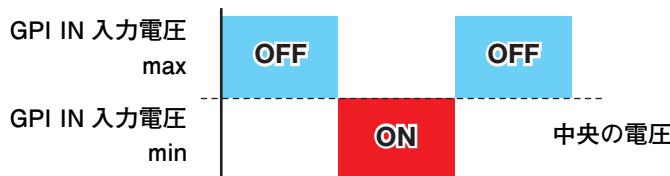
**NOTE**

パラメータータイプで [Input Ch Mute Group] または [Zone Out Mute Group] を選択したときは、ミュートのオン / オフを切り替えます。

### ○ ↗ Low Active

[FUNCTION] で [ON] や [Send ON] を選択したときに使います。

GPI IN への入力電圧が中央の電圧を上回ると機能をオフにし、下回ると機能をオンにします。



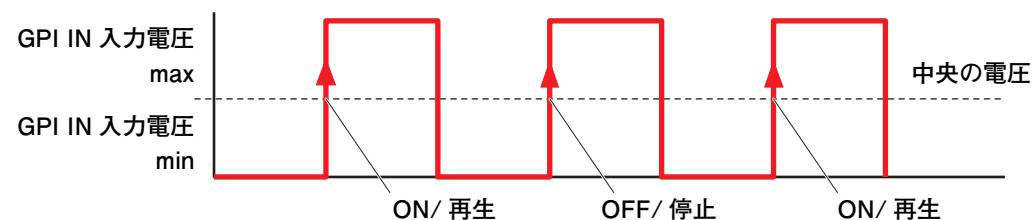
**NOTE** パラメータータイプで [Input Ch Mute Group] または [Zone Out Mute Group] を選択したときは、ミュートのオン / オフを切り替えます。

### ○ ↗ Rising Edge

[FUNCTION] で [ON]/[Send ON]/[SD Play]/[Preset Recall] を選択したときに使います。

[GPI IN] 端子への入力電圧が中央の電圧よりも下から上に変化するときに、パラメーターのオン / オフや再生 / 停止などを交互に切り替えます。

[Preset Recall] は入力電圧が中央の電圧よりも下から上に変化したときに、設定したプリセットをリコールします。

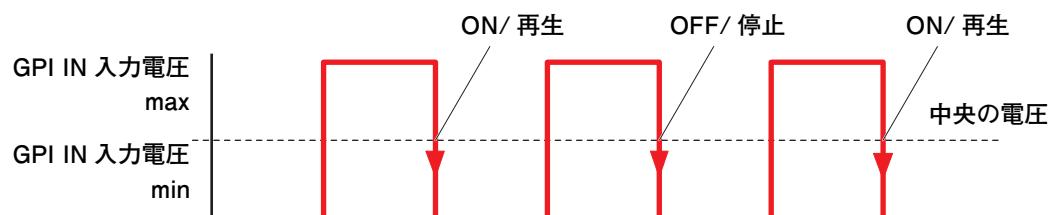


### ○ ↘ Falling Edge

[FUNCTION] で [ON]/[Send ON]/[SD Play]/[Preset Recall] を選択したときに使います。

GPI IN への入力電圧が中央の電圧よりも上から下に変化するときに、パラメーターのオフ / オンや再生 / 停止などを交互に切り替えます。

**NOTE** [Preset Recall] は入力電圧が中央の電圧よりも下から上に変化したときに、設定したプリセットをリコールします。



### ● [FUNCTION] が [No Assign] の場合

[GPI IN] 端子からの入力信号によってどの機能も操作しない設定です。[DEVICE]、[PARAMETER 1/2]、[INPUT TYPE] は無効です。

### ● [FUNCTION] が [MTX Dugan Automixer] の場合

[GPI IN] 端子への入力電圧でパラメーターのオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Override(master)
- Mute(master)
- override(Ch)

#### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

#### ○ [PARAMETER 1]

Override(master) と Mute(master) ではオン / オフをコントロールするグループを、override(Ch) ではオン / オフをコントロールするチャンネルを選択します。

#### ○ [INPUT TYPE]

GPI IN への入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。

[High Active][Low Active][Rising Edge][Falling Edge] が選択できます。

### ● [FUNCTION] が [MTX Level] の場合 (PORT8 の場合は設定できません)

[GPI IN] 端子への入力電圧で各チャンネルのレベルをコントロールします。

ケーブルの長さの影響でレベルが最大にならない場合は、「[GPI Calibration](#)」ダイアログで入力電圧の最大値および最小値を調整してください。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Level
- Fx RTN Level
- Matrix Out Level
- ZONE Out Level
- Output Ch Level
- 1st Priority Mix Level
- 2nd Priority Mix Level
- Input Ch DCA Group
- ZONE Out DCA Group

#### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。

#### ○ [PARAMETER1]

レベルをコントロールしたいチャンネルを設定します。

#### ○ [INPUT TYPE]

GPI IN へのレベルをどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。

[Analog] と [Analog Inv.] が選択できます。

#### ○ [Parameter Range]

レベルの変更可能範囲を [Upper Limit] および [Lower Limit] で設定します。

**NOTE** [Parameter Range] を使うと、ユーザーが使う音量コントロールの可変範囲を制限できます。たとえば、BGM の最大音量を設定したり、可変範囲を -6dB ~ +6dB などの狭い範囲に設定して音量を微調整するコントローラーとして使用できます。

### ● [FUNCTION] が [MTX ON] の場合

パラメーターのオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch ON
- Fx RTN ON
- ZONE Out ON
- Output Ch ON
- Input Ch Mute Group
- ZONE Out Mute Group

#### ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。

#### ○ [PARAMETER1]

パラメーターのオン / オフをコントロールするチャンネルを設定します。

#### ○ [INPUT TYPE]

GPI IN への入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。

[High Active][Low Active][Rising Edge][Falling Edge] が選択できます。

### ● [FUNCTION] が [MTX Send Level] の場合 (PORT8 では設定できません)

[GPI IN] 端子への入力電圧で各チャンネルのセンドレベルをコントロールします。

ケーブルの長さの影響でレベルが最大にならない場合は、「[GPI Calibration](#)」ダイアログで入力電圧の最大値および最小値を調整してください。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send Level
- Fx RTN Send Level

各種設定については [\[FUNCTION\] が \[MTX Level\] の場合](#) を参照してください。

### ● [FUNCTION] が [MTX Send ON] の場合

[GPI IN] 端子への入力電圧で各チャンネルのセンドのオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send ON
- Fx RTN Send ON

各種設定については [\[FUNCTION\] が \[MTX ON\] の場合](#) を参照してください。

### ● [FUNCTION] が [MTX Priority Ducker ON] の場合

[GPI IN] 端子への入力電圧で ZONE の Ducker のオン / オフをコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- 1st Priority
- 2nd Priority

各種設定については [\[FUNCTION\] が \[MTX Priority Ducker ON\] の場合 \(スイッチのみ\)](#) を参照してください。

### ● [FUNCTION] が [SD Play] の場合

[GPI IN] 端子への入力電圧で、指定したオーディオファイルを再生します。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- SD Song Select & Play
- SD Song Pause

[INPUT TYPE] 以外の設定についてはスイッチの [FUNCTION] が [SD Play] の場合 (スイッチのみ) を参照してください。

#### ○ [INPUT TYPE]

GPI IN への入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。

[Rising Edge] と [Falling Edge] が選択できます。

### ● [FUNCTION] が [Preset Recall] の場合

[GPI IN] 端子への入力電圧で、指定のプリセットをリコールします。

#### ○ [PARAMETER1]

リコールしたいプリセット番号を選択します。

#### ○ [INPUT TYPE]

GPI IN からの入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。

[Rising Edge] と [Falling Edge] が選択できます。

### ● [FUNCTION] が [External Event] の場合

[GPI IN] 端子への入力電圧で、「External Events」ダイアログで設定したコマンドを出力します。

#### ○ [DEVICE]

コマンドを出力する機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

#### ○ [PARAMETER1]

実行するイベントの名称を選択します。

#### ○ [INPUT TYPE]

GPI IN への入力電圧をどのようにパラメーターに反映させるかを設定します。

[High Active][Low Active][Rising Edge][Falling Edge] が選択できます。

[Command Type] で [On/Off] を選択した場合、以下のような動作になります。

**[High Active]** : High になったとき [Command - On] のコマンドを送信、Low になったとき [Command - Off] のコマンドを送信。

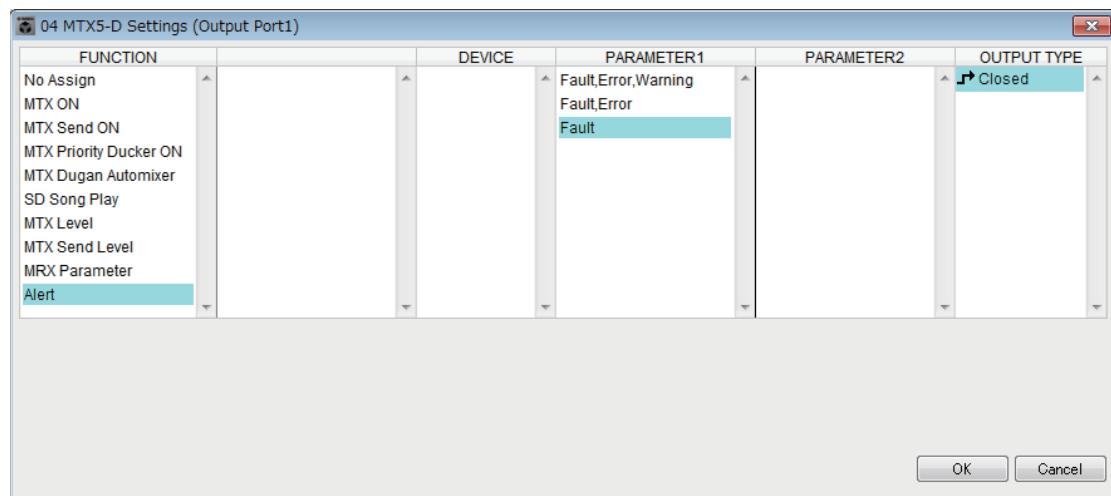
**[Low Active]** : Low になったとき [Command - On] のコマンドを送信、High になったとき [Command - Off] のコマンドを送信。

**[Rising Edge]** : High に変化するたびに [Command - On] のコマンドと [Command - Off] のコマンドを交互に送信。

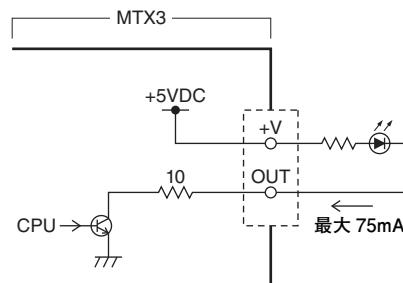
**[Falling Edge]** : Low に変化するたびに [Command - On] のコマンドと [Command - Off] のコマンドを交互に送信。

## ■ GPI Output

機器本体の [GPI OUT] 端子の設定について説明します。プリセットのリコールによる [GPI OUTPUT] 端子の設定については「Preset」ダイアログから行なってください。



### [GPI OUT] 端子を使った接続例



### [OUTPUT TYPE] について

[OUTPUT TYPE] では以下の設定ができます。

- Closed
- Open
- Pulse
- Pulse Inv.

#### ○ Closed

選択した [FUNCTION] の状態になると、クローズドになります。

[Threshold] を設定するパラメーターの場合は、しきい値を超えたときにクローズドになります。

#### ○ Open

選択した [FUNCTION] の状態になると、オープンになります。

[Threshold] を設定するパラメーターの場合は、しきい値を超えたときにオープンになります。

**NOTE** [FUNCTION] が [Alert] の場合、選択できません。

#### ○ Pulse

[Direction] が [Upward] の場合、選択した [FUNCTION] の状態になると、約 250ms の間オープンからクローズドになります。[Threshold] を設定するパラメーターの場合は、しきい値を超えたときに約 250ms の間オープンからクローズドになります。

[Direction] が [Downward] の場合、選択した [FUNCTION] の状態が解除されると、約 250ms の間オープンからクローズドになります。[Threshold] を設定するパラメーターの場合は、しきい値を下回ったときに約 250ms の間オープンからクローズドになります。

**NOTE** [FUNCTION] が [SD Song Play] と [Alert] の場合、選択できません。

○  **Pulse Inv.**

[Direction] が [Upward] の場合、選択した [FUNCTION] の状態になると、約 250ms の間クローズドからオープンになります。[Threshold] を設定するパラメーターの場合は、しきい値を超えたときに約 250ms の間クローズドからオープンになります。

[Direction] が [Downward] の場合、選択した [FUNCTION] の状態が解除されると、約 250ms の間クローズドからオープンになります。[Threshold] を設定するパラメーターの場合は、しきい値を下回ったときに約 250ms の間クローズドからオープンになります。

**NOTE** [FUNCTION] が [SD Song Play] と [Alert] の場合、選択できません。

● **[FUNCTION] が [No Assign] の場合**

[OUTPUT TYPE] でアラート発生時の出力信号の極性を設定します。それ以外はどの機能も設定せず、デフォルト（初期値）となります。

○ **[OUTPUT TYPE]**

プリセットのリコールや Scheduler のイベント実行時に GPI OUT をコントロールします。

● **[FUNCTION] が [MTX Dugan Automixer] の場合**

パラメーターのオン / オフによって GPI Output をコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Override(master)
- Mute(master)
- override(Ch)

○ **[DEVICE]**

変更する対象の機器を選択します。UNIT ID、機器名の順に表示されます。

○ **[PARAMETER 1]**

Override(master) と Mute(master) ではオン / オフをコントロールするグループを、override(Ch) ではオン / オフをコントロールするチャンネルを選択します。

○ **[OUTPUT TYPE]**

[GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。

● **[FUNCTION] が [MTX Level] の場合**

各チャンネルのレベル（音量の大小）によって GPI Output をコントロールします。CD プレーヤーをフェーダースタートさせたり、大音量の際にインジケーターを点灯させたりして使用します。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Level
- Fx RTN Level
- Matrix Out Level
- ZONE Out Level
- Output Ch Level
- 1st Priority Mix Level
- 2nd Priority Mix Level
- Input Ch DCA Group
- ZONE Out DCA Group

## ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。

## ○ [PARAMETER1]

[GPI OUT] 端子のコントロールに使用するチャンネルを設定します。

## ○ [OUTPUT TYPE]

[GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。

## ○ [Threshold]

パラメーターのしきい値を設定します。設定できる値はパラメーターの種類によって異なります。

## ○ [Direction]

[GPI OUT] 端子をコントロールするきっかけとなるパラメーターの変化方向を設定します。

## ● [FUNCTION] が [MTX ON] の場合

指定した機器のパラメーターのオン / オフによって GPI Output をコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch ON
- Fx RTN ON
- ZONE Out ON
- Output Ch ON
- Input Ch Mute Group
- ZONE Out Mute Group

## ○ [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。

## ○ [PARAMETER1]

オン / オフすることにより [GPI OUT] 端子をコントロールするチャンネルを設定します。

## ○ [OUTPUT TYPE]

[GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。

## ○ [Threshold]

パラメーターのしきい値を表示します。0.5 に固定されています。

## ○ [Direction]

[GPI OUT] 端子をコントロールするきっかけとなるパラメーターの変化方向を設定します。[OUTPUT TYPE] で [Pulse] か [Pulse Inv.] を選択したときに表示されます。

## ● [FUNCTION] が [MTX Send Level] の場合

各チャンネルのセンドレベル（音量の大小）によって GPI Output をコントロールします。CD プレーヤーをフェーダースタートさせたり、大音量の際にインジケーターを点灯させたりして使用します。以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send Level
- Fx RTN Send Level

各種設定については [\[FUNCTION\] が \[MTX Level\] の場合](#) を参照してください。

### ● [FUNCTION] が [MTX Send ON] の場合

センドのオン / オフによって GPI Output をコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- Input Ch Send ON
- Fx RTN Send ON

各種設定については [\[FUNCTION\] が \[MTX ON\] の場合](#) を参照してください。

### ● [FUNCTION] が [MTX Priority Ducker ON] の場合

ZONE の Ducker のオン / オフによって GPI Output をコントロールします。

以下の操作対象のパラメータータイプを選択してから各種設定を行ないます。

- 1st Priority
- 2nd Priority

各種設定については [\[FUNCTION\] が \[MTX Priority Ducker ON\] の場合 \(スイッチのみ\)](#) を参照してください。

### ● [FUNCTION] が [SD Song Play] の場合

オーディオファイル再生の状態を [GPI OUT] 端子に出力します。

#### [DEVICE]

変更する対象の機器を選択します。

#### [OUTPUT TYPE]

[GPI OUT] 端子からどのように出力するかを設定します。

### ● [FUNCTION] が [Alert] の場合

アラートが発生した場合に [GPI OUT] 端子に出力します。

#### [DEVICE]

アラートを出力する [GPI OUT] 端子を持つ機器を選択します。

#### [PARAMETER1]

アラートの種類を以下から選択します。

- Fault, Error, Warning
- Fault, Error
- Fault

出力されるアラートの種類については、「[アラート一覧](#)」を参照してください。

#### [OUTPUT TYPE]

Closed のみ選択できます。アラートが発生しているとき、[GPI OUT] 端子がクローズドになります。発生しているアラートが解決するまでクローズドの状態が継続します。

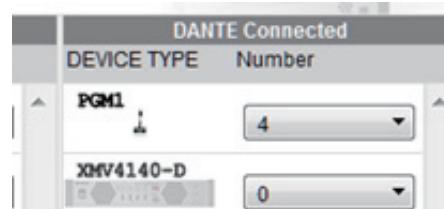
# PAGING の設定の流れ

PAGING の設定は以下のようにします。具体的な設定は「MTX セットアップマニュアル」を参照してください。

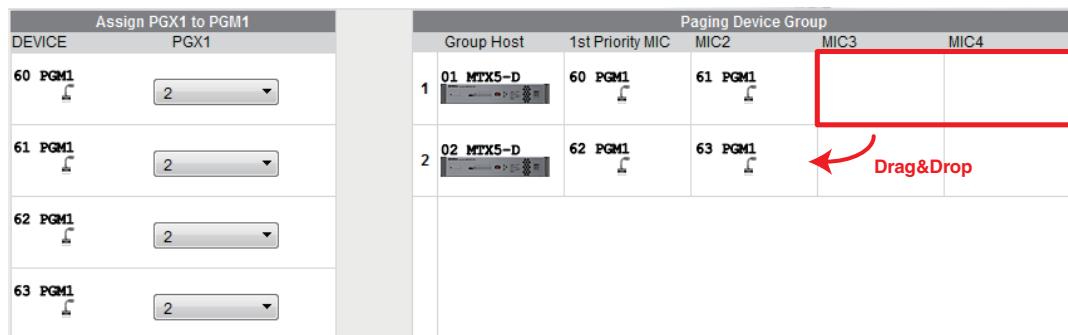
## 注記

PGM1 からの音声信号がアサインされた入力チャンネルは「MATRIX」画面でミックスしないでください。  
ミックスしてしまうと PTT がオフでも PGM1 からの入力がゾーンに出力されてしまいます。

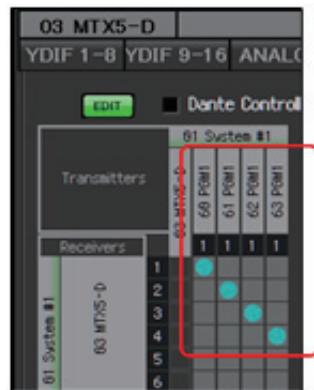
1. 「Device Config Wizard」ダイアログで PGM1 を配置する。



2. 「Device Config Wizard」ダイアログでどのPGM1を1st Priority Micにするかを決め、必要に応じて PGX1 を拡張する。



3. 「EXT. I/O」画面の[DANTE]画面で PGM1 の出力を MTX5-D に入力するようにパッチングする。



4. 「MAIN」画面の入力チャンネルのポート選択画面で、入力チャンネルに PGM1 からの入力を設定する。



## 注記

PGM1 からの音声信号がアサインされた入力チャンネルは「MATRIX」画面でミックスしないでください。ミックスしてしまうと PTT がオフでも PGM1 からの入力がゾーンに出力されてしまいます。

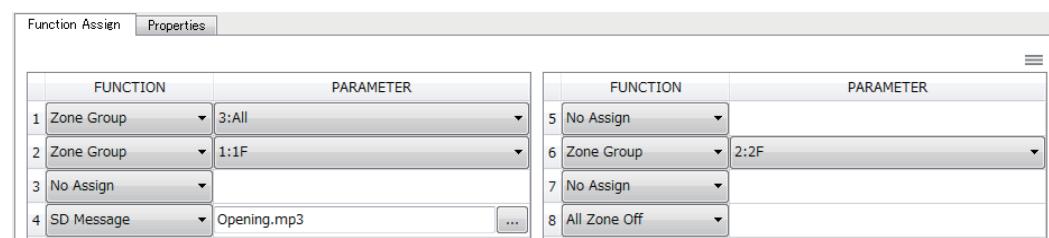
5. 「ZONE」画面の「PAGING」画面で、手順2で設定した1st Priority Micからの入力を1st MICに設定する。  
この例では1st MicでCH1を選択、Mic2:CH2、Mic3:CH3、Mic4:CH4、SD:STIN3Lに設定しています。



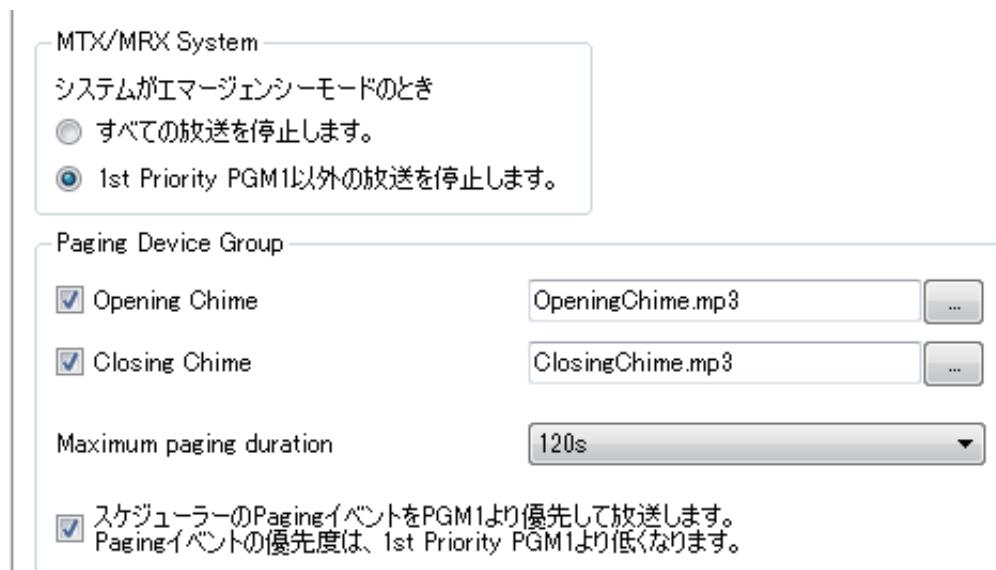
6. 必要に応じて「ZONE」画面の「PAGING」画面の右側でゾーングループ(ゾーンの集合体)を設定する。  
PGM1のひとつのゾーン / メッセージ選択ボタンにZone Groupを割り当てることで複数のZoneで一斉にProgramの音量を下げ、PGM1で放送することができます。



7. 「ZONE」画面の「PAGING」画面の[Settings]ボタンをクリックして、[Function Assign]タブでPGM1/PGX1のゾーン / メッセージ選択ボタンに機能を割り振る。



8. [Properties] タブでオープニングチャイムなどを設定する。



## サブネット越しに機器をコントロールするための設定

MTX-MRX Editor と異なるサブネットの機器をコントロールする場合、IP アドレスを使ってすべての機器を識別します。

そのため、MTX-MRX Editor で配置した機器（これを仮想デバイスと呼びます）とネットワーク上の機器（これを実デバイスと呼びます）の IP 設定が一致するように設定する必要があります。

仮想デバイスの IP 設定を「Match Device by IP Address」ダイアログで、実デバイスの IP 設定を「IP Address」ダイアログで行ないます。

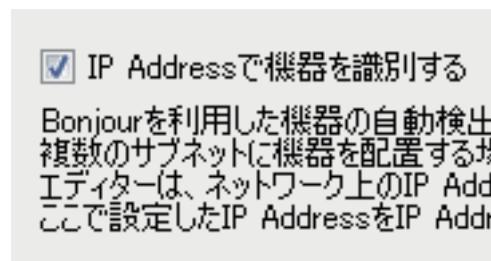
異なるサブネットに配置されている実デバイス間では、以下のことができません。

- Preset Link
- Dante の音声通信

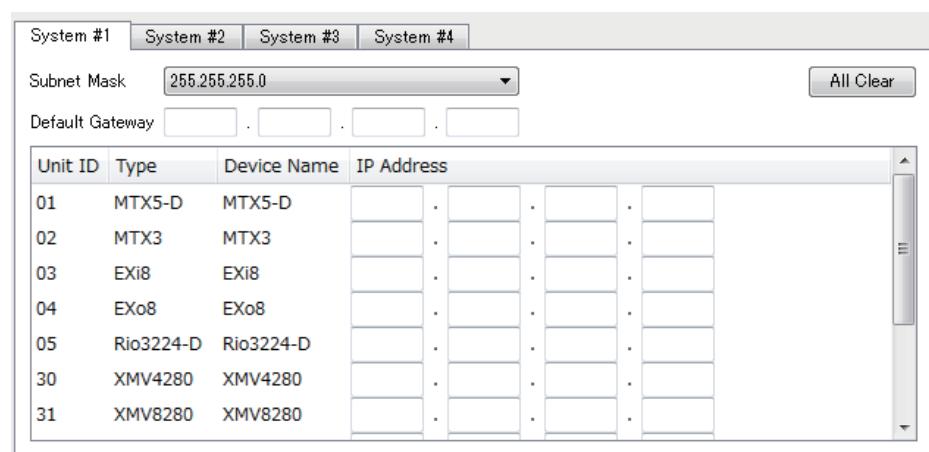
IP アドレスは通信経路全体で唯一なものになるようにしてください。通信経路上に同じ IP アドレスの機器があると、識別できないことがあります。

まず、「Match Device by IP Address」ダイアログで仮想デバイスに IP アドレスを設定します。

1. MTX-MRX Editor の [System] メニューの [Match Device by IP Address] をクリックする。  
「Match Device by IP Address」ダイアログが開きます。
2. [IP Address で機器を識別する] チェックボックスにチェックを入れる。

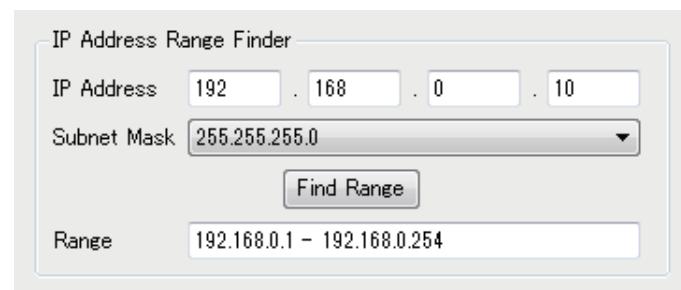


3. IP アドレスを設定するシステムのタブをクリックする。



4. システムのサブネットマスクとデフォルトゲートウェイ、機器の IP アドレスを設定する。  
IP アドレスが連番で良い場合は以下の作業をしてください。
- 4-1. 「IP Address Range Finder」エリアの IP Address に使用する IP アドレスを入力する。
- 4-2. [Subnet Mask] リストボックスでサブネットマスクを選択する。
- 4-3. [Find Range] ボタンをクリックする。

「Range」に IP アドレスの設定範囲が表示されます。



4. [Apply IP Address] ボタンをクリックする。

自動的にシステム内の仮想デバイスに IP アドレスが設定されます。

5. [Apply] ボタンをクリックする。

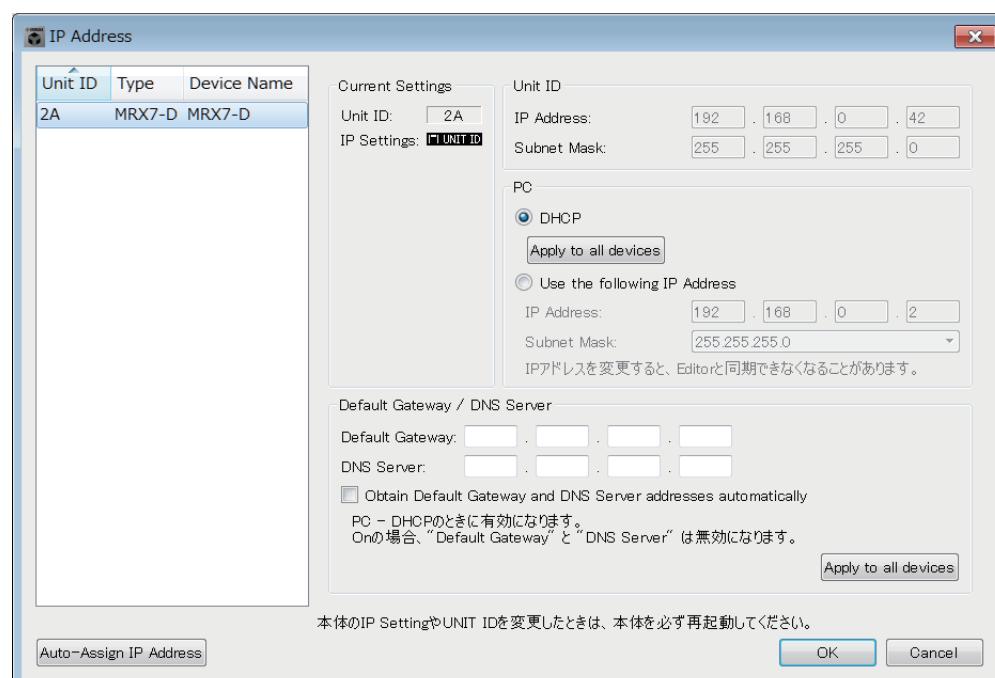
6. 手順 3 から 5 を繰り返して、すべての仮想デバイスに IP アドレスを設定する。

7. 設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックする。

次に「IP Address」ダイアログで実デバイスに IP アドレスを設定します。

このとき、「Match Device by IP Address」ダイアログで設定した仮想デバイスの IP アドレスと一致するように設定します。

1. コンピューターの IP アドレスを「192.168.0.253」、サブネットマスクを「255.255.255.0」に設定します。
2. 機器本体の設定で IP SETTINGS を [UNIT ID] または IP SELECT MODE / IP Address Mode を [STATIC IP(AUTO)] にして、全機器の UNIT ID を FD 以外で、全機器が重複しないように設定してから、機器の電源をオンにする。
3. オフラインのまま、MTX-MRX Editor の [System] メニューの [Device Information] をクリックする。  
「Device Information」ダイアログが開きます。
4. 全機器が「Device Information」ダイアログに表示されたら、[IP Address] ボタンをクリックする。  
「IP Address」ダイアログが開きます。



5. 「Match Device by IP Address」ダイアログで設定した仮想デバイスの IP 設定を「IP Address」ダイアログに反映させるために、[Auto-Assign IP Addresses] ボタンをクリックする。  
 「Auto-Assign IP Addresses」ダイアログが開きます。  
 仮想デバイスの IP 設定が表示されます。



6. DNS サーバーに接続する必要がある場合は、[DNS Server] の設定をする。
7. 全機器の IP 設定に問題が無ければ、[Assign IP Addresses] ボタンをクリックする。  
 「IP Address」ダイアログに設定が反映されます。  
 問題があった場合や設定を変更したい場合は、[Match Device by IP Address] ボタンをクリックして、「Match Device by IP Address」ダイアログで設定したのち、再度、[Assign IP Addresses] ボタンをクリックしてください。  
 仮想デバイスの IP 設定を参照しながら手動で実デバイスの IP 設定を行なうこともできます。その場合、「IP Address」ダイアログで [Use the following IP Address] ラジオボタンを選択して、[IP Address] と [Subnet Mask] を入力してください。
8. 「IP Address」ダイアログで機器を選択して [OK] ボタンをクリックする。  
 実デバイスに設定が反映されます。
9. 機器の設定で IP SETTINGS を [PC] または IP SELECT MODE / IP Address Mode を [STATIC IP(MANUAL)] にして、再起動する。

これで設定は終わりです。

**NOTE** 「Match Device by IP Address」ダイアログの[IP Address で機器を識別する]チェックボックスにチェックが入っている場合、仮想デバイスと実デバイスの紐付けを IP アドレスで行ないます。仮想デバイスと実デバイスの IP アドレスが異なる場合、たとえ UNIT ID が同じでも Project 画面のネットワーク機器のエリアと MTX/MRX システムのエリアの両方にデバイスが表示されます。

## アラート一覧

MTX/MRX および XMV で発生するアラート、およびその内容 / 対策は以下の通りです。

番号は MTX/MRX 本体では 2 衔、XMV 本体では 3 衔で表示されます。

単発は事象が発生したときに表示されます。継続は事象が発生したときと事象が終了したときに表示されます。

一部のアラートと情報は MTX-MRX Editor では表示されますが、本体では表示されません。

問題が解決しない場合は、機器本体の取扱説明書の巻末に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

番号	内容	対策	タイプ	単発 / 継続
<b>機器の不具合</b>				
1 ~ 9	機器が正常に起動していません。	電源をいったんオフにして、6 秒以上間隔を空けてから電源をオンにしてください。問題が解決しない場合は、メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Fault	継続
10	内蔵バックアップバッテリーが完全に消耗しているか、装着されていません。	電源をオフにすると現在の設定が失われ、初期値に戻ります。ただちに使用を中止して、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Fault	継続
11	内蔵バックアップバッテリーが極端に消耗しており、メモリーが消滅している可能性があります。	電源をオフにすると現在の設定が失われ、初期値に戻ります。ただちに使用を中止して、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Error	継続
12	内蔵バックアップバッテリーの残量が少なくなっています。	使用に支障はありませんが、継続して使用すると設定が失われ、初期設定に戻る可能性があります。お早めにヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Warning	単発
13	内蔵時計に異常が発生したので、初期値(2000 年 1 月 1 日 0 時 0 分)にしました。	電源をオンにするたびに発生する場合は内蔵バックアップバッテリーが消耗しているか、機器が故障している可能性があります。ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。一度だけの場合は時計の設定値の異常を検出して初期化しましたので、MTX-MRX Editor を使って時刻を設定してください。	Fault	継続
14	内蔵メモリーに保存されるカレントのプリセットが失われています。	プリセットをリコールしてください。問題が解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Fault	継続
15	内蔵メモリーに保存される設定が失われています。	内蔵バックアップバッテリーが消耗しているか、機器が故障している可能性があります。ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Fault	継続
16	機器の内蔵メモリーが故障している可能性があります。	ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Fault	継続
19	機器が正常に起動していません。	ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Fault	継続
20	スロットにサポート対象外の Mini-YGDAI カードを挿入しているか、挿入された Mini-YGDAI カードが故障している可能性があります。	サポート対象の Mini-YGDAI カードに取り替えてください。	Fault	継続

番号	内容	対策	タイプ	単発 / 繙続
21	ワードクロックマスターに選択されたデジタル信号がアンロックになりました。	ワードクロック信号が正常に入力されているか確認してください。	Error	継続
22	[YDIF IN] 端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して同期していません。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。	Error	単発
23	[YDIF IN] 端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して継続的に同期していません。	指定された仕様のケーブルを使ってください。	Error	継続
24	スロットに入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して同期していません。	内部クロックに同期している信号を入力するか、ワードクロックマスターをスロットに設定してください。	Warning	単発
25	スロットに入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して継続的に同期していません。	内部クロックに同期している信号を入力するか、ワードクロックマスターをスロットに設定してください。	Warning	継続
26	Dante 端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して同期していません。	内部クロックに同期している信号を入力するか、ワードクロックマスターを Dante に設定してください。	Warning	単発
27	Dante 端子に入力されたデジタル信号が、この機器のワードクロックに対して継続的に同期していません。	内部クロックに同期している信号を入力するか、ワードクロックマスターを Dante に設定してください。	Warning	継続
30	[YDIF IN] 端子の接続に異常があります。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 指定された仕様のケーブルを使ってください。	Error	継続
40	IP アドレスが重複しています。	IP アドレスが重複しないように設定してください。	Error	継続
41	起動してから 60 秒以内に IP アドレスが確定しませんでした。	機器設定ディップスイッチのスイッチ 6(IP SETTING) が「PC」に設定されている場合は、MTX-MRX Editor や DHCP サーバーで IP アドレスを設定してください。	Warning	継続
42	MTX/MRX システムを構成する機器が、ネットワーク上に見つかりませんでした。	システムを構成するすべての機器の電源をオンにし、ネットワークに正しく接続されているか確認してください。	Error	継続
43	ネットワークに接続している機器が多すぎます。	ネットワークに接続している機器の数を減らしてください。	Error	単発
44	時刻サーバーからの応答がタイムアウトしたか、サーバーの時刻が不正値となっています。	時刻サーバーの状態を確認するか、別のサーバーを指定してください。	Error	単発
45	時刻サーバーとして指定したホスト名のアドレス解決に失敗しました。	指定したホスト名と DNS サーバーの情報、および DNS サーバーの状態を確認してください。	Error	単発
46	Dante の送信フロー数が制限を超えるました。	Dante Controller で送信フローの一部をマルチキャストに変更するなど、フロー数を減らしてください。	Error	単発

番号	内容	対策	タイプ	単発 / 繙続
47	イベント[**]を送信できませんでした。	ネットワークに接続している機器を確認してください。	Error	単発
50	UNIT ID に「00」が設定されています。	UNIT ID を「00」以外に設定してください。	Error	継続
51	同一ネットワークに接続された機器に、同一の UNIT ID を持つ機器が発見されました。	UNIT ID が重複しないように設定してください。	Error	継続
52	[DCP] 端子で通信エラーが発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>DCP のパネルにエラーが表示されている場合は、DCP の取扱説明書を参照のうえ対応してください。</li> <li>DCP のパネル ID が重複しないように設定してください。</li> <li>ケーブルが規格範囲内の長さで確実に接続されているか確認してください。</li> </ul>	Error	単発
53	[DCP] 端子に接続されている DCP[*] が、プロジェクトで設定した構成と異なっています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な DCP が接続されているか確認してください。</li> <li>異なるモデルの DCP が接続されていないか確認してください。</li> </ul>	Error	継続
56	SD メモリーカードが認識されませんでした。	仕様に合った SD メモリーカードを使用してください。	Error	継続
58	SD プレーヤーで、指定されたファイルまたはフォルダーを再生できませんでした。	指定したオーディオファイルやフォルダーが SD メモリーカード内に存在するか確認してください。指定したフォルダー内に再生可能なオーディオファイルが 1 つ以上存在する必要があります。	Warning	単発
60	プリセットリコールに失敗しました。	メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Error	継続
61	MTX/MRX の起動時にリコールされるプリセットが見つからないため、リコールが実行されませんでした。	実在するプリセットを指定してください。適切なプリセットがリコールされないと音が出ません。	Error	継続
62	スナップショット、またはスナップショットグループのリコールに失敗しました。	メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Error	継続
63	指定されたスナップショット、またはスナップショットグループをリコールできませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストアされていないスナップショットがリコールされました。ストアされているスナップショットを指定してください。</li> <li>ストアしたあとに機器が追加された可能性があります。Editor で同期し、すべてのスナップショット、またはスナップショットグループをチェックしてください。必要に応じて修正後、再度ストアしてください。</li> </ul>	Warning	単発
64	指定されたプリセットをリコールできませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストアされていないプリセット番号がリコールされました。ストアされているプリセット番号を指定してください。</li> <li>プリセットをストアしたあとに機器が追加された可能性があります。MTX-MRX Editor で同期し、すべてのプリセットをチェックしてください。必要に応じて修正後、再度ストアしてください。</li> </ul>	Warning	継続

番号	内容	対策	タイプ	単発 / 繙続
65	GPI IN に無効なパラメーターが設定されています。	Editor で GPI IN の設定を確認後、再度同期操作を行なってください。	Error	継続
66	GPI OUT に無効なパラメーターが設定されています。	Editor で GPI OUT の設定を確認後、再度同期操作を行なってください。	Error	継続
67	DCP[*] に無効なパラメーターが設定されています。	Editor で DCP[*] の設定を確認後、再度同期操作を行なってください。	Error	継続
70	MTX-MRX Editor との同期が完了していません。同期処理が中断した可能性があります。	MTX-MRX Editor で再度同期操作を行なってください。問題が解決しない場合は、メモリーの初期化を実行してください。それでも解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Error	継続
71	同期操作を行なったときの UNIT ID の設定と、現在の UNIT ID の設定が一致しません。	同期操作を行なったあとは UNIT ID を変更しないでください。もし UNIT ID を変更した場合は再度同期操作を行なってください。	Error	継続
72	Dante に Device Lock が設定されているため、ディップスイッチや MTX-MRX Editor の設定と Dante の設定が一致しません。	Device Lock の設定をしている場合は、Dante Controller から解除するか、ディップスイッチの設定や、MTX-MRX Editor の Dante の設定を見直し、現状に合わせて正しく設定してください。	Error	継続
80	Speech Privacy コンポーネントのオーディオファイルが存在しません。	「Install Speech Privacy File」ダイアログから Install を実行してください。	Warning	継続
<b>アンプの不具合</b>				
100	スピーカー出力端子に直流成分が検出されたため、電源がシャットダウンされました。	機器の故障と思われますので、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。	Fault	継続
101	電源の温度が規定値を超えたため、電源がシャットダウンされました。	電源をオフにして、電源を冷やしてから再度電源をオンにしてください。連続して大電力を出力すると高温になりますので、出力レベルを下げてください。それでも温度が高い場合は、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっているか確認して、掃除してください。	Fault	継続
103	プロテクションが働き、電源がシャットダウンされました。	高負荷状態が連続しているため、出力レベルを下げてください。プロテクションが働いた要因については、取扱説明書をご参照ください。	Error	継続
104	プロテクションが働き、ミュート [ch*] されました。	高負荷状態が連続しているため、出力レベルを下げてください。プロテクションが働いた要因については、取扱説明書をご参照ください。	Error	継続
105	スピーカー出力端子 [ch*] のショートが検出されたため、出力がミュートされました。	スピーカー出力端子の+と-がショートしているか、接続しているスピーカーが故障している可能性があります。	Fault	単発
106	アンプ部(ヒートシンク)の温度が変化し、次のスピーカー出力状態になりました。(****)	連続して大電力を出力すると高温になりますので、出力レベルを下げてください。それでも温度が高い場合は、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっているか確認して、掃除してください。	Warning	単発

番号	内容	対策	タイプ	単発 / 繙続
<b>機器の情報</b>				
200	電源がオンになりました。	-	Information	単発
201	電源がオフになりました。	-	Information	単発
202	ファームウェアのアップデートが完了しました。	-	Information	単発
203	初期化を実行しました。	-	Information	単発
204	パネルロックが解除されました。	-	Information	単発
205	IP アドレスが確定しました。	-	Information	単発
206	DHCP サーバーで運用中にネットワークの IP アドレスが確保されました。	-	Information	単発
207	DHCP サーバーで運用中にネットワークの IP アドレスが開放されました。	-	Information	単発
208	EMG(Emergency) 信号を受信し、EMG モードに切り替わりました。	-	Information	継続
209	内蔵時計の設定が変更されました。	-	Information	単発
210	スケジューラによってイベントが実行されました。	-	Information	単発
211	Editor と機器とが同期を開始しました。	-	Information	単発
213	リモートコントロールプロトコルによる外部制御において、ログイン認証に失敗しました。	-	Information	単発
214	リモートコントロールプロトコルによる外部制御において、ログイン認証に成功しました。	-	Information	単発
215	挿入された SD カードを正常に認識しました。	-	Information	単発
216	電源が入っている状態で、SD メモリーカードが取り出されました。	-	Information	単発
217	プリセット番号 ** がリコールされました。	-	Information	単発
218	プリセット番号 ** がストアされました。	-	Information	単発
220	時刻サーバーへの参照が正常に行なわれました。	-	Information	単発
221	プリセット番号 ** が編集されました。	-	Information	単発
222	スナップショット、またはスナップショットグループがリコールされました。	-	Information	単発

番号	内容	対策	タイプ	単発 / 継続
223	スナップショットがストアされました。	-	Information	単発
224	スナップショットが編集されました。	-	Information	単発
225	スナップショットグループが編集されました。	-	Information	単発
アンプの情報				
102	プロテクションが働き、リミッター[ch*] が動作しました。	高負荷状態が連続しているため、出力レベルを下げてください。プロテクションが働いた要因については、取扱説明書をご参照ください。	Information	継続
110	Redundant Backup 機能が動作し、チャンネル* がアナログ入力に切り替わりました。	デジタル信号に異常があります。デジタル回線の接続や Pilot Tone 信号が入力されているかを確認してください。	Error	継続
219	Power Amp Mode が変更されました。	-	Information	単発
226	Redundant Override 機能が動作し、チャンネル* がアナログ入力に切り替わりました。	-	Information	継続

## 困ったときは(トラブルシューティング)

症状	考えられる原因	対策方法
MTX-MRX Editor で機器と通信できない。	コンピューターの IP アドレス設定が間違っている。	「MTX セットアップマニュアル」または「MRX セットアップマニュアル」を参照して、コンピューターの IP アドレスを設定してください。
	ファイアウォールでブロックされている。	[スタート] を右クリック → [コントロールパネル] → [システムとセキュリティ] → [Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可] をクリックし、[設定の変更] ボタンをクリックしてから「Bonjour サービス」と「MTX-MRX Editor」にチェックを入れてください。MTX-MRX Editor がリストにない場合は、[別のアプリの許可] ボタンをクリックして MTX-MRX Editor を追加してチェックを入れてください。 <b>NOTE</b> コントロールパネルの表示は [ カテゴリ ] にしてください。
DHCP サーバーで機器の IP アドレスを設定できない。	DHCP サーバーより先に機器を起動した。	DHCP サーバーを起動してから、機器を起動してください。
	機器の IP SETTING が UNIT ID に設定されている。	機器のディップスイッチで IP SETTING を PC にしてください。
Project 画面で機器が表示されない。	機器やネットワークスイッチの電源が入っていない。	機器やネットワークスイッチの電源を入れてください。また、機器の電源を入れてから Project 画面に表示されるまで、数秒間かかります。
	ネットワーク内で機器の IP アドレスが重複している。	IP SETTING の設定が UNIT ID の場合は、ネットワーク内の機器の UNIT ID が重複しないようにしてください。IP SETTING の設定が PC の場合は、「IP Address」ダイアログを使って重複しない IP アドレスに設定してください。重複している UNIT ID は「Device Information」ダイアログで確認できます。
	コンピューターの IP アドレスの上位 3 術と機器の IP アドレスの上位 3 術が一致していない。	「IP Address」ダイアログで IP アドレスの上位三桁を一致させてください。 <b>NOTE</b> サブネットマスクを 255.255.0.0 に設定している場合は、上位 2 術を一致させてください。
	NETWORK 端子以外に接続している。	NETWORK 端子に接続してください。
	ネットワークカードの選択が間違っている。	「Network Setup」ダイアログで機器と接続するネットワークカードを選択してください。
機器をモニター/コントロールできない。	オフラインになっている。	ツールバーの [Online] ボタンをクリックしてオンライン状態にしてください。
	Project 画面で機器がネットワーク機器一覧にいる。	MTX-MRX Editor の設定と機器の設定が食い違っています。「Device Configuration Wizard」ダイアログで MTX-MRX Editor 側の設定を変更するか、機器側の設定を変更してください。
MTX/MRX に保存されていたプリセット情報が消えてしまった。	MTX/MRX のデータ保存中に電源が落とされた。	再度、MTX-MRX Editor と同期して、設定情報を送信してください。

症状	考えられる原因	対策方法
「Go Online - From devices」ダイアログでオンラインにできない。	MTX/MRX が MTX-MRX Editor とが To Device でオンラインになったことがない。	対応するプロジェクトを使って、MTX/MRX と MTX-MRX Editor を To Device でオンラインにしてください。
音が出ない。	ケーブルが断線または外れている。	各機器間のケーブルが正しく接続されていることを確認してください。正しく接続されている場合は、断線していないかどうかを確認して、断線しているケーブルを交換してください。
	本体のディップスイッチの設定が間違っている。	本体のディップスイッチの設定を確認してください。特に START UP MODE が INIT. になっていると、電源を入れるごとに MTX-MRX Editor と同期しないと音が出ません。
	MTX-MRX Editor での設定が間違っている。	MTX-MRX Editor の設定を確認してください。特に YDIF 関係は「EXT. I/O」の設定と入出力チャンネルのポート設定が一致しているかどうか確認してください。
	XMV がダブルパワーモードになっている。	ダブルパワーモードでは B/D/F/H チャンネルの出力が無効になります。ダブルパワーモードを解除するか、Editor で他のチャンネルに設定してください。